令和元年度
滋賀県における学校教育 MM 普及事業

報　告　書

令和２年３月

滋賀県土木交通部交通戦略課

目 次

１．　事業概要 １-1
１-１ 目的 １-1
１-２ 事業項目 １-1
１-３ 事業内容 １-2

２．　交通環境学習の実施手法の検討、教材の検討、教材の作成 ２-1
２-１ 過年度の検討・取り組み ２-1
２-１-１ H29 年度の検討・取り組み ２-1
２-１-２ H30 年度の検討・取り組み ２-10
２-２ R1 年度の検討・取り組み ２-35
２-２-１ R1 年度の検討方針 ２-35
２-２-２ 交通学習プログラムの検討 ２-41
２-２-３ 周知情報の検討・整理 ２-166

３．　交通環境学習実施校における授業実施 ３-1
３-１ 授業実施 ３-1
３-１-１ H30 年度の交通学習プログラムのブラッシュアップ・定着化 ３-1
３-１-２ 新たな交通学習プログラムの検討 ３-26
３-２ 今後の課題 ３-37
３-２-１ R1 年度の取り組み結果 ３-37
３-２-２ 課題の整理 ３-38
３-３ 来年度の実施内容の検討 ３-39
３-３-１ 検討の考え方 ３-39
３-３-２ Ｒ３年度以降の実施・展開イメージ ３-40
３-３-３ Ｒ２年度の実施内容 ３-41

４．　近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会の実施 ４-1
４-１ 研究会の概要 ４-1
４-２ 研究会資料 ４-2
４-３ 議事録 ４-72

第１章　事業概要

－ 目 次 －

１．　事業概要..... 1-1

1-1 目的..... 1-1

1-2 業務項目 1-1

1-3 業務内容 1-2

１．事業概要

１-１ 目的

滋賀県は琵琶湖を中心に周囲を山地に囲まれ、琵琶湖沿いの平地部に新幹線・鉄道・高速道路等が通る。JR 東海道沿線を中心に人口増加が続くエリアも多く交通と共に発展している。

しかし、県内には多様なエリア特性があり公共交通が便利なエリアとそうでないエリアの差が大きい。公共交通の維持は大きな課題であり、現在県で検討中の網形成計画においても、市民・事業者・行政みんなで支えていくことが不可欠である。また、特に地方部ではバス運転手の不足等も、本県の喫緊の課題となっている。

このような中で、草津市、東近江市等では、県・市町が県バス協会・バス事業者と連携し、遠足や社会見学の事前学習としてバス車両を用いてバスを知る学習を既に実施し、学校から好評を得ているが、県下で取り組みを増やし内容の活性化も図っていくには、効果・実施のしやすさの両面で有効なプログラムや、方法・体制等についての検討が不十分である。

一方、滋賀県では琵琶湖環状線を利用した、小学生に鉄道を親しむ機会を与えるとともに琵琶湖を中心とした滋賀県の地理、歴史、自然、環境等についての学習を深め、さらには社会性を身に着けさせることを目的とした「琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業」を展開している。また、子どもたちが身近な題材から地域や社会の姿と自分の行動を考える交通学習は、交通との関わりが深い滋賀では特に有用で教育行政面からも期待され得るものと考えられる。これらを踏まえ、学校が多様なエリアの交通素材を活かした授業を展開する仕組みづくりを行うとともに、幅広い学習機会で実践可能なプログラムの構築を行うことを目的とする。

１-２ 事業項目

本事業項目を以下に示す。

表 １-１ 事業項目

業務項目	備考
１．交通環境学習における実施内容の検討、協議	
２．授業等での試行	
３．課題、ブラッシュアップ方針の整理	
４．周知・サポート施策の方針整理、実施	
５．近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会の運営	

1-3 事業内容

（1）交通環境学習における実施内容の企画・調整・検証

昨年度モデル校にて実施した授業について改善点の洗い出しと改善方法についての検討を行うとともに、モデル校以外の学校への波及方法についての検討、協議を行った。既存素材を活用した取り組み／新たな視点での取り組みそれぞれについては引き続きモデル校の教師等と意見交換を行い、カリキュラムの中での交通の有用性を高めることとし、素材の提供方法や授業のサポート方法等を検討した。

（2）授業等での試行

１で検討した結果を踏まえて、モデル校等に対し素材の提供や出前授業、授業支援等を実施する。実施結果について、モデル校の教師等と意見交換を行った。

また、汎用性や展開性を確認するため、モデル校以外の学校においても昨年度実施した取組を展開し、実施・検証した。

モデル校においては、「縦断型学習」の可能性を検証するため、同一小学校で ２ 年生から６年生まで交通環境学習を実施し、取組効果の増大可能性を検証した。

（3）課題、ブラッシュアップ方針の整理

各学校での検討や取り組みの結果を踏まえて、滋賀県全体で既存素材を活用した取り組み／新たな視点での取り組みを効果的に展開していくために、検討すべき課題や次年度以降の展開方針を整理した。

（4）周知・サポート施策の方針整理、実施

上記の協議や検討の結果を踏まえて、小学校教師に対して交通素材の有用性や活用方法、支援の依頼方法等を周知するとともに、小学校での取り組みをサポートしていく上での基本方針や方向性について検討、整理し、継続して実施してもらえるような体制検討を行った。

（5）近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会の運営

上記の検討について、関係者や有識者等とも協議を実施し、より有効性の高いものとしていくため、近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を開催し、意見交換、今後の実施方針の検討を実施した。

第２章　交通環境学習の実施手法の検討、教材の検討、教材の作成

－ 目 次 －

２．　交通環境学習の実施手法の検討、教材の検討、教材の作成 ２-1

２-１ 過年度の検討・取り組み ２-1
２-１-１ H29 年度の検討・取り組み ２-1
２-１-２ H30 年度の検討・取り組み ２-10

２-２ R1 年度の検討・取り組み ２-35
２-２-１ R1 年度の検討方針 ２-35
２-２-２ 交通学習プログラムの検討 ２-40
２-２-３ 周知情報の検討・整理 ２-170

２．交通環境学習の実施手法の検討、教材の検討、教材の作成

２-１ 過年度の検討･取り組み

２-１-１ H29 年度の検討･取り組み

（１）取り組みコンセプトの検討

１）滋賀県において MM 教育を進めていく上での課題

滋賀県における MM 教育のこれまでの状況や教育の動向、教育素材としての交通の可能性を踏まえ、MM 教育を進めていく上での課題として、以下のように整理を行った。

＜配慮が必要な事項＞

○教育として意味が十分にあるものにする

・教師、学校が “子どもの学習の深まり” に効果的、必要と感じ、積極的に実施できる取り組みにする

・取り組みを支援する交通サイド関係者にとっても、教育として手ごたえがあり、一緒に考えていける取り組みにする

○広い地域で定着、発展していくものとする

・教育の動向や、教師・学校にとってのうまみに配慮する

・各地で一定の量を実施、展開できる仕組み、体制を確保する

＜MM 教育を進めていく上での課題＞

○交通素材が、学校教育の質的向上や（長期的には）地域コミュニティ活性化等に資するように展開

・・・交通素材を、地域や社会の問題を理解し、自ら考え積極的に行動できる力を醸成するための教材として活用する

○学校・教師による検討、実施を支援

・・・学校・教師が交通素材を活用し、単元等をより効果的に実施するための支援を実施

・・・コアとなる素材やプログラム提供、その他情報発信、相談対応のための仕組みを確保

※外部による出前授業のみの取り組みとはしない

○交通事業者等を中心とした地域連携により推進

・・・極力、交通事業者と連携し実物素材を提供

（教育としての意義、学校にとってのうまみの確保）

2）滋賀県における MM 教育の考え方･コンセプト

（a）滋賀県における MM 教育の基本的な考え方

前項の課題および研究会委員の意見等を踏まえ、滋賀県の歴史や地勢、生活との関わりが深い交通の特性を活かすことにより、地域の様子や人の暮らしを知り、文化･交流を大切にしながら、社会の一員として行動できる人づくりに寄与することが可能であると考え、交通素材を活かした学習の基本的な考え方について以下のように整理を行った。

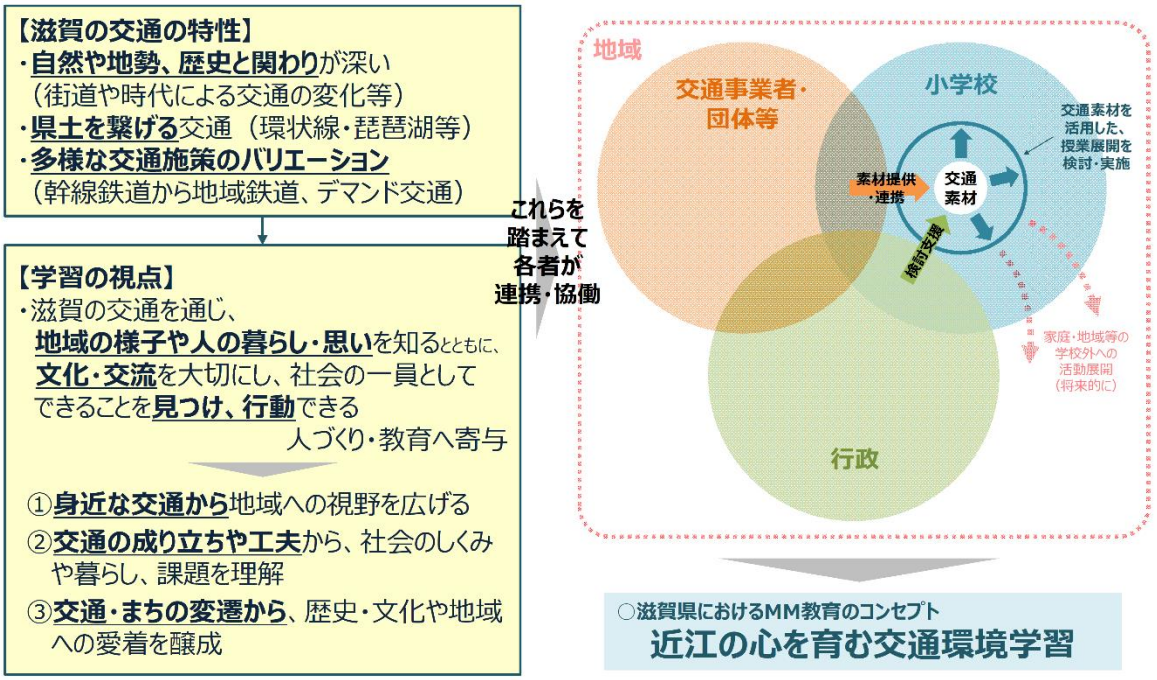


図　2 -1　滋賀県における MM 教育の基本的な考え方

（b）滋賀県における MM 教育の視点

前項の基本な考え方に基づいた MM 教育の視点および学習目標との対応イメージの整理を行った。

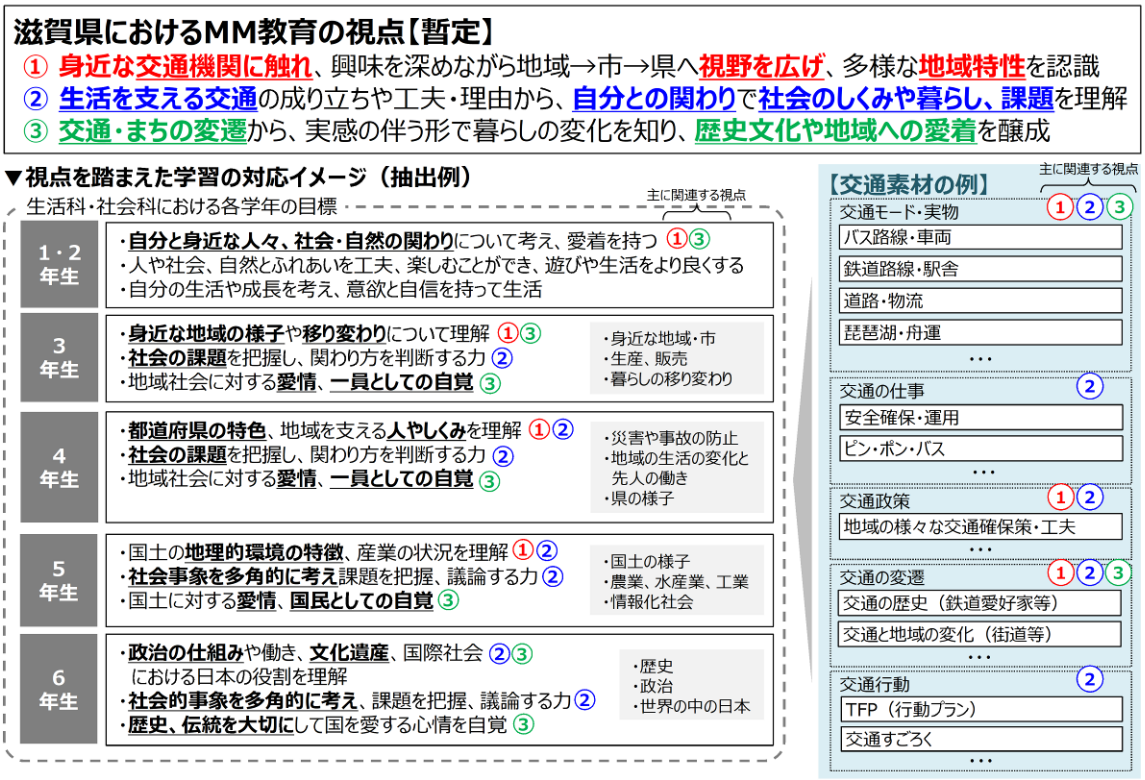


図　2-2　滋賀県における MM 教育の視点と学習目標との対応イメージ

（２）事業としての位置付け・進め方の検討

１）事業の位置付けの整理

本事業における取り組みの位置付け、目的を以下のように整理した。

＜本事業の目的＞

・交通素材、その社会的特性を活かして、滋賀の目指す人間像の実現に寄与する

＜検討・実施内容＞

・教育のために交通素材活用を促していく基礎を作るため・・・

○滋賀におけるコンセプト（特徴）を整理する

○使える交通素材を発掘する

○その活用の仕方を検討、教材・ツールを作る

（学校とともに実践・評価しながら、地域特性も踏まえつつ整理）

○MM 教育の活用を推進・支援する仕組みをつくる

・将来的な地域での展開も促すため・・・

○取り組みが定着した地域での交通まちづくり教育に向けた展開のあり方について地域とともに検討

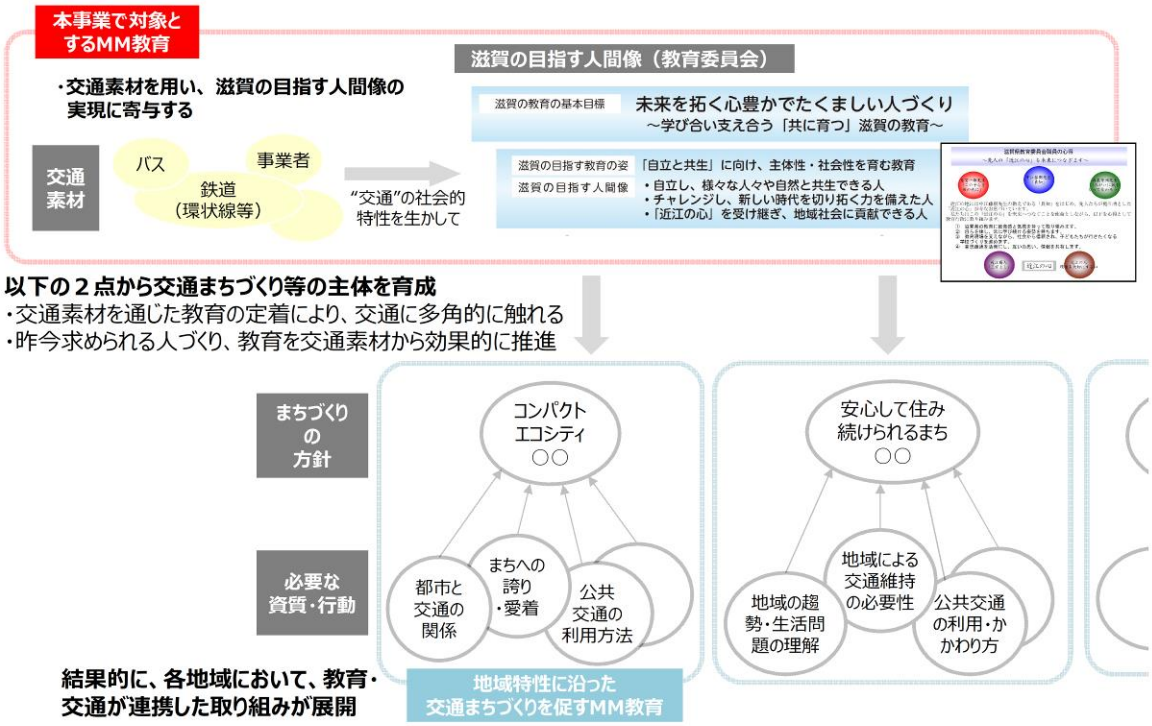


図　2-3　本事業における取組の位置付けイメージ

２）事業の進め方の検討

（a）検討の視点

事業の目的・実施内容に対して、学校・教師による検討の支援、交通事業者を中心とした地域連携等も考慮し、以下の視点から検討を進めていくことが必要と考えた。

●どうすれば、交通の素材を近江の心の醸成や、学校教育の質的向上に活かせるようになるかを考える
・・・交通素材と、近江の心の関係は？
・・・様々な交通素材により、何を効果的に学ぶことができるか？
・・・学習指導要領を踏まえ、カリキュラムにおいてどのような使い方ができるか？
●「三方良し」の発展的な連携を構築していける仕組みを考える
・・・実社会との関わりを強め、社会に開かれた教育課程の実現
・・・様々な主体、実物素材が絡むからこその意義、効果を意識
●県単位でやるからこその良さ、モデル性の向上を考える
・・・既に保有している資源の活用
・・・組織的な展開による強み

これに対し、バスの乗り方教室等の既存の学習を活かして進めていくことが基本になるが、それ以外の新たな視点も目標達成には必要になると考え、検討の視点について以下のように整理を行った。

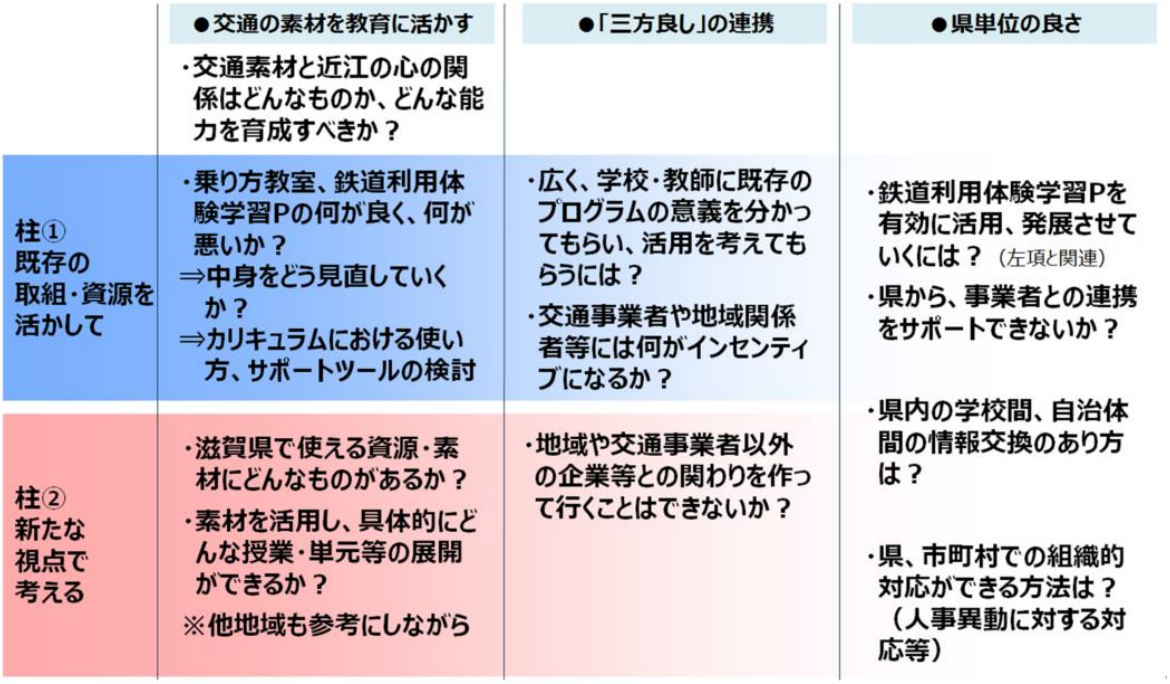


図　2-4　検討の視点

（b）検討の流れ

前項の検討の視点を踏まえ、本事業における検討の流れを整理した。

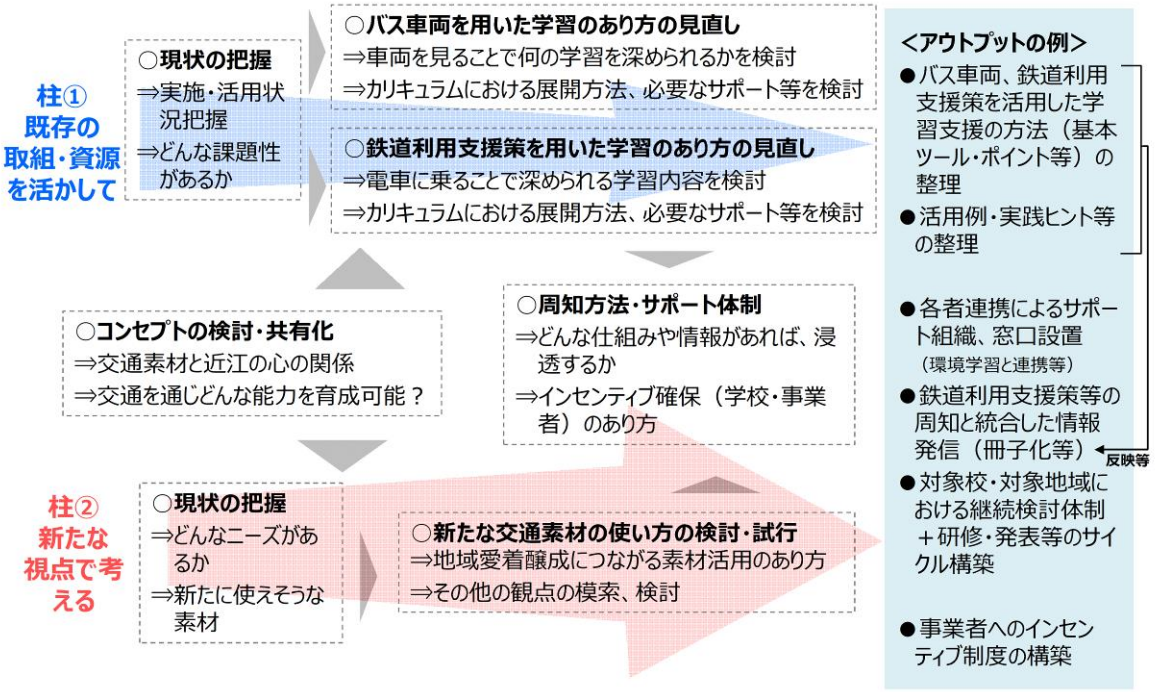


図　2-5　検討の流れ

（３）活用素材･プログラムの検討方針

１）既存資源の有効活用

H29 の小学校へのヒアリング結果を踏まえ、既存資源の有効活用の検討方針を以下のように整理した。

○バス車両の有効活用の方針案

バス車両を用いた学習についての課題

＜H29ヒアリング結果＞

・バス車両は「動学」への資源として可能性あり。
・探検の準備の機会として重宝されているが、交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。
・プログラムの固定化は望ましくない。
・福祉や県、政治の学習での活用可能性がある。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**交通に触れることでまちへ認識を深める工夫**の仕方（２年生生活科）や、福祉等での活用を検討
○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法･関わり方**を検討
⇒これまで実施されている学校において検討
⇒そのうち、1校程度で他の単元での活用を検討

○鉄道体験の有効活用の方針案

鉄道利用体験についての課題

＜ヒアリング結果＞

・地域を見に行く機会として重宝されている。
・交通から社会認識・理解が深めるという活用は限定的と考えられる。
・補助の申請にハードルが存在。

検討方針案

○単なる移動ツールとしてではなく、**鉄道に触れることで県土へ認識を深める工夫**を検討
○学校の活用、アレンジしやすい**素材提供の方法**を検討
⇒これまで補助を実施されている学校において検討

図　2-6　既存資源の有効活用の検討方針

２）新たな視点での取り組み

H29 の小学校へのヒアリング結果を踏まえ、新たな視点での取り組みの検討方針を以下のように整理した。

○新たな視点での検討方針案

新たな視点での検討の課題

＜H29小学校ヒアリング結果＞

・交通から地域へ愛情を醸成する観点での検討は、効果的な切り口になる可能性がある。特に、今後の地域での取り組みの発展に寄与する可能性がある。

・交通を街道等の資源と結びつけることも視点として考えられる。

地域愛着の構成要素 ※小学校学習指導要領解説社会編P29/③「学びに向かう力，人間性等」に関する目標 より

○国土に対する愛情

・身近な地域や市、県の様子についての指導を踏まえて、我が国の国土の**地理的環境**とそこで営まれている産業の様子などの理解を図り、我が国の国土に対する愛情を育てる

○我が国の歴史に対する愛情

・**市を中心とした地域の人々の生活の変化**や県を中心とした地域の**伝統や文化**、地域の発展に尽くした先人の働きの指導を踏まえ、我が国の歴史に対する理解を深めるとともに、我が国の歴史に対する愛情を育てる

検討方針案

○公共交通や街道等の資源を用い、地域愛着につながる**地域社会の理解**（地域の地理特性や人々の生活、その変化や伝統・文化等）**を醸成する活用のあり方**を検討

⇒今後小学校と協議を進めながら検討

※その他の視点についても、引き続き模索しつつ必要に応じて検討する

図　2-7　新たな視点での取り組みの検討方針

３）周知方法・サポート体制の検討

H29 の小学校へのヒアリング結果を踏まえ、周知方法・サポート体制の検討方針を以下のように整理した。

表 2-1 周知方法・サポート体制の検討方針

	検討方針
周知方法	●基本的に琵琶湖環状線・草津線・びわこ京阪奈線の周知機会・認知度を有効活用 ＜検討例＞ ⇒現行冊子のリニューアル ・・・滋賀県のMM教育の**全体像、主旨**の記載 ・・・行政が提供できる素材や補助メニューの整理、ラインナップ ・・・見やすい工夫・書式統一 ・・・補助申請方法等も含む**問い合わせ・サポート窓口**の記載　等
サポート体制	●相談窓口の検討 ＜検討例＞ ⇒交通に関する**資料提供**についての**相談受付、アドバイス**等を行う窓口の設置を検討（全体・補助関係：県／地域資料等：各市） ●授業に使用する物品購入等に対する資金援助を検討 ＜検討例＞ ⇒本事業における支援の検討 （次年度の小学校との協議を踏まえて） ⇒既存の補助メニューにおけるバリエーション強化の検討（運賃＋資料印刷等）

2-1-2 H30 年度の検討・取り組み

（1）H30 年度の検討方針

H29 年度で整理したコンセプトを踏まえ、H30 年度では各学年における学習プログラムおよび使用するツールについて作成・試行を行い、縦断型授業の実施可能性について検討を行うこととした。

以下に H30 年度の実施内容を示す。

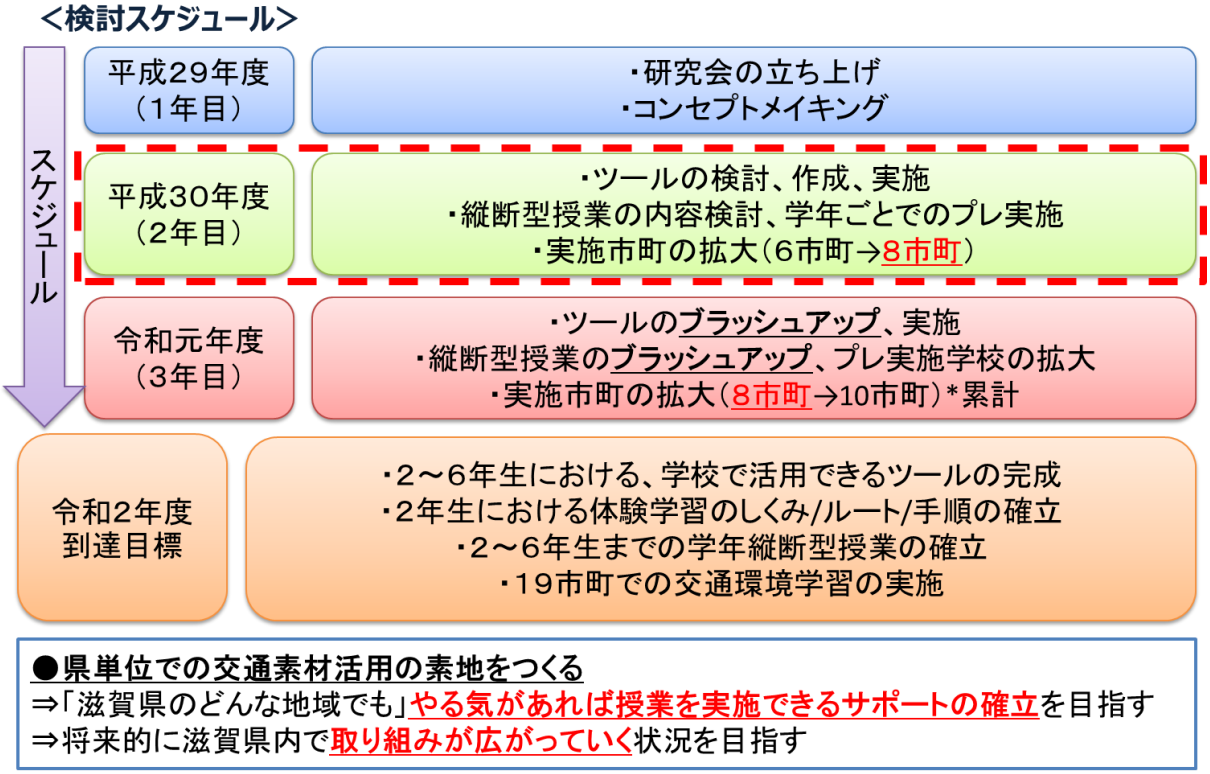


図 2-8 H30 年度の実施内容

（２）交通学習プログラムの検討・試行

１）実施対象校へのヒアリング

交通学習のコンセプトやプログラムの実施意向・内容等についての意見聴取を行った。
以下に、ヒアリングの対象および主な意見を示す。

表 ２-2 ヒアリング結果

ヒアリング対象		主な意見
東近江市	布引 小学校	・２年生の乗り方教室は昨年度同様に実施したいと考えている。 ・地域のことを学んで、自分でどうすればよいかを考える３年生の地域学習（布引博士）と６年生の総合学習（まちの幸福論）は交通を絡めることは可能であると考える。しかし、子供自身が興味を持ったことを調べていくことが前提で、交通に誘導することは難しい。 ・個人的には鉄道すごろくにも興味がある。
草津市	志津南 小学校	・２年生の乗り方教室は昨年度同様に実施したいと考えている。また、校外学習を考えており、現在良い所がないか探している。 ・３年生での地域学習、５年のフローティングスクールの事前学習、福祉学習などにも関連づけられる可能性があると思う。 ・昨年度、アイディアとして出ていた鉄道すごろくはどうなっているか。４ 年生社会科の単元の事前学習にちょうど良いものがあれば放課中等に使えると思っている。
彦根市	城東 小学校	・昨年度 ２ 年生の生活科で実施してもらった取り組みは、交通のことを学ぶきっかけとしてはすごく良かった。実際にバスに乗る方法などが分かるのは助かる。昨年度の出前授業をベースに実施していただけるのはありがたい。 ・４年生の福祉（総合学習）などは、バスを活用してできるかもしれない。
甲賀市	土山 小学校	・バスマップで２年生のまち探険を深めたり、インタビュー等をして４年生の地域を支える仕事を実感すると言った視点は意義があると思う。 ・これまでの出前授業をベースにしていくことを考えると、とりあえずは ２ 年生や ３ 年生を対象として単元での活用の仕方を検討するのが良いと考える。 ・３年生や４年生の総合学習として福祉学習を行っているが、学習の理解をより深めるため、バス車両等を用いて障がい者の日常生活を体験してみることも考えられる。 ・次年度以降、４年生や５年生などの地域学習についても検討できると良い。複数年かけ幅広い学年の学習を深める研究ができるのはとてもありがたい。 ・土山宿の空き家問題や再整備について、学校も入り地域で協議をしている。長期的にはそのような活動にも寄与するものになると良い。
	大野 小学校	・６年生の政治を学ぶ授業で市がコミュニティバスを運行する理由等を考えるのは良い素材になると思う。 ・大野地域は歴史的な交通の要衝ということもあり、例年６年生の総合学習で歴史を学んでいるが昔を知るだけになっており展望がない。交通を絡めて変化を学んでいくと、自分の生活に活かせるような学習になるのではないかと感じる。クラスを４～６くらいのグループに分けて、提案をこども未来会議のような形で市役所にぶつけたりするとよい経験になる。

2）交通学習プログラムの検討教科・単元

前項のヒアリング結果を踏まえ、H30 年度における交通環境学習プログラムは以下の教科・単元で検討・実施した。

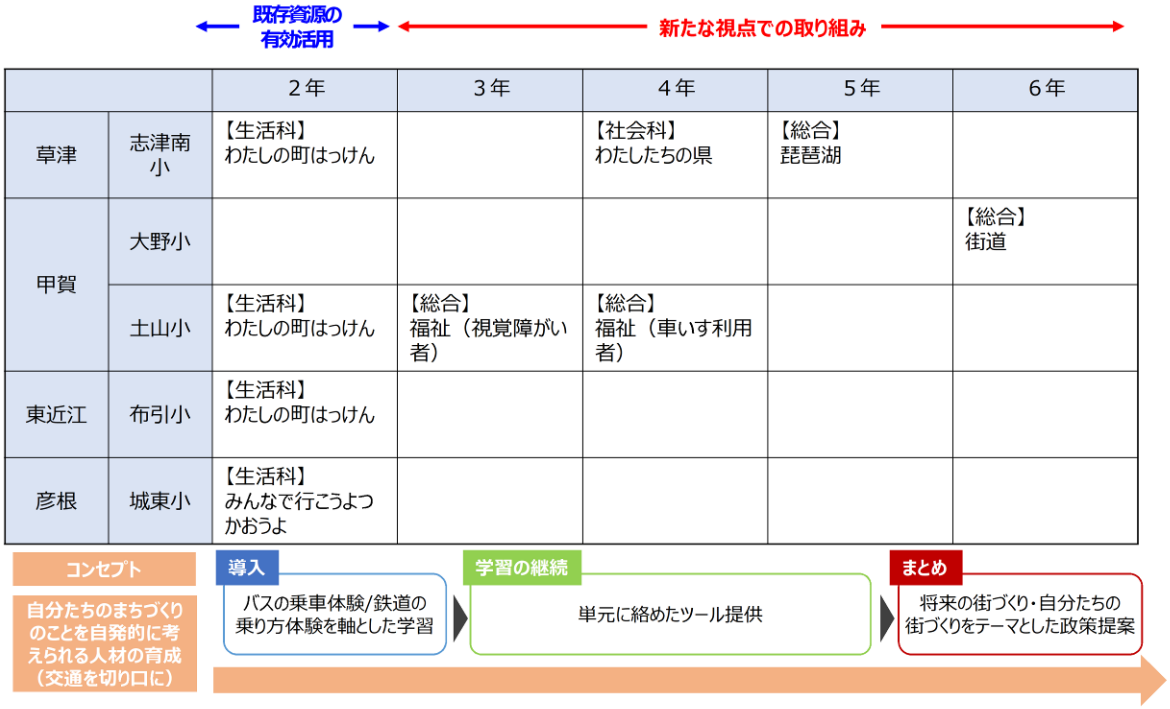


図　2-9　H30 年度の実施対象校における検討教科・単元

３）各小学校における交通学習プログラムの検討・試行

（a）既存資源の有効活用

①検討の考え方

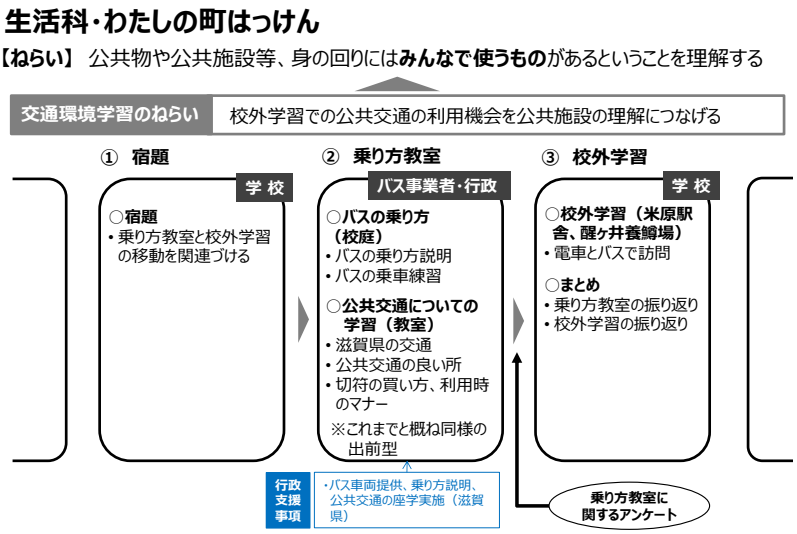
従来の出前授業では、バスの乗り方や乗車マナーについての学習に留まっており、教科単元としての理解を深めるような取り組みになっていなかった。そのため、乗り方教室を実施するだけではなく、乗り方教室で提供している交通素材や体験を有効活用することにより、生活科の単元としての理解を深めていくことができる学習プログラムについて検討をする必要があると考える。

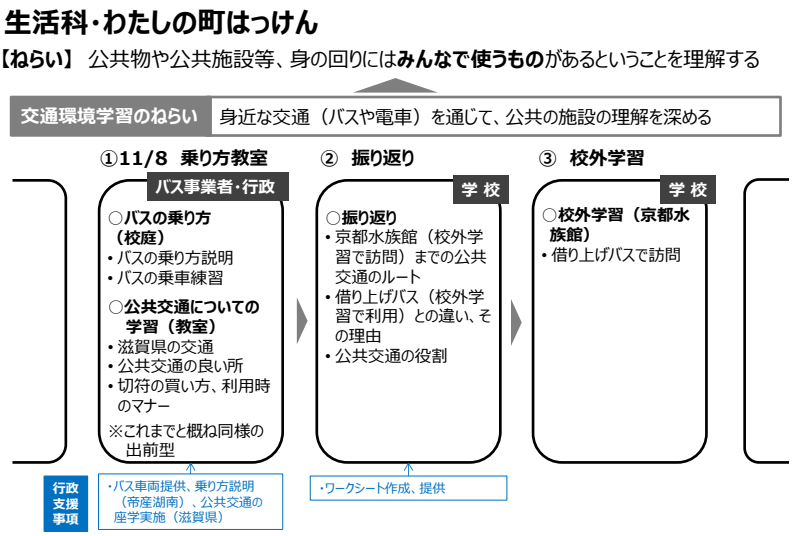
また、前節で整理を行ったコンセプトを踏まえると、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、交通素材を活用した２年生での学習を入り口として機能させ、交通の魅力や有用性を高めることにより、交通素材が生活科や社会科等の学習に活用できるものであると認知してもらう必要がある。

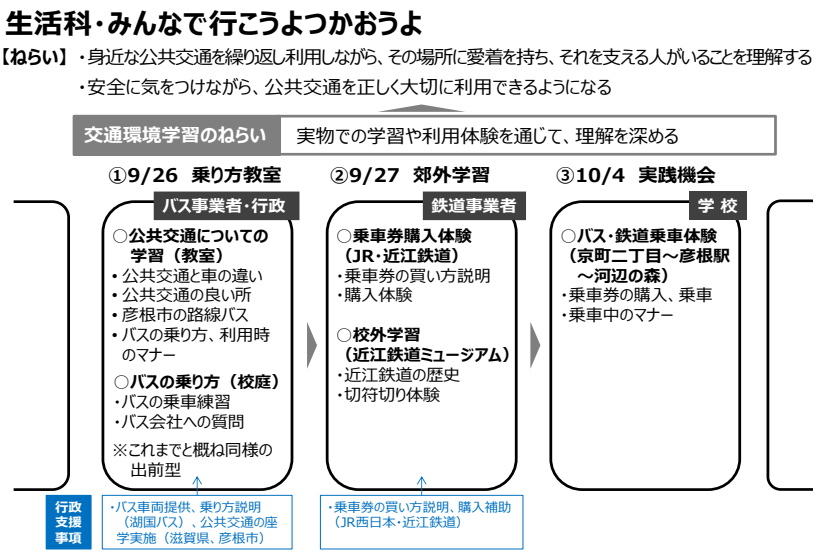
以上より、生活科の学習単元において各学校がねらいとしていることをを深める学習となるよう、乗り方教室を活かした進め方を検討した。

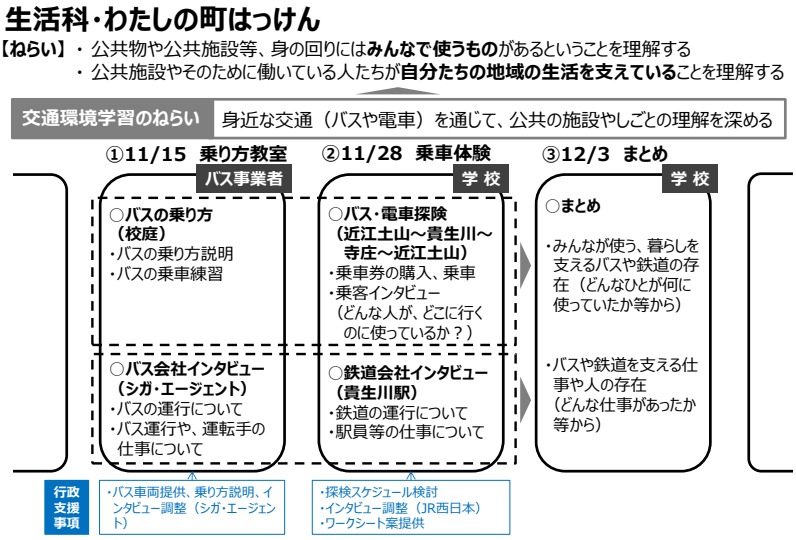
②検討・実施結果

各小学校で検討した学習プログラムおよび実施結果を次頁以降に示す。

実施小学校	東近江市立布引小学校
実施学年	2 年生
教科・単元	生活科・わたしの町はっけん
学習のねらい	公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する
その他のニーズ	・公共交通の使い方や役割について理解させたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・米原駅舎および醒ヶ井養鱒場へ校外学習を行う予定である
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 乗り方教室での学習が校外学習での移動とつながっていることを認識させるため、公共交通の存在について理解を促す宿題を担任の教師が作成し、乗り方教室の事前学習として実施することとした。 
授業の様子	
取り組みの良かった点・改善点等についてのヒアリング結果	**＜乗り方教室について＞** ・昨年度同様、バス車両を提供して頂き、バスの乗り方について良い学習ができた。来年度もぜひお願いしたい。 **＜宿題について＞** ・宿題の作成は、それほど担任の教師の負担にはなっていないと思うが、乗り方教室を行うバス事業者・行政の教えたい内容と宿題を作成した教師の教えたい内容にずれが生じる可能性がある。 ・他のモデル校のように、ワークシート等の教材を作成して頂いた方が、教えたい内容のずれは生じないと思うし、授業の理解を深めることができると考える。 ・ただ、他校で作成されたワークシートを見ると、その学校でしか活用できない内容になっており、学校としては有難いが、他の小学校に展開していくことを考えると、小学校ごとに教材を作成するのは時間と労力がかかりすぎてしまうと思う。

実施小学校	草津市立志津南小学校
実施学年	2 年生
教科・単元	生活科・わたしの町はっけん
学習のねらい	公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する
その他のニーズ	・公共施設の学習に併せて、公共交通の役割を理解させたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・京都水族館へ校外学習を行う予定であるが、借り上げバスでの移動を考えている
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 乗り方教室の学習理解をより深めるため、校外学習での移動で利用する借り上げバスを題材として、路線バスなどの公共交通の役割について考える授業を乗り方教室の振り返りとして実施することとした。 
授業の様子	
取り組みの良かった点・改善点等についてのヒアリング結果	＜乗り方教室について＞ ・公共交通に関する座学は、環境問題など高学年向けの内容が含まれており、２年生には理解が難しい部分があった。もう少し公共交通の良さを前面に出した内容にする方が良いと思う。 ・実際に運賃箱にお金を入れる体験があれば、運賃の支払い方法についての理解が深まったのではないかと思う。 ・車両の中で説明を行う際は児童を半分に分けて行う、皆の前で体験する代表者は事業者から指定するのか、学校から指定するのかを事前に決めておく等、授業の詳細な進め方についてもう少しやり取りができていれば良かったと思う。

実施小学校	彦根市立城東小学校
実施学年	2 年生
教科・単元	生活科・みんなで行こうよつかおうよ
学習のねらい	・身近な公共交通を繰り返し利用しながら、その場所に愛着を持ち、それを支える人がいることを理解する ・安全に気をつけながら、公共交通を正しく大切に利用できるようになる
その他のニーズ	・公共交通の利用を通し、ルールやマナーの定着や公共施設の理解につなげたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・近江鉄道ミュージアムや河辺の森へ校外学習を行う予定であり、河辺の森へは近江鉄道を利用して行くことを考えている ・郊外学習で鉄道に乗車することを踏まえ、切符購入を行う体験を行いたい
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 乗り方教室や校外学習で学んだ公共交通の乗り方、マナー、乗車券の購入方法などを知識として定着させるための実践機会として、バス・鉄道乗車体験を一連の授業に組み込むこととした。 
授業の様子	
取り組みの良かった点・改善点等についてのヒアリング結果	<乗り方教室や実践機会について> ・公共の施設を利用する際のマナーに気付くことが狙いだったが、実践の際に、「ありがとうございました」とみんなが元気に言えていた。あとから気を付けることをきいてみたら、静かにすること、走らないこと、人の邪魔にならないようにすること等、たくさん挙げてくれた。 ・バス運転手の方が安全な座り方などについて積極的に指導してくれたが、見せて頂いた写真等に子供たちは興味深々だった。

実施小学校	甲賀市立土山小学校
実施学年	2 年生
教科・単元	生活科・わたしの町はっけん
学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する ・公共施設やそのために働いている人たちが自分たちの地域の生活を支えていることを理解する
その他のニーズ	・公共施設の存在や役割を理解させたい ・公共交通で働いている人へのインタビューを通して仕事の役割について理解させたい ・昨年度同様、バスの乗り方について学ぶ学習を行いたい ・乗り方を学ぶだけでなく、実際に走行する体験をさせてあげたい ・乗車体験中に乗客へインタビューをすることで、より理解が深まるのではないか
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 乗り方教室で学習した内容の理解を深めると同時に、公共交通の存在と役割について理解してもらうため、バス・鉄道乗車体験や事業者等へのインタビューを授業に組み込み、一連の取り組みとしてまとめの授業を実施することとした。 
授業の様子	
取り組みの良かった	＜乗り方教室について＞

点・改善点等についてのヒアリング結果	・担任の先生だけでは、ワークシートの作成等に時間をかけることは難しいので、ワークシート作成や授業の進め方等、サポートしていただいたのは良かった。 ＜乗車体験について＞ ・実際に体験しても時間が経つと内容を忘れてしまうことがあるので、体験をしている中でワークシートをまとめる時間があったのが良かった。 ・乗客インタビューでは、生徒全員が一生懸命質問をしようとしていたため、乗客の方への負担が大きくなってしまっていた。生徒を 2 つの車両に分ける等、乗客の方に迷惑がかからない方法を考える必要があると思われる。 ・乗客インタビューで年齢や利用の目的について聞くことができたので、そこから電車とバスの役割の違いについて学習展開していくことができると思う。 ・寺庄駅から近江土山に向かうバスを利用する人はいなかったが、昼間に土山の方面に向かう需要はないということを知ってもらう機会になったと思う。 ・バス・電車に実際に乗車する体験は公共交通の利用状況について学ぶいい機会になると思うので、土山地域の課題について考える 6 年生の総合学習の時間等への展開も可能であると思われる。 ・午前で体験できる授業プランであったため、給食の変更をする必要もなく、弁当をつくる保護者の負担にもならなかった。 ・バスの到着が遅れたこともあるが、貴生川駅の駅長インタビューはもう少し時間が長い方が良かった。 ＜まとめについて＞ ・普段の授業傾向を踏まえると、写真を見せながら質問をして発話を求めるという授業形態では、45 分間集中力はもたないと思っていたが、今日のまとめの授業では生徒の発話も活発で最後まで集中して取り組めていた。 ・バス・電車の乗車体験や交通事業者へのインタビュー等、実際に自分の目で見て直接話を聞く体験があったから発話したい内容がたくさんでき、授業に積極的に取り組めていたのだと思う。 ・「バスや電車が地域からなくなったらどうなるのか」という問いに対して、車やタクシー、自転車を使うという意見があったが、もう少し生徒の意見を掘り下げる時間があれば、公共交通の重要性について理解を深めることができたと思う。

（b）新たな視点での取り組み

a）福祉学習における交通素材の活用

①検討の考え方

従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施がほとんどを占めており、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で単元の理解を深めるバス車両の活用方法について検討を行うとともに、交通素材が様々な形で活用できる方法があるということを認知してもらう必要がある。

また、現在小学校で行われている福祉学習では、障がい者へのインタビューや校内での障がい者の疑似体験に留まっているため、学習の理解を深めるためには障がい者の日常により近い体験機会としてバス車両を活用していくことが有効であると考えられる。

以上より、福祉学習の単元の主旨を踏まえた上で、福祉学習の理解を深めるプログラムを実施するための車両を活用したプログラムを検討することとした。

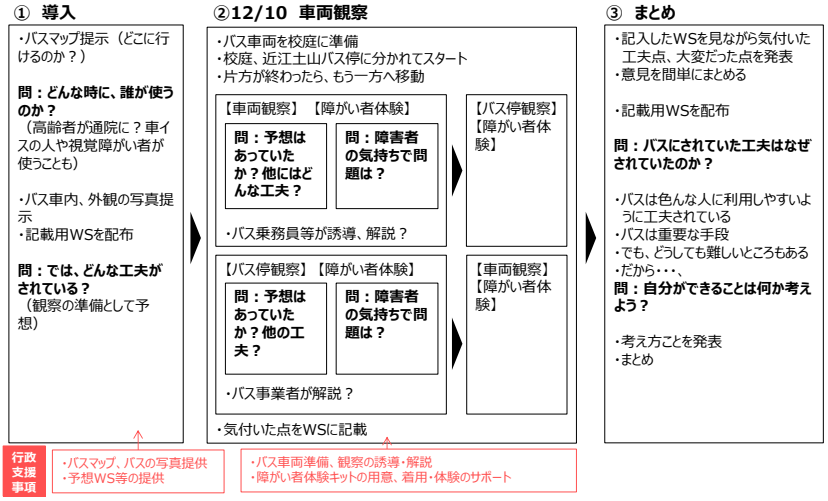
②検討・実施結果

検討した学習プログラムおよび実施結果を次頁以降に示す。

実施小学校	甲賀市立土山小学校
実施学年	３年生・４年生
教科・単元	総合的な学習・ともに生きるⅠ、ともに生きるⅡ
学習のねらい	・移動の際、視覚障がい者（or 車いす利用者）が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える
その他のニーズ	・この単元では、障がい者へのインタビューや校内での視覚障がい者の体験を考えており、バス車両を用いた授業は、単元の最後の方に子供たちの視点を広げるという位置付けで実施したい ・福祉面での工夫点がわかるようなバス車両・バス停の写真やワークシート、また視覚障がい者の体験キットを提供して頂けるとありがたい ・児童は３年生 2 クラス 37 人、４年生１クラス 24 人となるので、全員体験するためには授業時間が２時間は必要であると考える ・車いすや体験キットを利用して、いつも通学で通っている公道を歩くことも障がい者の大変さを実感が出来てよいと思う
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 バス車両での障がい者体験に先立ち、福祉面での工夫点について調べる車両観察を授業に組み込み、工夫点を予想する導入授業からまとめまでの一連の取り組みとして実施することとした。

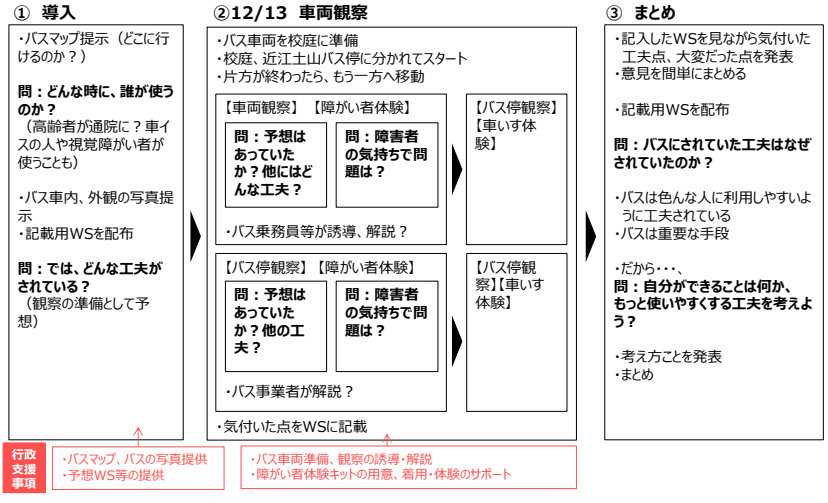
総合学習・ともに生きるⅠ（視覚障がい者）

【ねらい】移動の際、視覚障がい者が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える



総合学習・ともに生きるⅡ（車いす利用者）

【ねらい】移動の際、車いす利用者が何に困るかを実物・体験を通じて実感し、自分にできることを考える



授業の様子	
取り組みの良かった点・改善点等についてのヒアリング結果	＜車両観察・障がい者体験について＞ ・３年生で行った、バス車両の狭い空間を３組が行き来する体験は、譲り合わないと移動も思うようにできないという現実を知ることができる貴重な機会であり、校内でのアイマスク体験や写真を見るだけでは感じることができない体験であった。 ・４年生についても、スロープの角度や車体傾斜など、大人も初めて知るような工夫がたくさんあり、子どもたちの発見につながる良い経験になった。 ・知識として身に着けるだけでなく、実際に生活の中に入った時の知恵になる広がりや深さのある体験であったと思う。 ・今回の福祉学習では、バス車両の体験だけでなく、盲導犬利用者等の話を聞くことや校内体験などを事前に行っている。バス車両を用いた体験は、実際にまちにでたときはどうしたらよいかという部分の学習にあたり、実際に困っている人の想いを聞いた上で自分も体験してみるという一連の学習としても良く、単元としての位置付けも良かった。 ・しかし、バリアフリーに対応したものと対応していないものの２種類の車両を用意して頂いたが、両方体験する時間がなかったのが残念であった。一方、近江土山バス停では待ち時間が長く、子供たちの集中力がきれてしまっていたため、バス停は説明だけにする、待ち時間も興味を持ち続けれるような素材を用意する等の工夫が必要である。 ・実際に暮らしている視覚障がい者と同じように、障がい者体験キットを装着したまま、学校からバス停まで歩き、乗車をするという流れがあれば、子どもたちにとって貴重な体験になったのではないかと思う。例えば、毎日通る通学路であっても、普段とは違う状況の中で歩けば、子どもたちにとっても新たな発見があると思う。

b）鉄道すごろくの検討

①検討の考え方

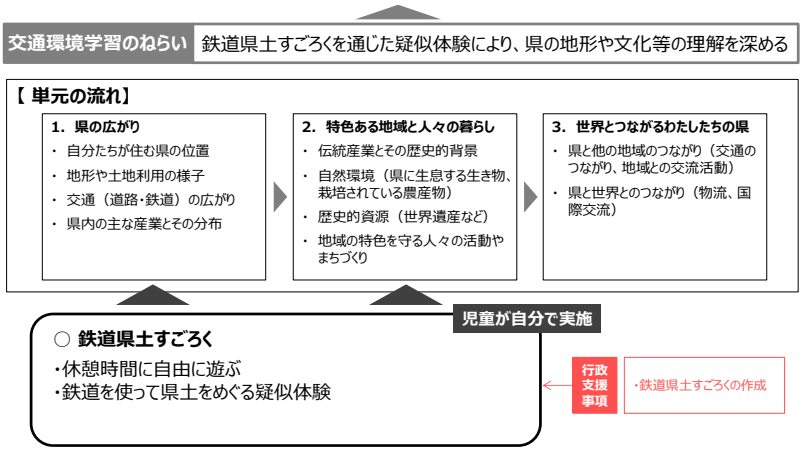
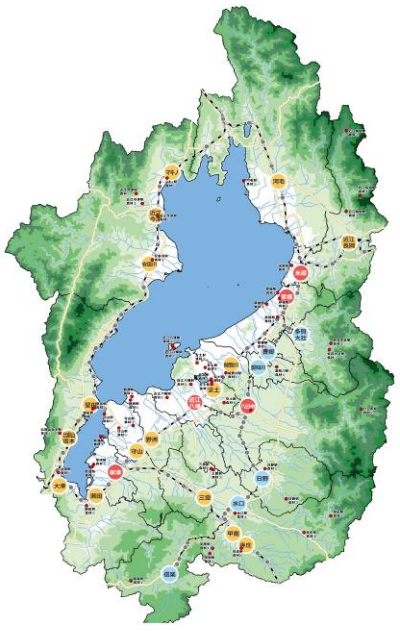
従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施がほとんどを占めており、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で単元の理解を深める交通素材の活用方法について検討を行う必要がある。また、学校の負担とならない形で交通環境学習を広げていくためには、担任の教師が授業を行うのではなく、休憩時間等を活用して教科単元の理解を深める学習を実施することも必要であり、その形のひとつとして、子どもたちが興味を持って取り組めるゲーム形式の学習ツールが考えられる。

４年生で学習する社会科単元「わたしたちの県」では、県内各地域の特性を学習する機会があり、県内で広く運行されている鉄道を関連付けた学習も可能と考えられる。鉄道ネットワークを面的に捉え、鉄道での移動を疑似体験できるすごろくゲームは教科単元の理解を深める学習ツールとして有効であると考える。

以上より、社会科の単元の主旨を踏まえた上で、社会科の理解を深めつつ、交通にも親しむことができるゲーム形式の学習ツールを検討することとした。

②検討・実施結果

検討した学習プログラムおよび実施結果を次頁以降に示す。

実施小学校	草津市立志津南小学校
実施学年	４年生
教科・単元	社会科・わたしたちの県
学習のねらい	・自分たちが住む滋賀県の地理的環境の特色、地域の伝統・文化、産業等について理解する
その他のニーズ	・社会科の授業のはじめに遊ぶことができるものがあれば、導入がしやすい ・社会科の使うことを念頭に考えた場合、農産物・食品、地形・自然、歴史・工芸等のそれぞれの分野について学べるものがあると良い ・どのような内容のすごろくにするかは検討することが必要であると思うが、教科単元の理解を深める形であれば、こちら側で試行することは可能である ・すごろくの内容については、子どもたちにとってより良いものとなるように一緒に検討しながら進めたい
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 公共交通を疑似的に体験しながら、「県の広がり」や「特色ある地域と人々と暮らし」の教科単元の理解を深めるための学習ツールとして、鉄道県土すごろくを検討することとした。 
作成した 鉄道すごろく	
取り組みの良かった	＜鉄道すごろくを用いた学習について＞ ・地産地消については 5 年生でも学ぶので、上手く活用できれば授業でも使えるような教

点・改善点等についてのヒアリング結果	材になるのではないかと思う。 ＜ルールやヒントについて＞ ・沖積平野などヒントに記載されている言葉が難しいものもあるので、もう少し簡単な言葉で表現する必要があると思う。 ・地名や地形が分からない子もいっぱいいるので、子供たちが楽しく遊べるようなヒントの出し方が難しいが、ヒントがわかりやすいものであれば、子どもたちにも遊んでもらえると思う。 ・複雑なルールは生徒が混乱するので、できるだけシンプルなゲーム内容にしていく必要があると思う。 ・自分たちの地域を理解してもらうことを考えると小学校の最寄りの駅をスタート地点にするのが良い。 ＜その他＞ ・かわいいデザインであれば子供たちの興味もひきやすいものになると考える。

c) フローティングスクールでの交通素材の活用

①検討の考え方

従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施がほとんどを占めており、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で単元の理解を深める交通素材の活用方法について検討を行うと同時に、交通環境学習の取り組みを広げていくためには、滋賀県の多くの地域で実施しやすいプログラムについて検討を行う必要がある。

現在、滋賀県全域で行われている既存の学習プログラムとして、小学５年生を対象とした「フローティングスクール」があり、このフローティングスクールでは、自分たちの生活と琵琶湖の関わりについて学習していくとともに、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験を通じて、環境に主体的にかかわる力をはぐくむことをねらいとしている。

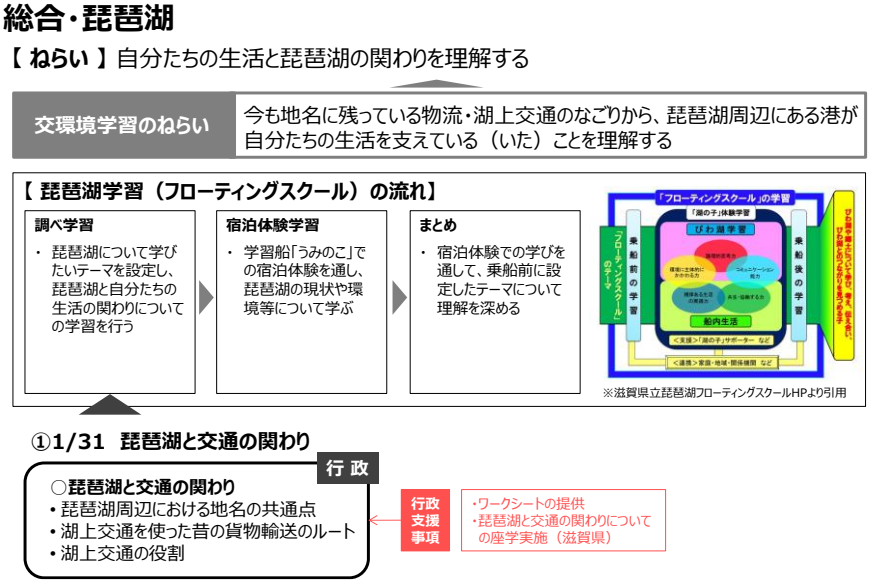
また、フローティングスクールの学習テーマである「琵琶湖」は、近代以前、政治や文化の中心地であった京都へ物資や人を運ぶ交通の要衝として栄えてきた歴史があり、特に琵琶湖の上を船で移動する湖上交通とまちの発展の関わりは強い。これを踏まえると、交通を視点として琵琶湖学習を行うことにより、自分たちの生活と琵琶湖との関わりについて理解を深めるとともに、県内全域で行われている既存のプログラムを活用することで、交通環境学習を展開していくことも可能と考えられる。

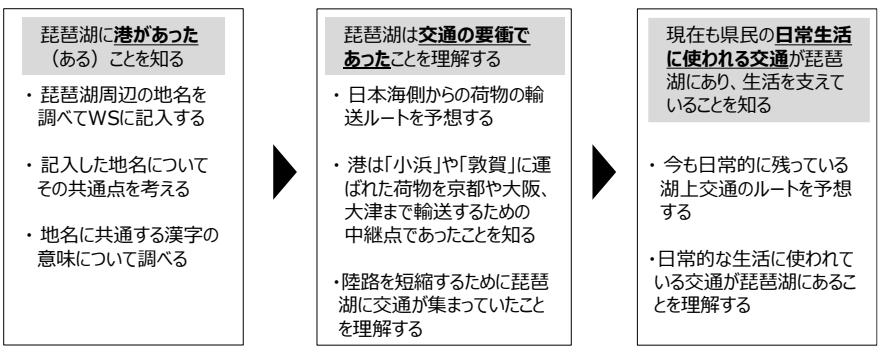
以上より、琵琶湖学習の主旨を踏まえた上で、学習の理解を深めるプログラムを実施するため、琵琶湖の交通を題材としたプログラムを検討することとした。

②検討・実施結果

検討した学習プログラムおよび実施結果を次頁以降に示す。

実施小学校	草津市立志津南小学校
実施学年	5 年生
教科・単元	総合的な学習・琵琶湖学習
学習のねらい	・自分たちの生活と琵琶湖の関わりを理解する
その他のニーズ	・フローティングスクールの流れとしては、１月頃に何を調べていくのかを決めた後、３月上旬頃に、その内容を踏まえてフローティングスクールに行き、理解を深める形になる ・何を調べていくかは子供たちの考え次第だが、ある程度は誘導することもできる ・琵琶湖と交通の関係を考えると、歴史も調べ学習のテーマとなり得ると思うが、歴史を学習するのは６年生であるため、深く学習するのは難しい ・子どもの発想に応じて活用できるツールとして、琵琶湖に関連した資料を行政から提供していただけるのは有難い ・教材を提供して頂いて担任の教師が授業を行うことは可能であるが、まとめ授業の際にこういう視点もあるということを教える形として、専門家に話していただくことも考えられる
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 琵琶湖を中心とした物流・交通（湖上交通）のなごりから、琵琶湖周辺にある港が自分たちの生活を支えている、もしくは支えていたことを理解してもらうことを交通環境学習のねらいとして位置付け、宿泊体験の事前学習として実施する学習プログラムについて検討した。





授業の様子	
取り組みの良かった点・改善点等についてのヒアリング結果	＜琵琶湖と湖上交通に関する授業について＞ ・丁寧に教えてもらい分かりやすかった。フローティング学習中にも、講師から湖上交通の話が出て、子どもたちからも「あの時話してもらったことだ！」というような反応があった。 ・フローティングの事前学習としてはよかった。フローティングをする 1 か月前ぐらいにするのがベストだと思う。学習に使った観光マップをもらえたのもありがたかった。 ・ワークシートは、一部何を書いたらいいかわからないところがあった。 ・学校側としては、何種類かの指導案がまとまっている冊子をもらって、それに乗っかる形が一番ありがたい。 ・交通学習については、県土の広がりを学習する４年生が中心と感じている。

d）歴史学習における交通素材の活用

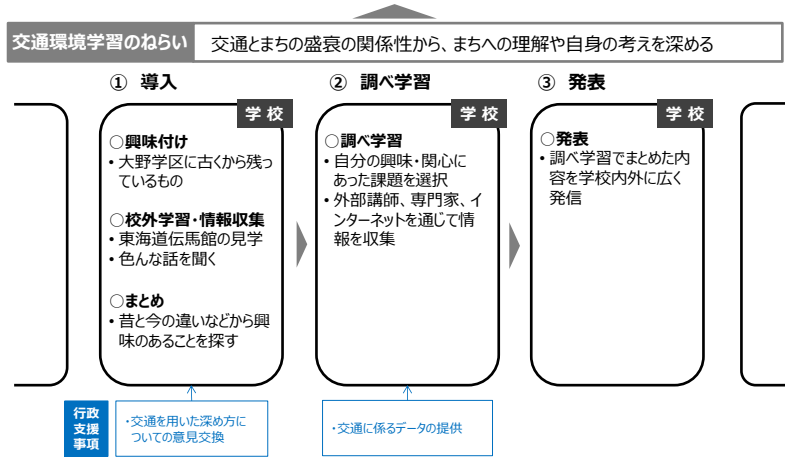
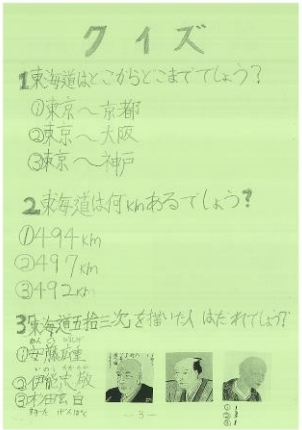
①検討の考え方

2 年生～5 年生までの学習のまとめとして、6 年生で将来の街づくり・自分たちの街づくりをテーマとした政策提言を行っていくことを踏まえると、総合学習の単元の理解を深める学習プログラムの検討に併せ、交通素材がどのようにして政策提言につながるのかを検討する必要がある。

一方で、6 年生では歴史の学習があるため、総合学習で地域の歴史を踏まえながら未来の地域のあり方を考えるケースが見られる。そこで、将来のまちのあり方などを学ぶ小学校を対象とし、昔のまちの様子について理解を深めるとともに、まちのあり方に対する見方を与える交通素材の活用方法について検討を行うこととした。

②検討・実施結果

検討した学習プログラムおよび実施結果を次頁以降に示す。

実施小学校	甲賀市立大野小学校
実施学年	６年生
教科・単元	総合的な学習・街道学習
学習のねらい	・昔のまちの成り立ちや地域の良さを学び大野地域を活性化するためにできることを考える
その他のニーズ	・例年６年生の総合学習で歴史を学んでいるが、街道のことを調べて、昔のことを知るだけになっており、今後に向けた展望がない ・提案されたように、現在の交通の状態とまちの状態の関係性を理解した上で街道を観察することで、昔のまちの成り立ちや良さを実感できる学習になると思う ・街道について学んだ中で、総合的学習として子供たちが何を調べていきたいのかを考えていくため、交通が総合学習のテーマにならない可能性も考えられる
交通素材を活用した 学習の流れ	【考え方】 導入授業の際に交通素材を用いた学習の深め方について学校と意見交換を実施し、全体の流れを検討するとともに、調べ学習でまちが変化してきた理由を考える素材として交通に係るデータの提供を行うこととした。 
授業の様子	 
取り組みの良かった	<交通を活用した総合学習の振り返り>

点・改善点等についてのヒアリング結果	・総合学習のカリキュラムは決まったものがなかったが、本年度の取組を通じて、大まかな指導計画ができたので、来年度以降も活用していきたいと思う。 ・資料の中身や体裁などについて、打合せが不足していたと感じる。夏休み中に、一度すり合わせを行った上で、授業の立てつけを決められたら、より良い活用方法があったのではないかと思う。 ＜交通に係るデータについて＞ ・教材を作成する時間が限られている学校側にとって、詳細な交通データを提供していただけるのは非常にありがたい。 ・提供いただいたデータは小学生にとって理解が難しいものも多いため、土山 IC の利用者数・甲賀市の人口分布・自動車の周辺地域の交通量等の利用できそうなデータを選び、交通・物流や人口変化について学習する際に課題を見つける 1 つのツールとして利用させていただいた。 ・一項目だけを取り上げたようなグラフよりも、「一号線の開通と反比例して、東海道の利用者が減ってきた」というような、問題点が明確にわかるような資料の方が活用しやすい。 ・数値がもとになっているものが多かったが、鉄道敷設の際のやり取り等がわかる請願書等、住んでいた人の考え方が分かるような資料もあると面白い。 <まとめの発表について> ・自分たち自身ができることに重点をおいて考えていたため、手作りの看板を作って広報をする等の子供らしい発想のテーマが多く、交通に関係するようなテーマがでてこなかった。 ・授業開始当初から地域のつながりやその良さを発信することを学習目標として設定し、そこから逆算して授業を構成していたため、交通に関係するテーマに誘導するような時間が取れなかった。 ・子供たちの課題発見の段階で、鉄道敷設に係る請願書とかの資料があって、「大野の人たちは、お茶を守るためにこんなことをした」といったことがわかれば、今回の学習の方向性や結論も違っていたかもしれない。

４）取り組み結果の整理

以上の交通学習プログラムの実施結果および教師の感想を踏まえ、H30 年度の検討成果と課題について以下のように整理した。

表 2-3　H30 年度の検討成果と課題

		良かった点・成果	課題
既存資源の有効活用	布引小学校 ２年生	・乗り方教室を継続的に実施 ・乗り方教室に加え、郊外学習までを意識づける宿題を担任の先生が作成、実施	・単元単位での活用についてイメージが共有できるよう、より**密な議論・例示**等が必要 ・宿題を活用する場合、先生との認識のずれをなくす工夫が必要
	志津南小学校 ２年生	・従来の出前授業に加え、公共交通について考える WS を作成し、学校が授業を実施	・乗り方教室としての価値を高める工夫、調整（運賃の支払い、事前の当て方の確認等） ・WS による振り返りについて詳細を再度確認し、**精度向上**等を検討
	城東小学校 ２年生	・実践機会等の導入により、使い方やマナーを**定着・効果向上**	・単元の中での効果等について詳細を再度確認し、検討
	土山小学校 ２年生	・交通を用いて生活科の**理解・考えを深めるサポート**ができた（乗り方教室を活用して生活科の学習を深める**一つのモデル**を構築） ・他の単元での活用につながる形で、**“交通”の効果について理解**していただいた	・乗車体験を取り入れた生活科授業の**他の地域への展開、適用方法**検討 ・土山小学校での**他の学年・単元への発展**
新たな視点での取り組み	土山小学校 ３年生・４年生	・交通体験を通じて福祉学習の**理解を深めるサポート**ができた（３年生以上での**汎用性の高いバリエーション**を構築）	・観察部分の**効果的、効率的な実施方法**検討（改善点への対応＋省力化） ・福祉学習以外の単元（3 年生社会等）での連携・サポート
	志津南小学校 ４年生	・出前授業等の手間を掛けずに実施できる内容を**教師とともに検討**し、ツールとして**概ね具体化**（他にも、興味を持っていただいている学校・教師もある）	・志津南小、その他学校での、ゲーム実施、問題把握、ブラッシュアップ
	志津南小学校 ５年生	・滋賀県の全小学校で実施する琵琶湖学習において、琵琶湖と自分の関わりの一つとしての湖上交通を、コンパクトに紹介・興味付けできる**プログラムを具体化**	・結論部分の**ブラッシュアップ、指導書**の精度向上、学習に役立つ琵琶湖マップの提供等を行いながら、**学校による実施**を後押し ・内容がより**効果的となる地域へ**の展開（○○津での琵琶湖とまちの学習等）
	大野小学校 ６年生	・大野小学校における**指導計画の整理に寄与** ・街道学習における交通からの学習深化の**可能性の確認**、モデル校との**連携強化**	・大野小学校との密な連携により、**データの加工・提示方法**や、**請願書**等も含めた活用できる資料の再検討、その他資料作成等を実施

		2年	3年	4年	5年	6年
草津	志津南小	【生活科】 ・振返学習用のWSを作成、実施 ⇒WS等の精度向上等	―	【社会科】 ・ゲームを使った方法を検討、具体化 ⇒試行、ブラッシュアップ	【総合】琵琶湖 ・湖上交通を用いたプログラムを具体化 ⇒ブラッシュアップ ⇒効果的地域への展開	―
甲賀	大野小	―	―	―	―	【総合】街道 ・交通からの活用可能性確認 ⇒データ提示方法、資料の再検討
	土山小	【生活科】 ・乗車体験により生活科を深めるモデル形成 ⇒他地域への展開	【総合】福祉 ・車両を用いて福祉の理解を深めるバリエーション構築 ⇒効果的、効率的な実施方法検討		―	―
東近江	布引小	【生活科】 ・宿題を担任が作成、実施 ⇒密な議論・例示等必要	―	―	―	―
彦根	城東小	【生活科】 ・実践機会による効果定着 ⇒継続・ブラッシュアップ	―	―	―	―

H31の課題		【生活科】 ○活用**パターン整理**へ ⇒**モデル校での取り組み**を他校へ展開 ⇒ブラッシュアップ・効率化の検討（**WS形式**の精度向上、**乗り方教室なしパターン**の検討等） ⇒**その他の観点**での活用検討（防災・福祉）	【社会科】 ○２年生活科の**取り組みの発展**として実施	【社会科】 ○**試行、ブラッシュアップ**	【総合】琵琶湖 ○**H30の視点も踏まえ**、より学習に役立つ方法を検討 ⇒H30の視点での**ブラッシュアップ**・効果的地域への展開 ⇒**琵琶湖博物館**での校外学習との連携	【総合】街道 ○**H30の視点を軸**に、再検討 ⇒効果的な**資料やデータ提供方法**について、密に議論、検討
			【福祉・バリアフリー】 ○**パターン整理**へ ⇒引き続きブラッシュアップしながら実施し、**効果向上**・**効率化**を図る ⇒**バス協会の取り組み**との連携			

図 2-10 今後の課題

（３）周知サポート体制づくりの検討

１）検討方針

R2 年度以降の仕組みづくりに向けて、本事業においては県単位での素地づくりが必要である。そのためには、「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるようにサポートの確立を目指すとともに、将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指す必要がある。

これらを踏まえる、以下のような観点で取り組んで行く必要があると考えた。

＜取り組みの観点＞

・「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポートの確立を目指すために・・・

○知る機会をつくる

⇒全体的な取り組み周知（１）

⇒教師間の情報伝達・波及（２）

○実施しようと思った時にやれるようにする

⇒交通素材の提供体制の確保（３）

⇒成功例の収集、事例の発信（４）

・将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指すために・・・

○実施を促すインセンティブを確保

⇒顕彰、発表機会の創出（５）

⇒一連の学習に対する資金支援（６）

⇒副読本等への組み込み（７）

それぞれの観点に対して、実施すべき内容を考えるものとし、次項にて検討を行った。

2）実施内容の検討

前項で整理した観点から、研究会での意見やモデル校教師・教育関係者等の意見を踏まえ、実施内容の検討・整理を行った。

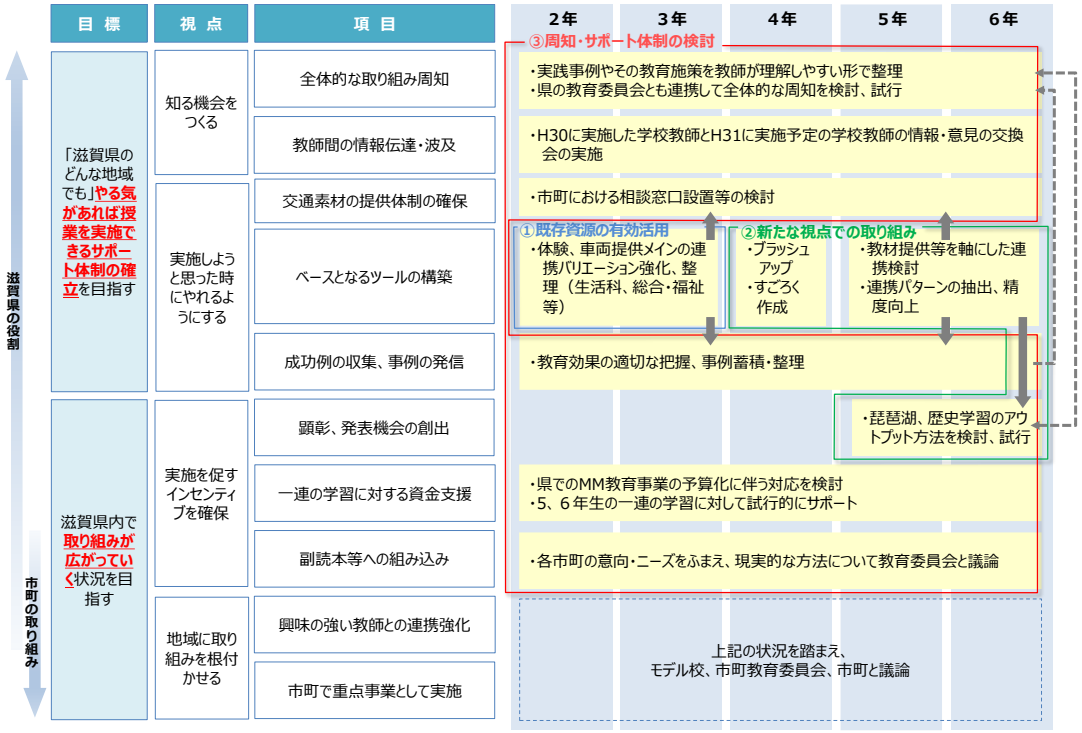


図 2-11 実施内容のイメージ

2-2 R1 年度の検討・取り組み

2-2-1 R1 年度の検討方針

（1）R1 年度の検討内容

今後取り組みの展開を行っていくためには、どんな地域でも実施が可能な縦断型の学習プログラムについて内容・ツールをある程度確立する必要がある。

そこで、昨年度の取り組み状況を踏まえ、交通素材を活用した学習プログラムをより効果的で使いやすいものにするために、昨年度検討した交通学習プログラムのブラッシュアップを行うとともに、単元の理解を深める交通素材の活用可能性について検討するため、新たな交通学習プログラムについても検討を行うこととした。

また、あわせて、学校への周知を行うための情報の検討・整理を行うこととした。

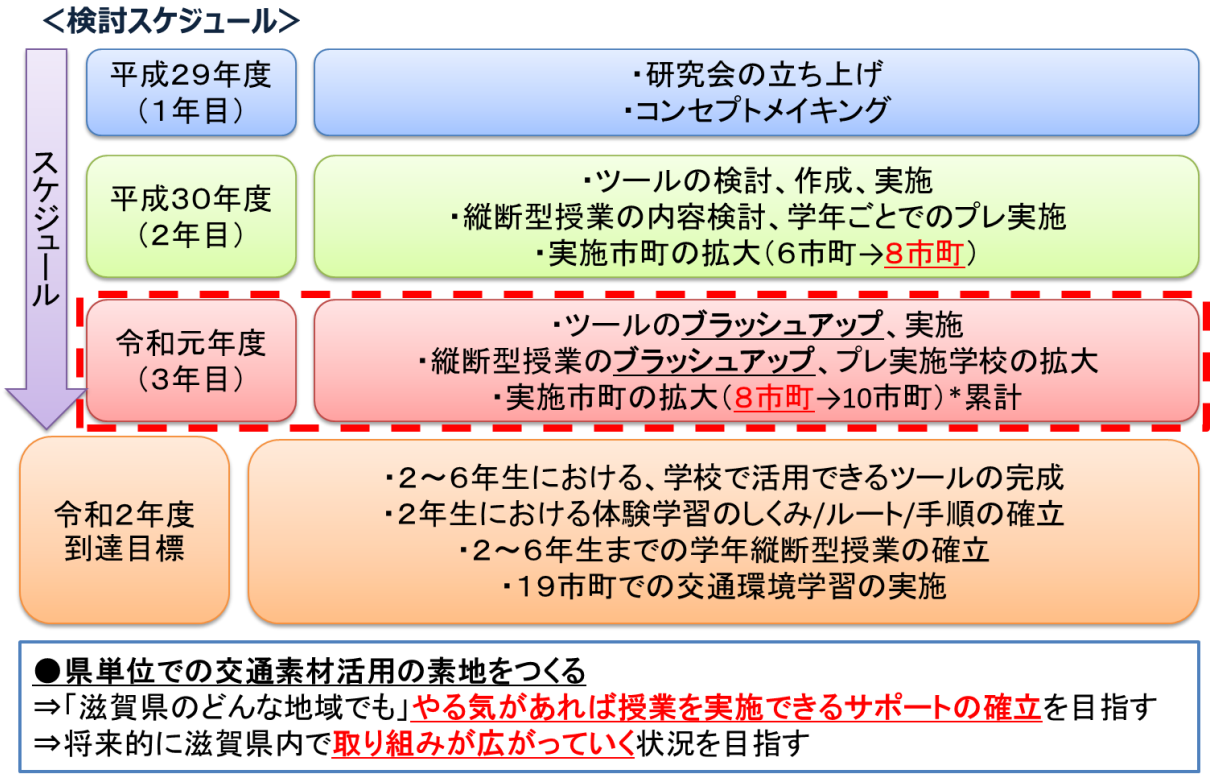


図 2-12 R1 年度の実施内容

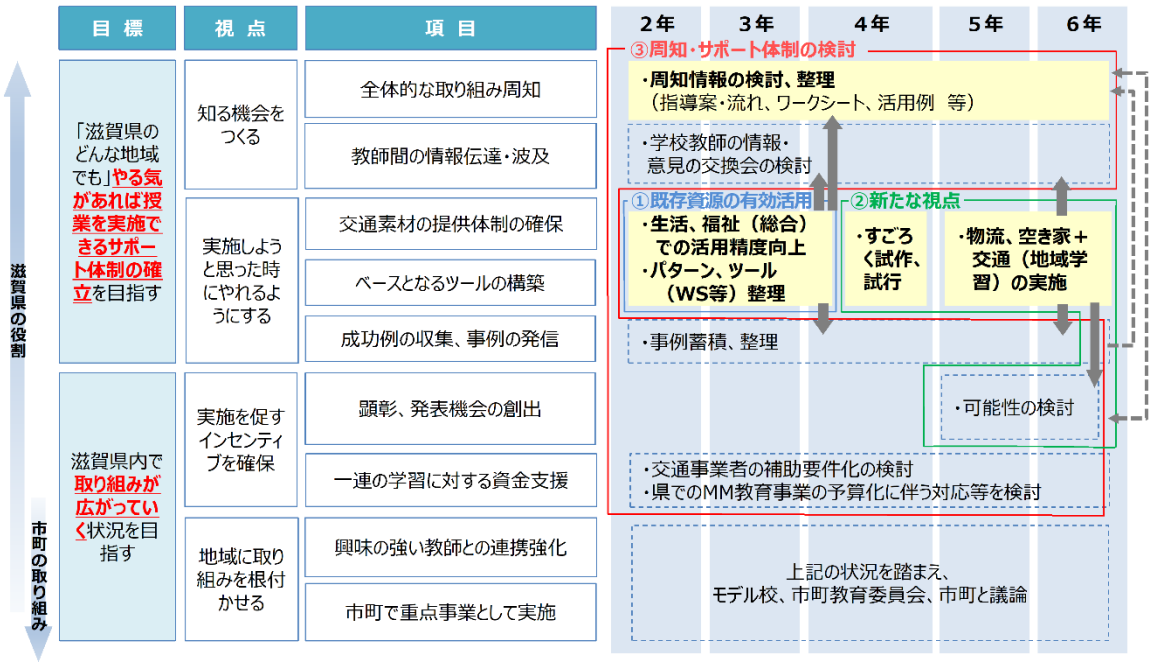


図 2-13 R1 年度の検討内容

（２）プログラム検討における実施内容の整理

１）整理方法

各学校の実施意向を踏まえ、教師との意見交換を実施した上で今年度実施する内容について整理することとした。
以下に本事業で検討した交通環境学習内容の実施意向があった小学校を示す。

表　2-4　実施対象校

小学校	内容
甲賀市立土山小学校	昨年度は２年～４年で交通環境学習を実施。今年度は昨年度実施した学習にあわせて、５年生・６年生でも学習プログラムを検討し、縦断型の学習を行う。
草津市立笠縫小学校	２年生で鉄道の乗り方について学習したいというニーズがあり、新たな視点での取り組みとして学習プログラムを検討・実施を行う。
大津市立上田上小学校	交通素材を活用した福祉学習を５年生で実施したいというニーズがあり、昨年度の取組を活かした学習プログラムの検討・実施を行う。

2）実施校へのヒアリング

昨年度の取り組みを踏まえ、今年度の学習プログラムの実施意向・内容等についての意見聴取を行った。
以下にヒアリング概要および結果を示す。

■甲賀市立土山小学校

日　時	令和元年 11 月 1 日
ヒアリング対象	校長先生、教頭先生
ご意見	＜昨年度の取り組みのブラッシュアップについて＞ ・３・４年は昨年度と同様の学習でよいが、**待ち時間を有効に活用**できるような教材等については検討して頂きたい。 ・２年生も昨年度と同様の学習を考えているが、公共交通の利用者に**インタビューする際は車両を分ける等の工夫**が必要であると考える。また、タブレット等のツールを用いて乗車体験の様子を子供たちに撮影してもらい、まとめ授業の振り返りに活用することも可能であると考える。 ＜新たな交通学習プログラムの検討について＞ ■５年生 ・社会科の**物流の単元**は、輸送などについて学習するため、交通素材を活用することができるかもしれない。 ・自分たちの地域の今後を考えていくための材料として、**地産地消**に着目して地域の理解を深めるような学習を行いたいと考えている。 ・ICT を整備しており、ネットを活用した学習を広げたいと考えている。 ■ ６年生 ・現在、土山地域では空き家対策が問題となっており、宿場まつり等のイベントでは空き家を活用して展示会やスタンプラリー等を実施する取組が行われている。小学校としても**空き家に着目した学習**を進めていきたいと考えているが、現在は宿場町や街道等に関する学習にとどまっている。 ・今年度の６年生の総合的な学習では２時間でもよいので、空き家を通して地域を考える学習を行いたいと考えている。 ・地域の新たな移動手段として**コミタクが運行**されるようになったので、この機会をいかしてコミタクはどのような交通手段なのか、なぜそれが運行されるようになったのかということも学んでほしいと考えている。

３）交通学習プログラムの検討教科・単元

実施結果を踏まえ、R1 年度における交通学習プログラムの検討教科・単元を以下のように整理した。

表 2-5 R1 年度における検討教科・単元

	H30 年度の交通学習プログラムの ブラッシュアップ・定着化	新たな交通学習プログラムの検討
２年	・生活科・乗り方教室、乗車体験（土山小学校） ⇒取り組みの定着化 ⇒乗客インタビュー時における実施体制の検討	・生活科・鉄道の乗り方教室（笠縫小学校） ⇒新たな協働事業者を巻き込んだプログラムの検討・試行
３年	・総合的な学習・福祉学習（土山小学校） ⇒取り組みの定着化 ⇒観察体験の回し方を改善	―
４年	・総合的な学習・福祉学習（土山小学校） ⇒取り組みの定着化 ⇒観察体験の回し方を改善 ・社会科・鉄道すごろく ⇒ツールのブラッシュアップ	―
５年	・総合的な学習・福祉学習（上田上小学校） ⇒昨年度の取組を他の小学校で実施 ⇒汎用性の有無および改善点を把握	・社会科・物流（土山小学校） ⇒プログラムの検討・試行
６年	―	・総合的な学習・空き家、コミタク（土山小学校） ⇒プログラムの検討・試行

2-2-2 交通学習プログラムの検討

（1）H30 年度の交通学習プログラムのブラッシュアップ・定着化

1）2年生・生活科（土山小学校）

（a）**今年度の位置付け**

昨年度構築した、乗り方教室やバス・鉄道乗車体験、事業者等へのインタビューを授業に組み込んだ一連の学習プログラムをくり返して実施し、取り組みの定着化を図ることとした。また、あわせて昨年度取り組みの課題として挙げられた乗客インタビュー時における実施体制について再検討を行うこととした。

（b）**交通学習プログラムの検討**

a）交通素材を活用した学習の流れ

昨年度と同様に、バスや電車等の身近な交通を通じて、公共交通の仕事や公共施設の役割について理解を深めることを交通環境学習のねらいとして位置付け、交通事業者へのインタビューや乗車体験を取り入れた学習の流れについて検討・調整した。

土山小学校では、乗り方教室で学習した内容の理解を深めると同時に、公共交通の存在と役割について理解してもらうため、バス・鉄道乗車体験や事業者等へのインタビューを授業に組み込み、一連の取り組みとしてまとめの授業を実施することとした。

＜今年度の位置付け＞ 昨年度実施した取り組みをくり返し実施して定着化

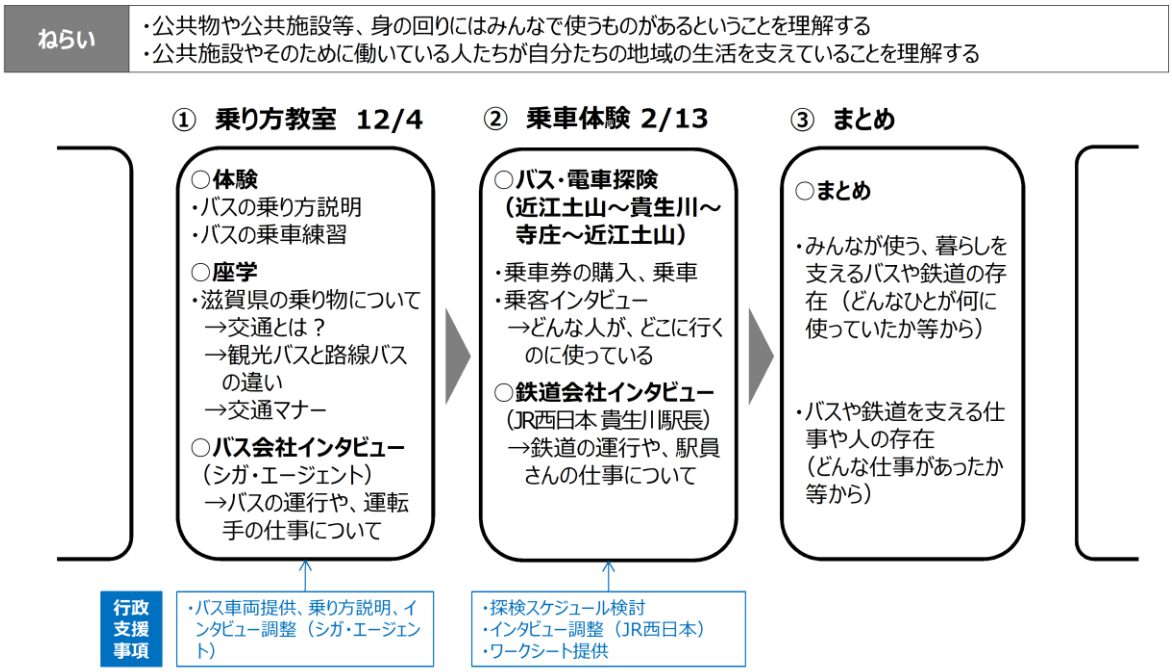


図 2-14 学習の流れ

b）学習の準備

①乗り方教室の準備

乗り方教室の準備として、シガ・エージェントシステムにバス車両の提供と児童へのバスの乗り方説明およびバス事業者インタビューの対応について依頼し、当日の流れ・タイムスケジュールの検討や調整も行った。

乗り方教室の当日の流れを以下に示す。

表 2-6 乗り方教室の当日の流れ

9:35～ 9:40	◎自己紹介
9:40～ 10:00	【体験】 ◎バスの乗り方・乗車マナーの学習と乗車体験 ・バスの乗り方や路線バスのしくみを知ろう ・乗車体験 →バスの中の説明、運賃表、優先座席、乗車マナーのお話を聞く ・バスドライバーさんのお話 →バスの運転手さんのお仕事って？（運転以外のお仕事は？）
10:00～ 10:15	【座学】 ◎しがけんののりもの ・車以外の乗り物の学習 ・交通ってなに？ ・観光バスと路線バスの違い ・交通マナー
10:15～ 10:20	◎ふりかえり・あいさつ

②乗車体験の準備

昨年度と同様に、午前中にバスと鉄道を利用して土山小学校まで戻ってくるとともに、JR 貴生川駅で鉄道事業者へのインタビューを行う時間を確保することを条件として、ルートやスケジュールなど当日の流れを設定した。また、バス・鉄道乗車中には、乗客へのインタビューを行うこととし、鉄道での乗客インタビューにおいては乗客の負担軽減のため児童を複数車両に分けてインタビューを実施することとした。

		バス体験（行き）				電車体験					バス体験（帰り）			
時間		8:40～	8:45～	8:50～	9:03～	9:32～	9:35～	9:45～	10:00～	10:13～	10:19～	10:45～	11:05～	11:10～
		約5分	約5分	約１０分	約３０分	約３分	約１０分	約１５分	約１０分	約5分	約２5分	約２０分	約5分	約5分
場所		学校	移動	近江土山バス停	バス （近江土山バス停→貴生川駅）	移動	貴生川駅		移動・待機	電車 （貴生川駅→寺庄駅）	移動・待機	バス （寺庄駅→近江土山バス停）	移動	学校
内容		・主旨、流れの説明 ・乗り方やマナーの振り返り ・WS記入方法の説明	・移動 （土山小→近江土山バス停）	・乗車券の購入方法の説明 ・窓口でフリー乗車券を購入	・バスに乗車 （近江土山→貴生川） ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （バス停→貴生川駅駅舎2階）	・切符の購入方法の説明 ・券売機で切符購入	・JR駅員にインタビュー ・WS記入	・移動 （貴生川駅駅舎2階→ホーム）	・電車に乗車 （貴生川→寺庄） ※3つの車両にわかれて乗車 ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （ホーム→バス停） ・WS記入 ・トイレ休憩	・バスに乗車 （寺庄→近江土山） ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （近江土山バス停→土山小）	・総括 ・終了のあいさつ
学校	A	・はじめに ・乗り方・マナー、WS記入方法の説明	・移動の誘導	・導入 ・乗車券購入の誘導	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・導入 ・切符購入の誘導	・導入	・移動の誘導 ・生徒の対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導 ・WS記入指示 ・トイレ休憩対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・総括
	B	—	・移動の誘導	・待機生徒の対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・待機生徒の対応	—	・移動の誘導 ・生徒の対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導 ・WS記入指示 ・トイレ休憩対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	—
シガ・エージェント		—	—	・乗車券の購入方法の説明 ・乗車券販売	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
JR駅員		—	—	—	—	—	・切符の購入方法の説明	・「JR駅員にインタビュー」の対応	—	—	—	—	—	—
甲賀市		・あいさつ	・移動サポート	・シガ・エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート	・移動サポート	・JR駅員のサポート ・切符購入のサポート	・JR駅員のサポート	・移動サポート	・インタビューのサポート ・WS記入サポート ※１つ目の車両を担当	・移動サポート	・WS記入サポート	・移動サポート	・あいさつ
滋賀県	A	・あいさつ		・シガ・エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート		・JR駅員のサポート ・切符購入のサポート	・JR駅員のサポート		・インタビューのサポート ・WS記入サポート ※２つ目の車両を担当		・WS記入サポート		・あいさつ
	B	・あいさつ		・シガ・エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート		・JR駅員のサポート ・切符購入のサポート	・JR駅員のサポート		・インタビューのサポート ・WS記入サポート ※３つ目の車両を担当		・WS記入サポート		・あいさつ
OC	A	—		—	—		—	—		—		—		—
	B	—		・記録			・記録			・記録		・記録		—

図 2-15 乗車体験の当日の流れ

③学習ツールの作成

昨年度と同様に、乗車体験の学習内容を意識づける観点から、利用したバス停・駅の名前、かかった運賃や乗車時間、鉄道事業者や乗客へのインタビュー結果などの体験内容を書きとめてもらい、まとめ授業での振り返りとして活用できる形にするとともに、「バスや電車にのっている人はどこに向かっているのか」ということを考えてもらうことを通して、公共交通の存在・役割やそれを支える人の努力についての理解を深めてもらうことを意図したワークシートを使用した。

次頁に使用した学習ツールを示す。

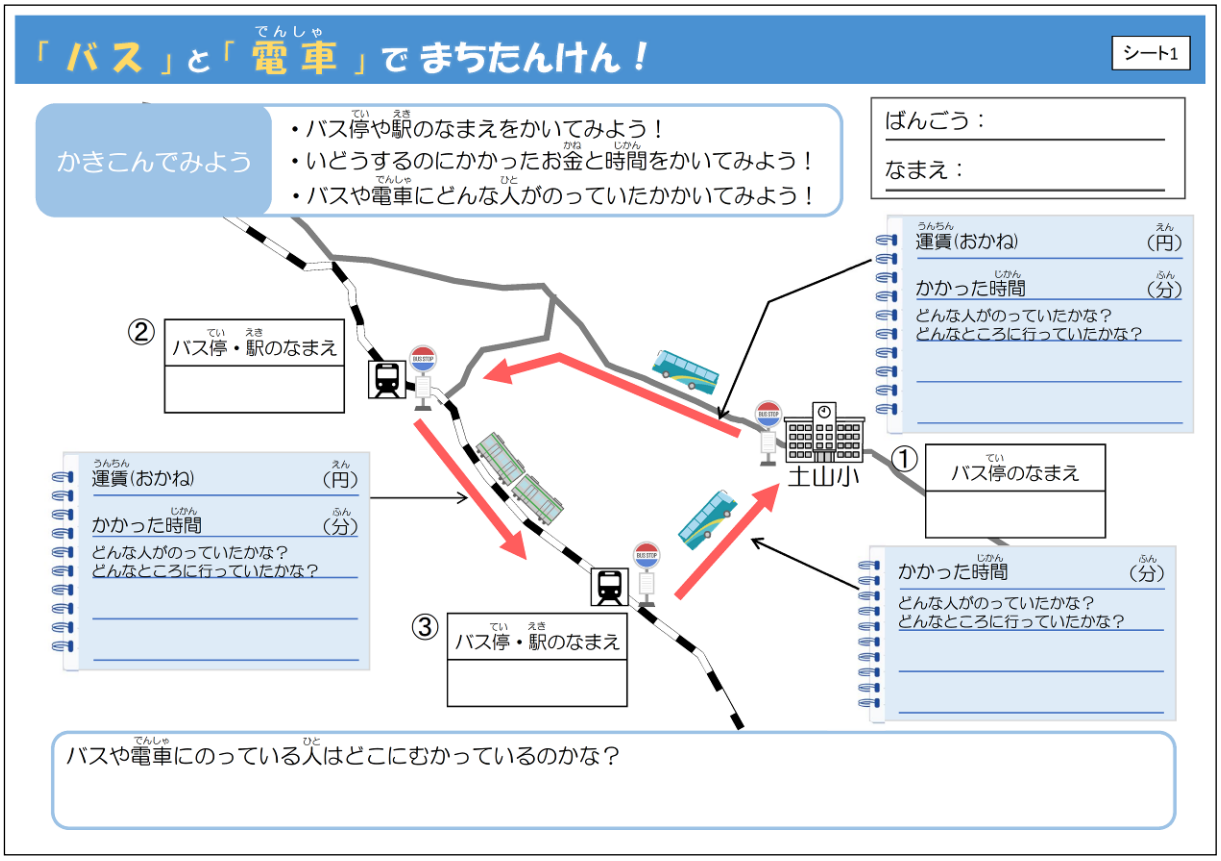


図　2-16　2年生のワークシート（1/2）

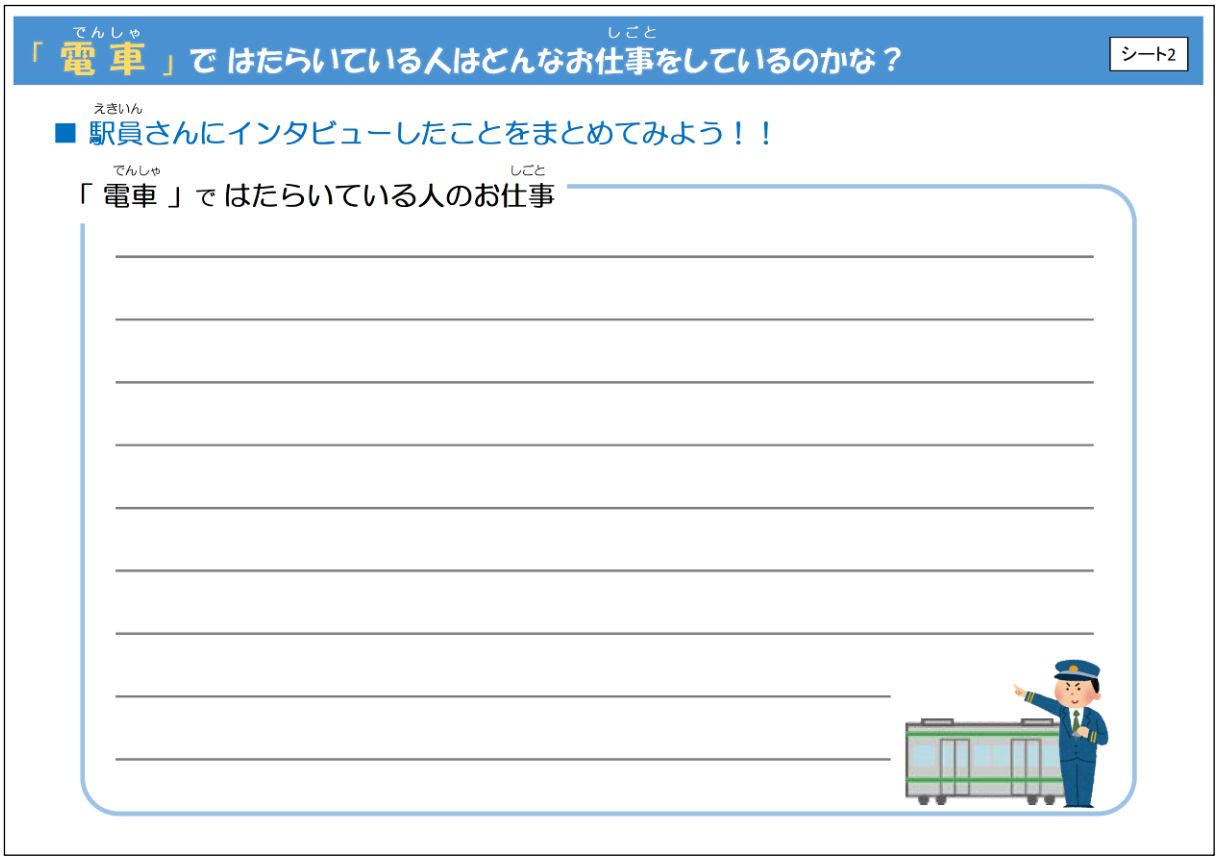


図　2-17　2年生のワークシート（2/2）

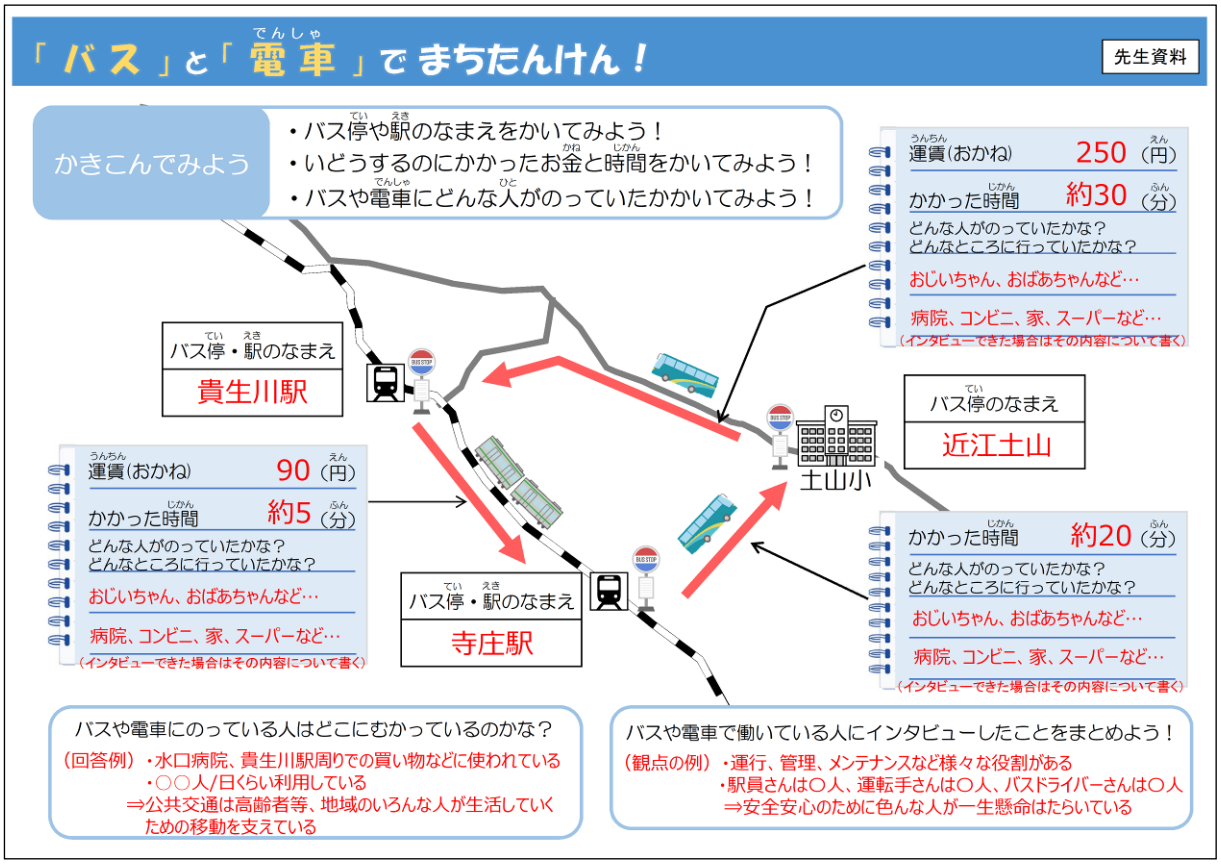


図　2-18　2年生の指導書サンプル

2）３年生・４年生・総合的な学習　福祉学習（土山小学校）

（a）今年度の位置付け

昨年度構築した、福祉学習の理解を深めるプログラムを実施するための車両を活用したプログラムを検討・実施し、取り組みの定着化を図るとともに、昨年度課題として挙げられた体験の待ち時間の有効活用等について再検討することとした。

（b）３年生の交通学習プログラムの検討

a）学習の流れ

障がい者が日頃何に困るのかを身近な交通のひとつであるバス車両での体験を通じて実感し、理解を深めてもらうことを交通環境学習のねらいとして位置付け、学習の流れについて再検討・調整を行った。

昨年度と同様に、バス車両の福祉面の工夫点を予想する導入、予想を確認するための車両観察と障がい者体験、バスにどんな工夫があったか、自分に何ができるかを考えるまとめまでの一連の取り組みとして実施することとした。また、バスの工夫点への気づきや理解をより深めるために、ノンステップバスとステップバスを順番に体験してもらい、ノンステップバスが利用者の乗り降りのしやすさ等に配慮された構造になっていることを実感・理解してもらうとともに、待ち時間を少なくする工夫・改善を行った。

以下に学習の流れを示す。

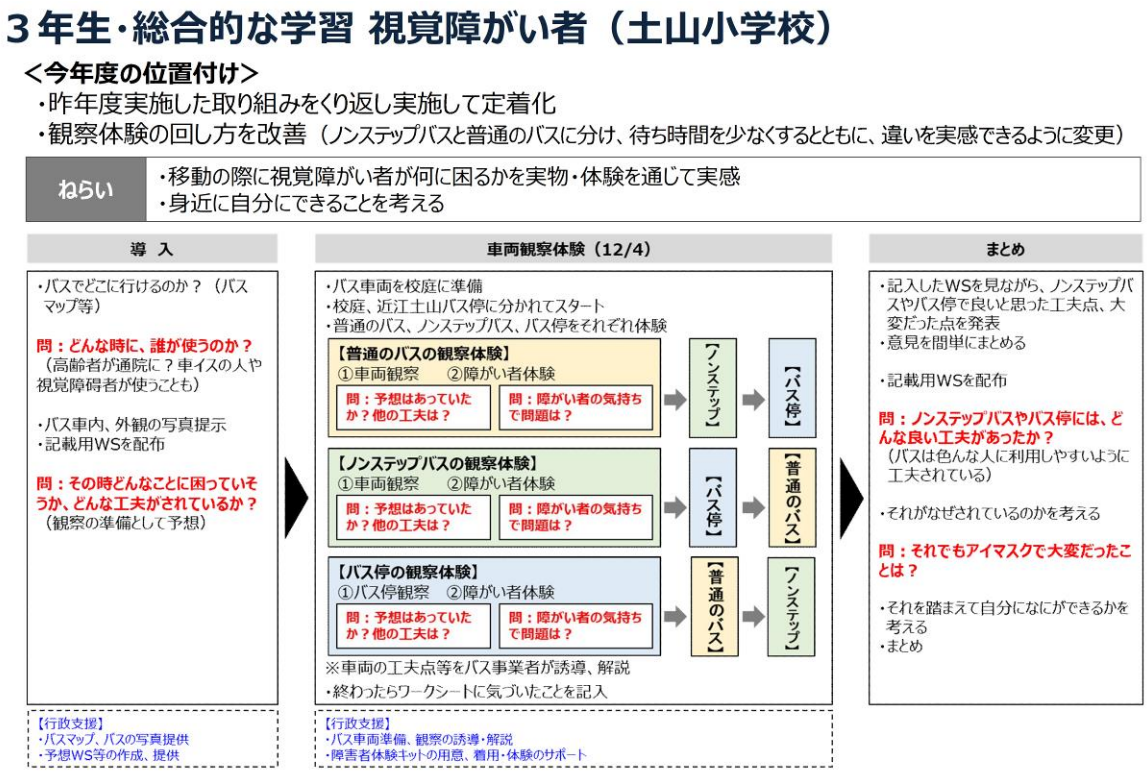


図　2-19　学習の流れ

b）学習の準備

①体験の準備

昨年度と同様に、障がい者体験および車両観察の準備として、シガ・エージェントシステムにバス車両の提供と福祉面での工夫点の説明について依頼し、当日の流れの検討・調整を行った。

障がい者体験および車両観察の当日の流れを以下に示す。

時間		10:35	10:40	10:45	10:50	10:55	11:00	11:05	11:10	11:15	11:20	11:25	11:30	11:35	11:40	11:45	11:50	11:55	12:00	12:05
		約１０分		約２５分					約２５分					約２５分					約５分	
１班（約６名）		・主旨、流れの説明 ・白杖の使い方の説明		【普通のバスの観察】 車両観察（１０分） ・どこにどんな工夫があるかを探す（バー・座席の色、音声案内、ニーリング等） ・気づいたことをワークシートに記入		視覚障がい者体験（各ペア５分、合計１５分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒入口→後部座席→ボタン→運賃支払→降車を一周（車両の中を同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞			【ノンステップバスの観察】 車両観察（１０分） ・どこにどんな工夫があるかを探す（バー・座席の色、音声案内、ニーリング等） ・気づいたことをワークシートに記入		視覚障がい者体験（各ペア５分、合計１５分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒入口→後部座席→ボタン→運賃支払→降車を一周（車両の中を同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞			【バス停留所の観察】 移動（５分） ・歩いてバス停まで移動		バス停観察（５分） ・どこにどんな工夫があるかを探す(点字等) ・気づい		視覚障がい者体験（各ペア３分、合計１０分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒待合室→バス停→トイレ→待合室を一周（同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く		移動（５分） ・歩いて校庭まで移動	・バス事業者への質問 ・終了のあいさつ	
	場 所	校 庭		校 庭					校 庭					近江土山バス停					校 庭	
２班（約６名）		・主旨、流れの説明 ・白杖の使い方の説明		【ノンステップバスの観察】 車両観察（１０分） ・どこにどんな工夫があるかを探す（バー・座席の色、音声案内、ニーリング等） ・気づいたことをワークシートに記入		視覚障がい者体験（各ペア５分、合計１５分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒入口→後部座席→ボタン→運賃支払→降車を一周（車両の中を同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞			【バス停留所の観察】 移動（５分） ・歩いてバス停まで移動		バス停観察（５分） ・どこにどんな工夫があるかを探す(点字等) ・気づい		視覚障がい者体験（各ペア３分、合計１０分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒待合室→バス停→トイレ→待合室を一周（同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く		移動（５分） ・歩いて校庭まで移動	【普通のバスの観察】 車両観察（１０分） ・どこにどんな工夫があるかを探す（バー・座席の色、音声案内、ニーリング等） ・気づいたことをワークシートに記入		視覚障がい者体験（各ペア５分、合計１５分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒入口→後部座席→ボタン→運賃支払→降車を一周（車両の中を同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞			・バス事業者への質問 ・終了のあいさつ	
	場 所	校 庭		校 庭					近江土山バス停					校 庭					校 庭	
２班（約８名）		・主旨、流れの説明 ・白杖の使い方の説明		【バス停留所の観察】 移動（５分） ・歩いてバス停まで移動		バス停観察（５分） ・どこにどんな工夫があるかを探す(点字等) ・気づい		視覚障がい者体験（各ペア２～３分、合計１０分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒待合室→バス停→トイレ→待合室を一周（同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く	移動（５分） ・歩いて校庭まで移動	【普通のバスの観察】 車両観察（１０分） ・どこにどんな工夫があるかを探す（バー・座席の色、音声案内、ニーリング等） ・気づいたことをワークシートに記入		視覚障がい者体験（各ペア４分、合計１５分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒入口→後部座席→ボタン→運賃支払→降車を一周（車両の中を同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞			【ノンステップバスの観察】 車両観察（１０分） ・どこにどんな工夫があるかを探す（バー・座席の色、音声案内、ニーリング等） ・気づいたことをワークシートに記入		視覚障がい者体験（各ペア４分、合計１５分） ⇒２人一組に分かれて準備（アイマスク＋白杖を持ち、もう一人がサポート） ⇒入口→後部座席→ボタン→運賃支払→降車を一周（車両の中を同時に回るのは２組で調整） ⇒入れ替わってもう一周 ⇒終わったらWSに気付いたことを書く ＜必要グッズ数＞			・バス事業者への質問 ・終了のあいさつ	
	場 所	校 庭		近江土山バス停					校 庭					校 庭					校 庭	
学校	A（生徒の対応）	・はじめに		・バス車両の観察サポート（残った生徒の対応）					・移動	・バス停観察サポート（残った生徒の対応）			・移動	・バス車両の観察サポート（残った生徒の対応）					—	
	B（生徒の対応）	—		・移動	・バス停観察サポート（残った生徒の対応）			・移動	・バス車両の観察サポート（残った生徒の対応）					・移動	・バス停観察サポート（残った生徒の対応）		・移動		—	
シガ・エージェント	A（進行、観察対応）	—		・進行、観察の対応					・進行、観察の対応					・進行、観察の対応					・質問対応	
	B（進行、観察対応）	—		・移動	・進行、観察対応				・進行、観察対応					・進行、観察対応			・移動		・質問対応	
甲賀市	A(バス停全般の取仕切り)	・主旨説明		・移動	・ペア分け、説明 ・全体のサポート				・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・ペア分け、説明 ・全体のサポート			・移動		・あいさつ	
	B（バス停のサポート）	—		・移動	・バス停の観察サポート				・バス停の観察サポート					・バス停の観察サポート			・移動		—	
滋賀県	A（バス車両全般の取仕切り）	・主旨、白杖使い方説明		・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・あいさつ	
	B（バス車両のサポート）	—		・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					—	
OC	A（バス車両のサポート）	—		・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					—	
	B（記録）	—		・移動	・記録			・移動	・記録					・記録					—	

図 2-20 3年生の授業の流れ

②学習ツールの作成

昨年度と同様に、バス車両・バス停における福祉面での工夫点について、導入授業で予想したことや車両観察時に発見したことを記入するとともに、まとめ授業で「なぜバス車両やバス停で福祉面での工夫がされているのか」や「障がい者の体験を通して大変だったことは何か」などの問いを通じ、自分たちは障がい者のために何ができるのかについて考えてもらうことをベースに、バリアフリー対応の新型車両と旧型車両の比較がしやすいようにワークシートの工夫を行った。

次頁に作成した学習ツールを示す。

視覚障がい者のために、バスにはどんな工夫があるかな？

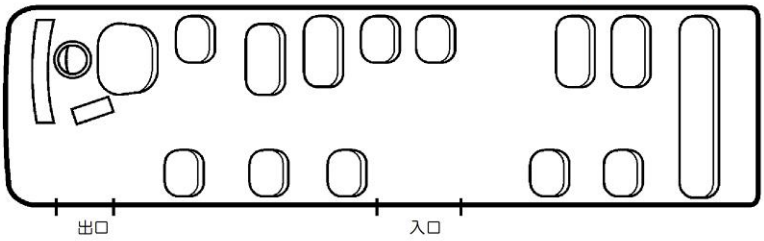
事前シート①

予想してみよう！

・バスの車両には工夫があるかな？
・どんな工夫がしてあるかな？

どんな工夫がされているかな？
イラストにも書きこんでみよう！

■ステップバス（床が高いバス）



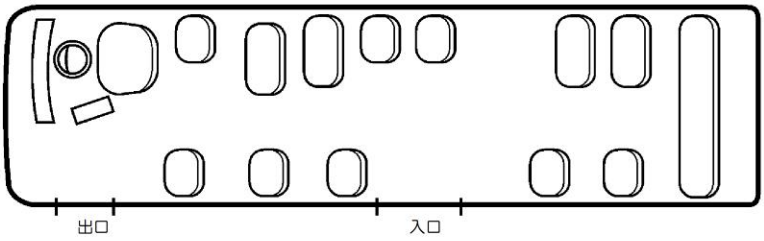
● どんな所が大変そうか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

●どんな工夫がされているか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

■ノンステップバス（障がい者にやさしいバス）



● どんな所が大変そうか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

●どんな工夫がされているか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

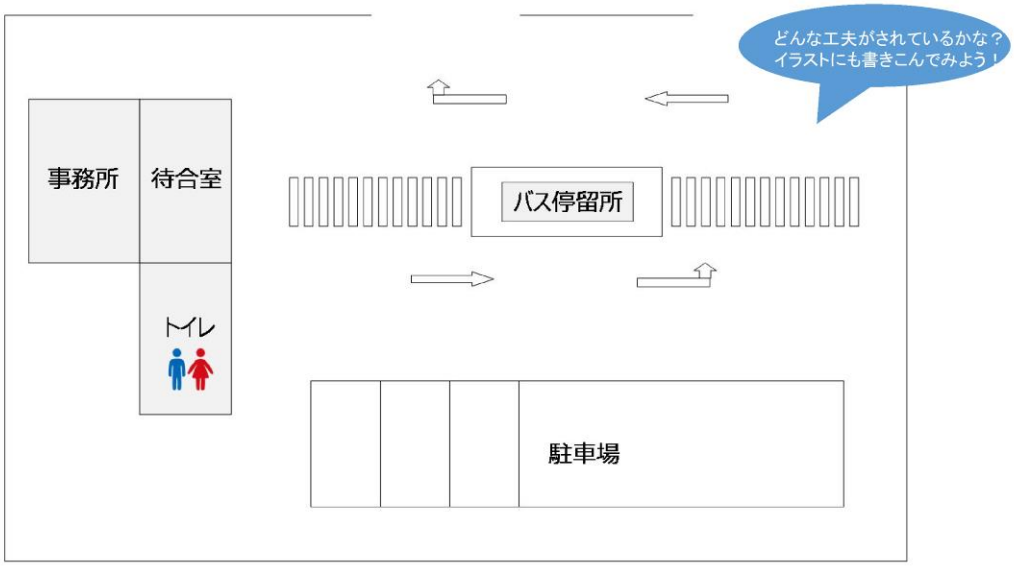
図　2-21　3年生のワークシート（1/3）

視覚障がい者のために、バス停にはどんな工夫があるかな？

事前シート②

予想してみよう！

・バス停（近江土山）には工夫があるかな？
・どんな工夫がしてあるかな？



● どんな所が大変そうか考えてみよう！

（予想）

（確認して気づいたこと）

●どんな工夫がされているか考えてみよう！

（予想）

（確認して気づいたこと）

図　2-22　3年生のワークシート（2/3）

バスに工夫がされていたのはなぜ？

まとめ

ノンステップバスやバス停には、
どんな良い工夫があったかな？

それは、なぜされていたのかな？

それでもアイマスクで
大変だったことは？

自分に何ができるかな？

図　2-23　3年生のワークシート（3/3）

（c） ４年生の交通学習プログラムの検討

a）学習の流れ

３年生と同様、障がい者が日頃何に困るのかを身近な交通のひとつであるバス車両での体験を通じて実感し、理解を深めてもらうことを交通環境学習のねらいとして位置付け、学習の流れについて再検討・調整を行った。

バス車両の福祉面の工夫点を予想する導入、予想を確認するための車両観察と障がい者体験、バスにどんな工夫があったか、自分に何ができるかを考えるまとめまでの一連の取り組みとして実施した。また、バスの工夫点への気づきや理解をより深めるために、ノンステップバスとステップバスを順番に体験してもらい、ノンステップバスが利用者の乗り降りのしやすさ等に配慮された構造になっていることを実感・理解してもらうとともに、待ち時間を少なくする工夫・改善を行った。

なお、４年生はクラスの人数の関係から、車両観察を行う時間を省き、体験前後の待ち時間でバスの工夫点を確認してもらうこととした。

以下に学習の流れを示す。

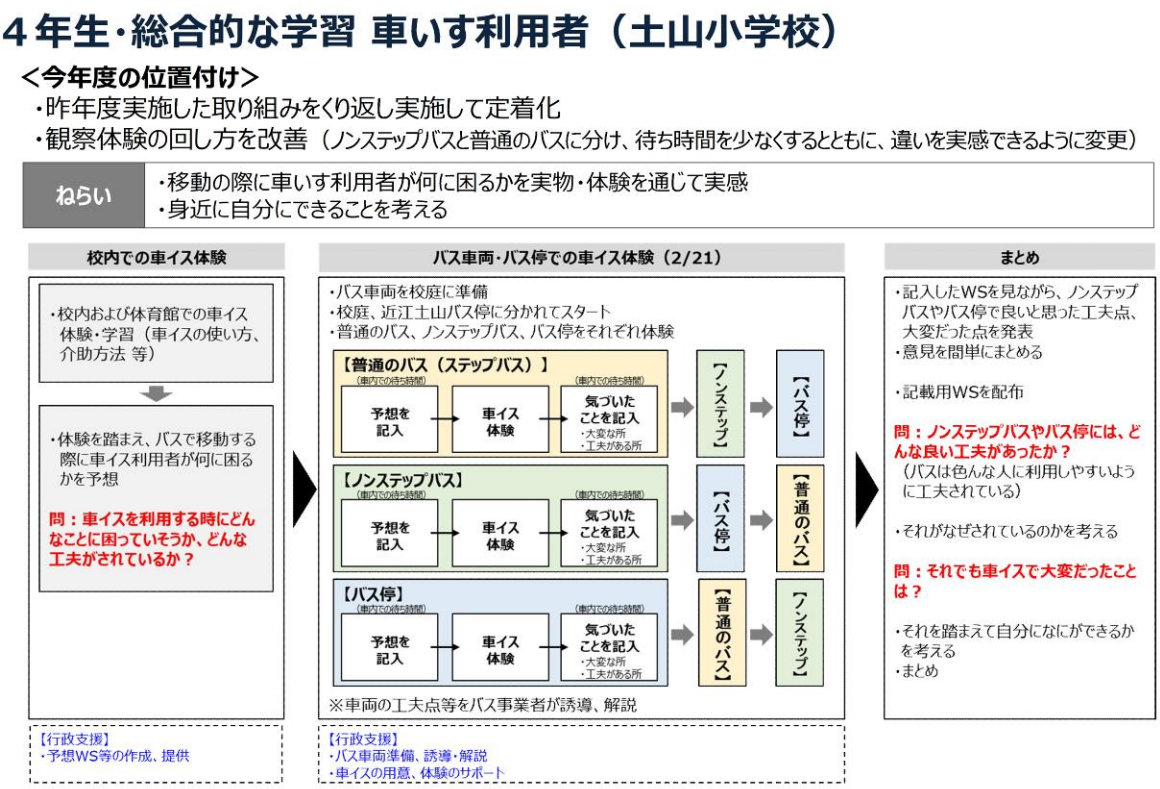


図 2-24 学習の流れ

b）学習の準備

①体験の準備

昨年度と同様に、障がい者体験および車両観察の準備として、シガ・エージェントシステムにバス車両の提供と福祉面での工夫点の説明について依頼し、当日の流れの検討・調整を行った。

障がい者体験および車両観察の当日の流れを以下に示す。

時間		10:35	10:40	10:45	10:50	10:55	11:00	11:05	11:10	11:15	11:20	11:25	11:30	11:35	11:40	11:45	11:50	11:55	12:00	12:05
		約１０分		約２５分					約２５分					約２５分					約１０分	
１班（約11名）		・主旨、流れの説明 ・車いすの使い方の振り返り		【普通のバス（ステップバス）の観察】 車いす体験（各ペア４分、合計２４分） ⇒２人１組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒乗車→車いすスペース→車いす固定体験→ボタン→降車を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※車両内を回るのは1組のみ ※車いす固定体験は、残り時間を確認しつつ調整（体験できなかった生徒は次のバス車両で体験）					【ノンステップバスの観察】 車いす体験（各ペア４分、合計２４分） ⇒２人１組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒乗車→車いすスペース→車いす固定体験→ボタン→降車を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※車両内を回るのは1組のみ ※車いす固定体験は、残り時間を確認しつつ調整（前のバス車両で体験できなかった生徒を優先）					【バス停留所の観察】 移動（４分） ・歩いてバス停まで移動 車いす体験（各ペア３分、合計１８分） ⇒２人一組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒待合室→バス停→トイレ→待合室を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※同時に回るのは２組で調整 移動（４分） ・歩いて校庭まで移動		・バス事業者への質問 ・終了のあいさつ	
	場 所	校 庭		校 庭					校 庭					近江土山バス停					校 庭	
２班（約12名）		・主旨、流れの説明 ・車椅子の使い方の振り返り		【ノンステップバスの観察】 車いす体験（各ペア４分、合計２４分） ⇒２人１組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒乗車→車いすスペース→車いす固定体験→ボタン→降車を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※車両内を回るのは1組のみ ※車いす固定体験は、残り時間を確認しつつ調整（体験できなかった生徒は次のバス車両で体験）					【バス停留所の観察】 移動（４分） ・歩いてバス停まで移動 車いす体験（各ペア３分、合計１８分） ⇒２人一組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒待合室→バス停→トイレ→待合室を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※同時に回るのは２組で調整 移動（４分） ・歩いて校庭まで移動					【普通のバス（ステップバス）の観察】 車いす体験（各ペア４分、合計２４分） ⇒２人１組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒乗車→車いすスペース→車いす固定体験→ボタン→降車を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※車両内を回るのは1組のみ ※車いす固定体験は、残り時間を確認しつつ調整（前のバス車両で体験できなかった生徒を優先）					・バス事業者への質問 ・終了のあいさつ	
	場 所	校 庭		校 庭					近江土山バス停					校 庭					校 庭	
３班（約12名）		・主旨、流れの説明 ・車椅子の使い方の振り返り		【バス停留所の観察】 移動（４分） ・歩いてバス停まで移動 車いす体験（各ペア３分、合計１８分） ⇒２人一組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒待合室→バス停→トイレ→待合室を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※同時に回るのは２組で調整 移動（４分） ・歩いて校庭まで移動					【普通のバス（ステップバス）の観察】 車いす体験（各ペア４分、合計２４分） ⇒２人１組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒乗車→車いすスペース→車いす固定体験→ボタン→降車を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※車両内を回るのは1組のみ ※車いす固定体験は、残り時間を確認しつつ調整（体験できなかった生徒は次のバス車両で体験）					【ノンステップバスの観察】 車いす体験（各ペア４分、合計２４分） ⇒２人１組に分かれて準備（１人が車いすに乗り、もう１人がサポート） ※車内で待機している生徒はワークシートに予想を記入 ⇒乗車→車いすスペース→車いす固定体験→ボタン→降車を１周 ⇒全てのペアが終わったら、障がい者役とサポート役を入れ替えてもう1周 ⇒終わったらワークシートに気付いたことを書く ※車両内を回るのは1組のみ ※車いす固定体験は、残り時間を確認しつつ調整（前のバス車両で体験できなかった生徒を優先）					・バス事業者への質問 ・終了のあいさつ	
	場 所	校 庭		近江土山バス停					校 庭					校 庭					校 庭	
学校	A（生徒の対応）	・はじめに		・バス車両の観察サポート（残った生徒の対応）					・移動	・バス停観察サポート（残った生徒の対応）	・移動			・バス車両の観察サポート（残った生徒の対応）					—	
	B（生徒の対応）	—		・移動	・バス停観察サポート（残った生徒の対応）		・移動		・バス車両の観察サポート（残った生徒の対応）					・移動	・バス停観察サポート（残った生徒の対応）		・移動		—	
シガ・エージェント	A（進行、観察対応）	—		・進行、観察の対応					・進行、観察の対応					・進行、観察の対応					・質問対応	
	B（進行、観察対応）	—		・移動	・進行、観察対応				・進行、観察対応					・進行、観察対応			・移動		・質問対応	
甲賀市	A(バス車両全般の取仕切り)	・主旨説明		・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・あいさつ	
	B（バス停のサポート）	—		・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					—	
滋賀県	A（バス停全般の取仕切り）	・主旨、車椅子使い方説明		・移動	・ペア分け、説明 ・全体のサポート				・ペア分け、説明 ・全体のサポート					・ペア分け、説明 ・全体のサポート			・移動		・あいさつ	
	B（バス車両のサポート）	—		・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					・バス車両の観察サポート					—	
OC	A（バス停のサポート）	—		・移動	・バス停の観察サポート				・バス停の観察サポート					・バス停の観察サポート			・移動		—	
	B（記録）	—		・記録					・記録					・移動	・記録		・移動		—	

図 2-25 ４年生の授業の流れ

②学習ツールの作成

３年生同様、バス車両・バス停における福祉面での工夫点について、導入授業で予想したことや車両観察時に発見したことを記入するとともに、まとめ授業で「なぜバス車両やバス停で福祉面での工夫がされているのか」や「障がい者の体験を通して大変だったことは何か」などの問いを通じ、自分たちは障がい者のために何ができるのかについて考えてもらうことをベースに、バリアフリー対応の新型車両と旧型車両の比較がしやすいようにワークシートの工夫を行った

次頁に作成した学習ツールを示す。

車イスの人のために、バスにはどんな工夫があるかな？

事前シート①

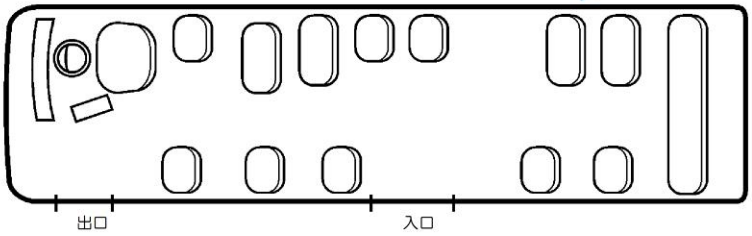
予想してみよう！

・バスの車両には工夫があるかな？
・どんな工夫がしてあるかな？

名前：

どんな工夫がされているかな？
イラストにも書きこんでみよう！

■ステップバス（床が高いバス）



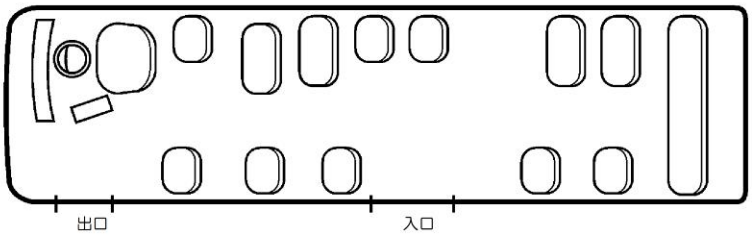
● どんな所が大変そうか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

●どんな工夫がされているか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

■ノンステップバス（障がい者にやさしいバス）



● どんな所が大変そうか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

●どんな工夫がされているか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

図　2-26　4年生のワークシート（1/3）

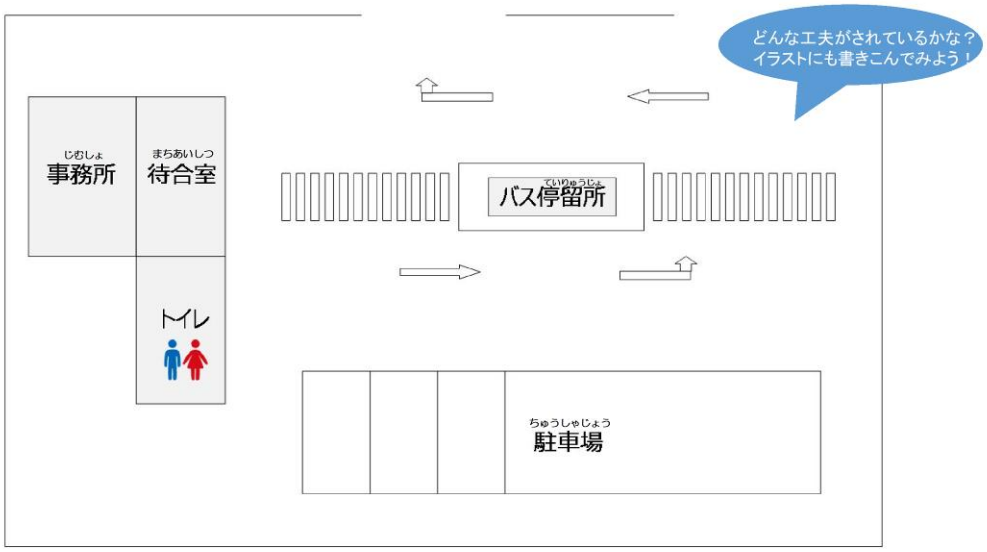
車イスの人のために、バス停にはどんな工夫があるかな？

事前シート②

予想してみよう！

・バス停（近江土山）には工夫があるかな？
・どんな工夫がしてあるかな？

名前：



● どんな所が大変そうか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

●どんな工夫がされているか考えてみよう！
（予想）

（確認して気づいたこと）

図 2-27 4年生のワークシート（2/3）

バスに工夫がされていたのはなぜ？

まとめ

名前：

ノンステップバスやバス停には、
どんな良い工夫があったかな？

それは、なぜされていたのかな？

それでも車イスで
大変だったことは？

自分に何ができるかな？

図　2-28　4年生のワークシート（3/3）

3）４年生・社会科　鉄道すごろく

(a) 今年度の位置付け

従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施がほとんどを占めており、３年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で単元の理解を深める交通素材の活用方法について検討を行う必要がある。また、学校の負担とならない形で交通環境学習を広げていくためには、担任の教師が授業を行うのではなく、休憩時間等を活用して教科単元の理解を深める学習を実施することも必要であり、その形のひとつとして、子どもたちが興味を持って取り組めるゲーム形式の学習ツールが考えられる。

４年生で学習する社会科単元「わたしたちの県」では、県内各地域の特性を学習する機会があり、県内で広く運行されている鉄道を関連付けた学習も可能と考えられる。鉄道ネットワークを面的に捉え、鉄道での移動を疑似体験できるすごろくゲームは教科単元の理解を深める学習ツールとして有効であると考える。

昨年度検討したゲームの形式・基本構造を踏まえ、情報収集等を行い、実施可能なツールとして整理することとした。

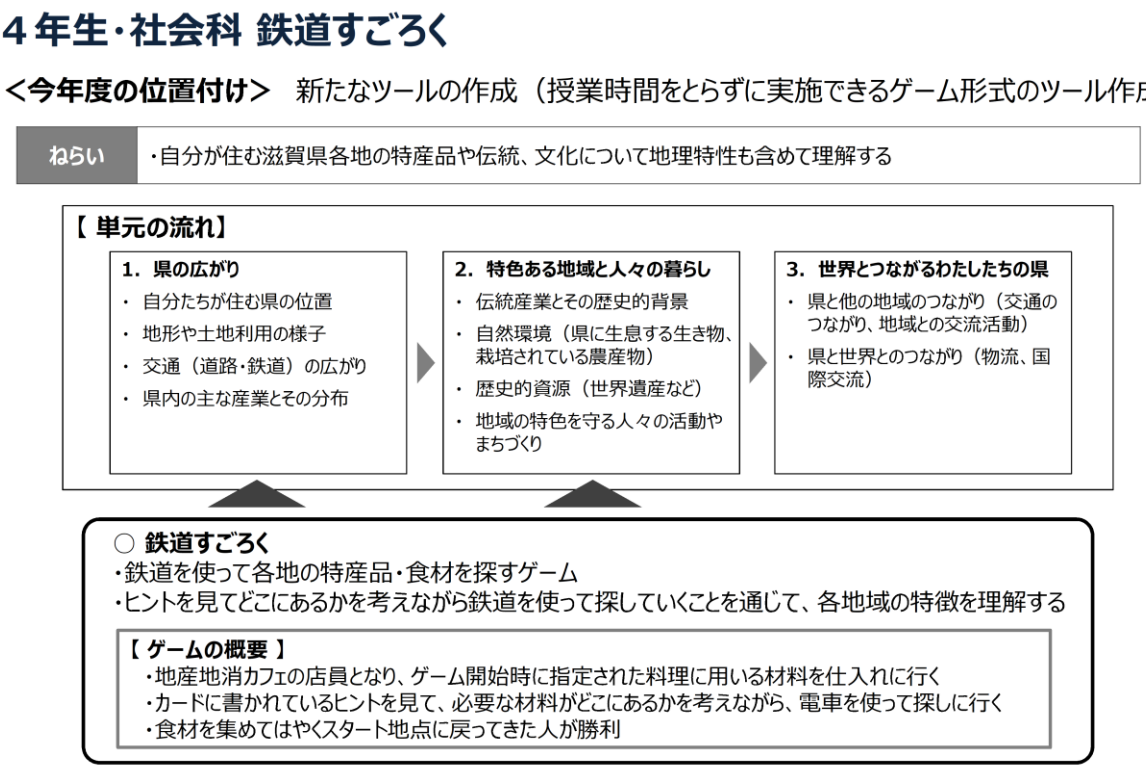


図　2-29　学習の流れ（昨年度検討）

■概要

・地産地消カフェレストランの店員となり、料理に用いる特産品・食材を仕入れに行く

・ゲーム開始時に指定された料理メニューをつくるために、必要な材料を鉄道を使って探しに行く

・必要な食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利

■ゲームの流れ

1．初めにカフェレストランで提供する料理のメニューカードを引く

2．メニューカードに記載されているヒント（地形や気候等）を基に必要となる食材が生産されている市町を予想

⇒その食材が県内のどこにあるかはボードには記載されていない

⇒ヒントとなるような地形情報やイラストはボードに表示

（ヒント例）伊吹大根：滋賀県と岐阜県の県境にある伊吹山は豪雪地帯に指定されている。

3．順番にサイコロを振り、出た目の中で予想した市町の主要駅まで駒を移動

4．止まった駅に属する食材カードから予想した食材があるかを確認し、食材があった場合それと同じカードを入手

5．３～４を繰り返し

6．メニューに記載されている食材をそろえて、初めに戻ってきた人が勝ち

■使用ツール

・ボード

⇒周辺で特産物の生産が行われている鉄道駅のすごろくマップ

⇒食材やレシピの数に応じて、使用する鉄道駅を絞って調整

⇒地形や気候等の特性を把握できるように標高、河川等を記載

⇒ヒントとなる各地域の特徴を表したイラストを記載

・メニューカード

⇒メニューのイメージ図や写真等

⇒集める材料と、その材料がつくられている市町のヒント

・食材カード

⇒鉄道駅で入手できるカード

⇒食材のイメージ図、写真等

⇒食材の由来や生産時期等

図 2-30 ゲーム内容（昨年度検討）

表 2-7 メニュー・食材一覧（案）（昨年度検討）

NO	大分類	小分類	食 材	メニュー														
				鶏肉の南蛮そば	そばの実入りかぶら雑炊	マスのふわふわハンバーグ	湖魚と小エビのかき揚げ	しじみの炊き込みご飯	湖魚の南蛮漬け	焼きなすとかんぴょうの炊き合わせ	根菜と人参のサラダ	かぼちゃとかぶらのそぼろ煮	菜の花と枝豆のペペロンチーノ	豚肉と食用菊の和え物	はさみ揚げレンコンのまくわうりあんかけ	茶葉入りつくね	豚肉とナスのみぞれ煮	牛肉とみょうがのさっぱり炒め
1	そば	そば	多賀そば	●	●													
2			伊吹そば															
3			箱館そば															
4	畜産物	牛	近江牛			●									●			●
5		鶏	近江しゃも	●								●				●		
6		豚	藏尾ポーク（バームクーヘン豚）							●				●			●	
7	湖魚	魚	ビワマス			●												
8			イサザ				●											
9			ホンモロコ						●									
10		甲殻類・貝	スジエビ				●											
11			セタシジミ					●										
12	伝統野菜	大根	山田ねずみ大根								●						●	
13			伊吹大根															
14		茄子	下田なす							●							●	
15			杉谷なす															
16		唐辛子	弥平とうがらし						●				●					
17			杉谷とうがらし															
18		干瓢	水口かんぴょう							●								
19		菜花	鮎河菜										●					
20		山芋	秦荘のやまいも			●												
21		かぶら	北之庄菜		●						●	●						
22			日野菜															
23			赤丸かぶ															
24			万木かぶ															
25	その他の野菜	南瓜	とよ坊かぼちゃん									●						
26		春菊	しゅんぎく娘											●				
27		枝豆	能登川黒ダイヤ										●					
28		生姜	笠原しょうが					●										●
29		茗荷	甲津原みょうが															●
30		葱	豊浦ねぎ	●												●		
31		人参	八日市おとめにんじん		●			●	●		●							
32			多賀にんじん															
33		蓮根	琵琶湖からすま蓮根												●			
34		まくわうり	金太郎まくわ												●			
35		ごぼう	栗原ごぼう				●											
36		菊	坂本菊											●				
37	お茶	お茶	土山茶															
38			朝宮茶													●		
39			政所茶															

(b) **交通学習プログラムの検討**

a) メニューカードに記載する市町のヒントの検討

昨年度整理したパターンに必要となる食材が存在する市町を探すヒントについて、社会科の観点から有効な情報となるように、地形・気候、自然・生物、伝統産業、歴史、交通の項目でキーワードを抽出し、ヒント案を作成した。

表 2-8 メニューカードに記載する市町のヒント（1/4）

市町	学習分野	キーワード	食材ヒント
大津市	地形・気候	・琵琶湖唯一の流出河川「瀬田川」がある ・一部、豪雪地帯に指定（旧堅田町） ・比良山地から琵琶湖岸に吹き降ろす風を「比良おろし」、特に春先に吹くものを「比良八荒」と呼ぶ。	・琵琶湖から京都・大阪へと流れ込む河川「瀬田川」があります。（１） ・比良山地から琵琶湖岸に向かって吹く「比良おろし」と呼ばれる風が有名です。（２）
	自然・生物		
	伝統産業	・武士や町人の刀の下げ緒や印籠の紐に使われている草木染手組組紐が有名 ・膳所焼、大津絵、いぶし瓦	・武士の刀や印籠に用いられている、草や木の天然の色素を使った「草木手組組紐」が有名です。（３）
	歴史	・世界文化遺産「比叡山延暦寺」があり、寺内の「元三大師堂」がおみくじ発祥地 ・東海道や北国街道など、いくつもの主要街道が通る交通の要衝 ・宿場町と港町の機能を持つ「大津宿」は、全宿場の中で最も人口が多かった	・おみくじの発祥の地とされている寺院「比叡山延暦寺」があります。（４） ・江戸時代に栄えた宿場町の中で、最も人口が多かった宿場「大津宿」がありました。（５）
	交通	・湖東と湖西を結ぶ琵琶湖大橋を有し、堅田と守山をつなぐエコバスが運行。バイオディーゼル燃料を用いたバス車両を使用するなど、環境に優しい「エコ交通」の理念を利用者などに示す。（琵琶湖横断エコ推進協議会）	・琵琶湖大橋を通って守山市に向かうエコバス（環境にやさしい燃料を用いたバス）が運行しています。（６）
	その他	・滋賀県の県庁所在地であり、最も人口が多い ・ことわざ「急がば回れ」は瀬田の唐橋発祥	・滋賀県で最も人口が多い市町で、県庁所在地にもなっています。（７） ・ことわざ「急がば回れ」の由来となっている「瀬田の唐橋」があります。（８）
草津市	地形・気候	・瀬戸内式気候、１月の降水量は70mm以下と湖北地方と比べて極端に少ない ・烏丸半島に尖角三角州状の湖岸線が形成	・温暖少雨である瀬戸内海型気候に属する市町で、琵琶湖に突き出す三角州状の半島「烏丸半島」があります。（９）
	自然・生物	・烏丸半島は国内最大級のハスの群生地（2016年消滅）	
	伝統産業		
	歴史	・草津宿は東海道と中山道の分岐点であった ・草津宿本陣は全国に残る本陣の最大規模を有する	・江戸時代には東海道と中山道をつなぐ宿場町「草津宿」があり、たくさんの人と物が行き交いしていました。（10） ・全国に残る本陣（大名や公家などの宿泊所）でも最大規模の本陣「草津宿本陣」があります。（11）
	交通	・「南草津駅」は滋賀県内で最も乗降数が多い（約58000人/日） ・連接バス「JOINT　LINER」が運行 ・名神高速道路と新名神高速道路をつなぐJCTがある	・滋賀県内で最も乗降数が多い駅「JR南草津駅」（約58000人/日）があります。（12） ・普通のバスよりも50人ほど多く乗車できる２台の車体をつないだ連節バス「JOINT LINER]が走っています。（13） ・名神高速道路と新名神高速道路をつなぐJCT「草津JCT」があります。（14）
守山市	地形・気候	・琵琶湖に流入する野洲川の沖積作用によってつくられた野洲川デルタの上に発展してできた市	
	自然・生物	・古くからゲンジボタル（守山ボタル）の群生地として知られてきた土地で、大正時代には天然記念物の１号指定地になったが、その後消滅。現在はホタルの住むまちづくりを進めている。	・古くからゲンジボタルが集まる地域として有名で、まちのシンボルにもなっています。（15）
	伝統産業		
	歴史	・滋賀県に唯一残っている「一里塚」がある ・守山は中山道の東下りの１番目の宿場で「京立ち守山泊まり」として旅人に知れ渡っていた	・江戸時代に一里（約4km）ごとに設置された旅行者の目印「一里塚」が滋賀県で唯一残っています。（16） ・江戸時代に京から江戸へ向う人々の最初の宿泊地として知られていた宿場町「守山宿」があります。（17）
	交通	・湖東と湖西を結ぶ琵琶湖大橋を有し、堅田と守山をつなぐエコバスが運行	・琵琶湖大橋を通って大津市に向かうエコバス（環境にやさしい燃料を用いたバス）が運行しています。（18）
	その他	・今浜町の第二なぎさ公園に「琵琶湖サイクリストの聖地碑（約80cmの女性サイクリストの銅像）」を設置。	・女性サイクリストの銅像が設置されている琵琶湖サイクリストの聖地があります。（19）
栗東市	地形・気候	・栗東市は栗太郡の東に位置していることに由来。栗太郡はもともと、栗東市全域のほか、大津市の瀬田川よりも東側、草津市全域、守山市の一部が属する広大な面積を持っていた。	
	自然・生物		
	伝統産業		
	歴史		
	交通		
	その他	・日本に２箇所しかない日本中央競馬会のトレーニングセンターがあり、馬のまちとして知られる	・日本に２箇所しかない競争馬のトレーニングセンターがあり、馬のまちとして有名です。（20）

表 2-9 メニューカードに記載する市町のヒント（2/4）

市町	学習分野	キーワード	食材ヒント
野洲市	地形・気候	・琵琶湖に流入する河川で最も長い河川「野洲川」が流れる ・三上山は別名「近江富士」と名付けられるほど美しい稜線の山で、麓に鎮座する御上神社の御神体でもある。	・琵琶湖に注ぐ滋賀県最大の河川が、この市町の名前にもなっています。（21） ・近江の富士山と名付けられるほど美しい山「三上山」があります。（22）
	自然・生物		
	伝統産業		
	歴史	・全高135センチの日本最大の銅鐸が出土。銅鐸のまちとして知られる。	・銅鐸のまちとして知られており、135センチにもおよぶ日本最大の銅鐸が発見されています。（23）
	交通	・鉄道の車両基地があり、また「野洲駅」は新快速の終点となることが多い。	・鉄道の車両基地があり、「JR米原駅」の次に多くの電車の終点となる駅があります。（24）
甲賀市	地形・気候	・三重県と京都府に接しており、東南部には鈴鹿山脈がある	・東西に細長い市町で、三重県と京都府に接しています。（25）
	自然・生物		
	伝統産業	・信楽焼きは日本六古窯のひとつで、一般には狸の置物が著名である。	・古くから陶器づくりが盛んであり、たぬきを形どった焼き物「信楽焼き」が有名です。（26）
	歴史	・甲賀忍者は三重県伊賀市の伊賀忍者とともに、忍者発祥の地として知られる ・東海道 49番目の宿場町「土山宿」と50番目の宿場町「水口宿」がある。 ・大名や公家が宿泊したとされる「土山宿本陣跡」、「水口宿本陣跡」があった	・忍者発祥の地として知られており、三重県伊賀市の伊賀忍者とともに、日本遺産に認定されています。（27） ・鈴鹿山脈を越える旅人で賑わった東海道49番目の宿場町「土山宿」がありました。（28） ・東海道49番目の宿場町「土山宿」と50番目の宿場町「水口宿」がありました。（29）
	交通	・延長14.7キロメートルの信楽高原鐵道がある。毎年12月になると、クリスマス装飾で飾られた「サンタ列車」が運行 ・市内に高速道路ICが３つある	・延長14.7kmにおよぶ鉄道「信楽高原鉄道」があり、毎年12月にはクリスマス装飾で飾られたサンタ列車が運行されています。（30） ・高速道路のインターチェンジが３箇所あり、滋賀県内で最も多くなっています。（31）
湖南市	地形・気候		
	自然・生物		
	伝統産業	・藍色顔料（呉須ごす）が使われている近江下田焼きは全工程がほぼ手作業	・ほとんどの工程が手作業で行われている、藍色をした呉須（ごす）の色合いが綺麗な「近江下田焼き」が有名です。（32）
	歴史	・東海道 51 番目の宿場町「石部宿」がある。京都・石部間は約36㎞あり、京都を朝出発すると石部に夕方ごろ到着することから「京立ち、石部泊まり」といわれていた。伊勢参宮街道との分岐点として多くの旅人で賑わっていた。 ・市内には国宝に指定されている３つの寺院（善水寺・常楽寺・長寿寺）があり、湖南三山として有名。	・伊勢参宮街道との分岐点として多くの旅人で賑わっていた東海道 51 番目の宿場町「石部宿」がありました。（33） ・国宝に指定されている３つの寺院（善水寺・常楽寺・長寿寺）があり、湖南三山として有名です。（34）
	交通		
東近江市	地形・気候	・東は鈴鹿山脈、北西は琵琶湖に接する	・東西に細長い市町で、東部は三重県鈴鹿山脈に、北西部は琵琶湖に接しています。（35）
	自然・生物		
	伝統産業	・ろくろを使って木製の盆やお椀をつくる職人「木地師」発祥の地	・ろくろを使って木製の盆やお椀をつくる職人「木地師」発祥の地として知られています。（36）
	歴史	・東海道土山宿から中山道小幡までを結ぶ「御代参街道」と三重県四日市から近江国神崎郡八日市へと抜ける「八風街道」が交わる要衝 ・近江商人（湖東商人）発祥の地	・東海道土山宿から中山道小幡を結ぶ「御代参街道」と三重県四日市から中山道武佐宿を結ぶ「八風街道」が交わる宿場町「八日市宿」がありました。（37） ・商売上手な近江商人（湖東商人）の発祥地として知られています。（38）
	交通	・近江鉄道の複数路線が乗り入れるターミナル駅「八日市駅」がある	・複数路線が乗り入れる近江鉄道のターミナル駅「八日市駅」があります。（39）
近江八幡市	地形・気候	・琵琶湖に浮かぶ最大の島「沖島」は琵琶湖唯一の有人島である ・西の湖は琵琶湖で一番大きい内湖	・淡水湖に浮かぶ唯一の有人島「沖島」があります。（40） ・たくさんの猫が住む島として有名な、琵琶湖最大の島「沖島」があります。（41）
	自然・生物		
	伝統産業		
	歴史	・織田信長が築いた安土城の跡が残っている ・大正から昭和にかけて建築された西洋建築「ヴォーリズ建築」が数多く残っている ・近江商人（八幡商人）発祥の地	・戦国時代の武将である織田信長が築いた城「安土城」の跡が残っています。（42） ・W.M.ヴォーリズが設計した西洋建築「ヴォーリズ建築」が数多く残されており、まちのシンボルとなっています。（43） ・商売上手な近江商人（八幡商人）の発祥地として知られています。（44）
	交通	・西の湖に、舟で行くことしかできない権座と呼ばれる田んぼがある。	・田舟を使ってしか行くことのできない「権座」と呼ばれる田んぼが西の湖に浮かんでいます。（45）

表　2-10　メニューカードに記載する市町のヒント（3/4）

市町	学習分野	キーワード	食材ヒント
日野町	地形・気候	・温暖な瀬戸内式気候に属しているが、内陸に位置するため、平均気温は琵琶湖沿岸部に比べるとやや低い。 ・鈴鹿の綿向山から流れる日野川	
	自然・生物	・国の特別天然記念物「ニホンカモシカ」が生息	・特別天然記念物指定されている「ニホンカモシカ」が生息しています。（46）
	伝統産業	・日野菜、丁稚ようかん、日野あられ	
	歴史	・近江商人（日野商人）発祥の地	・商売上手な近江商人（日野商人）の発祥地として知られています。（47）
	交通		
竜王町	地形・気候		
	自然・生物		
	伝統産業		
	歴史		
	交通		
彦根市	地形・気候	・日本海側気候であるが、北部の他の市町と比べると雪の量は少なく、豪雪地帯にも指定されていない。	
	自然・生物		
	伝統産業	・キリシタン宗門の禁止政策により、異教徒でない証拠として彦根仏壇が普及	・江戸時代のキリスト教禁止政策により広まった仏壇「彦根仏壇」が有名です。（48）
	歴史	・江戸幕府の重鎮井伊家の居城である彦根城は国宝に指定	・国宝に指定されている井伊家の居城「彦根城」があります。（49） ・北国街道と中山道からの物流を支配するために築城された城「彦根城」があります。（50）
	交通		
	その他	・自作人力飛行機による飛行距離および飛行時間を競う鳥人間コンテストの会場となっている	・人力飛行機による飛行距離を競う鳥人間コンテストの会場にもなっています。（51）
愛荘町	地形・気候		
	自然・生物		
	伝統産業	・伝統工芸品「びん細工てまり」は縁起物とされ、嫁入り道具として持参されていた。 ・近江上布	・嫁入り道具として持参するほど、縁起のよいものとされている「びん細工てまり」がつくられています。（52）
	歴史		
	交通	・中山道66番目の愛知川宿	
豊郷町	地形・気候	・面積が最も小さい市町で、最も大きい長浜市の約70分の１の面積	・滋賀県内で最も面積が小さい市町で、最も面積が大きい長浜市の70分の1程度となっています。（53）
	自然・生物		
	伝統産業		
	歴史		
	交通		
	その他	・滋賀県を中心として盆踊りに用いられる音頭「江州音頭」の発祥地	・主に滋賀県での盆踊りに用いれれる音頭「江州音頭」の発祥地として知られています。（54）
甲良町	地形・気候		
	自然・生物		
	伝統産業		
	歴史	・関ケ原の戦いでは東軍徳川家康のもとで活躍した戦国武将「藤堂高虎」の出生地	・関ケ原の戦いで徳川家康率いる東軍に加勢し活躍した戦国武将「藤堂高虎」の出生地として知られています。（55）
	交通		

表 2-11 メニューカードに記載する市町のヒント（4/4）

市町	学習分野	キーワード	食材ヒント
多賀町	地形・気候	・三重県と岐阜県に接する	・滋賀県の東部に位置し、三重県と岐阜県に接しています。（56）
	自然・生物		
	伝統産業		
	歴史	・イザナギ、イザナミの２大神をまつる多賀大社は古くから「お多賀さん」で親しまれる ・多賀大社「伊邪那岐」と「伊邪那美大神」は伊勢神宮「天照大御神」を生んだ	・古くから「お多賀さん」の名で親しまれる滋賀県第一の大社「多賀大社」があります。（57） ・三重県の伊勢神宮に祀られている「天照大御神」のお父さんとお母さんが祀られている大社「多賀大社」があります。（58）
	交通		
米原市	地形・気候	・滋賀県で最も高い伊吹山に面する ・一部、豪雪地帯指定（旧伊吹町、旧山東町） ・湖岸部は年間の降水量が比較的少ない内陸性盆地気候	・滋賀県と岐阜県の県境にある伊吹山は豪雪地帯（雪が多く降る地域）に指定されています。（59） ・滋賀県で最も高い山「伊吹山」（標高1377m）に面しています。（60）
	自然・生物	・国の特別天然記念物「長岡のゲンジボタルおよびその発生地」	・特別天然記念物に指定されている「長岡のゲンジボタルおよびその発生地」があります。（61）
	伝統産業	・上丹生木彫、近江真綿	
	歴史		
	交通	・「米原駅」は滋賀県唯一の新幹線停車駅 ・名神高速道路と北陸自動車道をつなぐJCTがある	・滋賀県で唯一新幹線が停車する駅「米原駅」があります。（62） ・名神高速道路と北陸自動車道をつなぐJCT「米原JCT」があります。（63）
長浜市	地形・気候	・岐阜県と福井県に接する。琵琶湖を除いた面積は県内で最大。 ・近畿以西唯一にして日本最南端の特別豪雪地帯（旧余呉町） ・一部、豪雪地帯に指定（旧長浜市、旧浅井町、旧木之本町、旧西浅井町、旧余呉町）	・岐阜県と福井県に接しており、琵琶湖を除いた面積は滋賀県で最も大きくなっています。（64） ・羽衣伝説の舞台とされている余呉湖周辺は特別豪雪地帯（雪が多く降る地域）に指定されています。（65）
	自然・生物		
	伝統産業	・絹の琴糸は全国一の生産量	・三味線や琴に用いられる楽器糸の生産量が全国一番です。（66）
	歴史	・余呉湖は羽衣伝説の物語の舞台 ・観音菩薩像が集まる「観音の里」には、国宝「十一面観音」が安置 ・伊吹山の山頂付近にはウミユリの化石があり、かつて海の底であったことがわかる ・長浜城、小谷城、	・羽衣伝説の物語の舞台とされている湖「余呉湖」があります。（67） ・観音菩薩像が集まる「観音の里」と呼ばれており、国宝に指定されている「十一面観音立像」が有名です。（68）
	交通	・JR湖東線とJR湖西線の接続駅がある ・塩津は物資が集まる場所であり、京都への輸送には琵琶湖の水運を用いられた ・日本最古の現存鉄道駅舎がある（旧長浜駅舎） ・北国街道（湖北）	・JR湖東線（北陸線/琵琶湖線）とJR湖西線の乗り換えができる駅があります。（69） ・日本海からの物資が集まり、京都への輸送に琵琶湖水運を用いた港町「塩津」があります。（70） ・現存する日本で最も古い鉄道駅舎があります。（71）
高島市	地形・気候	・福井県と京都府に接する市町 ・琵琶湖を含む面積は県内で最も大きい ・秋季には高島しぐれと呼ばれる降雨 ・一部、豪雪地帯指定（旧マキノ町、旧今津町、旧朽木村） ・安曇川、石田川の扇状地部分に主に人が居住	・福井県と京都府に接する市町で、琵琶湖を含む面積は県内で最も大きくなっています。（72） ・積雪量の多い日本海側気候で、秋に降る雨は「高島しぐれ」と呼ばれています。（73） ・滋賀県と京都府の県境にある箱館山は豪雪地帯（雪が多く降る地域）に指定されています。（74）
	自然・生物		
	伝統産業	・扇子の骨の部分である「高島扇骨」は全国一番の生産量を誇る ・和ろうそく、高島ちぢみ、高島帆布、雲平筆	・安曇川の氾濫を防ぐために植えられていた竹を活用した扇骨（扇子の紙以外の部分）は全国一番の生産量です。（75）
	歴史	・琵琶湖に大鳥居がある近江最古の神社「白髭神社」	・琵琶湖に浮かぶ鳥居が有名な近江最古の神社「白髭神社」があります。（76）
	交通	・かつて湖上水運の主役であった丸子船が活躍した大浦港がある ・若狭街道（鯖街道）	・かつて湖上水運の主役であった丸子船が活躍した大浦港があり、実際に丸子船を見ることができる資料館もあります。（77）

b）ボードの作成

前項で整理したヒントに対応して市町の予想ができるように関連するイラストを配置した上で、各市町の主要駅が食材の入手ポイントとなるよう、すごろくボードを作成した。

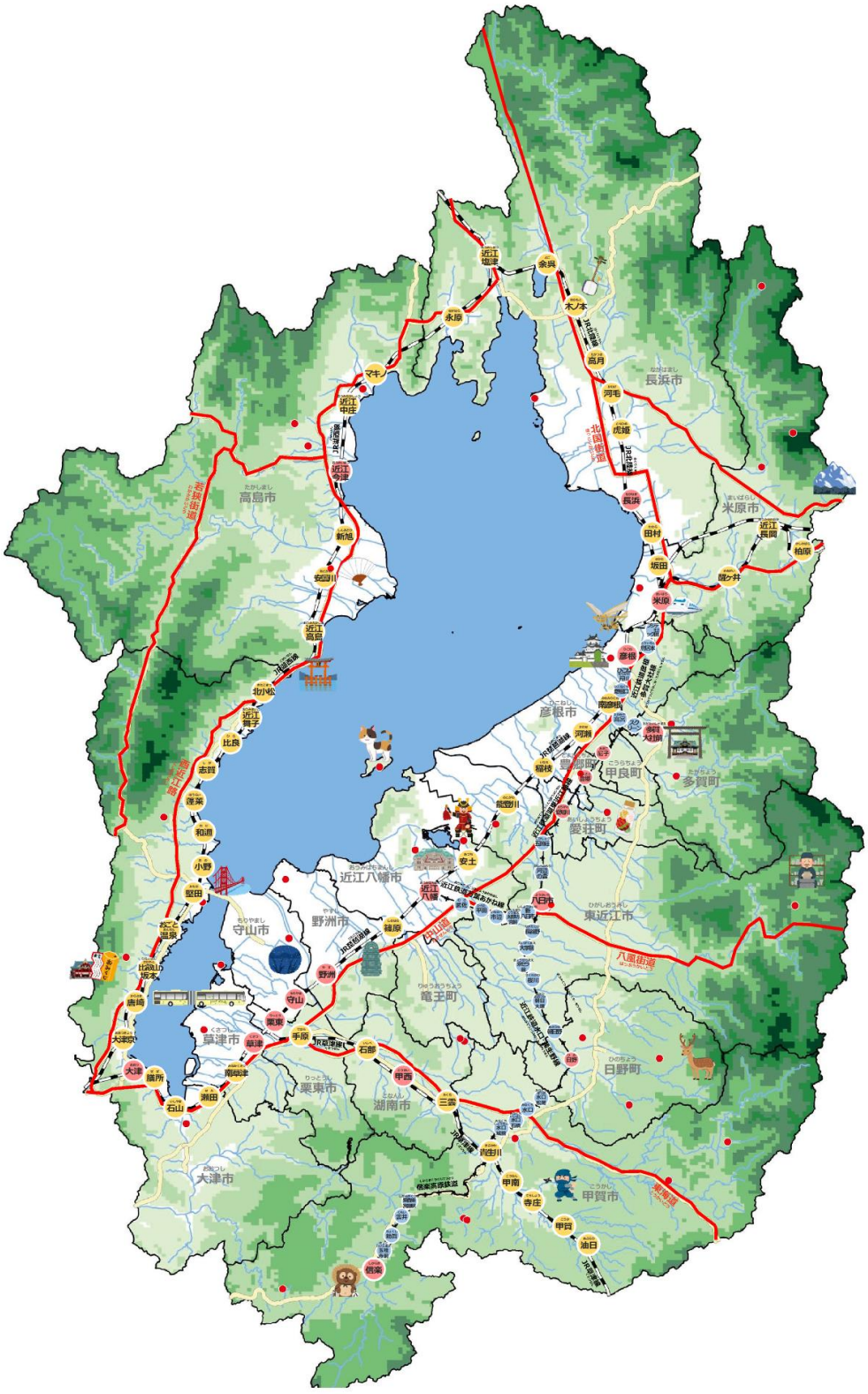


図　2-31　すごろくボードのイメージ案

c）メニューカードの作成

a）で整理した情報を踏まえ、メニュー毎に必要な食材とどこの市町で生産されているかを考えるヒントとなる情報を記載したメニューカード（案）を作成した。

※写真は滋賀の食材手帖、クックパッド HP の画像を使用

図　2 -32　メニューカードイメージ案（1/4）

※写真は滋賀の食材手帖、クックパッド HP の画像を使用

図　2 -33　メニューカードイメージ案（2/4）

※写真は滋賀の食材手帖、クックパッド HP の画像を使用

図　2-34　メニューカードイメージ案（3/4）

※写真は滋賀の食材手帖、クックパッド HP の画像を使用

図　2-35　メニューカードイメージ案（4/4）

d）食材カードの作成

市町の主要駅で手に入れられる食材カード案を滋賀の食材手帖の情報を活用して作成した。

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図　2-36　食材カードイメージ案（1/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図　2-37　食材カードイメージ案（2/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図 2-38 食材カードイメージ案（3/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図 2-39 食材カードイメージ案（4/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図 2-40 食材カードイメージ案（5/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図 2-41 食材カードイメージ案（6/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図　2-42　食材カードイメージ案（7/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図 2-43 食材カードイメージ案（8/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図 2-44 食材カードイメージ案（9/10）

※画像は滋賀の食材手帖の画像を使用

図 2-45 食材カードイメージ案（10/10）

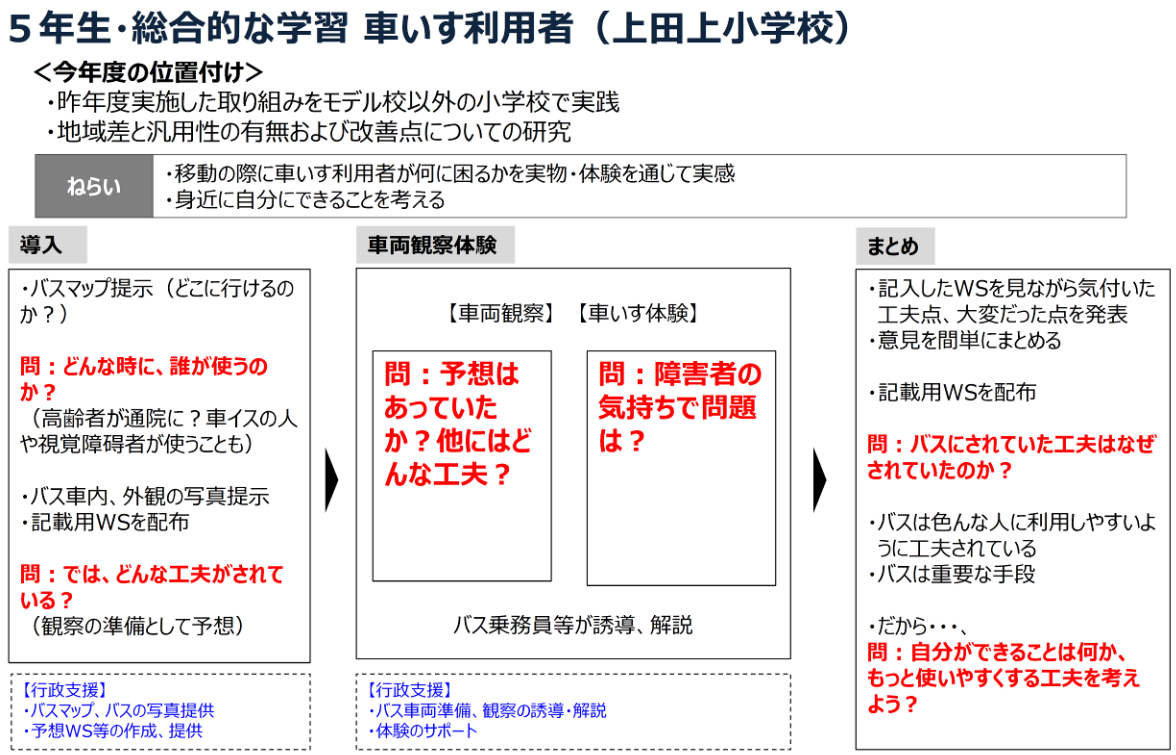
４）５年生･総合的な学習　福祉学習（上田上小学校）

（a）今年度の位置付け

昨年度モデル校で実施した授業を県内に展開していくには、地域特性問わず効果を得られることを確認する必要がある。そのため、大津市立上田上小学校と協議の上、モデル校以外の学校へ展開する際の懸念点や手順等の確認および地域差と汎用性の有無について検証する。

（b）交通学習プログラムの検討

a）交通素材を活用した学習の流れ



b）学習の準備

学校・事業者との協議の上、土山小学校で実施した事業をそのまま展開するのではなく、車いすでの乗車体験時、校庭を実際に走行することとし、学習効果の増大を図った。

上田上小学校　学校MM　スケジュール

11/7　滋賀県交通戦略課

1　　日時

2019年11月7日（木）

11:15~12:00（4時間目）

2　対象者

大津市立上田上小学校　5年生（8名）

3　　授業実施側メンバー（敬称略）

帝産湖南交通株式会社

滋賀県バス協会

大津市　交通戦略室

滋賀県　交通戦略課

≪上田上小学校レイアウト≫

◆授業内容

？　学習の流れを説明（5分）

②車両観察（バスにどんな工夫がされているか）（5分）

③バスの工夫について説明（5分）

④乗車体験（25分）

・バスの中と外から体験してもらいます。

・2人1組（車いすを押す人、乗る人）×4に分かれた上で、バス停A、Bに2組ずつに分かれて移動。

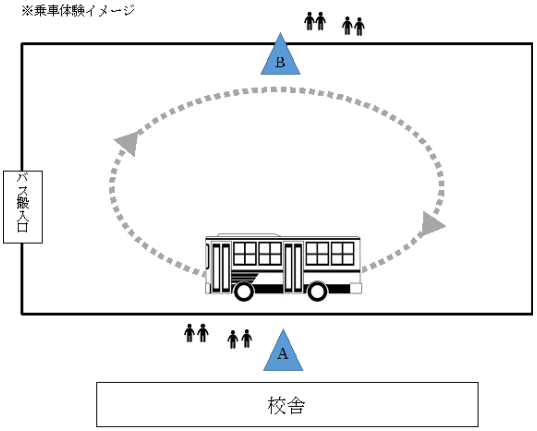
・一組ずつ車いすでバスに乗車し、反対側のバス停で下車。（車いすに乗っていない班は、車いすの乗車の様子やスロープの設置方法などを観察）

・バスが半周するごとに班を入れ替える

・8名全員が、車いすでの乗車とサポートの体験をし、バス車内と車外から車いすの乗車を見学・観察できるようにする

⑤まとめ、質問コーナー（5分）

※乗車体験イメージ



（２）新たな交通学習プログラムの検討

１）２年生・生活科　鉄道の乗り方教室（笠縫小学校）

（a）今年度の位置付け

交通環境学習を充実したものとするには、県内の交通素材をできる限り活用することが必要である。昨年度までの交通環境学習では、事業者が参画する場合はほとんどの実施校でバス事業者のみが参画していたが、県の基幹交通である JR 線および JR の乗り方等の学習ニーズは強く、今年度は西日本旅客鉄道株式会社との協議の元、草津市立笠縫小学校での交通環境学習において、同社の協力を得ながら実施することとし、授業内容の充実化の可能性検証および他地域展開の可能性について検証することとした。

（b）交通学習プログラムの検討

a）学校の考え・意向

検討の考え方を踏まえ、授業のねらいや方針等を把握するために、学校と打合せを実施し、対象とする単元や学習のねらい等について以下のように整理した。

表　2-12　笠縫小学校の考え・意向

実施学年	２年生
実施教科	生活科
単元	わたしの町はっけん
学習のねらい	公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する
その他のニーズ	券売機の使い方や改札の通り方など、駅で電車に乗るまでの流れを学習したい。 ホームや車内でのマナーを学習したい。

b）交通素材を活用した学習の流れ

２年生・生活科（笠縫小学校）

＜今年度の位置付け＞　新たな協働事業者を巻き込んだコンテンツ作り

ねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する ・模擬券売機を使った体験をすることで、生活に必要な知識を身に着ける。

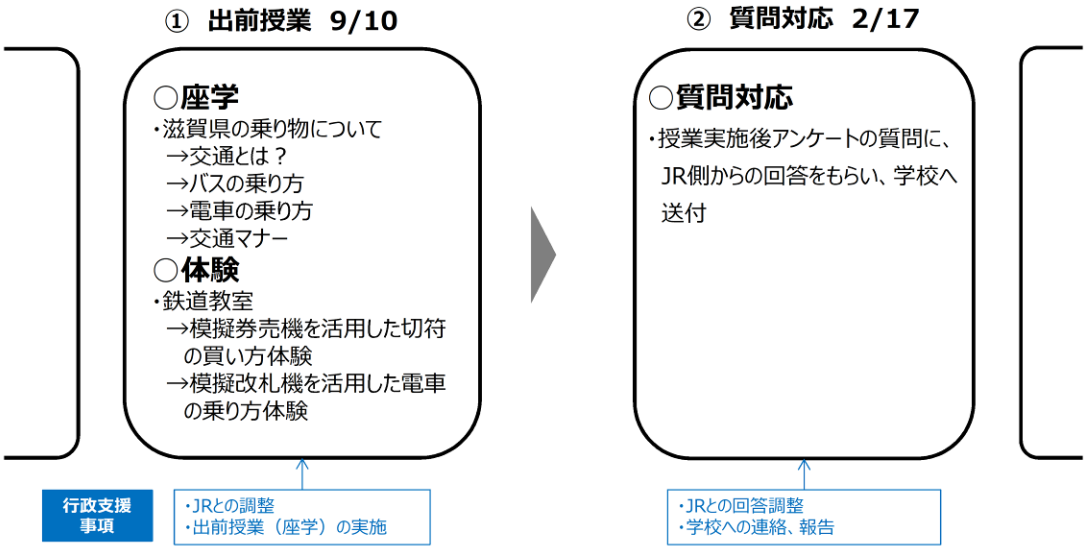


図　2-46　学習の流れ

c）学習の準備

西日本旅客鉄道株式会社と学校との協議の上、座学と鉄道教室（体験）を同日２時間にて実施することとし、前半の座学については行政が、後半の鉄道教室については西日本旅客鉄道株式会社がそれぞれ担当することとした。

鉄道教室で実施する内容については、学校側のニーズと西日本旅客鉄道株式会社の実施できることのすり合わせを実施し、模擬券売機や模擬切符、模擬改札機等については西日本旅客鉄道株式会社に用意を依頼した。

図　2-47　準備物および実施風景

２）５年生・社会科　物流（土山小学校）

（a）今年度の位置付け

従来の交通環境学習ではバス車両を用いた乗り方教室の実施が多く占めており、２年生～６年生まで継続的に学習を実施してもらうためには、乗り方教室以外で交通素材の活用方法について検討を行う必要がある。

現在、５年生の社会科では、交通網の広がりと運輸の様子からその役割を考える物流の学習が行われており、対象となる学校からの活用ニーズもみられた。公共交通に直接関連する内容ではないが、物流の理解を通じて、バスや鉄道等の身近な交通へも意識を向けてもらうことが可能と考えられる。

以上より、社会科の理解を深めるため、物流を題材としたプログラムを検討することとした。

表　2-13　土山小学校の考え・意向（再掲）

実施学年	５年生
実施教科	社会科
単元	物流
学習のねらい	交通網の広がりなどに着目して運輸の様子を捉え、それらの役割を考える
その他のニーズ	・社会科の物流の単元は、輸送などについて学習するため、交通素材を活用することができるかもしれない。 ・自分たちの地域の今後を考えていくための材料として、地産地消に着目して地域の理解を深めるような学習を行いたいと考えている。 ・ICT を整備しており、ネットを活用した学習を広げたいと考えている。

（b）**交通学習プログラムの検討**

a）交通素材を活用した学習の流れ

学校との意見交換を踏まえ、交通素材の活用が可能な物流と学校で取り組みたいと考えている地産地消に着目し、交通等に関する統計データ等から理解を深めていく学習プログラムを検討・試行することとした。

実際に食べた野菜を通して、物流の仕組みや動向の理解を深めてもらうことを交通環境学習のねらいとして、実際に食べた野菜の生産地がどこか調べることを通して、野菜を食べるためには全国各地から運んでくる必要があることを知り、統計データ等から輸送手段や物流が抱えている問題について理解を深める内容とした。

以下に学習の流れを示す。

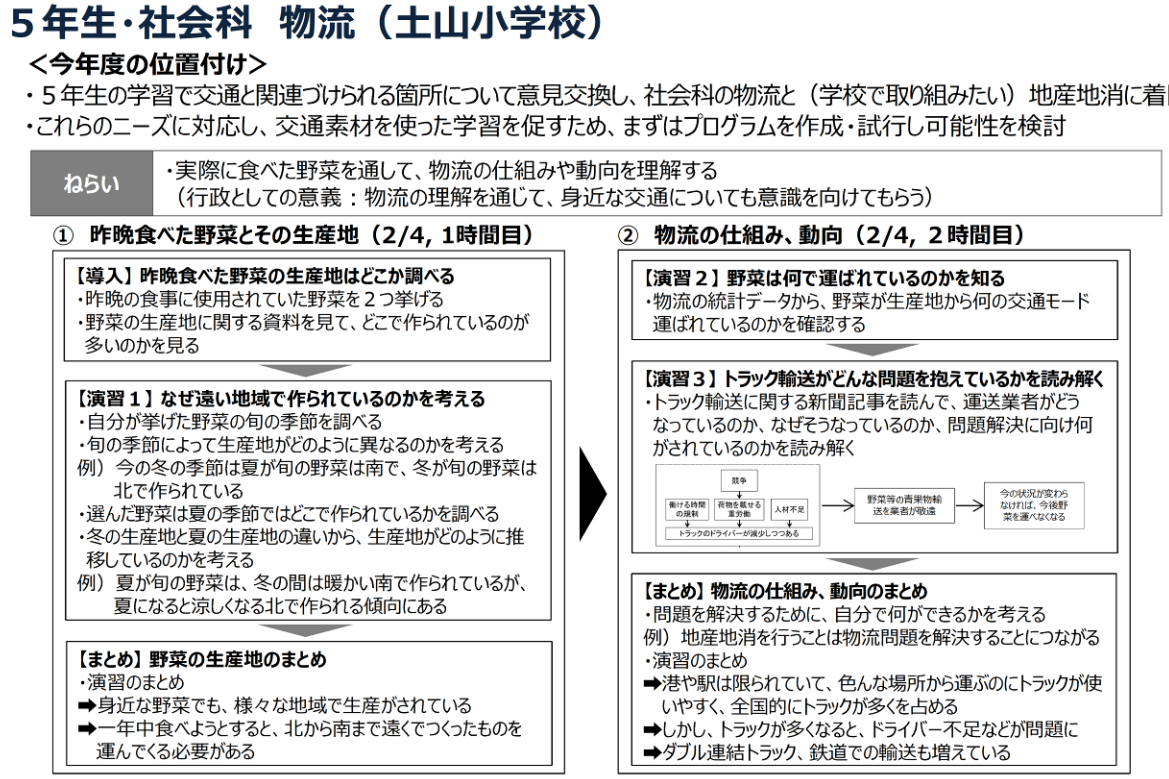


図　2-48　学習の流れ

b）学習ツールの作成

前項の流れに対応して、指導案形式の展開資料、作業や考察を行うためのワークシート、説明用資料、参考資料等を作成した。

以降に作成した学習ツールを示す。

表 2-14 作成した学習ツールの一覧

学習ツール	用途
①学習指導案	・展開・教材を示した授業案
②ワークシート	・昨晩食べた野菜の生産地を調べる（なぜ野菜が色んな場所でつくられているのか） ・新聞記事から物流問題を読み取る
③タブレット資料	・滋賀県産野菜の出荷量（野菜ナビ） ・各野菜の生産地（イオンネットスーパー） ・野菜の旬の季節（野菜ナビ） ・月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）
④先生用説明資料	・野菜の輸送について ・新聞記事の解説
⑤参考資料	・新聞記事 ・野菜生産地の一覧 ・データ等の出典

①学習指導案

５年生社会科･物流　学習指導案

１．学習のねらい

・実際に食べた野菜を通して、物流の仕組みや動向を理解する。

２．１時間目の学習

課程	学習活動	学習内容	教材	指導上の留意点
導入	**【昨晩食べた野菜の生産地はどこか】** ○昨晩食べた食事のメニューとそれに使われていた野菜を２つ挙げる		・ワークシート１	
	○選んだ野菜が滋賀県産かどうかを調べる	→"××"は滋賀県で作られているが、多くの野菜が滋賀県では作られていないことを知る	・ワークシート１ ・タブレット資料 1_滋賀県産野菜の出荷量	・２月の列を見て、取扱があるかどうかを確認
	○滋賀県産でない場合、どこの産地で作られているかを調べる	→滋賀県から遠く離れた地域で作られていることを知る	・ワークシート１ ・タブレット資料 2_野菜の生産地	・選んだ野菜の生産地を資料で確認。複数ある場合は、全て記入
	○調べた内容を発表		・黒板 ■板書イメージ 野菜の種類 / 生産地 きゅうり / 宮崎県 トマト / 熊本県、高知県、静岡県 はくさい / 茨城県 だいこん / 千葉県 ⋮ / ⋮	・次の展開につながる野菜が出てくるように誘導する（夏野菜：キュウリ、トマト　冬野菜：白菜、大根等）
展開①	**【なぜ、遠い地域で作られているのか】** ○選んだ野菜の旬の季節を調べる		・ワークシート１ ・タブレット資料 3_野菜の旬の季節	・生産量が多い（濃い赤色）の地域を確認する
	○調べた内容を発表し、旬の季節によって生産地がどう異なるかを考える 例）今の冬の季節は、夏が旬の野菜は南で、冬が旬の野菜は北で作られている		・黒板 ■板書イメージ 野菜の種類 / 生産地 / 旬の季節 きゅうり / 宮崎県 / 夏 トマト / 熊本県、高知県、静岡県 / 夏 はくさい / 茨城県 / 冬 だいこん / 千葉県 / 冬 ⋮ / ⋮ / ⋮	
	○選んだ野菜が夏の季節ではどこで作られているかを調べる		・ワークシート１ ・タブレット資料４_月別・地域別の出荷量	・生産地の変化がない、もしくは、わかりにくい食材もあるため、トマトや白菜等の事例をあらかじめ用意する

図　2-49　５年生社会科･物流　学習指導案（1/3）

	○調べた内容を発表し、冬の生産地と夏の生産地の違いから、生産地がどのように推移しているかを考える 例）夏が旬の野菜は、冬の間は暖かい南で作られているが、夏になると涼しくなる北で作られる傾向にある	→野菜の生産に適した気候・気温で作ろうとすると滋賀県から離れた地域で作る必要があることを理解する。	・黒板 ■板書イメージ 	

3．２時間目の学習

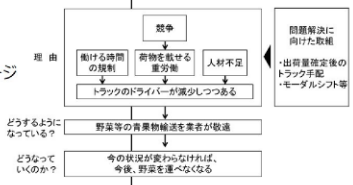
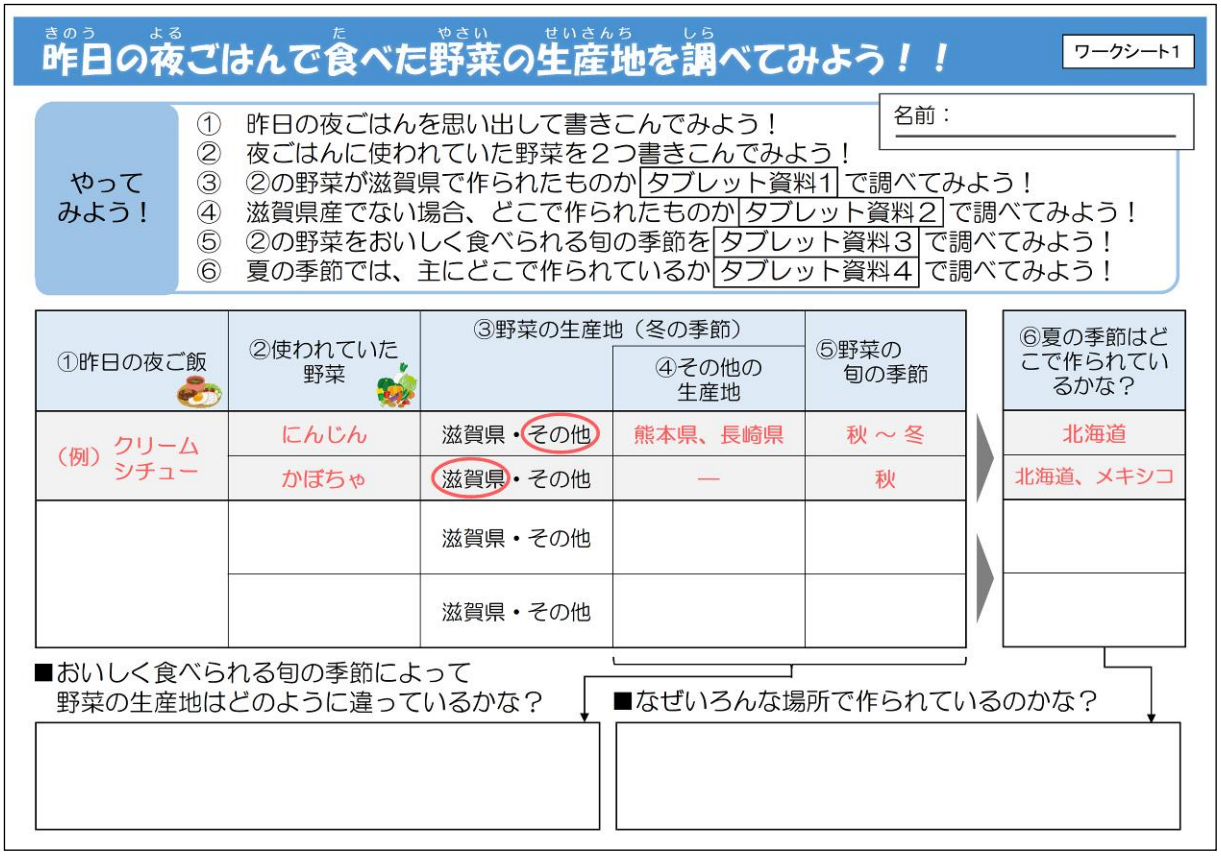
展開②	**【滋賀県の野菜の生産量は昔と比べてどう変化しているか】** ○滋賀県の自給率の推移を予想する	→生産量が多い地域との差が年々拡大していることを知る。 →昔と比べて、他県に野菜の生産を依存してしまっていることを理解する	・先生説明資料 1_食料自給率の推移	・滋賀県の自給率を予想させ、生産が多い他の都道府県（北海道等）の傾向と比較する
	【滋賀県に野菜を運ぶ際、どんな輸送機関で運ばれているか】 ○野菜はトラックを使って運ばれるのが多いことを確認する	→トラックを用いた輸送が多いことを知る →トラックがあるから、野菜を食べることができることを理解する	・先生説明資料 2_産業品別の輸送機関利用割合	・他の品目で主に用いられている輸送機関と比較する
	【トラック輸送はどんな問題を抱えているのか】 ○トラック輸送に関する新聞記事を読んで、運送業者がどうなっているのか、なぜそうなっているのか、問題解決に向け何がされているのかを読み解く ○考えた内容を発表	→トラック輸送が問題を抱えていることを理解する。	・ワークシート２ ・タブレット資料 5_トラック輸送に関する新聞記事 ・黒板 ■板書イメージ  	
	○問題を解決するために、他にどんな方法があるか、自分で何ができるかを考える。 例）できる限り、滋賀県産の野菜を食べる。	→地産地消が物流の問題を解決するひとつになることを理解する。	・ワークシート２	・1 時間目の授業を踏まえ、自分ごととして考えてもらうように誘導。

図 2-50 5年生社会科・物流 学習指導案（2/3）

まとめ	**【学習の振り返り】** ○学習の要点を確認する。		・黒板	以下の点を確認 ・普段食べている野菜のほとんどが遠くの地域で作られている。 ・滋賀県までトラックで運ばれているが、様々な問題を抱えている。 ・地産地消を行うことは、物流問題を解決することにつながる。

図 2-51 5年生社会科・物流 学習指導案（3/3）

②ワークシート



昨日の夜ごはんで食べた野菜の生産地を調べてみよう！！

ワークシート1

名前：

やってみよう！

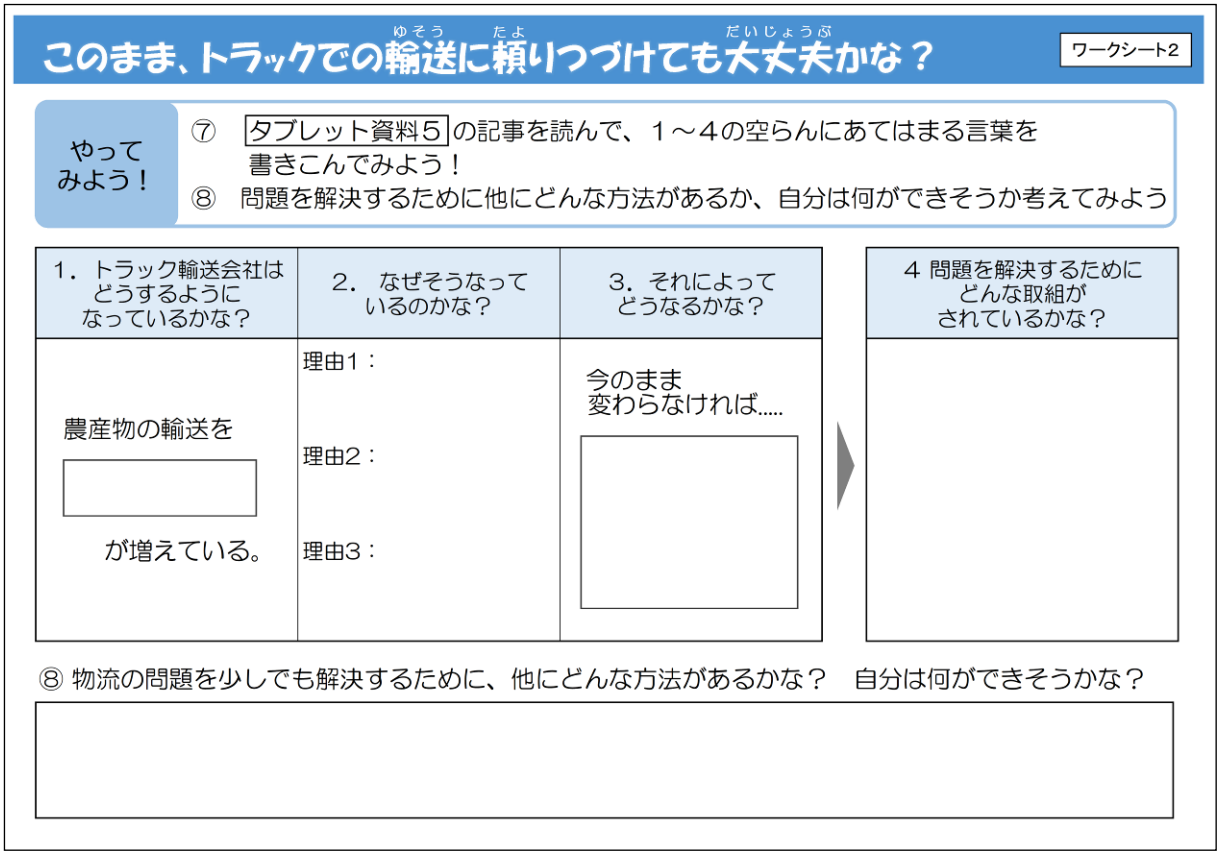
① 昨日の夜ごはんを思い出して書きこんでみよう！
② 夜ごはんに使われていた野菜を２つ書きこんでみよう！
③ ②の野菜が滋賀県で作られたものか タブレット資料１ で調べてみよう！
④ 滋賀県産でない場合、どこで作られたものか タブレット資料２ で調べてみよう！
⑤ ②の野菜をおいしく食べられる旬の季節を タブレット資料３ で調べてみよう！
⑥ 夏の季節では、主にどこで作られているか タブレット資料４ で調べてみよう！

①昨日の夜ご飯	②使われていた野菜	③野菜の生産地（冬の季節）	④その他の生産地	⑤野菜の旬の季節	⑥夏の季節はどこで作られているかな？
（例）クリームシチュー	にんじん	滋賀県・その他	熊本県、長崎県	秋 ～ 冬	北海道
	かぼちゃ	滋賀県・その他	―	秋	北海道、メキシコ
		滋賀県・その他			
		滋賀県・その他			

■おいしく食べられる旬の季節によって野菜の生産地はどのように違っているかな？

■なぜいろんな場所で作られているのかな？

図　2-52　５年生のワークシート（1/2）



このまま、トラックでの輸送に頼りつづけても大丈夫かな？

ワークシート2

やってみよう！

⑦ タブレット資料５ の記事を読んで、１～４の空らんにあてはまる言葉を書きこんでみよう！
⑧ 問題を解決するために他にどんな方法があるか、自分は何ができそうか考えてみよう

１．トラック輸送会社はどうするようになっているかな？	２．なぜそうなっているのかな？	３．それによってどうなるかな？	４ 問題を解決するためにどんな取組がされているかな？
農産物の輸送を［　　］が増えている。	理由1： 理由2： 理由3：	今のまま変わらなければ…..［　　］	

⑧ 物流の問題を少しでも解決するために、他にどんな方法があるかな？　自分は何ができそうかな？

図　2-53　５年生のワークシート（2/2）

昨日の夜ごはんで食べた野菜の生産地を調べてみよう！！

ワークシート1

記入例

名前：

やってみよう！

① 昨日の夜ごはんを思い出して書きこんでみよう！
② 夜ごはんに使われていた野菜を２つ書きこんでみよう！
③ ②の野菜が滋賀県で作られたものか タブレット資料１ で調べてみよう！
④ 滋賀県産でない場合、どこで作られたものか タブレット資料２ で調べてみよう！
⑤ ②の野菜をおいしく食べられる旬の季節を タブレット資料３ で調べてみよう！
⑥ 夏の季節では、主にどこで作られているか タブレット資料４ で調べてみよう！

①昨日の夜ご飯	②使われていた野菜	③野菜の生産地（冬の季節）	④その他の生産地	⑤野菜の旬の季節	⑥夏の季節はどこで作られているかな？
（例）クリームシチュー	にんじん	滋賀県・その他	熊本県、長崎県	秋 ～ 冬	北海道
	かぼちゃ	滋賀県・その他	―	秋	北海道、メキシコ
		滋賀県・その他			
		滋賀県・その他			

■おいしく食べられる旬の季節によって野菜の生産地はどのように違っているかな？

例）今の冬の季節は、夏が旬の野菜は南で、冬が旬の野菜は北で作られる傾向にある。

■なぜいろんな場所で作られているのかな？

例）いつの時期でも野菜を食べられるようにするには、生産に適した気候・気温の地域で作る必要があるため。

図　2-54　５年生の指導書サンプル（1/2）

このまま、トラックでの輸送に頼りつづけても大丈夫かな？

ワークシート2

記入例

やってみよう！

⑦ タブレット資料５ の記事を読んで、１～４の空らんにあてはまる言葉を書きこんでみよう！
⑧ 問題を解決するために他にどんな方法があるか、自分は何ができそうか考えてみよう

１．トラック輸送会社はどうするようになっているかな？	２．なぜそうなっているのかな？	３．それによってどうなるかな？	４ 問題を解決するためにどんな取組がされているかな？
農産物の輸送を やめる会社 が増えている。	理由１： 農産物の輸送は全て手作業で重労働 理由２： 今後、働ける時間が規制 理由３： 新しくドライバーになってくれる人がいない	今のまま変わらなければ..... ５年以内に九州から東京へ農産物を運べなくなってしまう	人手や時間に余裕をもって荷物の積み下ろしができるように、農家から届いた野菜を業務用冷蔵庫で一度保存し、翌日出荷している。

⑧ 物流の問題を少しでも解決するために、他にどんな方法があるかな？　自分は何ができそうかな？

例）モーダルシフト、ダブル連結トラック、自動運転によるトラック隊列走行等

例）なるべく、トラックでの長距離輸送が必要ないように滋賀県でつくられている野菜を食べる。

図　2-55　５年生の指導書サンプル（2/2）

③タブレット資料

タブレット資料１

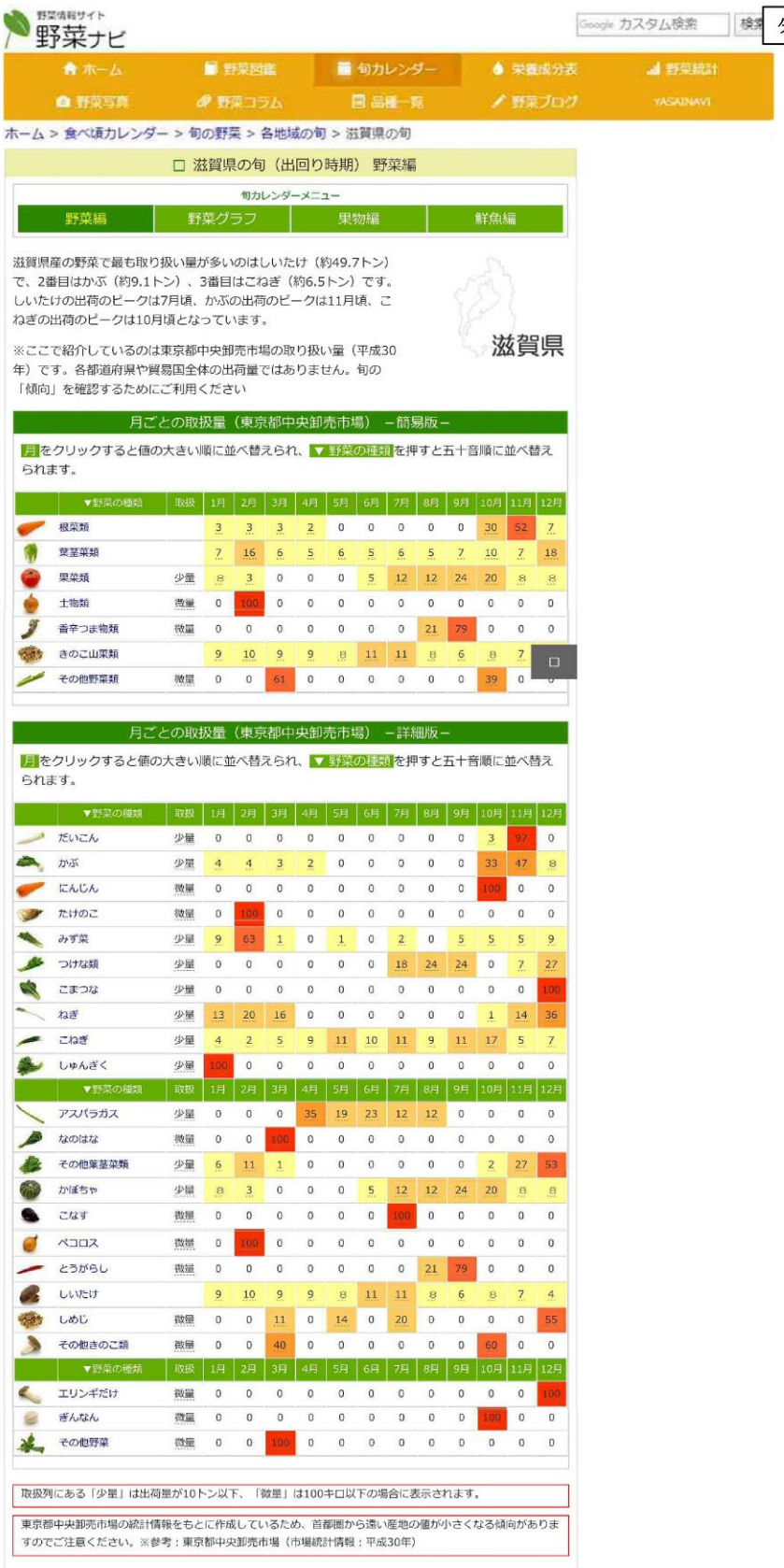


図　2-56　タブレット資料１－滋賀県産野菜の出荷量（野菜ナビ）

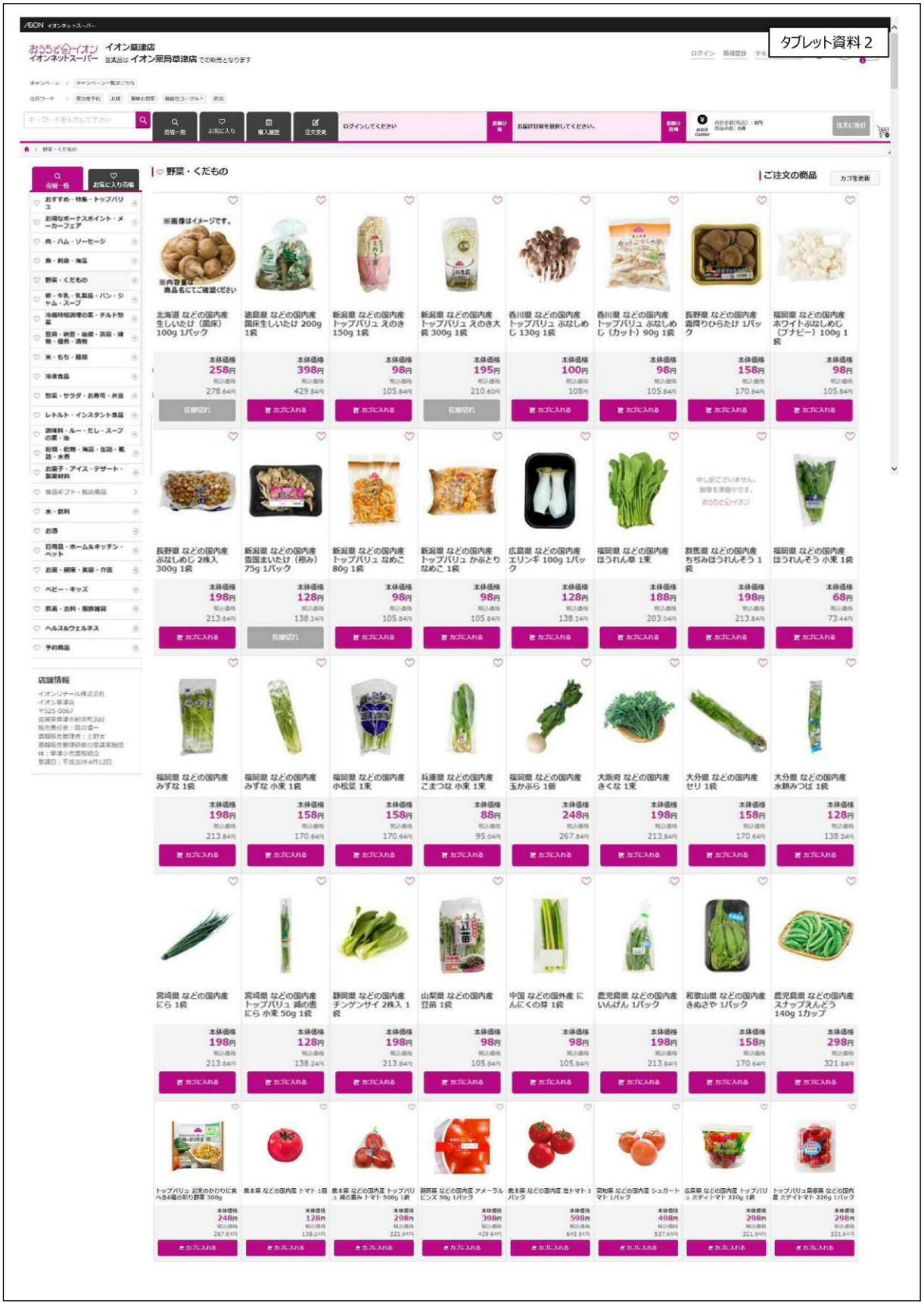


図　2-477　タブレット資料２－各野菜の生産地（イオンネットスーパー）（1/3）

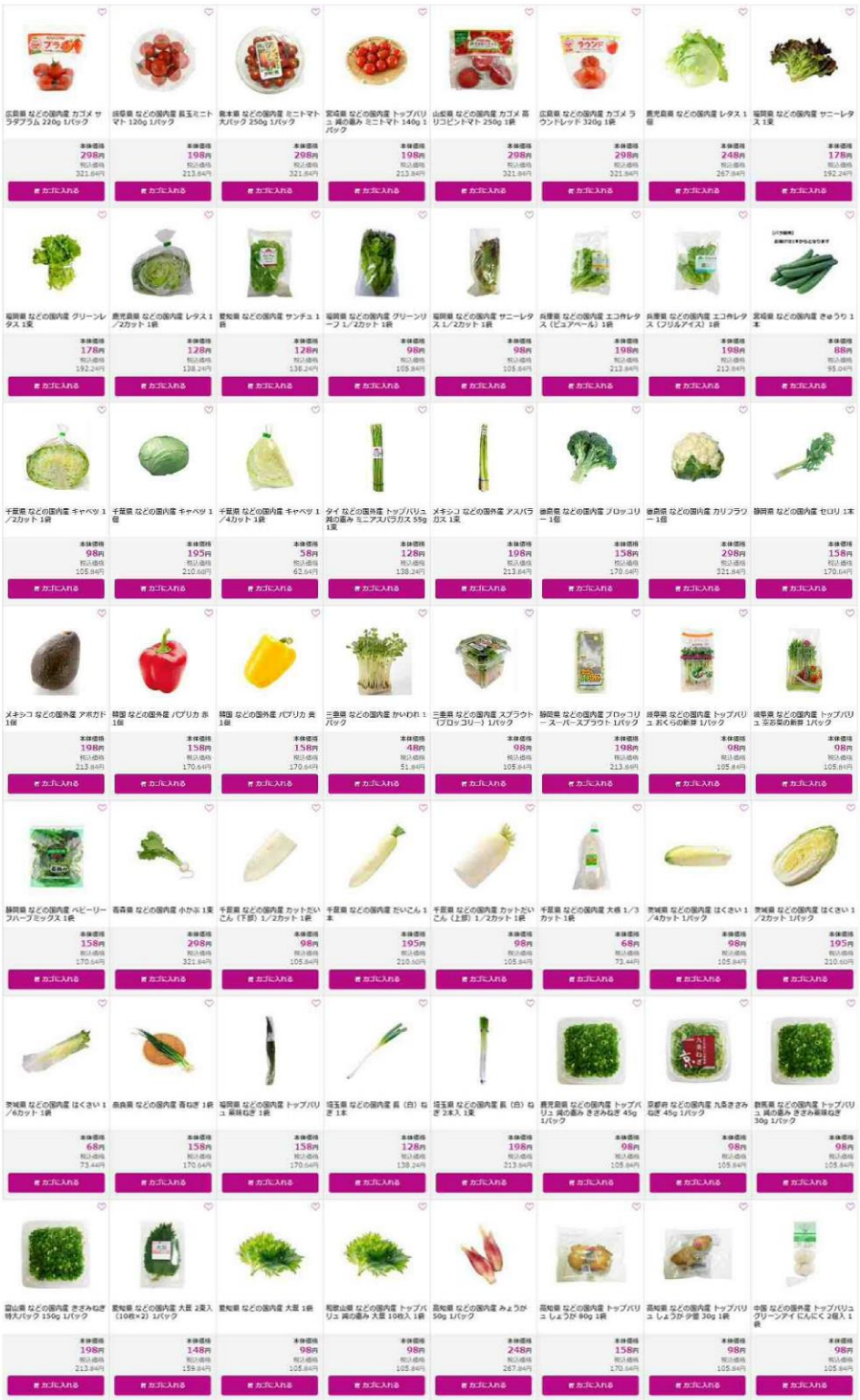


図　2-58　タブレット資料 2－各野菜の生産地（イオンネットスーパー）（2/3）

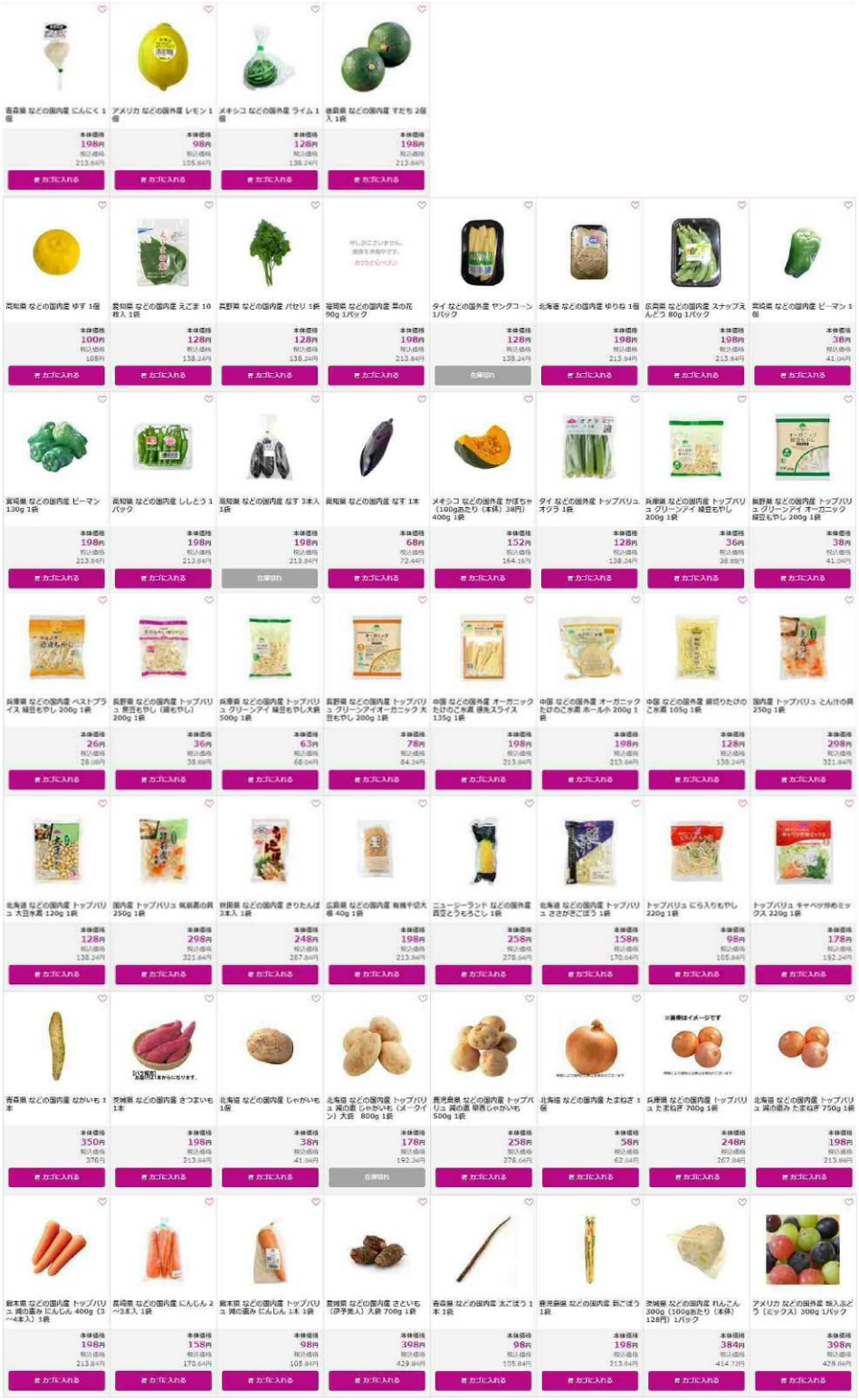


図　2-59　タブレット資料２－各野菜の生産地（イオンネットスーパー）（3/3）

タブレット資料３

野菜情報サイト
野菜ナビ

Google カスタム検索 検索

ホーム | 野菜図鑑 | 旬カレンダー | 栄養成分表 | 野菜統計
野菜写真 | 野菜コラム | 品種一覧 | 野菜ブログ | YASAINAVI

ホーム > 食べ頃カレンダー > 旬の野菜

□ 食べ頃カレンダー 旬の野菜

旬カレンダーメニュー

野菜編 | 野菜グラフ | 果物編 | 鮮魚編

とうもろこしは夏野菜、大根や白菜は冬の野菜、というように野菜にはそれぞれ旬の時期があります。でも多くの野菜が1年中出回っているため、本来の旬がわからないものもあると思います。そんなときは「食べ頃カレンダー 旬の野菜」をチェックしましょう。さまざまな野菜の旬（出回り時期）がひと目でわかりますよ。

野菜編 －詳細版－

簡易版 | 詳細版

▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
だいこん	□	9	9	9	8	7	6	6	7	9	10	9	10
かぶ	□	9	8	9	9	10	8	6	4	5	9	11	11
にんじん	□	8	7	8	9	10	8	7	8	8	10	8	10
ごぼう	□	8	9	7	7	7	6	5	5	9	10	12	15
たけのこ	□	2	4	18	66	8	1	0	0	0	1	0	2
れんこん	□	9	9	9	6	4	2	3	7	11	12	12	17
くわい	□	3	1	0	0	0	0	0	0	0	3	17	77
ラディシュ	□	9	9	10	10	10	8	6	5	7	8	8	11
その他根菜類	□	9	9	8	5	5	6	8	6	6	8	14	17
キャベツ	□	7	7	9	10	9	8	8	8	9	9	7	7
▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
グリーンボール	□	4	3	3	20	22	7	8	7	7	8	6	5
レタス	□	7	7	9	8	8	9	10	10	9	8	7	8
サニーレタス	□	8	7	8	8	8	8	9	9	8	9	8	9
グリーンリーフ	□	7	7	8	7	8	9	10	10	9	9	7	9
その他レタス	□	7	6	7	7	8	9	10	10	10	9	8	9
はくさい	□	11	10	7	5	5	5	5	5	9	13	12	13
さんとうさい	□	3	2	3	4	4	3	2	2	2	3	3	22
みず菜	□	9	9	10	10	10	8	7	7	7	8	8	8
つけな類	□	11	14	22	13	5	4	3	3	2	4	9	10
こまつな	□	7	7	9	9	9	8	8	8	10	10	8	8
▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
つまみな	□	6	7	15	17	9	7	7	6	7	8	6	5
ほうれんそう	□	9	10	10	8	9	9	6	5	6	9	10	10
ねぎ	□	10	8	8	7	7	7	7	7	9	10	10	11
こねぎ	□	7	7	9	9	10	10	10	9	7	8	7	8
わけぎ	□	8	8	10	10	10	9	8	8	7	8	7	9
あさつき	□	22	25	21	3	3	2	2	2	2	2	2	12
ふき	□	6	6	17	29	19	2	0	0	0	6	8	7
うど	□	13	15	22	19	11	5	3	2	2	2	2	5
根みつば	□	10	7	16	25	5	1	2	2	5	13	8	6
切みつば	□	26	9	5	2	2	1	1	1	1	2	3	45
▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
糸みつば	□	9	8	10	9	8	8	8	7	7	8	8	11
しゅんぎく	□	16	13	10	6	4	4	3	2	3	9	14	16
せり	□	21	15	14	9	4	1	1	1	1	5	10	18
あしたば	□	7	10	17	15	10	8	6	3	5	7	7	5
にら	□	8	8	10	10	10	9	8	7	8	8	8	7
セロリ	□	8	9	10	9	8	8	9	8	7	8	7	8
アスパラガス	□	3	6	12	10	13	10	11	11	8	7	5	3
カリフラワー	□	9	9	8	8	10	6	5	4	6	11	13	12
ブロッコリー	□	8	9	11	8	10	7	7	5	6	8	11	11
サラダな	□	7	7	9	10	10	9	9	8	8	8	7	7
▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パセリ	□	7	7	9	9	9	8	8	8	7	8	8	10

図 2-6048 タブレット資料３－野菜の旬の季節（野菜ナビ）（1/3）

	野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	にんにくの芽	□	8	8	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
	チンゲンサイ	□	8	8	9	9	10	8	8	7	8	9	8	8
	タアサイ	□	11	12	11	9	9	7	4	3	4	6	10	14
	なのはな	□	21	27	28	8	1	0	0	0	0	0	3	12
	レッドキャベツ	□	6	7	9	8	10	8	9	9	8	9	8	8
	メキャベツ	□	27	27	15	2	2	1	1	1	1	1	4	17
	クレソン	□	9	8	9	9	9	7	7	8	7	8	8	11
	エンダイブ	□	6	6	8	8	10	10	9	8	8	9	8	9
	モロヘイヤ	□	1	1	1	2	5	11	24	28	16	5	3	2
	▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	サンチュ	□	7	7	9	9	10	9	9	9	8	8	8	9
	くうしんさい	□	2	3	4	5	9	14	18	17	12	8	4	3
	その他葉菜類	□	10	10	10	8	7	7	8	8	8	8	7	8
	きゅうり	□	6	6	8	9	12	10	10	10	9	8	6	5
	かぼちゃ	□	7	8	8	8	8	9	8	8	10	10	8	9
	ズッキーニ	□	3	3	5	6	12	18	18	12	8	6	4	4
	なす	□	5	5	7	8	10	11	12	13	10	9	6	4
	こなす	□	2	2	3	3	5	8	16	23	17	10	9	2
	べいなす	□	4	4	5	7	11	14	14	15	11	7	4	3
	ながなす	□	6	6	9	10	12	14	11	9	6	6	6	5
	▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	トマト	□	6	6	8	9	12	11	10	11	8	7	6	6
	ミニトマト	□	7	6	8	9	11	9	8	8	9	8	8	8
	ピーマン	□	6	6	8	10	12	11	8	8	9	8	8	7
	パプリカ	□	6	6	7	8	10	11	11	9	8	7	8	8
	ししとう	□	5	5	6	6	8	11	13	13	11	9	7	6
	とうもろこし	□	0	0	0	0	6	29	32	22	10	1	0	0
	オクラ	□	2	3	3	5	7	15	20	19	13	7	4	2
	とうがん	□	2	2	2	3	6	15	27	21	10	6	4	2
	しろうり	□	0	0	0	1	22	29	26	17	4	0	0	0
	ゴーヤ（レイシ）	□	2	3	4	8	12	15	21	20	8	3	2	2
	▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	その他果菜類	□	0	0	0	4	24	21	18	17	5	5	4	1
	いんげん	□	8	8	8	8	9	10	11	8	9	8	7	7
	さやえんどう	□	11	12	16	16	13	9	5	2	1	2	5	10
	きぬさやえんどう	□	9	8	12	12	16	10	7	4	4	4	6	9
	グリーンピース	□	12	12	18	19	16	5	2	1	0	1	4	10
	そらまめ	□	4	4	13	26	34	15	2	0	0	0	1	2
	えだまめ	□	0	0	0	1	4	15	24	30	21	4	0	0
	その他豆科野菜	□	10	8	9	7	8	5	3	6	12	11	9	11
	メークイン	□	8	9	8	6	7	8	7	8	10	11	10	10
	男爵	□	8	8	8	6	3	5	5	9	12	13	12	11
	▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	その他ばれいしょ	□	9	8	9	13	17	13	6	5	5	4	4	7
	さつまいも	□	10	10	9	7	5	5	4	6	10	11	10	12
	さといも	□	7	7	7	5	3	3	2	5	11	14	13	22
	セレベス	□	4	2	1	0	0	0	0	0	6	22	19	46
	京いも	□	12	5	1	0	0	0	0	0	2	14	23	42
	やつがしら	□	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	6	87
	ながいも	□	7	7	9	8	8	10	10	9	9	7	7	9
	やまといも	□	7	7	8	8	8	9	9	9	9	8	9	10
	たまねぎ	□	7	8	9	10	10	8	7	8	8	8	8	8
	にんにく	□	8	9	9	8	10	9	8	8	7	7	8	9
	▼ 野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	らっきょう	□	0	0	1	2	43	49	4	0	0	0	0	0
	エシャレット	□	6	6	7	7	10	12	11	11	8	8	7	8
	ゆりね	□	5	2	1	0	0	0	1	1	5	12	29	43
	ペコロス	□	8	8	9	8	6	5	5	6	8	11	12	15

図　2-61　タブレット資料３－野菜の旬の季節（野菜ナビ）（2/3）

	▼野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	アーリーレッド	□	7	7	7	8	8	8	7	8	10	10	9	10
	その他土物類	□	10	7	5	4	4	4	4	3	3	13	20	24
	わさび	□	6	6	8	9	9	9	9	8	7	7	7	13
	根しょうが	□	6	6	7	8	10	13	13	10	8	7	6	7
	葉しょうが	□	0	0	2	10	16	20	21	18	9	2	0	0
	とうがらし	□	2	2	3	4	4	10	17	17	15	15	8	5
	▼野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	め類	□	6	6	9	12	15	10	7	9	6	6	7	7
	たで	□	7	7	8	9	9	9	8	8	8	8	8	10
	かいわれ	□	8	8	8	8	9	9	9	9	8	8	8	8
	しそ	□	0	0	0	0	13	42	15	0	0	0	0	0
	おおば	□	8	7	9	8	9	9	9	9	8	8	7	8
	ほじそ	□	7	7	8	8	9	8	9	9	8	8	8	10
	みょうが	□	1	2	4	8	13	18	19	16	10	5	3	2
	みょうがたけ	□	1	5	11	20	23	21	15	3	0	0	0	0
	ハーブ類	□	7	7	9	8	9	9	9	9	8	8	8	9
	ぼうふう	□	12	15	18	16	12	7	4	2	3	3	3	5
	▼野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	もろきゅうり	□	3	3	3	4	7	11	21	21	12	7	4	3
	ふきのとう	□	15	21	35	19	2	0	0	0	0	0	1	6
	食用菊	□	7	5	5	3	3	3	4	6	14	20	18	14
	ベビーリーフ	□	7	7	9	9	10	9	9	8	8	8	8	9
	その他香辛つま物	□	13	7	7	6	9	10	7	6	5	8	11	10
	しいたけ	□	10	8	9	8	7	7	6	6	7	10	11	12
	まつたけ	□	0	0	0	0	0	0	5	17	32	33	12	2
	なめこ	□	8	8	9	9	8	8	8	8	8	9	8	9
	えのきだけ	□	10	9	10	8	7	6	5	5	7	10	10	11
	しめじ	□	9	9	9	8	7	7	6	7	8	10	9	9
	▼野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	マッシュルーム	□	8	8	9	8	8	8	8	8	8	9	9	10
	まいたけ	□	9	9	8	7	7	7	7	7	9	10	9	10
	その他きのこ類	□	9	8	8	7	7	6	6	6	9	12	13	11
	エリンギだけ	□	9	8	8	8	8	7	7	7	8	10	9	9
	わらび	□	2	6	15	18	43	15	1	0	0	0	0	0
	山うど	□	14	24	29	24	7	0	0	0	0	0	0	2
	その他山菜	□	6	9	15	18	17	10	7	5	3	4	3	3
	たらの芽	□	15	22	32	21	5	0	0	0	0	0	0	4
	ぎんなん	□	6	3	2	2	1	1	1	3	12	27	25	16
	その他野菜	□	13	7	6	5	9	11	7	5	4	6	11	15
	▼野菜の種類	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
noimage	ほしだいこん	□	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	63
	切干だいこん	□	18	13	10	7	6	6	9	5	6	6	5	10
noimage	かんそういも	□	16	17	15	6	3	2	1	1	2	7	12	19
	ほししいたけ	□	9	7	10	8	7	6	7	5	8	8	9	16
	たけのこ水煮	□	5	6	9	14	9	9	8	7	6	7	6	13
noimage	ぜんまい水煮	□	8	8	10	9	8	8	8	7	8	8	8	10
	まめもやし	□	8	8	9	8	8	8	8	8	9	9	8	8
noimage	しなちく	□	8	8	9	9	8	8	8	7	9	10	8	9

この表は東京都中央卸売市場の統計情報をもとに作成しているため、東京以外の地域では若干のずれが生じることがあります。また、天候などの影響により流通量は変化しますので、あくまでも参考程度にお考えください。※参考：東京都中央卸売市場（市場統計情報：平成26~30年）

過去5年間の出回り時期の平均値から算出しています。100%を12か月で割ると1ヶ月あたり8.33%になるため、ここでは9%から色が濃くなるようにしています。

図 2-62 タブレット資料 3－野菜の旬の季節（野菜ナビ）（3/3）

タブレット資料４

図 2-63 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（1/37）

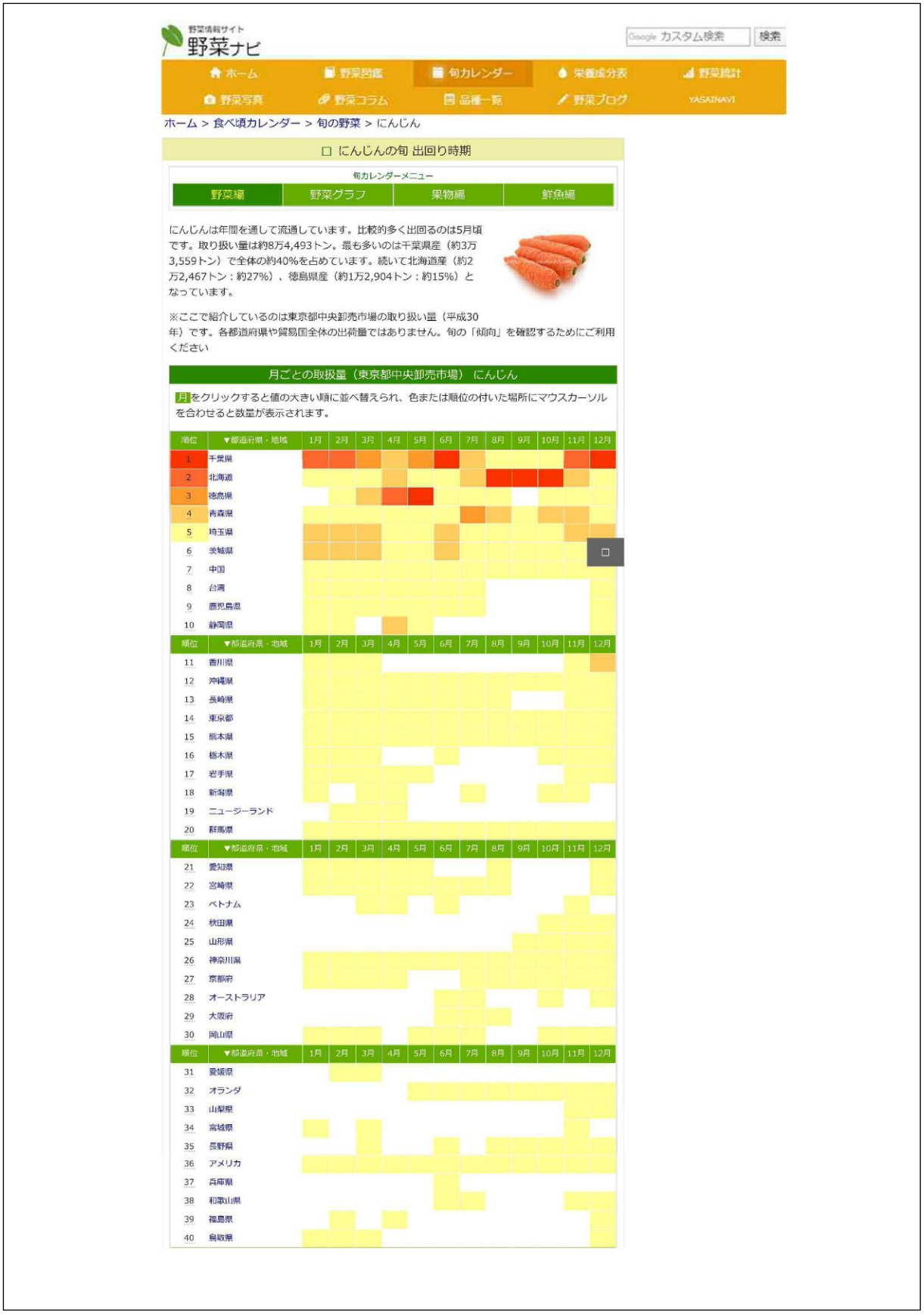


図 2-64 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（2/37）

図 2-65 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（3/37）

図 2-66 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（4/37）

図 2-67 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（5/37）

図 2-68 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（6/37）

野菜情報サイト
野菜ナビ

Google カスタム検索 検索

ホーム | 野菜図鑑 | 旬カレンダー | 栄養成分表 | 野菜統計
野菜写真 | 野菜コラム | 品種一覧 | 野菜ブログ | YASAINAVI

ホーム > 食べ頃カレンダー > 旬の野菜 > みず菜

□ みず菜の旬 出回り時期

旬カレンダーメニュー

野菜編 | 野菜グラフ | 果物編 | 鮮魚編

みず菜は年間を通して流通しています。比較的多く出回るのは3月頃です。取り扱い量は約6,107トン。最も多いのは茨城県産（約5,796トン）で全体の約95%を占めています。続いて埼玉県産（約106トン：約2%）、群馬県産（約61.8トン：約1%）となっています。

※ここで紹介しているのは東京都中央卸売市場の取り扱い量（平成30年）です。各都道府県や貿易国全体の出荷量ではありません。旬の「傾向」を確認するためにご利用ください

月ごとの取扱量（東京都中央卸売市場） みず菜

月をクリックすると値の大きい順に並べ替えられ、色または順位の付いた場所にマウスカーソルを合わせると数量が表示されます。

順位	▼都道府県・地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	茨城県												
2	埼玉県												
3	群馬県												
4	京都府												
5	福岡県												
6	千葉県												
7	愛知県												
8	北海道												
9	東京都												
10	山形県												
順位	▼都道府県・地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
11	滋賀県												
12	栃木県												
13	山梨県												
14	新潟県												
15	鹿児島県												
16	宮城県												
17	愛知県												
18	秋田県												
19	兵庫県												
20	神奈川県												
順位	▼都道府県・地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
21	福島県												
22	長崎県												
23	徳島県												
24	長野県												
25	奈良県												
26	青森県												
27	島根県												
28	大阪府												
29	静岡県												
30	石川県												
順位	▼都道府県・地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
31	佐賀県												

東京都中央卸売市場の統計情報をもとに作成しているため、首都圏から遠い産地の値が小さくなりやすいのでご注意ください。※参考：東京都中央卸売市場（市場統計情報：平成30年）

図 2-49 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（7/37）

図 2-50 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（8/37）

図 2-51 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（9/37）

図　2-52　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（10/37）

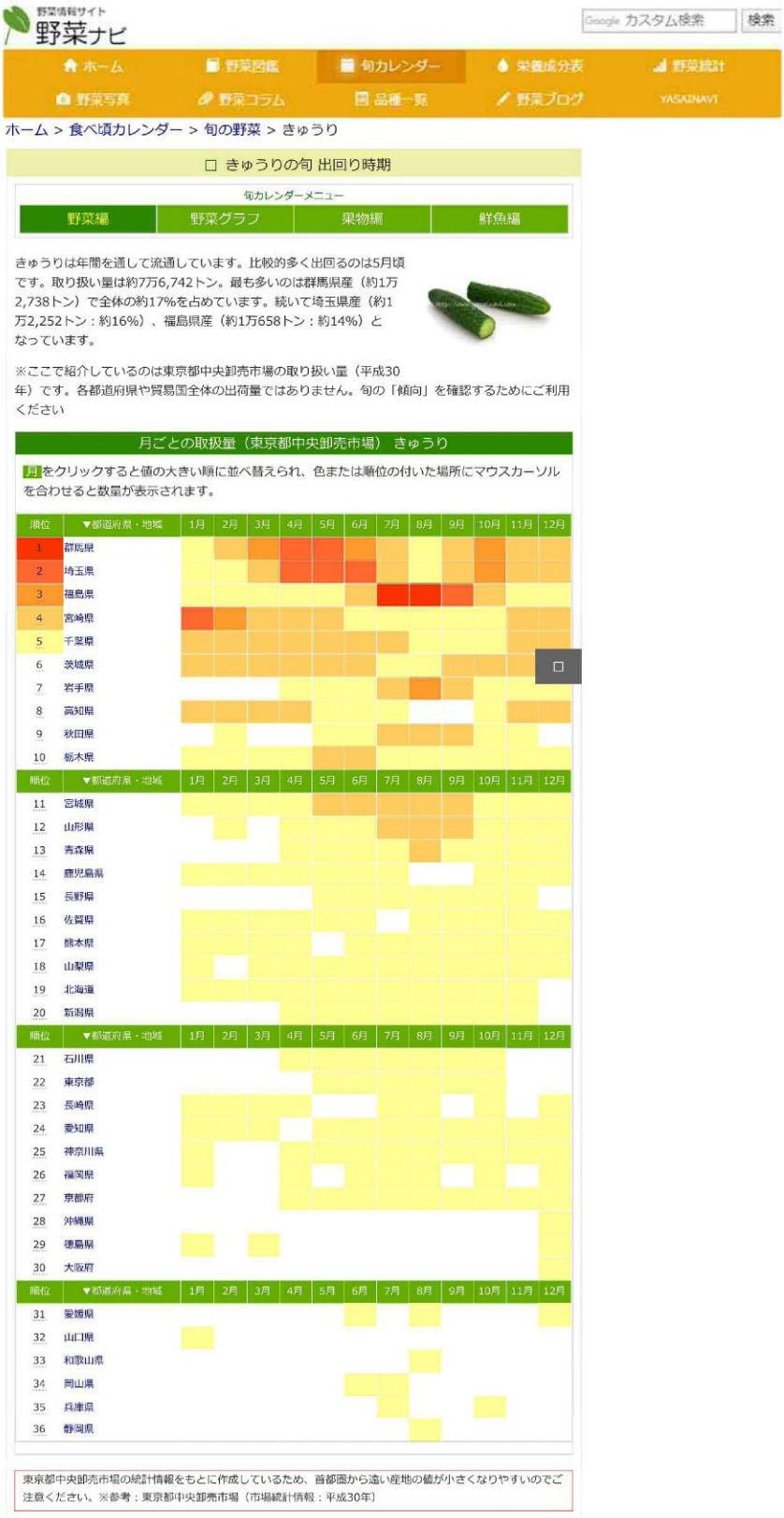


図 2-53 タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（11/37）

図　2-54　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（12/37）

図　2-55　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（13/37）

図 2-56 タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（14/37）

図　2-57　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（15/37）

図　2-58　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（16/37）

図 2-59 タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（17/37）

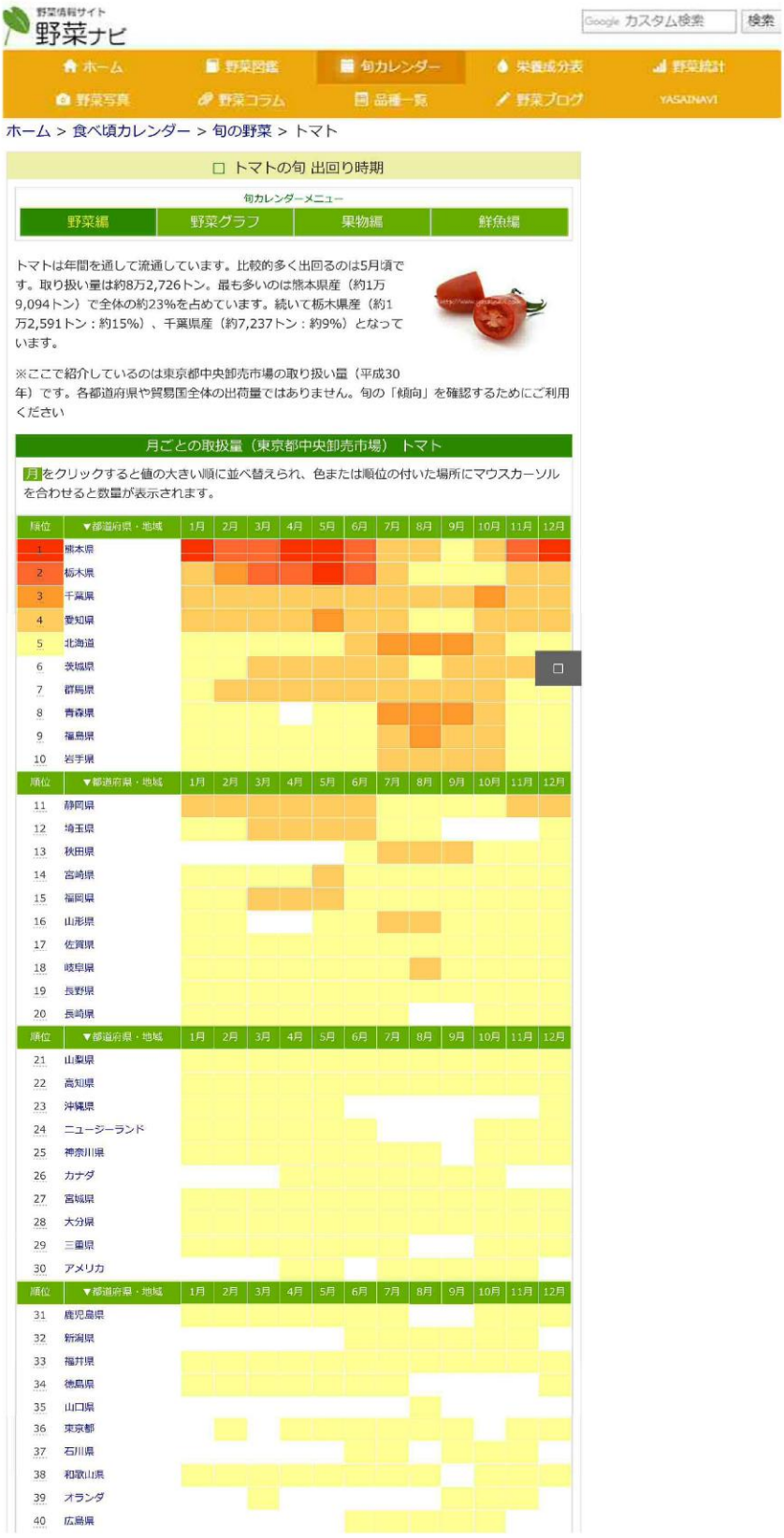


図　2-60　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（18/37）

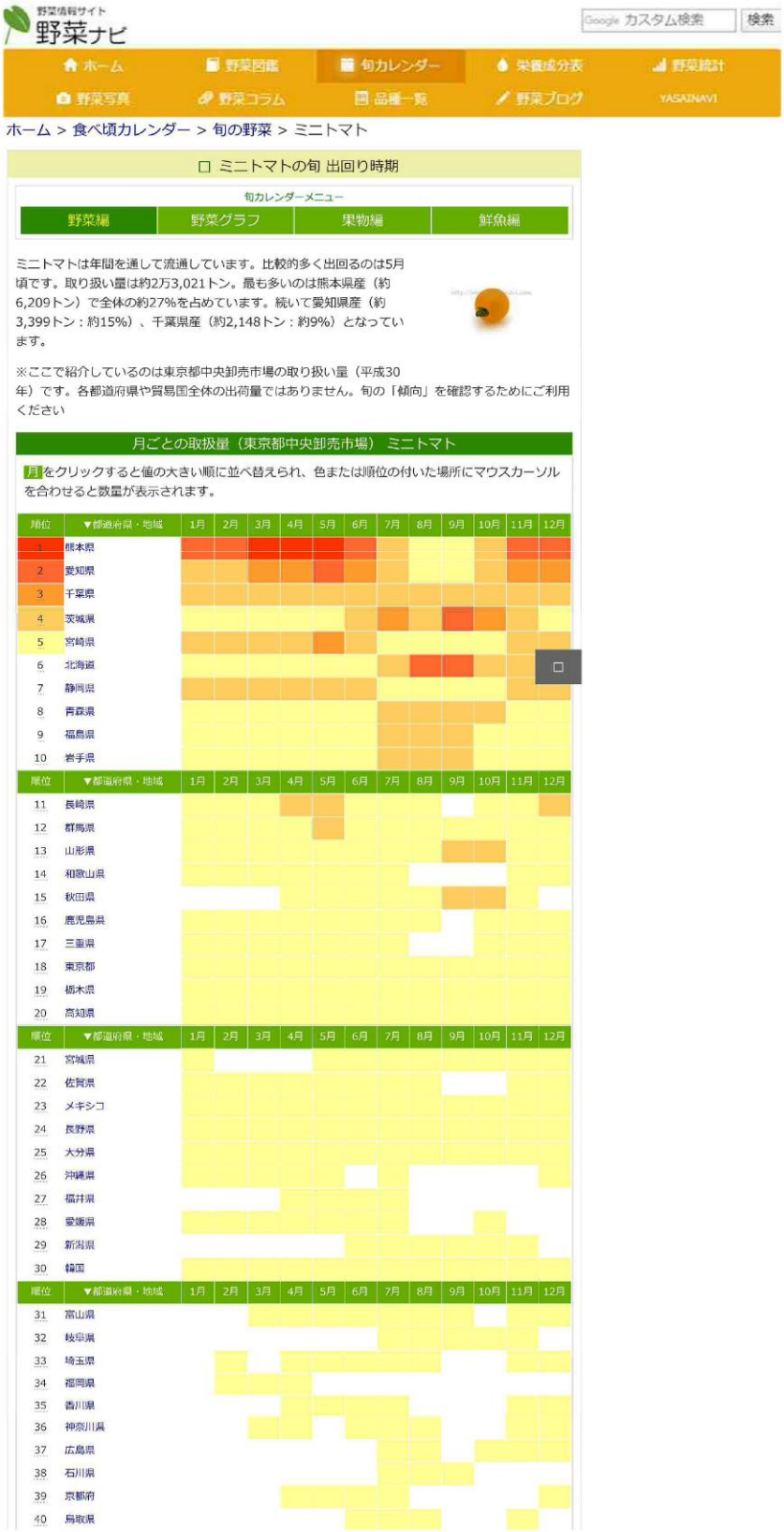


図　2-61　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（19/37）

図　2-62　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（20/37）

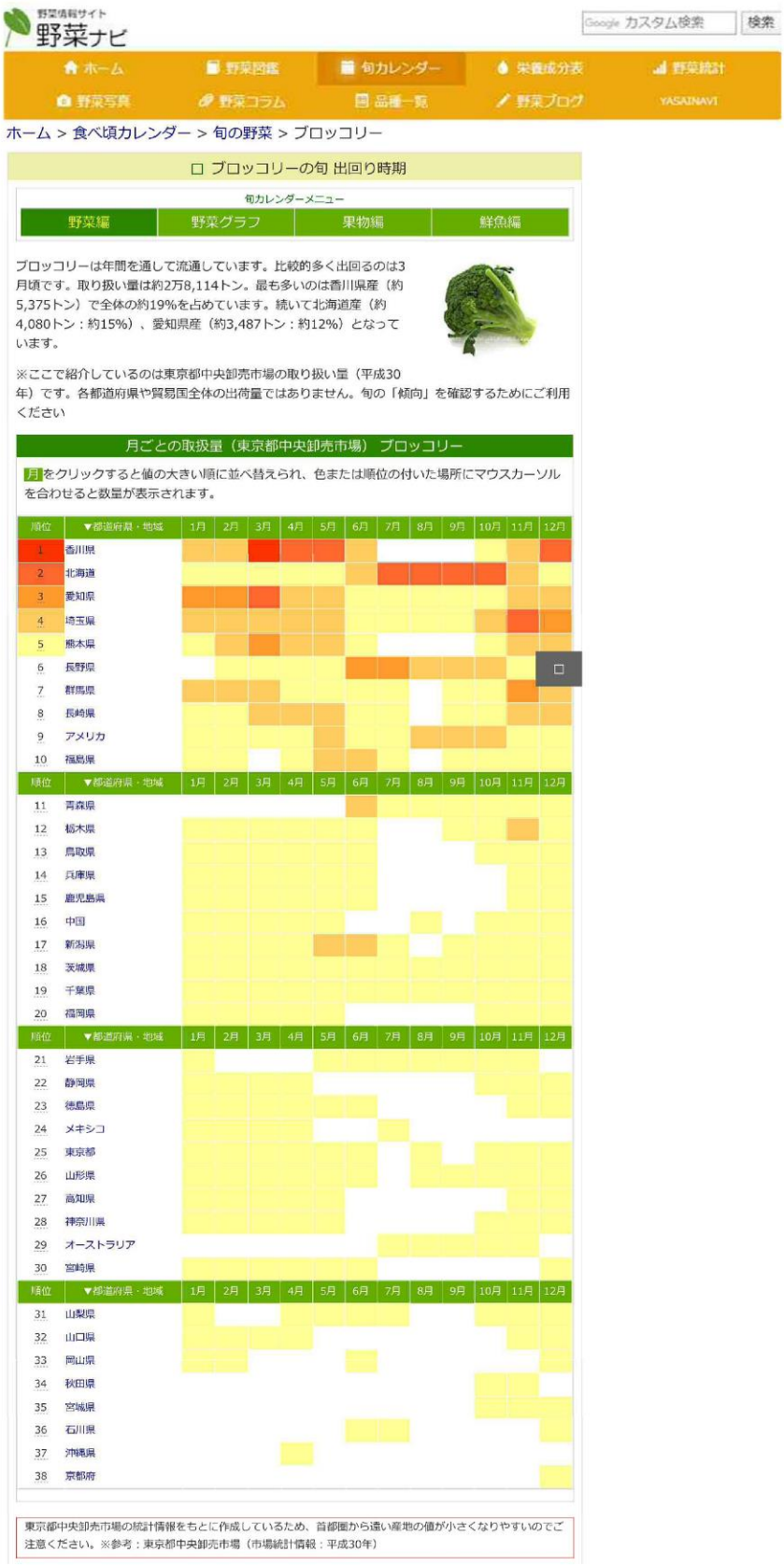


図 2-63 タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（21/37）

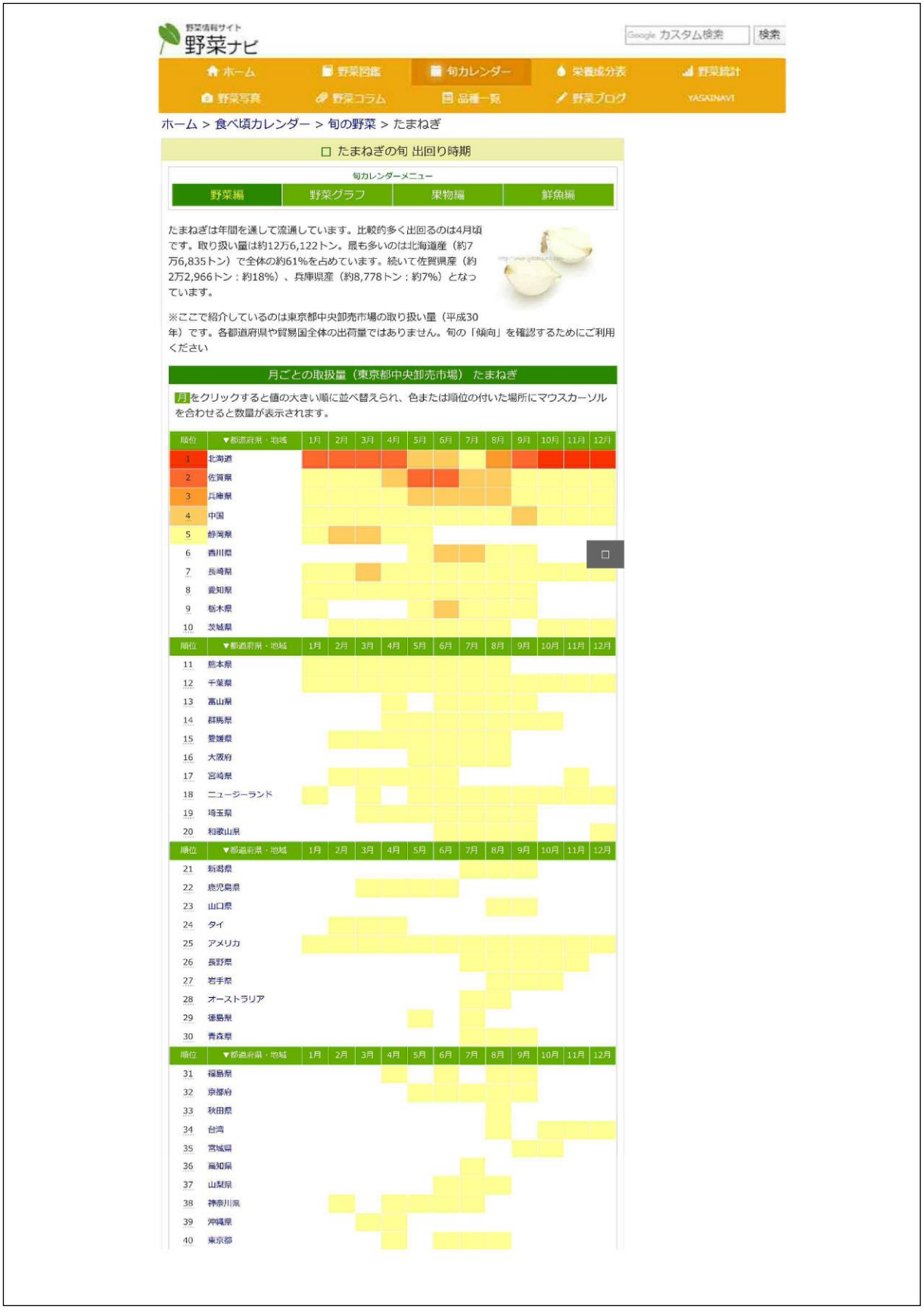


図　2-64　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（22/37）

図　2-65　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（23/37）

図　2-66　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（24/37）

図　2-67　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（25/37）

図　2-68　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（26/37）

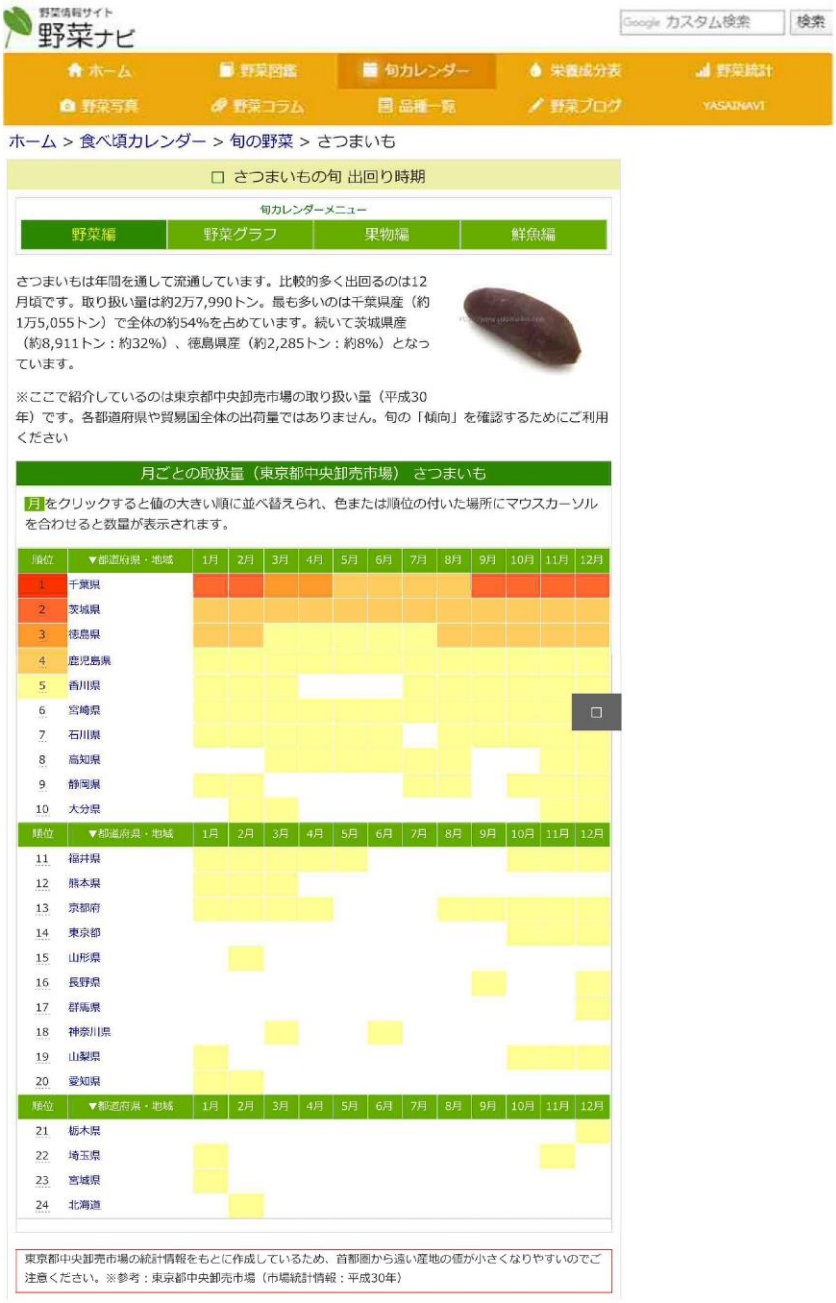


図 2-69 タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（27/37）

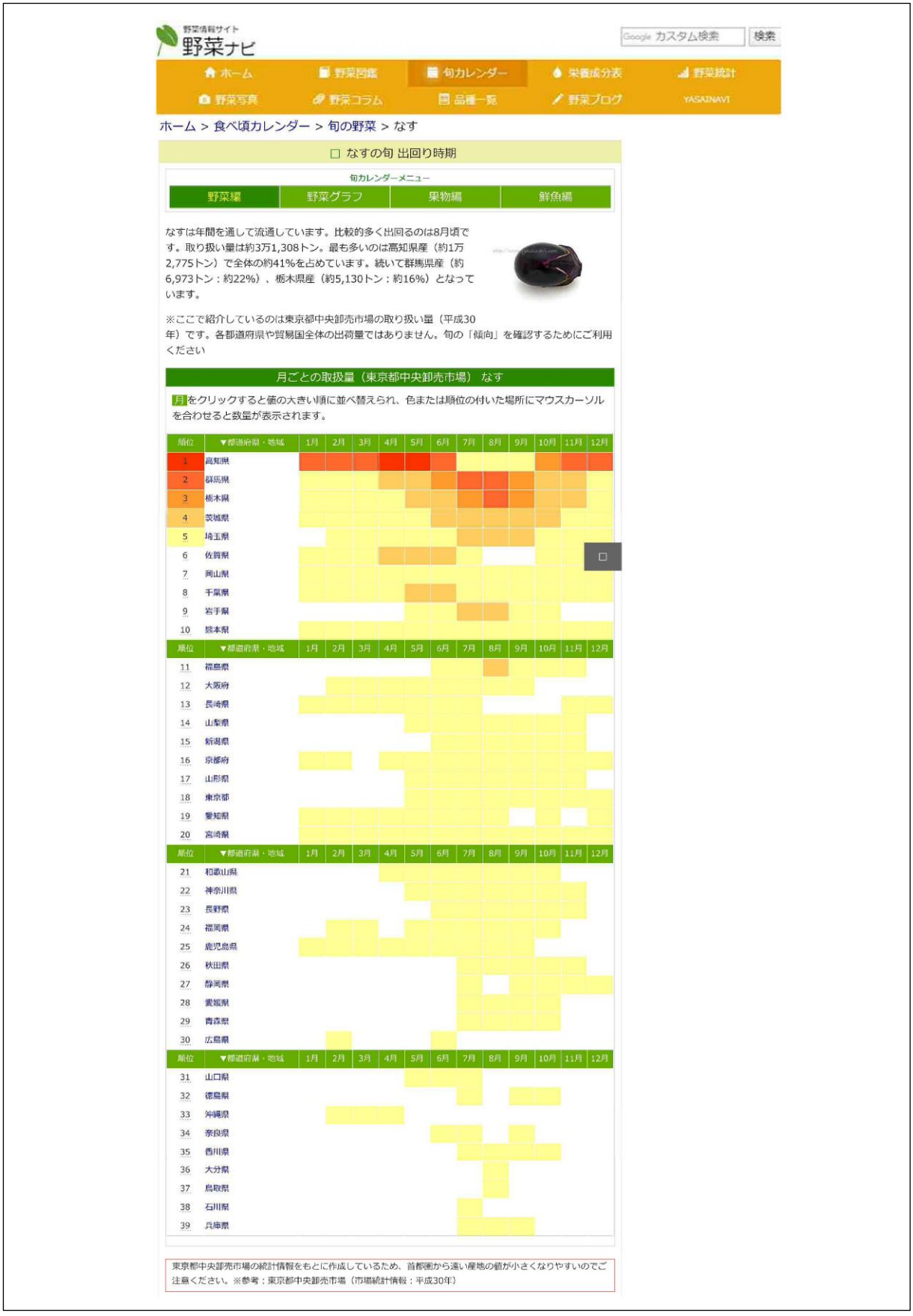


図　2-70　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（28/37）

図　2-71　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（29/37）

図　2-72　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（30/37）

図　2-73　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（31/37）

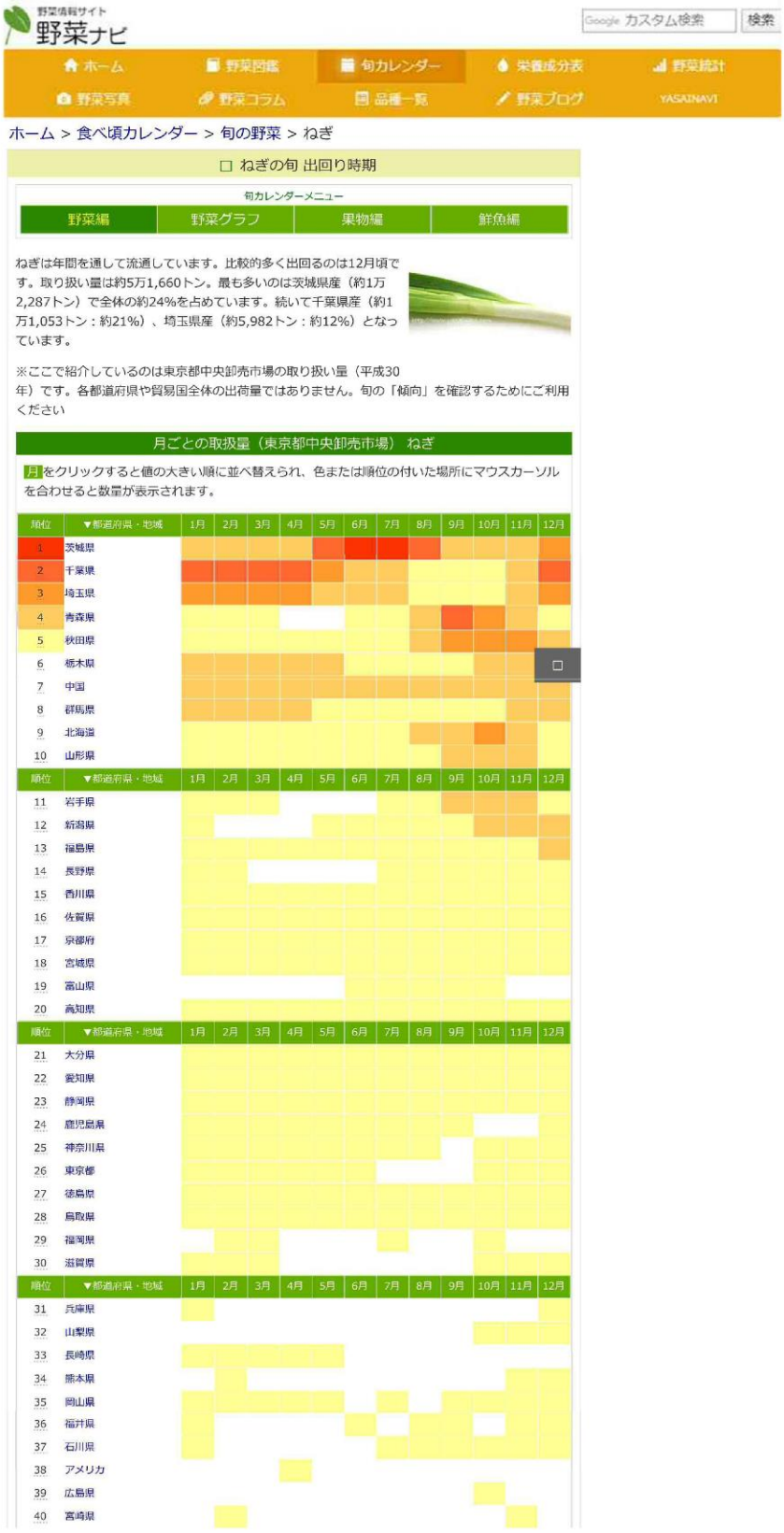


図　2-74　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（32/37）

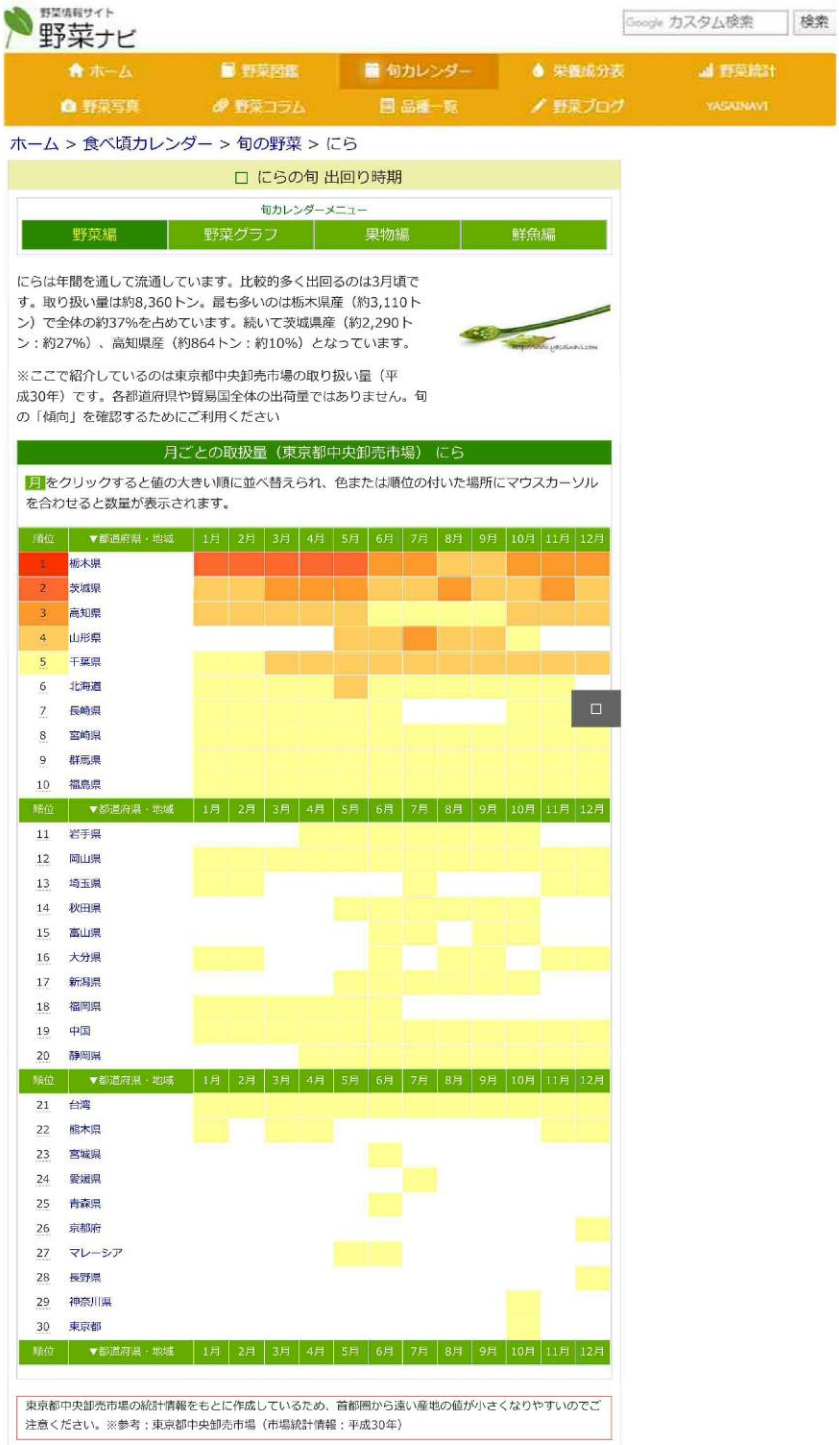


図　2-75　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（33/37）

図　2-76　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（34/37）

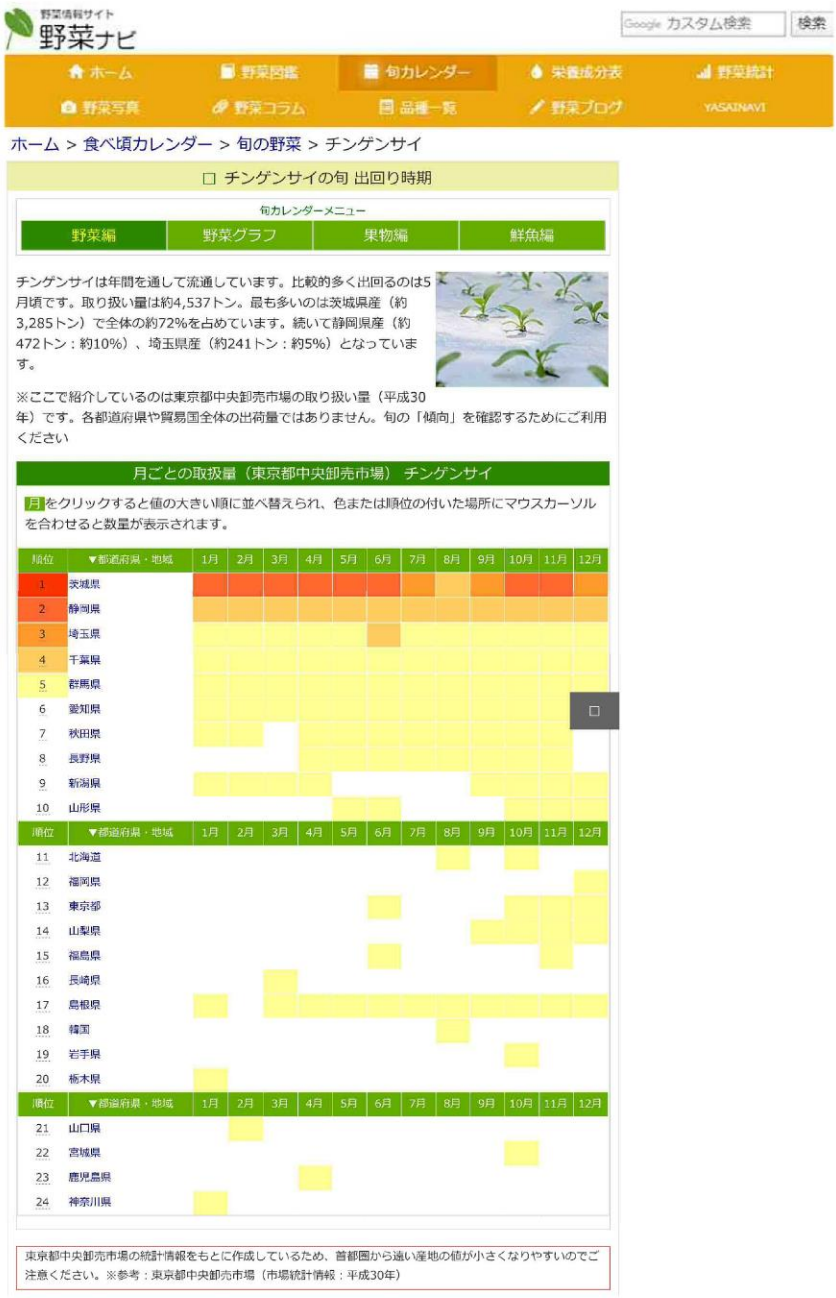


図　2-77　タブレット資料４－月別・地域別の出荷量（野菜ナビ）（35/37）

図　2-78　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（36/37）

図　2-79　タブレット資料４－月別･地域別の出荷量（野菜ナビ）（37/37）

図　2-80　タブレット資料５－トラック輸送に関する新聞記事（1/5）

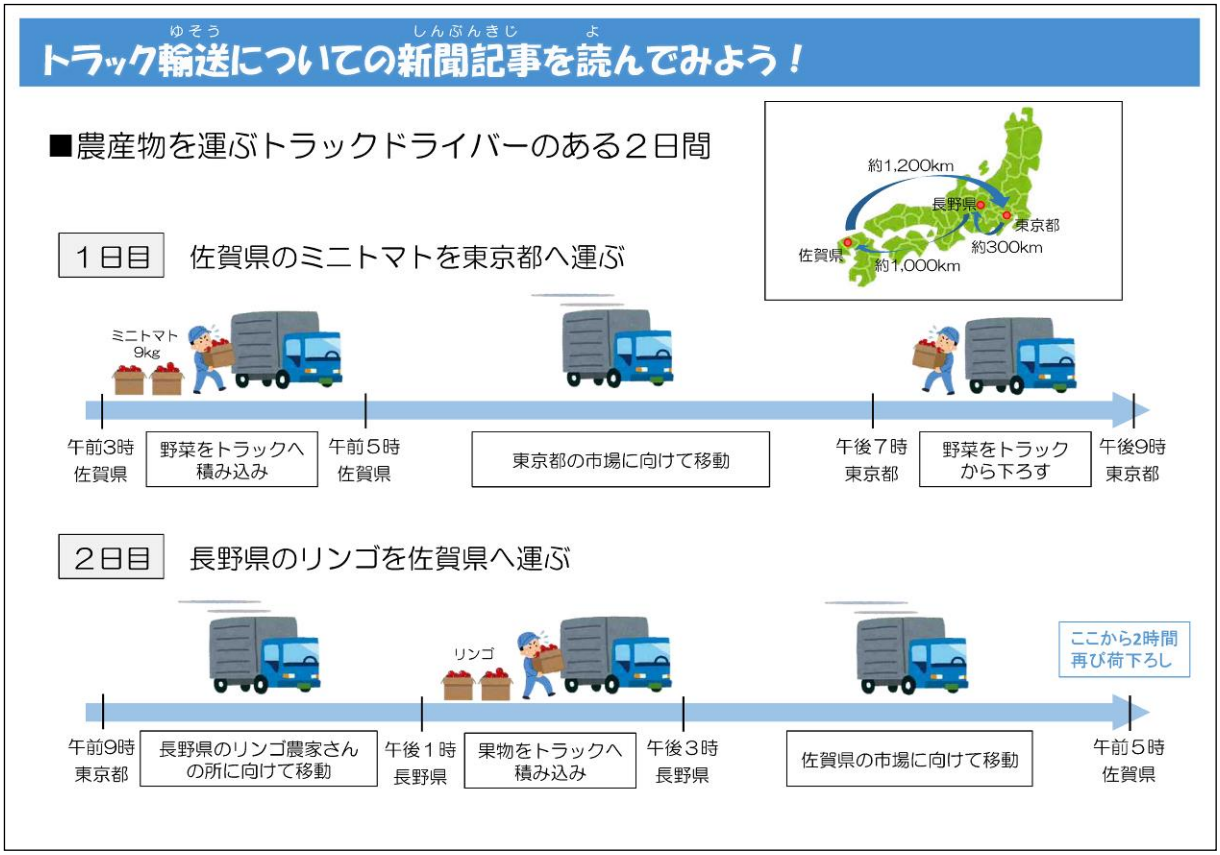


図　2-81　タブレット資料５－トラック輸送に関する新聞記事（2/5）

トラック輸送についての新聞記事を読んでみよう！

■農産物の積み込みや輸送はすごく大変！？

トラックドライバー

- 荷物の積み込み、荷下ろしは全て手作業なのでとっても大変！
- しかも、荷物の積み下ろしは、お金をもらわずにサービスでやっています。

トラック輸送会社

- 農産物の輸送は、他の荷物より大変！
- 農産物の輸送をやめる会社が増えてきています。

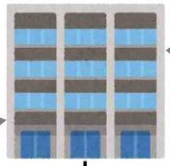
図　2-82　タブレット資料５－トラック輸送に関する新聞記事（3/5）

トラック輸送についての新聞記事を読んでみよう！

■トラック輸送会社の負担を軽くするために…

厚生労働省　（みんなが働きやすい環境をつくる組織）

2024年には、トラックドライバーの働ける時間の上限を定めます！



農家や市場がトラック会社に荷物の無理な大変すぎる積み下ろしを強制しないように指導します！

農 家

トラック輸送会社

市 場

トラック輸送会社

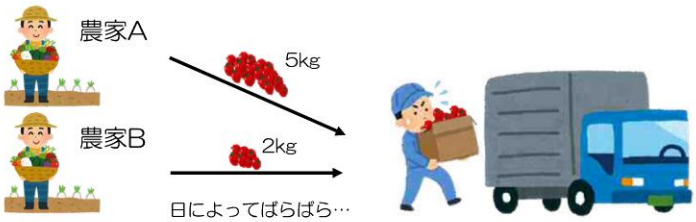
- ドライバーの負担が減るのはよいのですが、最近は新しくドライバーになってくれる人も少ないのでますます運ぶのが難しくなっています。
- みんなが変わらないと、５年以内に九州から東京へ農産物を運べなくなってしまいます。

図　2-83　タブレット資料５－トラック輸送に関する新聞記事（4/5）

トラック輸送についての新聞記事を読んでみよう！

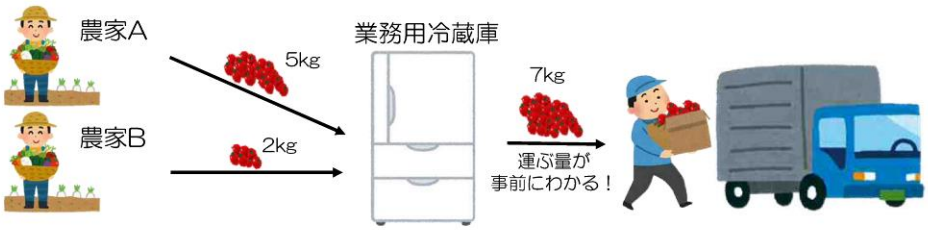
■やり始めていること

今までの輸送　運ばなければならない野菜の量が当日にわかる



➡ 荷物の積み下ろしにどれだけ人手や時間が必要かがわからない

今後の輸送　農家から届いた野菜を業務用冷蔵庫で一度保存し、翌日出荷



➡ 運ぶ量が事前にわかるため、人手や時間に余裕をもって積み下ろしができる！

図　2-84　タブレット資料５－トラック輸送に関する新聞記事（5/5）

④先生用説明資料

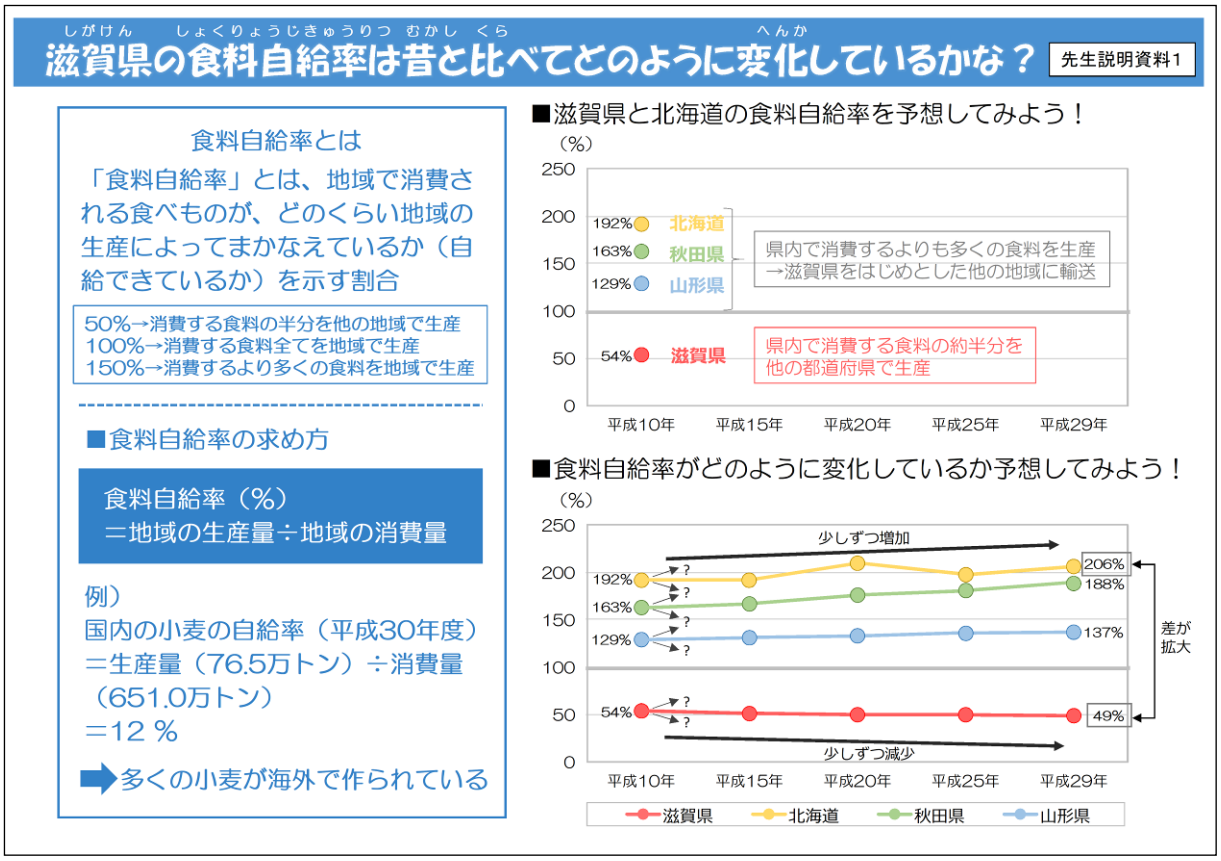


図　2-85　5年生の先生説明資料（1/8）

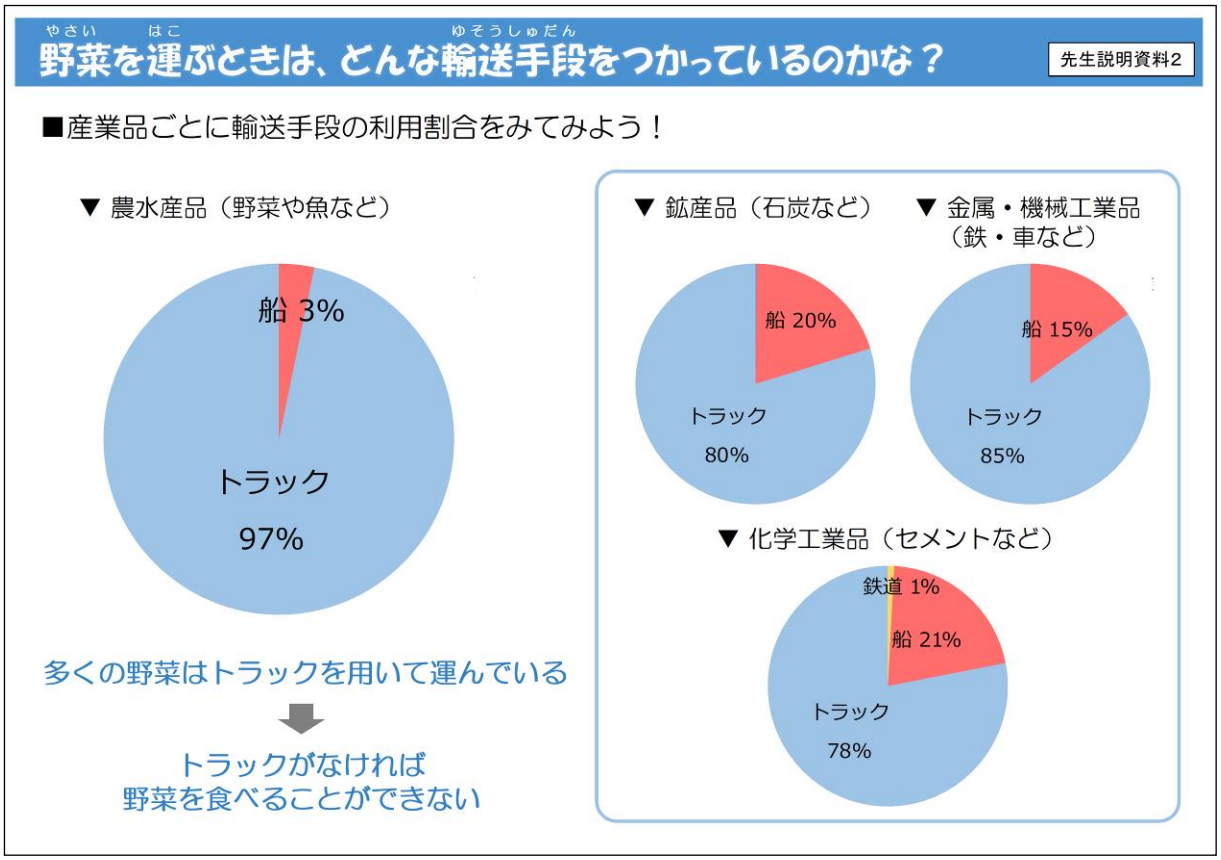


図　2-86　5年生の先生説明資料（2/8）

図　2-87　5年生の先生説明資料（3/8）

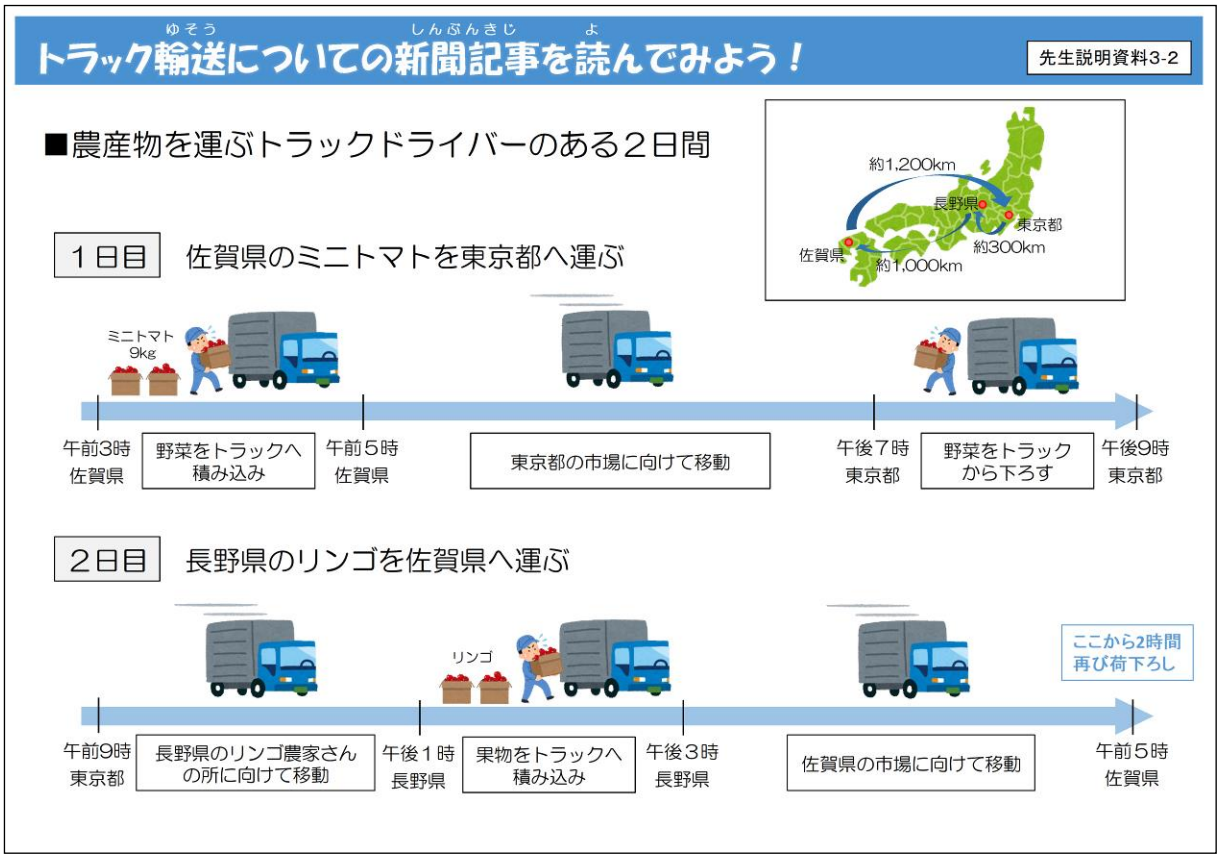


図　2-88　5年生の先生説明資料（4/8）

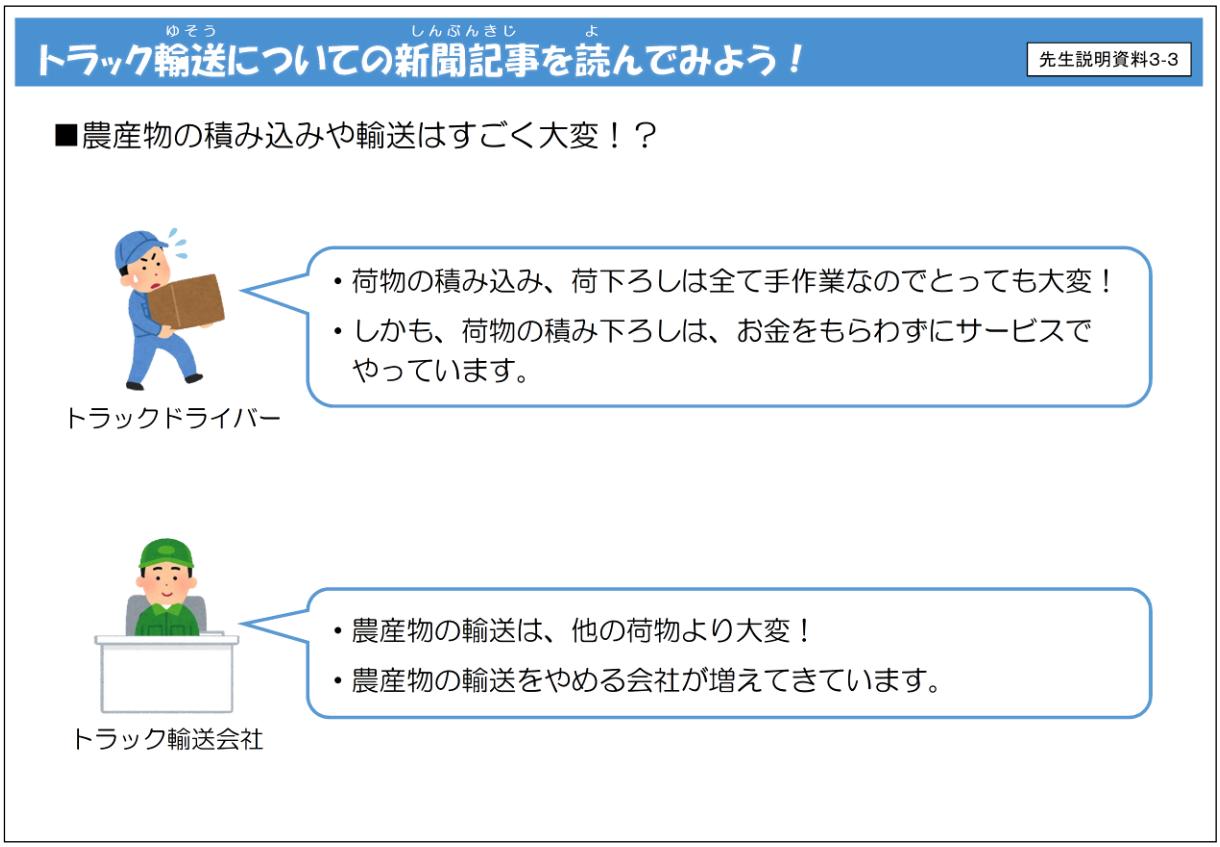


図　2-89　５年生の先生説明資料（5/8）

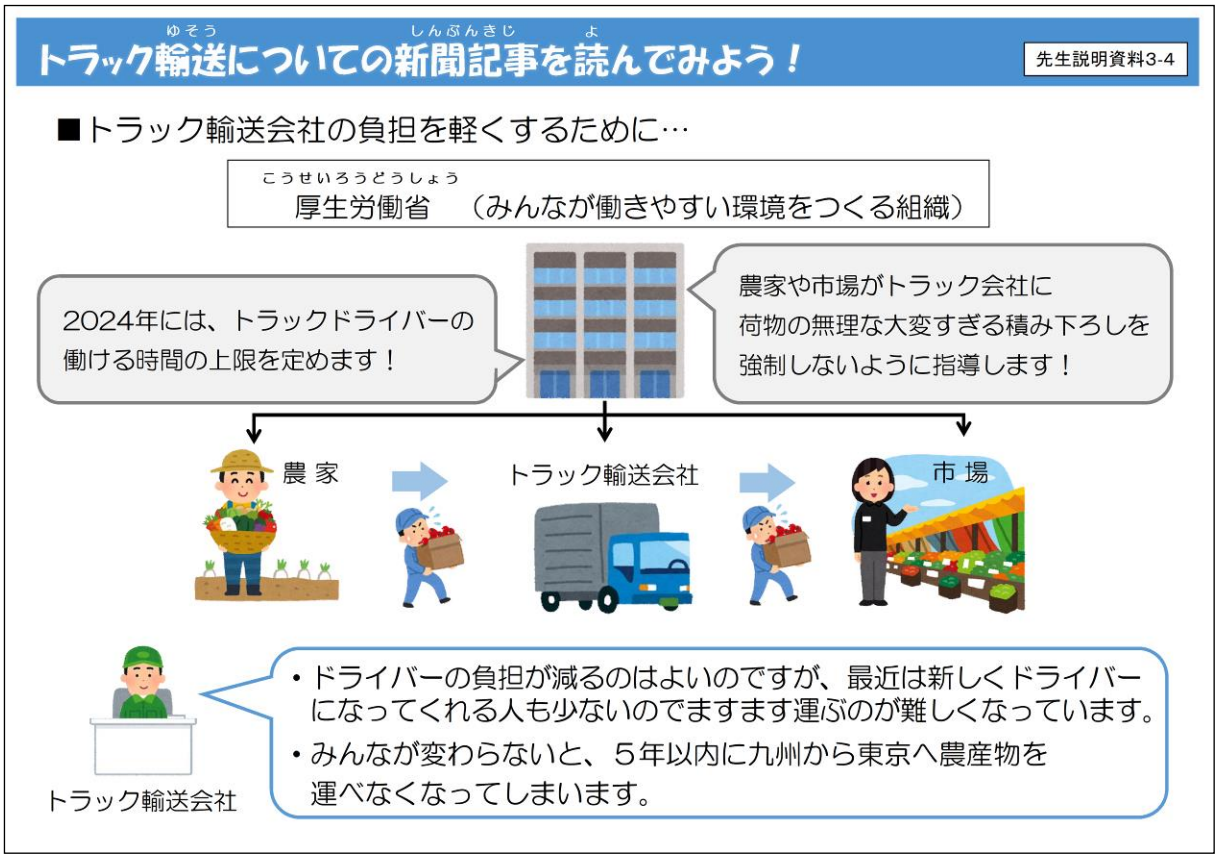


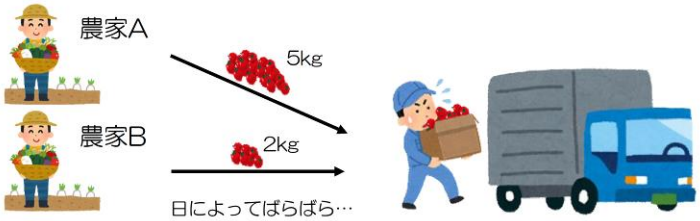
図　2-90　５年生の先生説明資料（6/8）

トラック輸送についての新聞記事を読んでみよう！

先生説明資料3-5

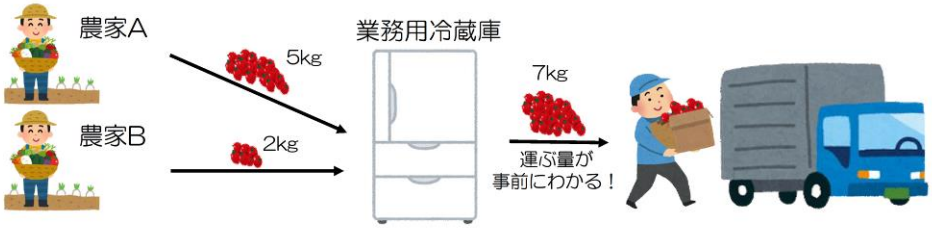
■やり始めていること

今までの輸送　運ばなければならない野菜の量が当日にわかる



➡ 荷物の積み下ろしにどれだけ人手や時間が必要かがわからない

今後の輸送　農家から届いた野菜を業務用冷蔵庫で一度保存し、翌日出荷



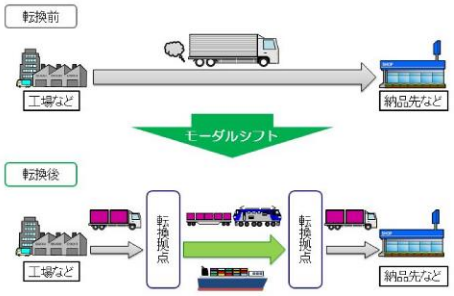
➡ 運ぶ量が事前にわかるため、人手や時間に余裕をもって積み下ろしができる！

図　2-91　5年生の先生説明資料（7/8）

トラック輸送についての新聞記事を読んでみよう！

先生説明資料3-6

■そのほかの取り組み



モーダルシフト

ダブル連結トラック

自動運転によるトラック隊列走行

図　2-92　5年生の先生説明資料（8/8）

⑤参考資料

図 2-93 参考資料－トラック輸送に関する新聞記事（日本農業新聞）（1/2）

図　2-94　参考資料－トラック輸送に関する新聞記事（日本農業新聞）（2/2）

野菜種類	【資料1】 滋賀県産野菜の出荷量 滋賀県での生産有無（２月） ※0より大きいものを記載	【資料2】 各野菜の生産地 滋賀県産以外の生産地 ※（　）は詳細な品種を記載	【資料3】 野菜の旬の季節 旬の季節 ※春：3～5月・夏6～8月・秋9～11月・冬12～2月とし、3ヶ月合計で生産量が一番多い季節を記載）	【資料4】 月別・地域別の出荷量 最での取扱量が多い地域 ※判別がしにくいものは複数記載	備考
トマト		熊本県,静岡県（アメーラルピンス）,熊本県（塩トマト）,高知県（シュガートマト）,広島県（ミディトマト）,島根県（ミディトマト）,広島県（サラダプラム）,山梨県（高リコピントマト）,広島県（ラウンドレッド）	夏（34）	熊本県	
ミニトマト		岐阜県,熊本県,宮崎県	春（28）	熊本県,北海道,茨城県	
はくさい		茨城県	秋（34）,冬（34）	長野県	
きゅうり		宮崎県	夏（30）春（29）	福島県	
だいこん		千葉県	秋（28）,冬（28）	北海道	
ピーマン		宮崎県	春（30）,夏（27）	茨城県	
なす		高知県	夏（47）	群馬県,栃木県	
おおば		愛知県,和歌山県	夏（27）,春（26）	愛知県	
ながいも		青森県	夏（29）	青森県	
れんこん		茨城県	秋（35）,冬（35）	茨城県	
みず菜	○	福岡県	春（30）	茨城県	
こまつな		福岡県,兵庫県	秋（28）,春（27）	茨城県	
ねぎ	○	埼玉県（長白ねぎ）,奈良県（青ねぎ）,福岡県（薬味ねぎ）,鹿児島県（きざみねぎ）,京都府（九条きざみねぎ）,群馬県（きざみ薬味ねぎ）,富山県（きざみねぎ）	冬（67）	茨城県	【資料2】関東では「長ネギ」=「白ねぎ」=「根深ねぎ」、関西では「葉ネギ」=「青ねぎ」
チンゲンサイ		静岡県	春（28）	茨城県	
しゅんぎく		大阪府（きくな）	冬（45）	茨城県,岩手県	【資料2】春菊は一般的、きくなは関西の呼び名
とうもろこし		ニュージーランド（真空とうもろこし）	夏（72）	茨城県,千葉県	
オクラ		タイ	夏（54）	鹿児島県	
たけのこ	○		春（92）	鹿児島県,中国	【資料1】2月の生産滋賀県100%
とうがらし			夏（44）	京都府	
ごぼう		青森県（太ごぼう）,北海道（ささがきごぼう）,鹿児島県（新ごぼう）	冬（32）,秋（31）	群馬県	
キャベツ		千葉県	春（28）	群馬県	
しそ			夏（87）	群馬県	
ほうれんそう		福岡県,群馬県（ちぢみほうれんそう）	秋（28）春（27）	群馬県,茨城県	
たまねぎ		北海道,兵庫県	春（29）	佐賀県	
かぶ	○	福岡県（玉かぶら）,青森県（小かぶ）	春（28）,冬（28）	千葉県	
さつまいも		茨城県	冬（32),秋（31）	千葉県,茨城県	
にんじん		熊本県,長崎県	春（27）,秋（26）	千葉県,北海道	
アスパラガス		タイ（ミニアスパラガス）,メキシコ	春（35）	栃木県	
にら		宮崎県	春（30）	栃木県,茨城県,山形県	
まめもやし		長野県	秋（26）,春（25）,夏（24）	栃木県,福島県,群馬県,千葉県	
レタス		鹿児島県,兵庫県（ピュアベール,フリルアイ	夏（29）	長野県	
サニーレタス		福岡県	夏（26）,秋（25）	長野県	
ブロッコリー		徳島県	春（29）,冬（28）	北海道	
男爵			秋（36）	北海道,静岡県	
メークイン		北海道	秋（31）	北海道,千葉県,静岡県	
さといも		愛媛県	秋（38）	宮城県	
かぼちゃ	○	メキシコ	秋（28）	メキシコ,茨城県	
くわい			冬（81）		
ラディッシュ			春（30）,冬（29）		
グリーンボール			春（45）		
グリーンリーフ		福岡県	夏（29）		
さんとうさい			冬（77）		山東菜（さんとうな）
つまみな			春（27）		
こねぎ	○		夏（29）,春（28）		【資料2】小ねぎ…葉ネギを若採りしたものの総称（万能ねぎ…商品名）「万能ねぎ」は「小ねぎ」の仲間で、葉ネギの代表格である「九条ネギ」の一種
わけぎ			春（30）		【資料2】わけぎは「ネギ」と「玉ねぎ」の交配種、一方で「分葱（わけぎ）」は、葉の部分が多く、よく枝分かれするネギの総称
あさつき			冬（59）		【資料2】「エゾネギ」という、もともとは山野に生えていた一種
ふき			春（65）		
うど			春（52）		
根みつば			春（46）		【資料2】「土寄せ」で根のある根みつばで、春先が旬
切みつば			冬（80）		【資料2】根を切り取ってある切り三ツ葉で秋から早春に需要
糸みつば		大分県	冬（28）,春（27）		【資料2】一般的に売られているのは糸みつばで、水耕栽培で年中出まわっており特に旬はない
せり		大分県	冬（54）		
あしたば			春（42）		
セロリ		静岡県	春（27）		
カリフラワー		徳島県	冬（30）		
サラダな			春（29）		
パセリ		長野県	春（29）		
にんにくの芽		中国	春（27）		
タアサイ			冬（37）		
なのはな		福岡県	冬（60）		
レッドキャベツ			春（27）,夏（26）		
メキャベツ			冬（71）		
クレソン			春（27）,冬（28）		
エンダイブ			夏（27）,春（26）		
モロヘイヤ			夏（63）		
サンチュ			春（28）,夏（27）		
くうしんさい		岐阜県（空心菜の新芽）	夏（49）		
ズッキーニ			夏（48）		
こなす			夏（47）,秋（46）		
べいなす			夏（43）		
ながなす			夏（34）,春（31）		
パプリカ		韓国	夏（31）		
ししとう		高知県	夏（37）		
とうがん			夏（63）		
しろうり			夏（72）		
ゴーヤ（レイシ）			夏（56）		
いんげん		鹿児島県	夏（29）		
さやえんどう			春（45）		さやえんどうときぬさやえんどうは、同じもの。
きぬさやえんどう		和歌山県	春（40）		さやえんどうは関西、きぬさやえんどうは関東の呼び名
グリーンピース			春（53）		
そらまめ			春（73）		
えだまめ			夏（69）		
セレベス			冬（52）,秋（47）		
京いも			冬（59）,秋（38）		
やつがしら			冬（90）		
やまといも			夏（27）,秋（26）,冬（26）		
にんにく		中国,青森県	春（27）,冬（26）		
らっきょう			夏（53）,春（46）		
エシャレット			夏（34）		小型たまねぎの一種で香味野菜が「エシャロット」、若採りのらっきょうは「エシャレット」なので全く別種の野菜
ゆりね		北海道	冬（50）,秋（46）		
ベコロス	○		秋（31）,冬（31）		【資料2】2月の生産滋賀県100%
アーリーレッド			秋（29）		
わさび			春（26）,夏（26）		
根しょうが		高知県	夏（36）		根生姜とは、老成生姜（ひねしょうが）の事で、固くて繊維質の歯ごたえがあって、辛味が強い

図 2-95 参考資料－野菜生産地一覧表（1/2）

葉しょうが			夏（59）		「谷中生姜」としても知られる小生姜を、葉っぱが付いている状態のまま、若取りしたもののことを「葉生姜（はしょうが）」で茎のところがピンク色に色づいている特徴
たで			春（26），夏（25）		
かいわれ		三重県	夏（27），春（25）		
ほじそ			夏（26），春（25），秋（24），冬（24）		しそは葉を利用するのが一般的で、花穂（かすい）も食用に使え、花をつけたものは「花穂じそ（はなほじそ）」で、花が終わって実が熟す前のものは「穂じそ」と表記
みょうが		高知県	夏（53）		ミョウガは地下に地下茎を伸ばして広がり、地表に伸びている葉が付いた茎の様なものは茎ではなく偽茎と言われるもので一般的にミョウガとしてよく知られている赤い芽の様なものは、ミョウガの花のつぼみのようなもの
みょうがたけ			春（54），夏（39）		ミョウガに対しミョウガタケは、土を盛るなどして偽茎と呼ばれる葉の部分を軟化栽培した竹の子のようなもの
ぼうふう			春（46）		
もろきゅうり			夏（53）		
ふきのとう			春（56）		
食用菊			秋（52）		
ベビーリーフ		静岡県（ベビーリーフハーブミックス）	春（28）		
しいたけ	○	北海道（生しいたけ），徳島県（生しいた	冬（30），秋（28）		
まいたけ		新潟県	秋（77）		
なめこ		新潟県	春（26），秋（25），冬（25），夏（24）		
えのきだけ		新潟県	冬（30）		
しめじ		香川県（ぶなしめじ），福岡県（ホワイトぶなしめじ），長野県（ぶなしめじ）	秋（27），冬（27）		
マッシュルーム		—	秋（26），冬（26），春（25），夏（24）		
まいたけ		新潟県	秋（28），冬（28）		
エリンギだけ		広島県	秋（27），冬（26）		
わらび			春（50）		
山うど			春（60）		
たらの芽			春（58）		
ぎんなん			秋（64）		
ほしだいこん			冬（63）		ほしだいこんと切干だいこんの違いはわからず
切干だいこん		広島県（千切大根）	冬（41）		切干大根は関西、千切り大根は関東
かんそういも		—	冬（52）		
ほししいたけ		—	冬（32）		
たけのこ水煮		中国（たけのこ水煮）	春（32）		
ぜんまい水煮			春（27），冬（26）		
しなちく			秋（27），春（26），冬（25），夏（24）		

図 2-96 参考資料－野菜生産地一覧表（2/2）

■5年生・社会科「物流」

資料	図表名称	出典			
		出典名称	ページ数	公表日・確認日	URL
先生説明資料1	食料自給率とは	ニッポン食べもの力見っけ隊	1	平成27年10月	https://www.maff.go.jp/j/pr/annual/kodomo.html
	各都道府県の食料自給率	都道府県別食料自給率の推移（カロリーベース、生産額ベース）	－	平成29年度	https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/zikyu_10.html
先生説明資料2	産業品ごとの輸送手段の利用割合	品目別輸送機関別貨物量 貨物地域流動調査・旅客地域流動調査 / 貨物地域流動調査 / 貨物地域流動調査（e-Stat 政府統計の総合窓口）	－	平成29年度	https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&query=%E7%B7%8F%E6%8B%AC%E8%A1%A8%E3%80%80%E5%93%81%E7%9B%AE%E5%88%A5%E8%BC%B8%E9%80%81%E6%A9%9F%E9%96%A2%E5%88%A5%E8%B2%A8%E7%89%A9%E9%87%8F%E3%80%80%E5%B9%B3%E6%88%9029%E5%B9%B4%E5%BA%A6&layout=dataset&toukei=00600460&tstat=000001016695&stat_infid=000031817427&metadata=1&data=1
先生説明資料3-1	【新聞記事】疲弊する青果物輸送 5年で運べなくなる	日本農業新聞	－	令和1年12月16日	https://www.agrinews.co.jp/p49503.html
先生説明資料3-6	モーダルシフト	モーダルシフトとは	－	令和2年1月	http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/modalshift.html
	ダブル連結トラック	ダブル連結トラックによる共同輸送が始まります！	－	令和2年1月	https://www.mlit.go.jp/report/press/20190328_SF25.html
	自動運転によるトラック隊列走行	高速道路におけるトラック隊列走行の公道実証を実施します	－	令和2年1月	https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000306.html
タブレット資料1	滋賀県産の野菜かどうか	滋賀県の旬（出回り時期）野菜編	－	令和2年1月	https://www.yasainavi.com/calendar/yasaipref/pr=25
タブレット資料2	生産地はどこか	イオンネットスーパー イオン草津店	－	令和2年1月	https://shop.aeon.com/netsuper/01050000023240/search/?q=%E9%87%8E%E8%8F%9C
タブレット資料3	野菜の旬の時期はいつか	食べ頃カレンダー 旬の野菜	－	令和2年1月	https://www.yasainavi.com/calendar/
タブレット資料4	夏の時期ではどこでつくられているか	※上記ページの具体的な野菜名称をそれぞれクリック	－	令和2年1月	
タブレット資料5	【新聞記事】疲弊する青果物輸送 5年で運べなくなる	※先生説明資料3-1と同様			
参考		野菜をめぐる情勢	－	令和1年12月	https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/yasai/
		農産品物流の改善・効率化に向けて	－	平成29年3月	https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/buturyu.html
		府県相互間輸送トン数表（自動車） 貨物地域流動調査・旅客地域流動調査 / 貨物地域流動調査 / 貨物地域流動調査（e-Stat 政府統計の総合窓口）	－	平成29年度	https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00600460&kikan=00600&tstat=000001016695&cycle=8&year=20171&month=0&tclass1=000001067614&stat_infid=000031817428&result_back=1&result_page=1

図 2-97 データ等の出典一覧

３）６年生・総合的な学習　空き家・コミタク（土山小学校）

（a）今年度の位置付け

２ 年生～5 年生までの学習のまとめとして、６年生で自分たちが住むまちを将来どうしていけばよいかを考えていくことを踏まえると、交通素材がどのようにまちのあり方を考える視点を提供し得るかを検討する必要がある。

これに関連し、対象校から地域の問題となっている空き家について、学習したいというニーズがみられた。また、空き家にも関わる取り組みとして、甲賀市がコミタクを導入したこともあり、空き家＋コミタクを題材とした学習プログラムを検討することとした。

表 2-15 土山小学校の考え・意向（再掲）

実施学年	６年生
実施教科	総合的な学習
単元	空き家、コミタク
学習のねらい	空き家の現状や公共交通の仕組みを通して、地域の実態を理解する
その他のニーズ	・現在、土山地域では空き家対策が問題となっており、宿場まつり等のイベントでは空き家を活用して展示会やスタンプラリー等を実施する取組が行われている。小学校としても空き家に着目した学習を進めていきたいと考えているが、現在は宿場町や街道等に関する学習にとどまっている。 ・今年度の６年生の総合的な学習では２時間でもよいので、空き家を通して地域を考える学習を行いたいと考えている。 ・地域の新たな移動手段としてコミタクが運行されるようになったので、この機会をいかしてコミタクはどのような交通手段なのか、なぜそれが運行されるようになったのかということも学んでほしいと考えている。

（b）**交通学習プログラムの検討**

a）交通素材を活用した学習の流れ

学校との意見交換を踏まえ、学校で取り組みたいと考えている空き家とコミュニティタクシーに着目した学習プログラムを検討・試行することとした。

コミュニティタクシーの仕組みを通して地域の実態を理解することをねらいとして、空き家の発生状況から交通の不便さがその要因のひとつになっていることを知り、コミュニティタクシーの事例を踏まえて、地域をよくするためにできることを考える内容とした。

以下に学習の流れを示す。

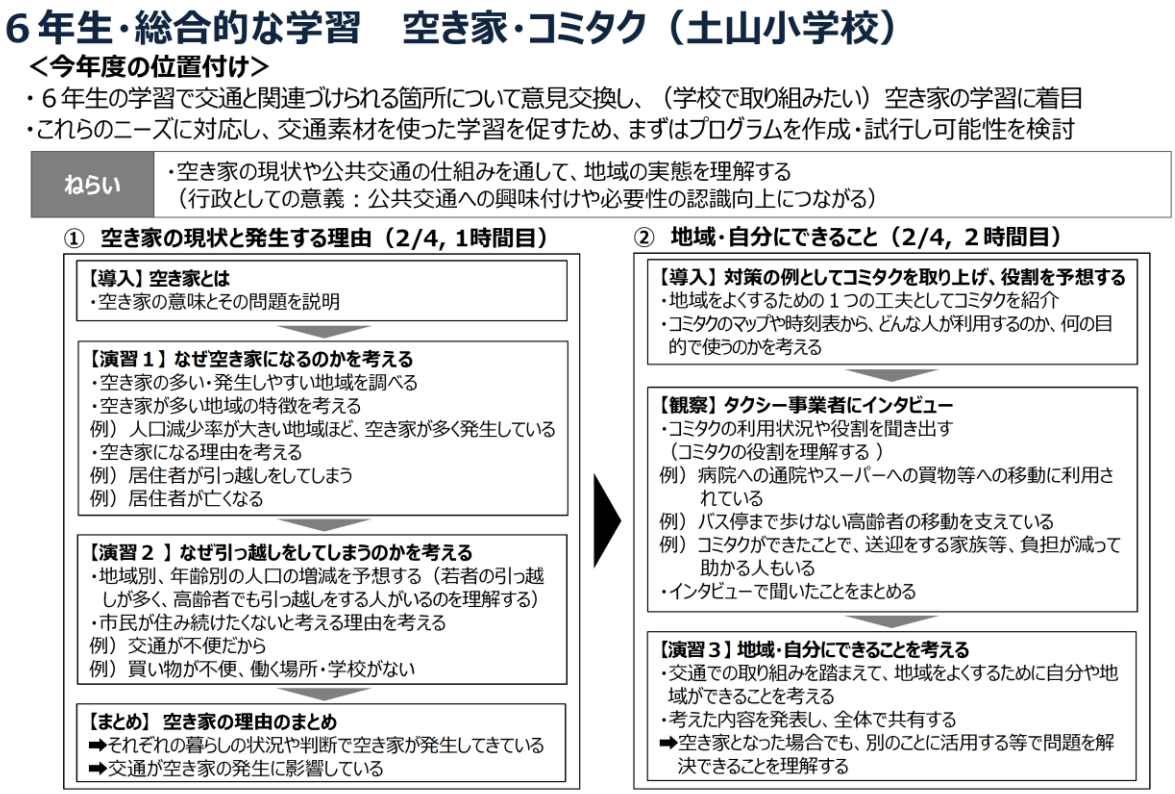


図　2-98　学習の流れ

b）学習の準備

①インタビューの準備

滋賀タクシーおよび甲賀市担当者にコミュニティタクシーの導入背景や利用状況について説明を依頼した。

以下に甲賀市担当者が説明に使用した資料を示す。

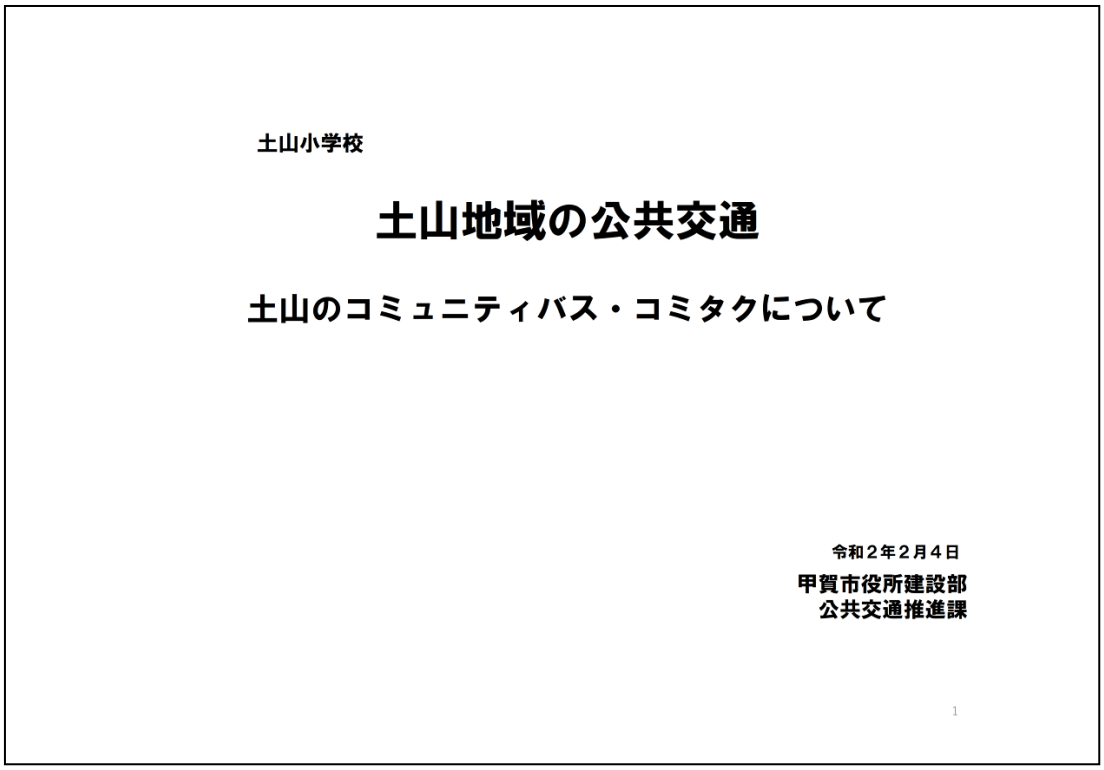


図　2-99　甲賀市担当者の説明資料（1/6）

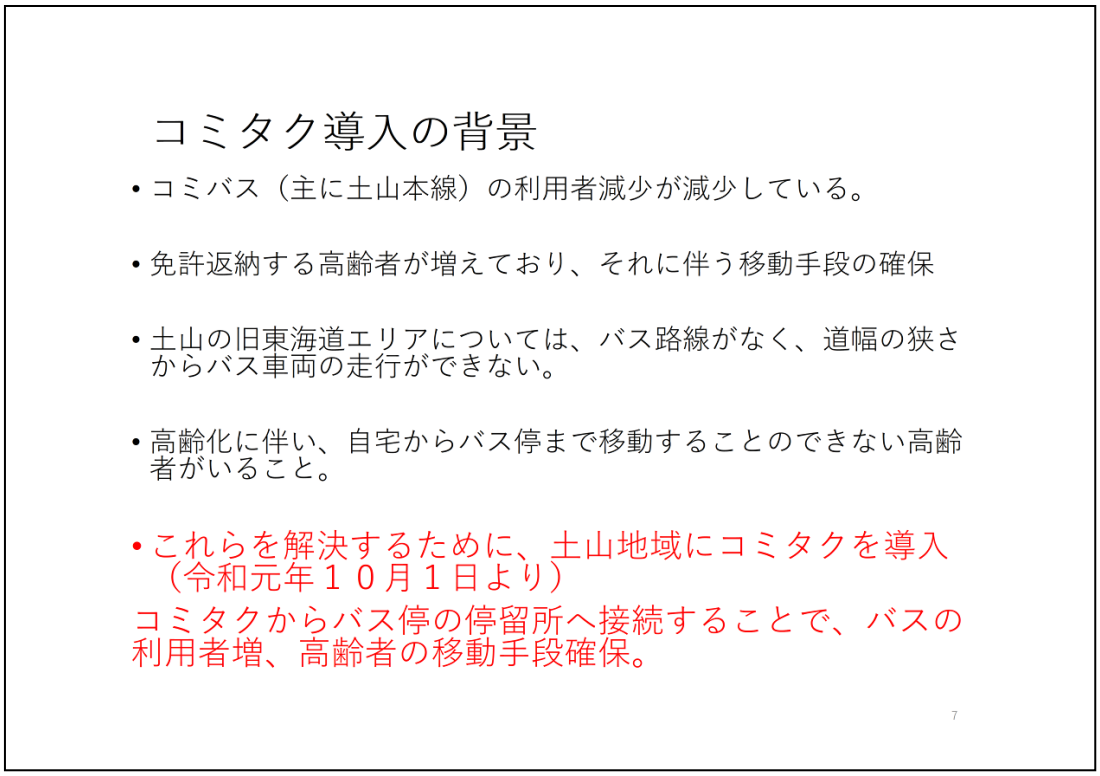


図 2-100 甲賀市担当者の説明資料（2/6）

コミタクとは

コミタク停留所ポール↓

- **タクシー車両を利用した公共交通であり、決められたエリア内の停留所同士を結ぶ形で運行しています。**

- **乗車には事前の予約が必要です。予約がなければ運行しません。**

- **予約のない時は通常のタクシーとして運行しており、予約があった際にはコミタクとして運行されます。**

図　2-101　甲賀市担当者の説明資料（3/6）

土山コミタクエリア図

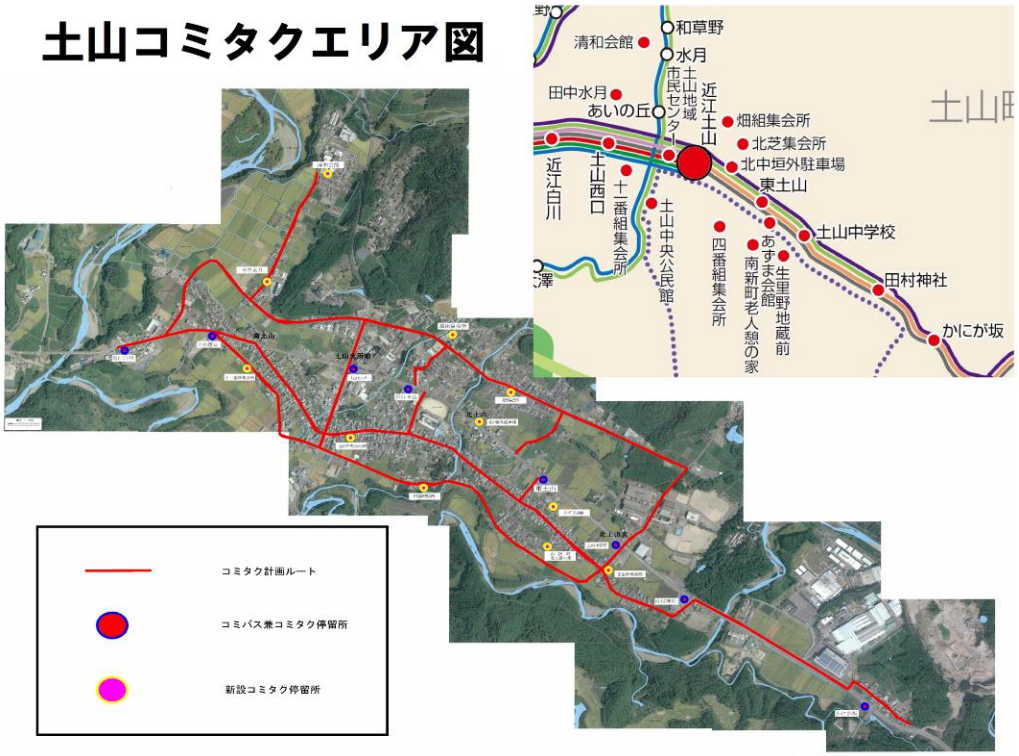


図　2-102　甲賀市担当者の説明資料（4/6）

コミタク概要

- 料金：大人250円　小学生以下130円
- 無料乗車券利用可（７５歳以上高齢者、障がい者）
- 予約受付時間　７：００～２０：００
- 乗りたい時間の２時間前にお電話ください
- 運行時間　８：００～１８：５９
- 土山コミタク予約電話番号　0748-62-0159
- 定められたエリア内の停留所間の移動が可能
- 一人でも予約＆利用可能
- 人数が多い場合は、往復運行もしくは複数台を配車。
- 予約がないと運行しません。

10

図　2-103　甲賀市担当者の説明資料（5/6）

11

図　2-104　甲賀市担当者の説明資料（6/6）

②学習ツールの作成

前項の流れに対応して、指導案形式の展開資料、作業や考察を行うためのワークシート、説明用資料、参考資料等を作成した。

以降に作成した学習ツールを示す。

表 2-16 作成した学習ツールの一覧

学習ツール	用途
①学習指導案	・展開・教材を示した授業案
②ワークシート	・空き家の数が多い・発生しやすい地域を調べる（空き家が多い地域にはどんな特徴があるのか） ・各地域における人口増減・年齢別の人口増減を予想する ・コミタクは誰が何のために使うのかを記入し、タクシー事業者へのインタビュー内容をまとめる ・事例を踏まえて、地域を良くするためにできることを考える
④先生用説明資料	・空き家について ・空き家になる理由 ・空き家になるまでの流れ ・土山地域の空き家の状況
⑤参考資料	・データ等の出典

①学習指導案

６年生 総合学習・空き家、コミタク 学習指導案

１．学習のねらい

・空き家の現状や公共交通の仕組みを通して、地域の実態を理解する。

２．１時間目の学習

課程	学習活動	学習内容	教材	指導上の留意点
導入	**【空き家とは】** ○空き家の意味とその問題を説明	→空き家とはどういうものかを理解する	・先生説明資料１	
展開①	**【空き家はどういう地域で多く発生しているのか】** ○空き家の多い地域、発生しやすい地域を調べる	→主に土山地域、信楽地域に多くなっていることを知る	・ワークシート１ 地域 / 空き家率 水口 2.6% 土山 7.2% 甲賀 5.7% 甲南 3.3% 信楽 6.0%	・まず、空き家（赤点）の数を数える ・その後、世帯数に対する空き家の割合を計算する
	○空き家が多い地域の特徴を考える	→人口減少率が大きい地域ほど空き家が多く発生していることを理解する	・ワークシート２	・空き家の分布図と地域ごとの人口増減図を比較する ・その際、凡例の数値が示す意味を教える
	【なぜ空き家になるのか】 ○空き家になる理由を予想する	→居住者が引っ越しをしてしまうため、空き家が発生してしまうことを理解する	・先生説明資料２	・グラフの空欄にあてはまるものを予想する
	【どういう人がどんな場所へ引っ越しをするのか】 ○地域別、年齢別の人口の増減を予想する	→土山地域からの転出が一番多いことを知る →若者の引っ越しが多く、高齢者でも引っ越しをする人がいることを知る	・ワークシート３ ・先生説明資料３	・各地域における人口増減を予想する。その際、合計が０になること、人口が増える地域があることを伝える。 ・その後、年齢別の人口の増減を予想する。その際、土山地域の-49人の内訳であることを伝える。
	【なぜ引っ越してしまうのか】 ○市民が住み続けたくないと考える理由を紹介	→交通の不便さが要因のひとつになっていることを理解する	・先生説明資料４	・交通の不便さが要因として多いことを挙げ、次の展開につなげる

図 2-105 ６年生の学習指導案（1/2）

３．２時間目の学習

展開②	**【土山をよくするための交通の取り組み】** ○１時間目に学んだ空き家になるまでの流れの振り返り		・先生説明資料５	・交通確保の取組であるコミタクを例として挙げ、次の展開につなげる
	○交通を確保するために行われているコミタクの概要説明	→コミタクとはどういうものかを理解する	・先生説明資料５	
	○コミタクは誰が何のために使うのかを予想する		・ワークシート４	・バスマップと時刻表をみながら予想する
	○コミタクの導入背景、どんな人が何のために使うのかを説明	→主に高齢者の買物や通院等の移動を支えていることを理解する	・甲賀市説明資料	
	○コミタクで働いている人へインタビューを行う	→働いていて困ることやどんな想いで働いているか等を理解する	・ワークシート４	
	【土山をよりよくするために】 ○交通での取組を踏まえて、土山をより良くするために自分や地域ができることを考える →まずは一人で考える →次にグループで考える		・ワークシート５	・空き家にならないようにする、空き家になった場合に問題にならないようにする、という観点で考える
	○考えた内容を発表し、全体で共有	→空き家となった場合でも、別のことに活用する等で問題を解決できることを理解する		
	○まとめ			

図 2-106 ６年生の学習指導案（2/2）

②ワークシート

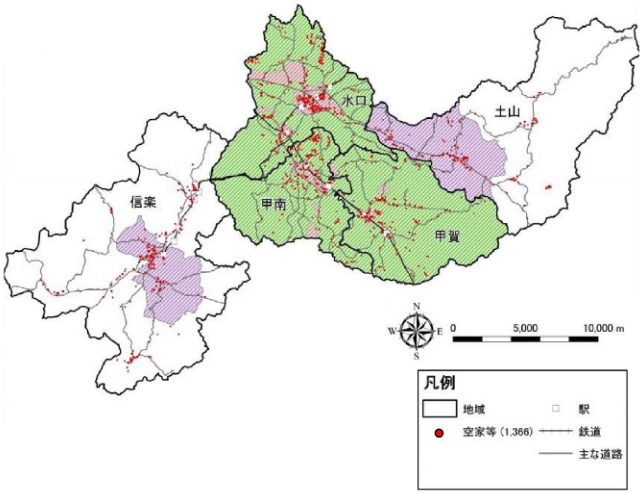
空き家が多く発生している地域はどこかな？

ワークシート1

やって
みよう！

① 空き家の分布状況から、空き家の数が多い地域をさがしてみよう！
② 空き家の戸数と世帯数から空き家率（%）を計算してみよう！
③ ②で計算した空き家率から、空き家が発生しやすい地域を書いてみよう！

▼ 甲賀市内の空き家の分布状況



① 空き家の数が多い地域

② 各地域の空き家率

$$空き家率（\%）= \frac{空き家数}{世帯数} \times 100$$

地域	空き家数	世帯数	空き家率
水口	415	15,705	%
土山	206	2,852	%
甲賀	200	3,484	%
甲南	254	7,641	%
信楽	291	4,883	%

③ 空き家が発生しやすい地域

図　2-107　6年生のワークシート（1/5）

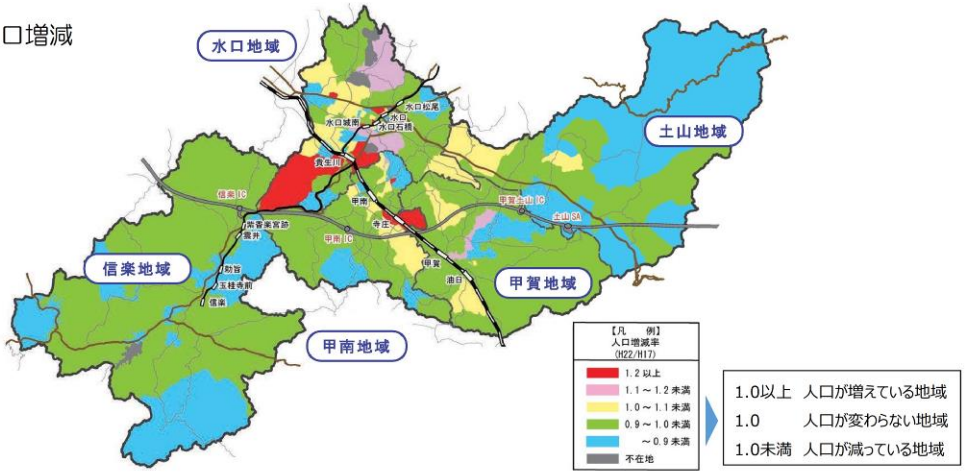
空き家が多く発生している地域は、どんな特徴があるかな？

ワークシート2

やって
みよう！

④ 空き家の分布状況と地域ごとの人口増減を見比べて、
空き家が多く発生している地域はどんな特徴があるか考えてみよう！

▼ 地域ごとの人口増減



■ 空き家が多く発生している地域にはどんな特徴があるかな？

図　2-108　6年生のワークシート（2/5）

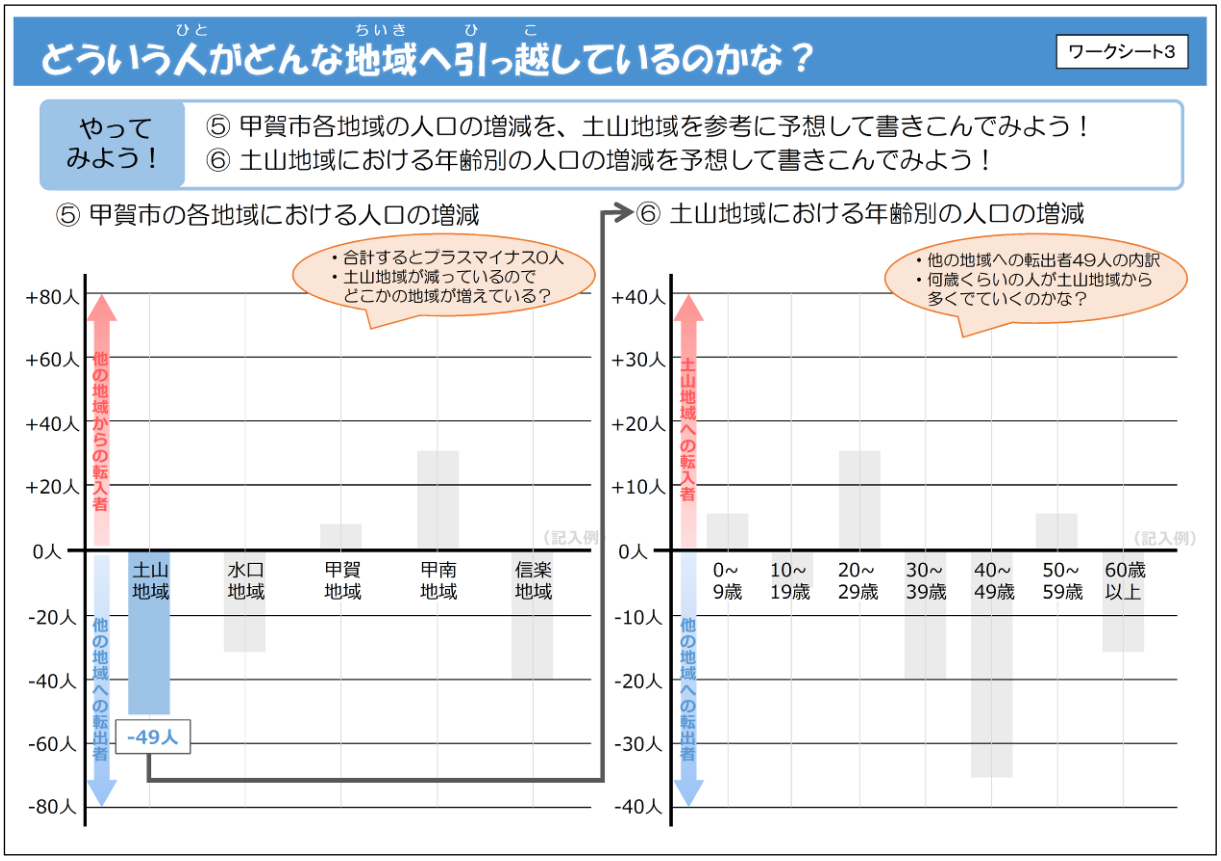


図　2-109　6年生のワークシート（3/5）

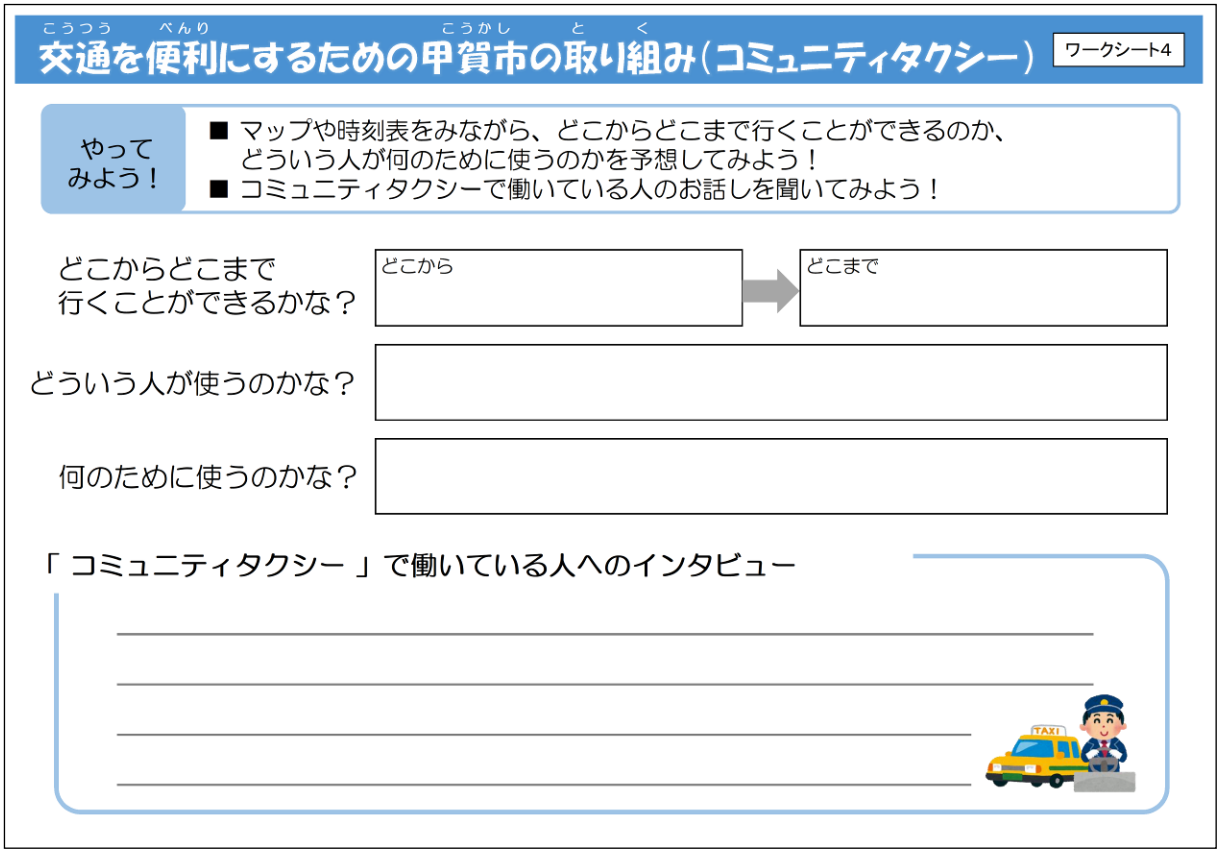


図　2-110　6年生のワークシート（4/5）

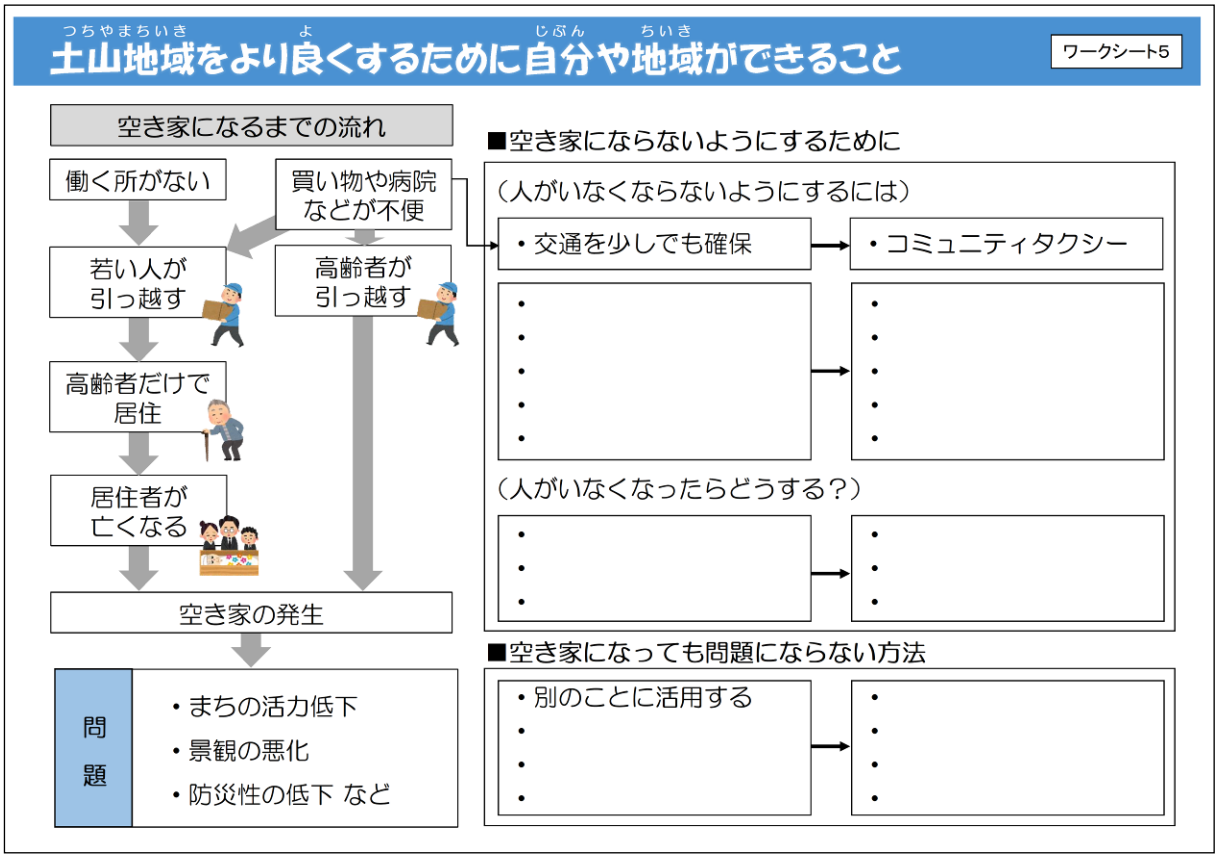
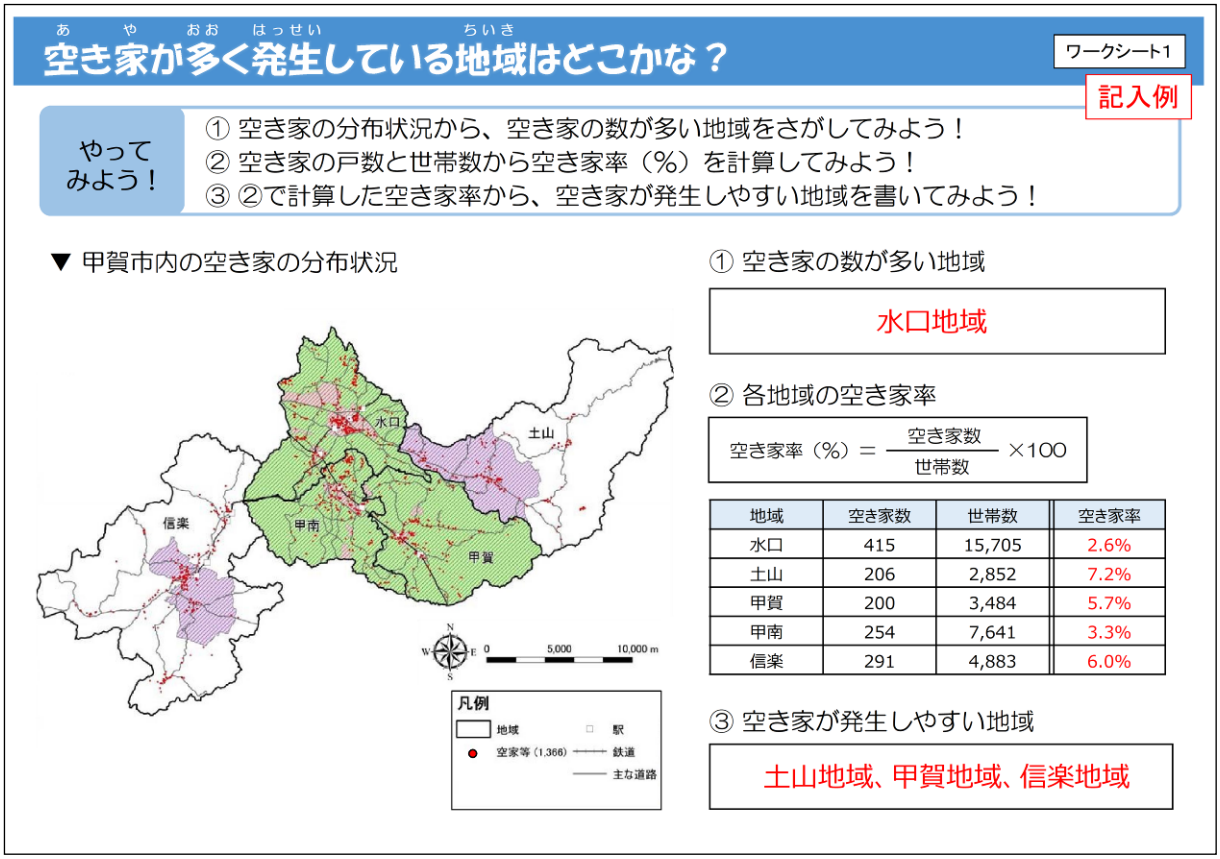


図　2-111　6年生のワークシート（5/5）



地域	空き家数	世帯数	空き家率
水口	415	15,705	2.6%
土山	206	2,852	7.2%
甲賀	200	3,484	5.7%
甲南	254	7,641	3.3%
信楽	291	4,883	6.0%

図　2-112　6年生の指導書サンプル（1/5）

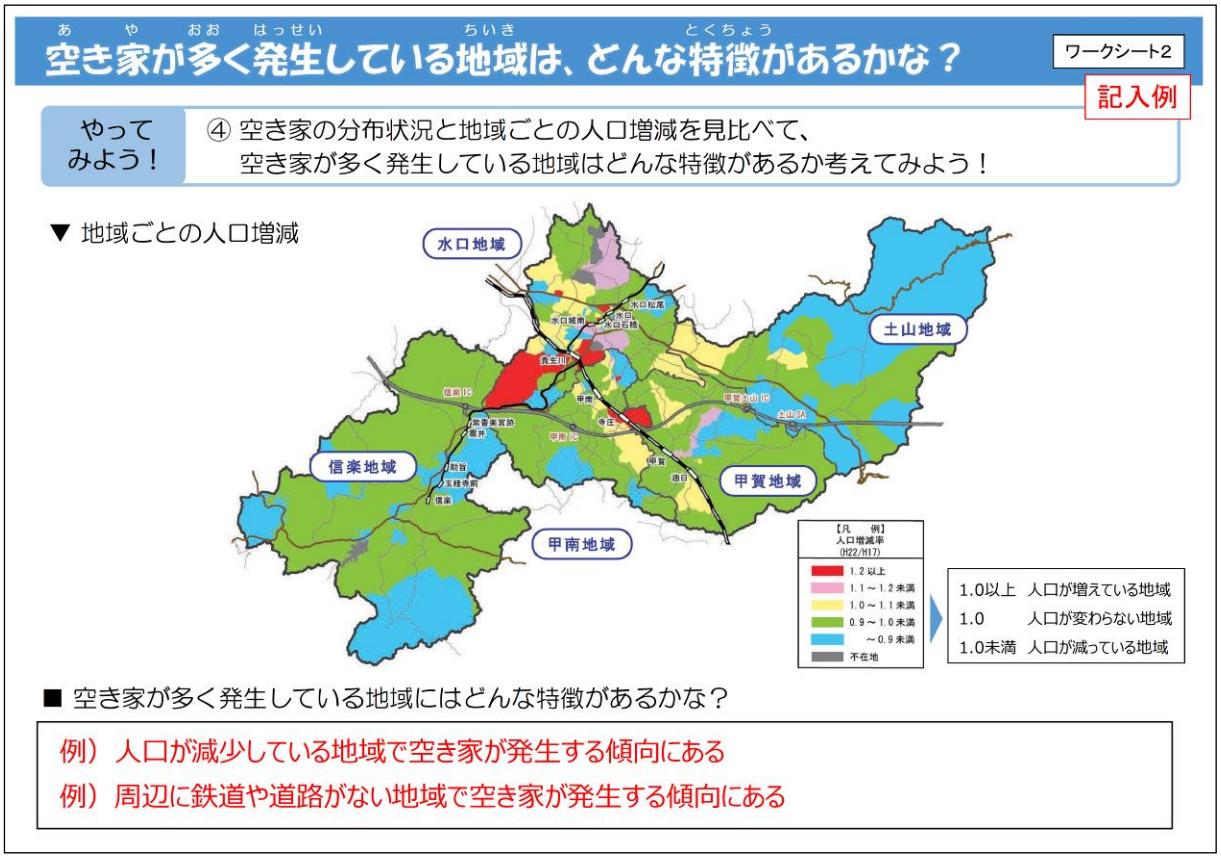


図　2-113　6年生の指導書サンプル（2/5）

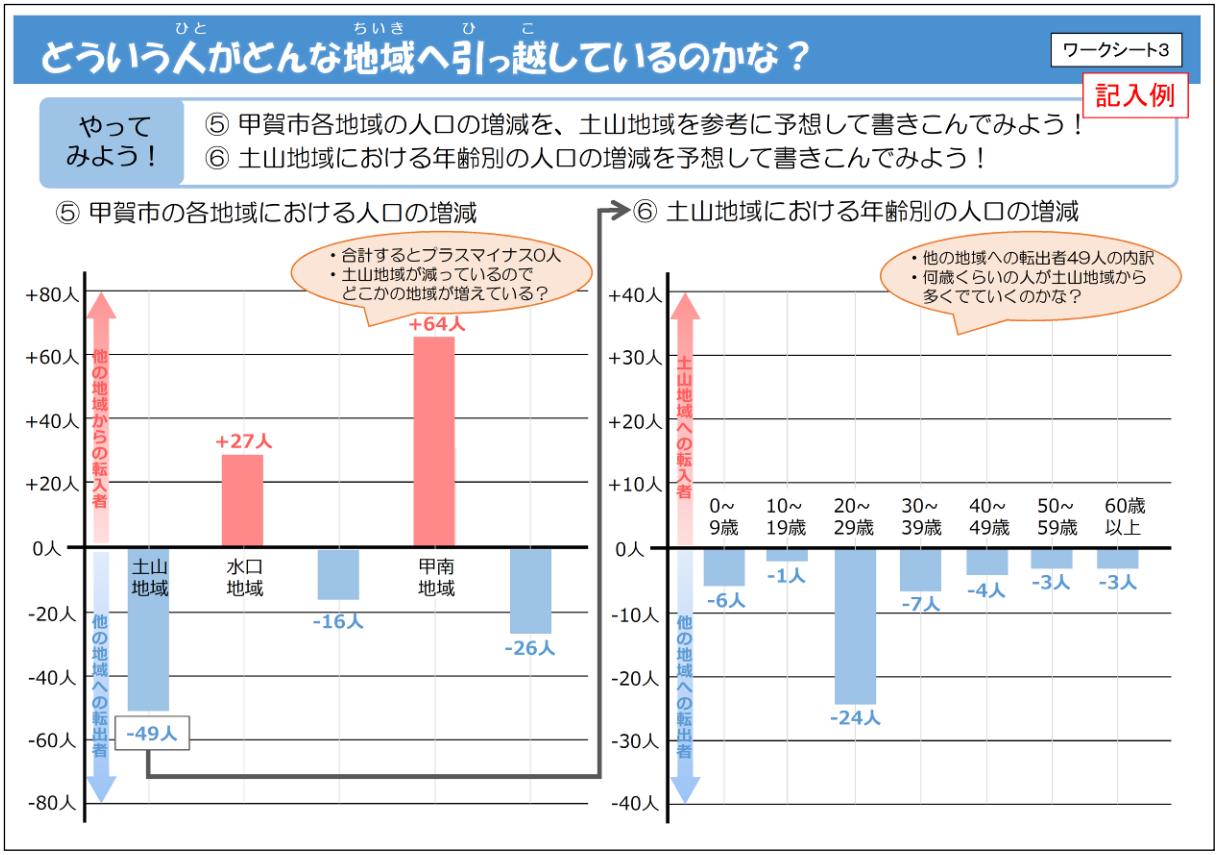


図　2-114　6年生の指導書サンプル（3/5）

交通を便利にするための甲賀市の取り組み（コミュニティタクシー）

ワークシート4

記入例

やってみよう！

■ マップや時刻表をみながら、どこからどこまで行くことができるのか、どういう人が何のために使うのかを予想してみよう！
■ コミュニティタクシーで働いている人のお話しを聞いてみよう！

どこからどこまで行くことができるかな？	どこからどこまで	例）赤い点から赤い点まで 例）●●停留所から××停留所まで 例）停留所からバスが走っていない××会館まで
どういう人が使うのかな？		例）自動車や免許を持っていない人 例）障がい者の人 例）移動が難しい高齢者、お年寄り
何のために使うのかな？		例）病院や買い物を利用するのに 例）水口地域に向かうバスに乗り換えるため

「 コミュニティタクシー 」で働いている人へのインタビュー

図　2-115　6年生の指導書サンプル（4/5）

土山地域をより良くするために自分や地域ができること

ワークシート5

記入例

空き家になるまでの流れ

働く所がない
買い物や病院などが不便
若い人が引っ越す
高齢者が引っ越す
高齢者だけで居住
居住者が亡くなる
空き家の発生

問題
- まちの活力低下
- 景観の悪化
- 防災性の低下 など

■空き家にならないようにするために

（人がいなくならないようにするには）

・交通を少しでも確保	・コミュニティタクシー
•例）病院・買い物施設をつくる •例）まちの安全性をたかめる ・ ・ ・	・例）イオンモール等を誘致 ・例）夜暗いので街灯を増やす ・ ・ ・

（人がいなくなったらどうする？）

•例）滋賀の良い所をもっとアピール ・ ・	•例）水口のアルプラでブース設ける ・ ・

■空き家になっても問題にならない方法

・別のことに活用する ・例）空き家をつぶして活用 ・ ・	・例）カフェやレストランを運営 ・例）空き地に娯楽施設をつくる ・ ・

図　2-116　6年生の指導書サンプル（5/5）

③先生用説明資料

図　2-117　6年生の先生説明資料（1/6）

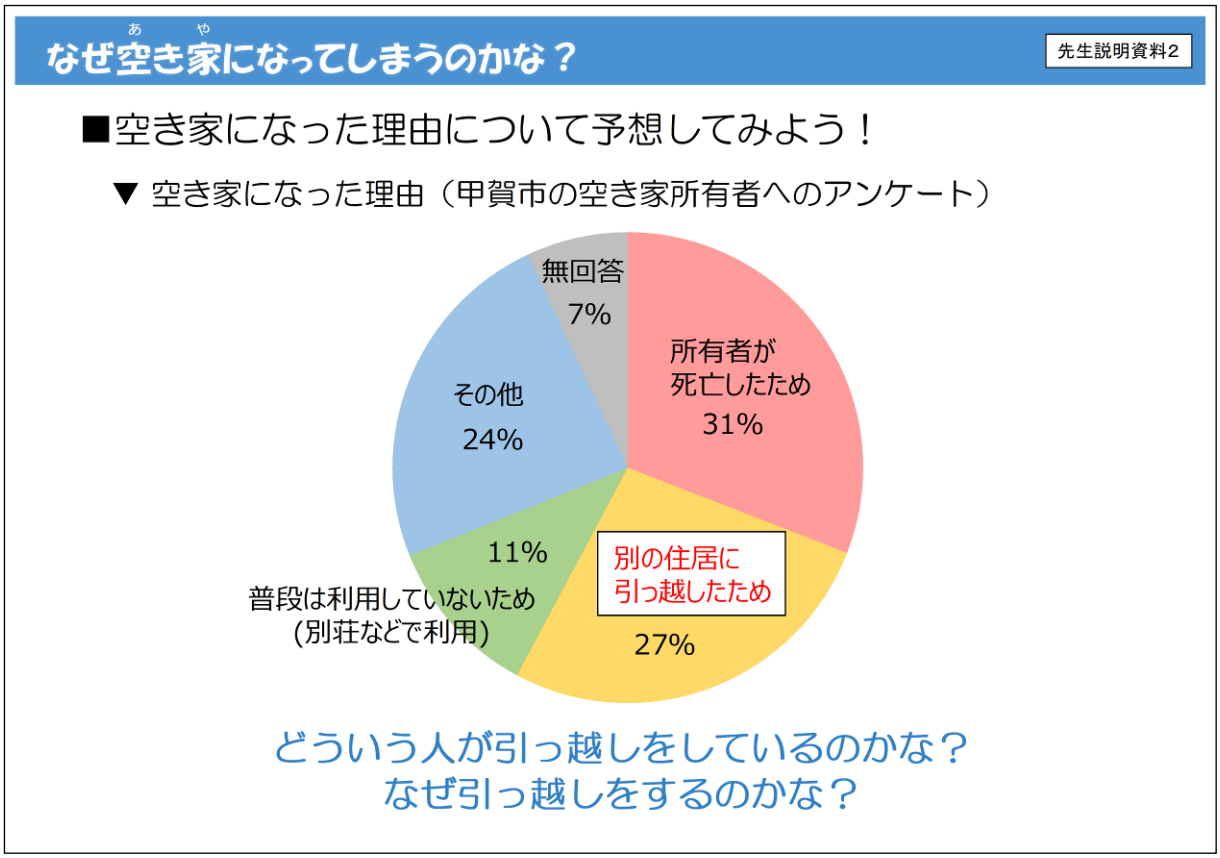


図　2-118　6年生の先生説明資料（2/6）

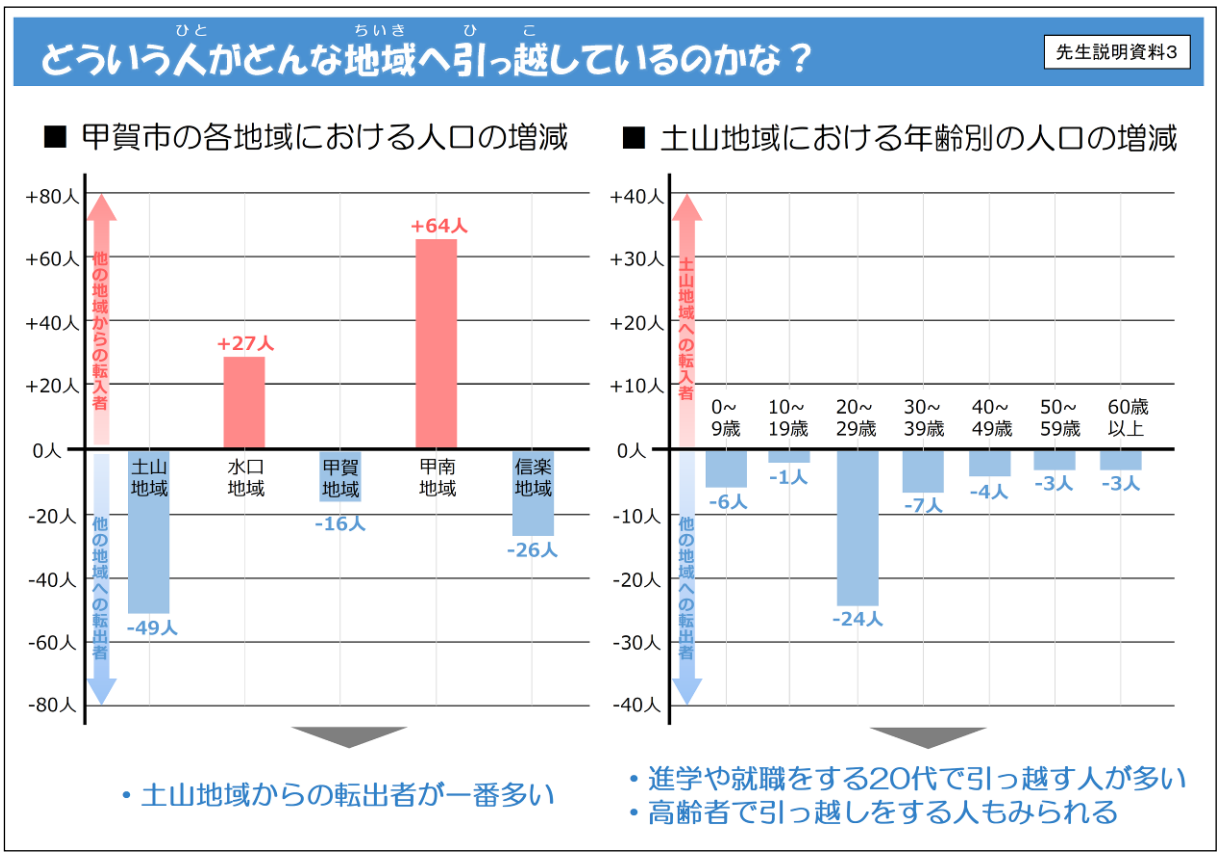


図　2-119　6年生の先生説明資料（3/6）

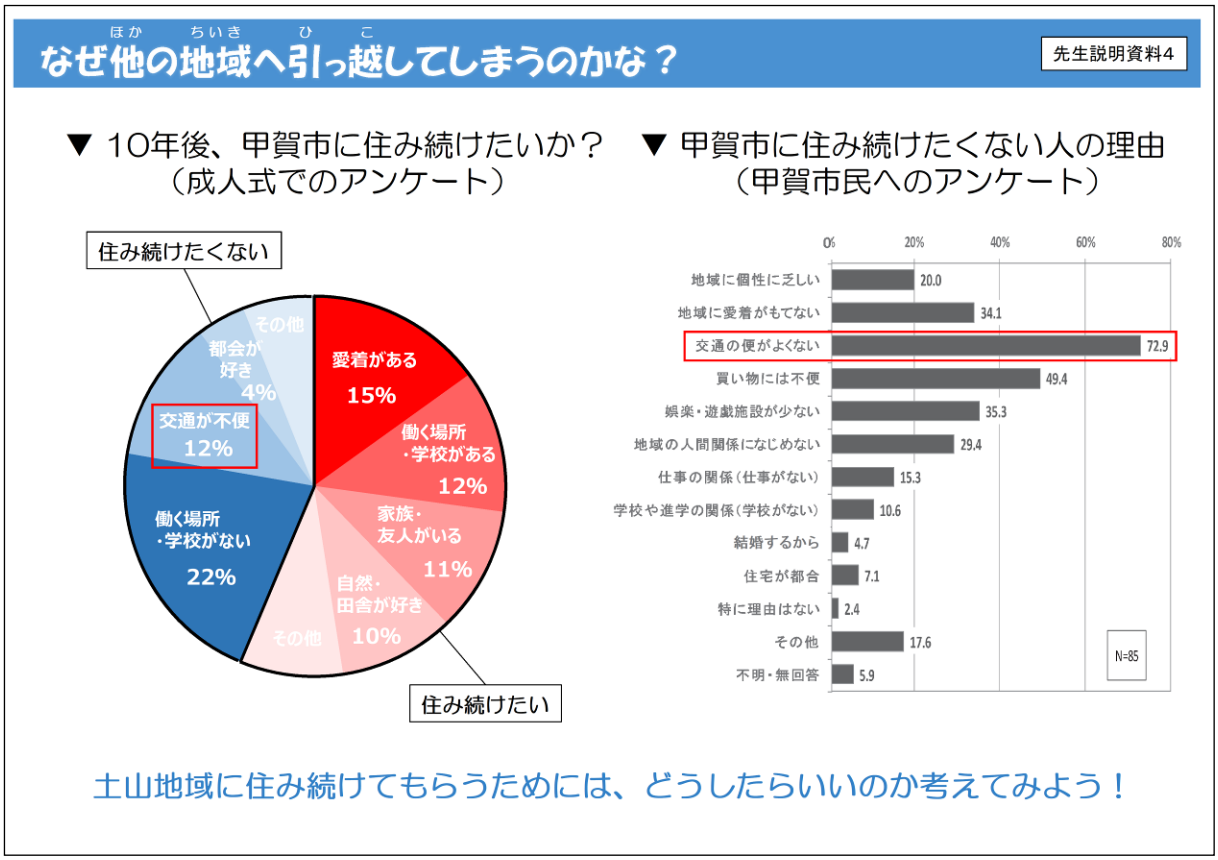


図　2-120　6年生の先生説明資料（4/6）

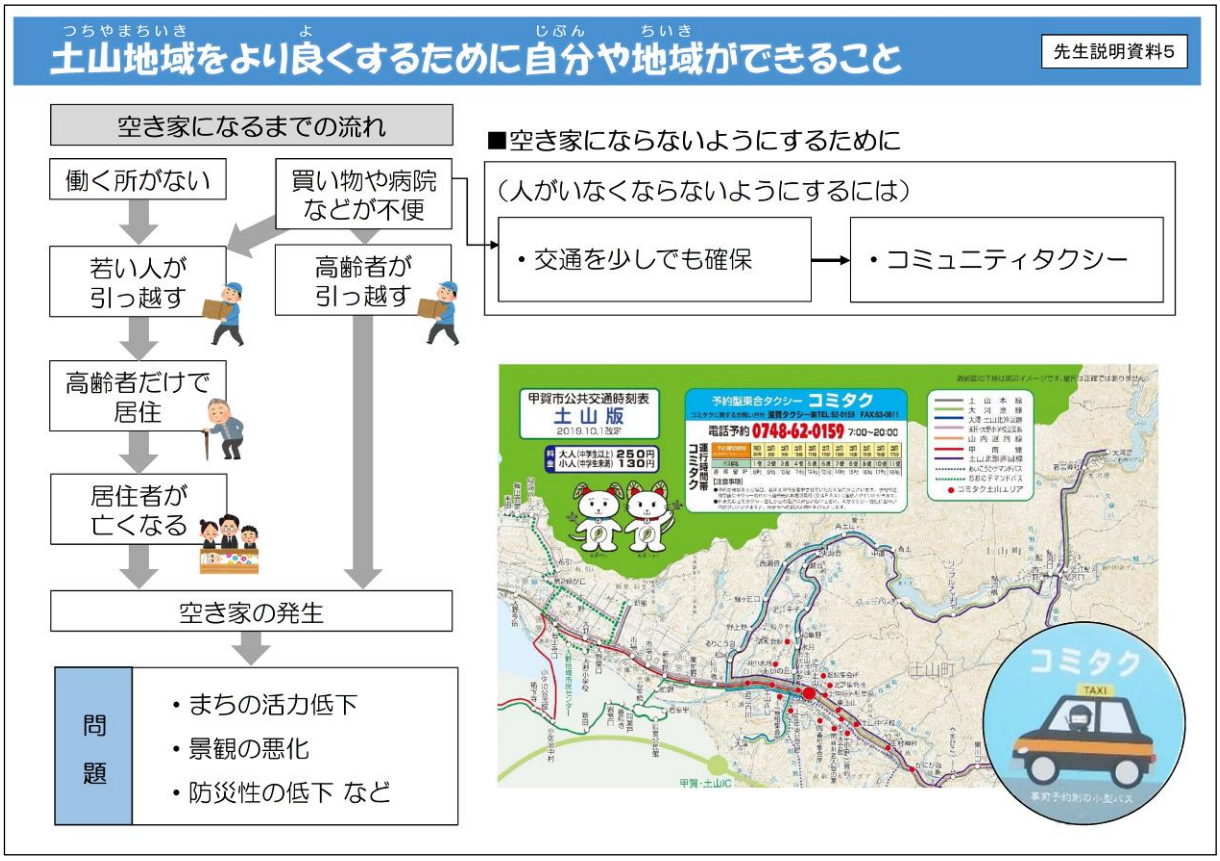


図　2-121　6年生の先生説明資料（5/6）

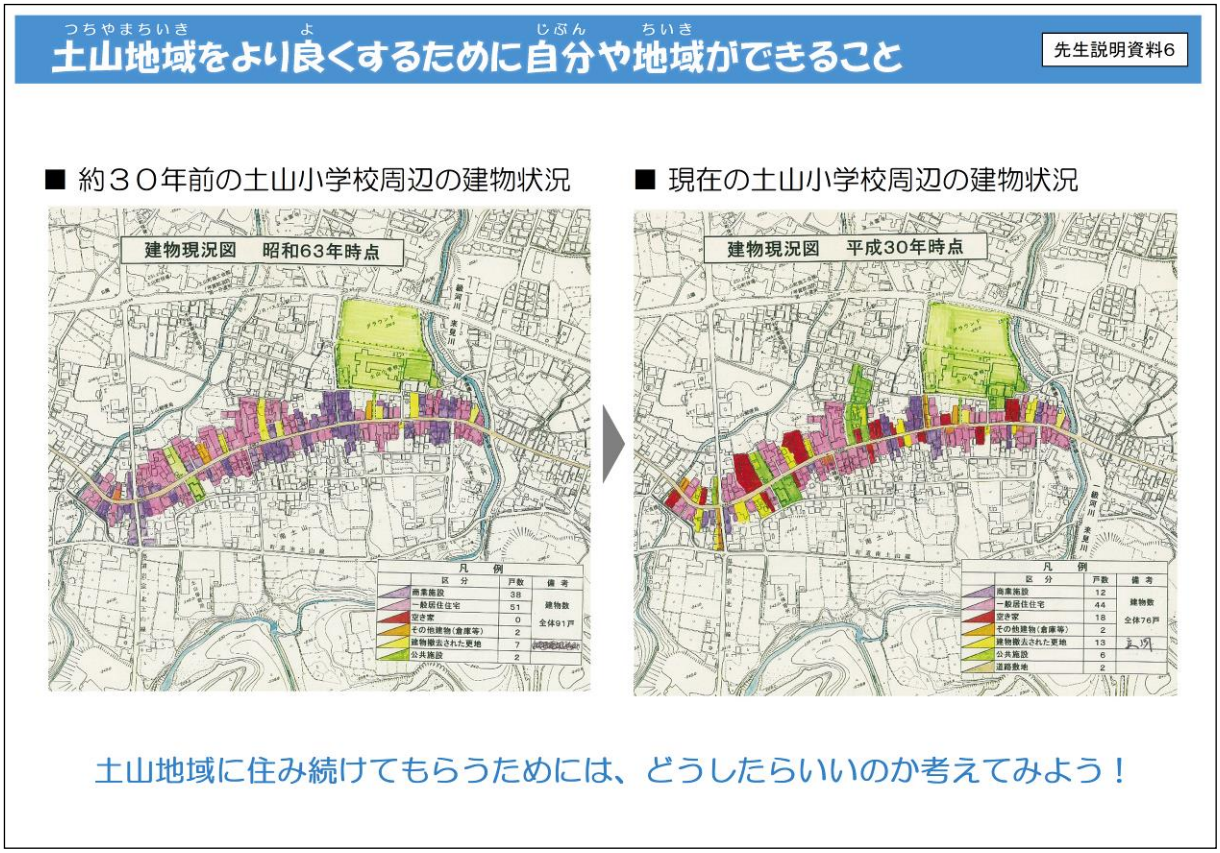


図　2-122　6年生の先生説明資料（6/6）

④参考資料

■6年生・総合学習「空き家について・コミタクについて」

資料	図表名称	出典			
		出典名称	ページ数	公表日・確認日	URL
ワークシート1	甲賀市内の空き家の分布状況	甲賀市空家等対策計画	10,11	平成29年４月	http://www.city.koka.lg.jp/10996.htm
ワークシート2	地域ごとの人口増減	甲賀の國づくりプロジェクト － 甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略 －	25	平成28年2月	http://www.city.koka.lg.jp/9906.htm
ワークシート3	市内移動による人口増減	甲賀の國づくりプロジェクト － 甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略 －	26	平成28年2月	http://www.city.koka.lg.jp/9906.htm
	土山地域における年齢別の人口増減	甲賀の國づくりプロジェクト － 甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略 －	26,27	平成28年2月	http://www.city.koka.lg.jp/9906.htm
先生説明資料2	空き家になった理由	甲賀市空家等対策計画	17	平成29年4月	http://www.city.koka.lg.jp/10996.htm
先生説明資料3	市内移動による人口増減	※ワークシート3と同様			
	土山地域における年齢別の人口増減	※ワークシート3と同様			
先生説明資料4	10年後、甲賀市に住み続けたいか？	平成27年成人式におけるアンケート結果（PDF）	6	平成27年度	http://www.city.koka.lg.jp/secure/14833/02%E8%B3%87%E6%96%992%E5%87%BA%E5%89%8D%E8%AC%9B%E5%BA%A7%E3%80%80%E6%84%8F%E8%A6%8B%E3%81%BE%E3%81%A8%E3%82%81.pdf
	甲賀市に住み続けたくない人の理由	第３回甲賀市市政に関する意識調査の調査結果	19	令和元年度	http://www.city.koka.lg.jp/11590.htm
先生説明資料6	建物現況図	※校長先生より提供			

図　2-123　参考-データ等の出典一覧

2-2-3 周知情報の検討・整理

（1）検討の考え方

本事業では「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるようにサポートの確立を目指すこと目標としており、そのためには学校が取り組みを知る機会をつくることも必要となる。

そこで、県内の各小学校に向けて取り組みを周知するため、今年度までに検討した学習ツール等を整理し、取り組みを周知するためのパンフレットを作成することとした。

（2）周知パンフレットの検討

1）ねらい

学校の授業は年度初めに計画するため、年度の途中で新たな学習を実施しようと思っても、一連の学習の中行うことは難しく、授業の進度調整等の時間に投げ込み形式で実施する形となってしまう。

そのため、一連の学習の中で交通環境学習を実施してもらうためには、1 年間の授業スケジュールを計画する年度初めのタイミングで周知を行うとともに、多様な学年・教科で学習に活用できること、また単元やニーズに合わせた素材の提供が可能なことを理解してもらうことが必要である。

これらを踏まえ、周知パンフレットに掲載する内容および構成について検討・整理することとした。

2）内容・構成の検討

前項の考え方を踏まえ、学習指導要領に関連づけられる内容となっていることや交通素材を取り込むことのメリット（ポイント）を掲載した上で、今年度までに作成した教材等のツールを紹介し、単元の理解を深めるのに効果的であることを理解してもらえる内容を掲載した。

申込は内容・調整等の行政負担の軽減を図るために FAX で回答できる形とし、また、学習ツールの改善等の参考となるよう、学習を実施した際の交通素材の活用方法や意見などを聞ける形とした。

パンフレットの内容・構成を以下に示す。

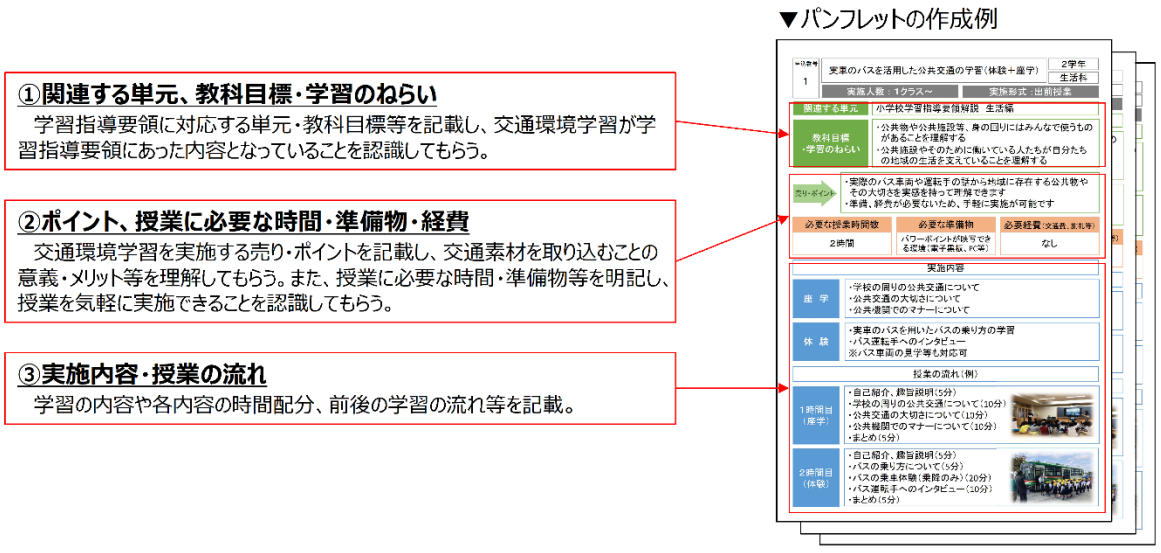


図　2-124　パンフレットの内容・構成

3）パンフレットの作成

以上を踏まえ作成したパンフレットを以下に示す。

滋賀県 交通環境学習 のご紹介

子どもたちに身近な“交通”の素材を授業に活用してみませんか？

行政やバス会社が、バス車両や教材、出前授業等の素材をご提供します！

2年生から6年生まで、生活科や社会科や総合的な学習等の授業を深められます！

滋賀県土木交通部交通戦略課

図　2-125　周知パンフレット（1/29）

交通環境学習について

次世代を担う子供たちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持つきっかけを提供します。

また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。

学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考えています。

実施までの流れ

本パンフレットで実施したい授業を選択

▼

「申し込みシート」に必要事項を記入しFAX送信（メールも可）

▼

滋賀県の交通環境学習担当者より連絡（日時、内容の確認）

▼

授業実施

▼

実施後アンケートの送付

備　考

・実施内容について御不明点がございましたら、県担当までご連絡ください。
・必要に応じて、打ち合わせも可能です。（小学校へお伺いします）

連絡先

滋賀県土木交通部交通戦略課　（交通環境学習　担当とお伝えください）
（TEL:077-528-3680　FAX:077-528-4837　　MAIL:hc00@pref.shiga.lg.jp)

図　2-126　周知パンフレット（2/29）

申込シートの記載方法について

ステップ1	学校名、学年等の必要事項をご記載ください。
ステップ2	本冊子の「座学メニュー」から、お好きな組み合わせをご選択ください。 ＊「出前授業」か「資料提供」をお選びください。
ステップ3	本冊子の「体験メニュー」から、お好きな組み合わせをご選択ください。
ステップ4	授業実施希望期間をご記載ください。 ＊幅広く設定いただけると幸いです。
ステップ5	授業実施希望日があれば御記載ください。 ＊ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。
ステップ6	打ち合わせの希望有無をご記載ください。 ＊希望有無にかかわらず、担当がお電話での詳細確認は行います。
ステップ7	その他ご不明点、ご不安点があればご記載ください。

お願い事項

・より良い交通素材の提供方法を検討していくとともに、活用事例の収集を行いたいと考えています。
・そのため、本支援を活用いただいた教科・単元における学習の流れや支援内容の位置付け方、使っていただいたご感想・ご要望等について、実施後に所定様式にてご提供いただけますと幸いです。
・また、ヒアリング等をお願いさせていただく場合もございますが、ご協力いただけますと幸甚です。

図　2-127　周知パンフレット（3/29）

図　2-128　周知パンフレット（4/29）

座学	身の回りの公共交通について	1

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・普段乗っている「のりもの」から、滋賀県内の公共交通を紹介します。
・「誰でも使える大切な乗り物」として公共交通を学びます。
・小学校の周りの公共交通について、地図で紹介しながら学びます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図 2-129 周知パンフレット（5/29）

座学	公共交通のマナーについて	2

必要時間	5分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・公共交通でのマナーについて、パワーポイントを活用して学びます。
・説明するだけではなく、子どもたちに考えてもらいながら学習を進めます。
・問題数によって、必要時間の調整が可能です。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図 2-130 周知パンフレット（6/29）

座学	バスの乗り方	3

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・バスの乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・本学習と実車バスの体験授業を組み合わせると、効果的です。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図 2-131 周知パンフレット（7/29）

座学	電車（JR線）の乗り方～切符の買い方～	4

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・電車（JR線）の乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・切符の買い方（体験）と組み合わせて学習すると効果的です。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
・学校の最寄り駅での乗り方を学習できます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図　2-132　周知パンフレット（8/29）

体験	バスの乗車体験～乗り方学習～	1

必要時間 ＊20人程度を想定	15～ 20分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、乗降体験を行います。
・バス事業者よりバスの乗り方について説明します。
・実際の路線バスを活用した学習なので、実践的です。

実施例

・バスの乗り方の説明（バス会社）
・バスの乗車体験
　整理券を取る→座席に座る→料金の計算方法の説明
　→バスの車内マナーの説明→降車ボタンを押す→降車
・まとめ

図　2-133　周知パンフレット（9/29）

体験	バスの乗車体験～バスの車両観察～	2

必要時間 ＊20人程度を想定	10～ 15分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、バス車両の観察を行います。
・バス事業者よりバスの工夫について説明します。
・普段は見られないところも見学できます。
・子供たちの質問については、運転手さんやバス事業者が対応します。
・観察するためのワークシートを提供します。

実施例

・バスの説明
・バスの観察（車内外）
・運転手（バス会社）への質問タイム

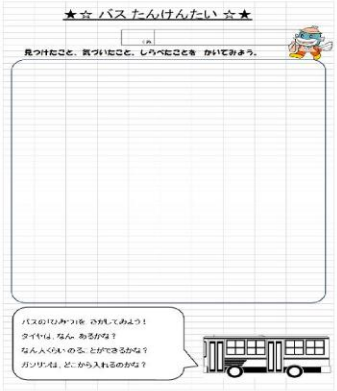


図 2-134 周知パンフレット（10/29）

体験	バスの乗車体験～車いす体験～	3

必要時間 ＊1人あたり	5分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、車いすの乗降体験を行います。
・車いすでの乗り方について、バス事業者より説明します。
・全員でも、代表者だけでも対応できます。
・子供たちの質問については、運転手さんやバス事業者が対応します。

実施例

・車いすでの乗り方の説明
・車いすでの乗車体験
・運転手（バス会社）への質問タイム

図　2-135　周知パンフレット（11/29）

体験	バスの乗車体験～運転手インタビュー～	4

必要時間 ＊1人あたり	5～ 10分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・バスの運転手さんが、直接子どもたちの疑問に答えます。
・「働くひとたち」の学習もできます。
・事前に質問票をいただければ、細かい質問にも対応可能です。

実施例

・運転手さんへのインタビュー
・職業に対するおはなし
・運転手（バス会社）への質問タイム

図　2-136　周知パンフレット（12/29）

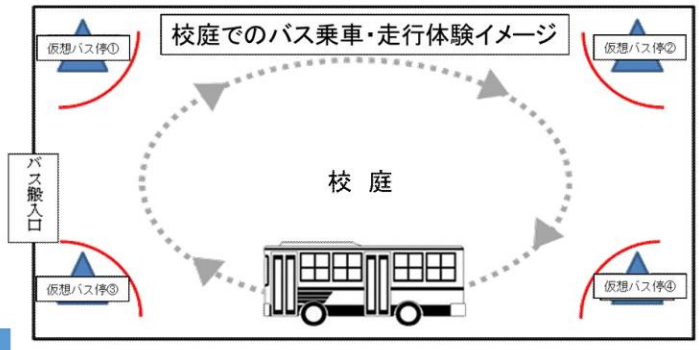
体験	バスの乗車体験～実践編～	5

必要時間 ＊20人あたり	45分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、バスの乗降体験を行います。
・校庭内にバス停をつくり、模擬のお金チケットを渡し、乗降してもらいます。

実施例



実施手順

① バスの乗り方や乗車マナーについて説明
② 路線バスが校庭内を周回
・3つの班に分かれる
・お金の代わりに4種の金額が書かれた紙を児童に配布
・3班それぞれ別のバス停から乗車し、降車するバス停で正しい運賃を払って降車

補足

・コーンを5つ準備し、バス停の名前を貼る
・児童の安全に配慮し、バス停（コーン）の前に白線を引く
・それぞれのバス停にスタッフを1人配置

図　2-137　周知パンフレット（13/29）

体験	電車の乗り方教室～切符の買い方～	6

必要時間 ＊20人あたり	15～ 20分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	模擬 券売機 （ポスター）

実施内容

・模擬の券売機（ポスター）を作成し、学校へ提供します。
・１人１人切符の買い方を練習します。
・練習時には、職員がポスターの横で買い方の説明をします。

実施例

・模擬券売機の使い方説明
・切符の買い方体験
・質問タイム

図　2-138　周知パンフレット（14/29）

事例 1	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学）	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する ・公共施設やそのために働いている人たちが自分たちの地域の生活を支えていることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1＋4

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について ・公共機関でのマナーについて
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習 ・バス運転手へのインタビュー

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・公共機関でのマナーについて（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（乗降のみ）（20分） ・バス運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

図　2-139　周知パンフレット（15/29）

事例 2	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～校庭でのバス乗車・走行体験 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・特に走行体験により、印象、理解を深められます

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	5

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について ・公共機関でのマナーについて
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習 ・校庭でのバス乗車・走行体験 ※校庭でバスが走行できるかどうかの確認が必要です

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・公共機関でのマナーについて（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（10分） ・校庭でのバス乗車・走行体験（25分） ・まとめ（5分）	

図　2-140　周知パンフレット（16/29）

事例 3	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～マナー学習 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・校外学習前のマナー学習として効果的です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習
マナー	・マナークイズ

授業の流れ

1コマ目 座学 （30分）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（20分） ・まとめ（5分）	
2コマ目 体験 （30分）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（乗降のみ）（20分） ・まとめ（5分）	
3コマ目 マナー （30分）	・マナーについての説明（10分） ・マナークイズ（20分）	

図　2-141　周知パンフレット（17/29）

事例 4	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～切符の買い方学習 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・校外学習前の切符の買い方学習として効果的です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1+4

実施内容	
座　学	・学校の周りの公共交通について ・切符の買い方について
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習

授業の流れ		
1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・切符の買い方（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（20分）	

図　2-142　周知パンフレット（18/29）

図　2-143　周知パンフレット（19/29）

体験	実車のバスを活用した障がい者体験・学習	3学年～ 総合的な学習の時間（福祉）	7

実施人数：1クラス～	実施形式：体験サポート

関連する単元	小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
教科目標・学習のねらい	・移動や生活で、障がい者（視覚障がい者や車いす利用者等）が何に困るかを実物・体験を通じて実感する ・自分にできることを考える
売り・ポイント	・実際のバス車両での体験から、普段の生活や移動で障がい者が困ることを実感を持って理解できます ・実際のバス車両で、すでに取り組まれている障がい者に対する配慮・工夫等から、社会の仕組みを実感することができます

必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
2時間	なし	なし

実施内容

体　験	・実車のバスを用いた障がい者体験 ・バス車両の工夫点を観察（ノンステップ、ニーリング機能等） ・障がい者が困る点や車両の工夫点への気づき・考察のサポート

授業の流れ（例）

導　入	**障がい者が普段の生活の中で何に困るかを知る・予想する** ・（例）障がい者へのインタビュー ・（例）バス車両等の生活施設写真を提示し、何に困りそうかを予想する
体験学習（2時間）	**導入授業を踏まえ、障がい者が何に困るかを実感する**
まとめ	**体験学習を通じて、大変だった点や自分にできることを考える** ・（例）バスで良いと思った工夫点や体験で大変だった点を発表 ・（例）障がい者と遭遇した時に自分は何ができるのかを考える

図　2-144　周知パンフレット（20/29）

授業の実施イメージ（車いす体験）

校内での車イス体験

・校内および体育館での車イス体験・学習（車イスの使い方、介助方法 等）

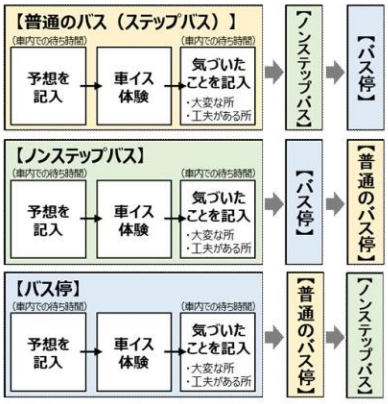
・体験を踏まえ、バスで移動する際に車イス利用者が何に困るかを予想

問：車イスを利用する時にどんなことに困っていそうか、どんな工夫がされているか？

【行政支援】
・予想WS等の作成、提供

バス車両・バス停での車イス体験

・バス車両を校庭に準備
・校庭、近江土山バス停に分かれてスタート
・普通のバス、ノンステップバス、バス停をそれぞれ体験



※車両の工夫点等をバス事業者が誘導、解説

【行政支援】
・バス車両準備、誘導・解説
・車イスの用意、体験のサポート

まとめ

・記入したWSを見ながら、ノンステップバスやバス停で良いと思った工夫点、大変だった点を発表
・意見を簡単にまとめる

・記載用WSを配布

問：ノンステップバスやバス停には、どんな良い工夫があったか？
（バスは色んな人に利用しやすいように工夫されている）

・それがなぜされているのかを考える

問：それでも車イスで大変だったことは？

・それを踏まえて自分になにができるかを考える
・まとめ

※視覚障がい者体験も同様の内容で実施が可能です

ワークシートのイメージ

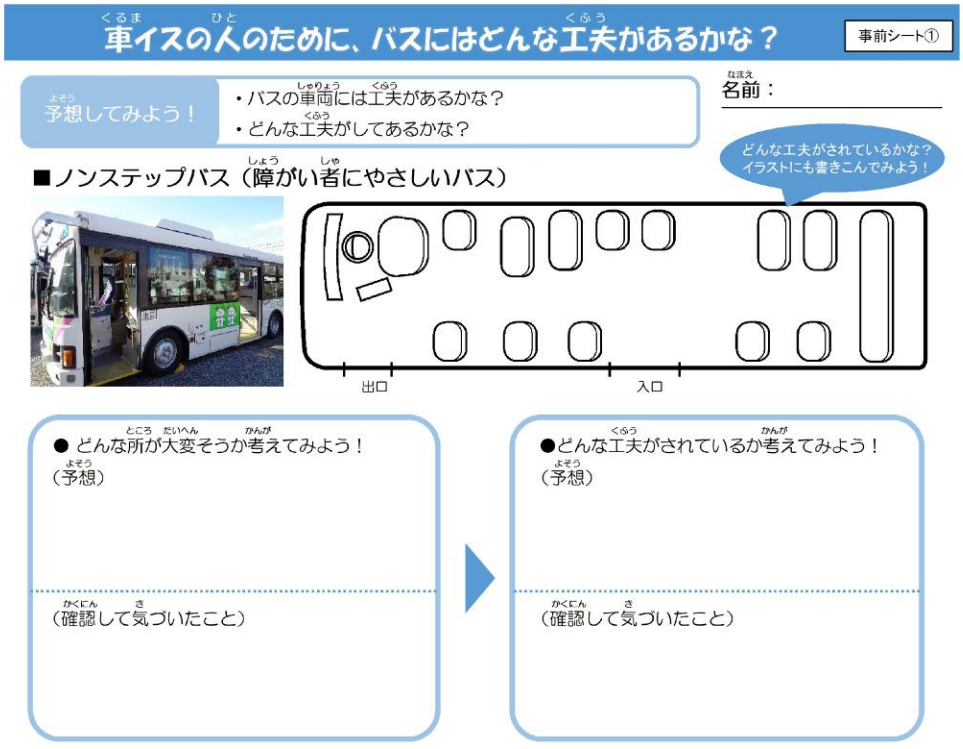


図 2-145 周知パンフレット（21/29）

図　2-146　周知パンフレット（22/29）

座学

琵琶湖と交通の関わりについての学習

5学年
社会科

5

実施人数：1クラス

実施形式：資料提供 or 出前授業

関連する単元	琵琶湖学習（フローティングスクール）
教科目標 ・学習のねらい	・多様な視点から、ふるさと滋賀や琵琶湖のすばらしさに気づく ・郷土を大切にする気持ちを育み、愛着を醸成する
売り・ポイント	・昔の琵琶湖は湖上交通が発達しており、それに伴って周りのまちが発展してきた経緯があります。交通を視点とした琵琶湖学習を行うことにより、琵琶湖とまちの関わりをより幅広く学ぶことができます ・パワーポイントで作成しているため独自にアレンジが可能です

必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
1時間（出前授業の場合）	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

実施内容

出前授業の場合

・琵琶湖周辺における地名の共通点
・湖上交通を使った昔の貨物輸送のルート
・湖上交通の役割

資料提供の場合

・湖上交通の歴史に関する資料（奈良時代～昭和）
・湖上交通の役割について考えるワークシート

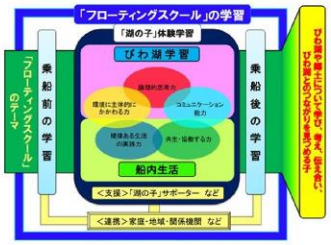
授業の流れ（例）

【 琵琶湖学習（フローティングスクール）の流れ】

調べ学習
・ 琵琶湖について学びたいテーマを設定し、琵琶湖と自分たちの生活の関わりについての学習を行う

宿泊体験学習
・ 学習船「うみのこ」での宿泊体験を通し、琵琶湖の現状や環境等について学ぶ

まとめ
・ 宿泊体験での学びを通して、乗船前に設定したテーマについて理解を深める

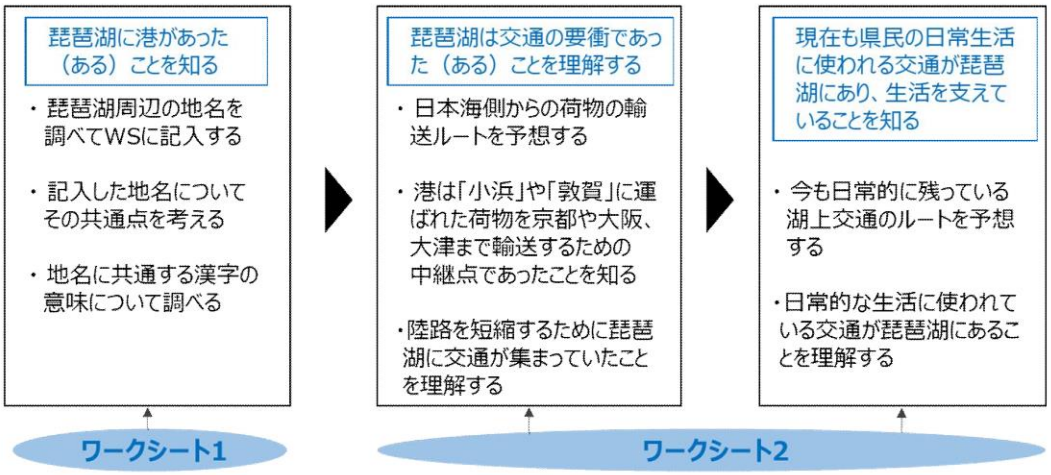


※滋賀県立琵琶湖フローティングスクールHPより引用

琵琶湖と交通の関わりについての学習

図 2-147 周知パンフレット（23/29）

授業の実施イメージ



ワークシートのイメージ

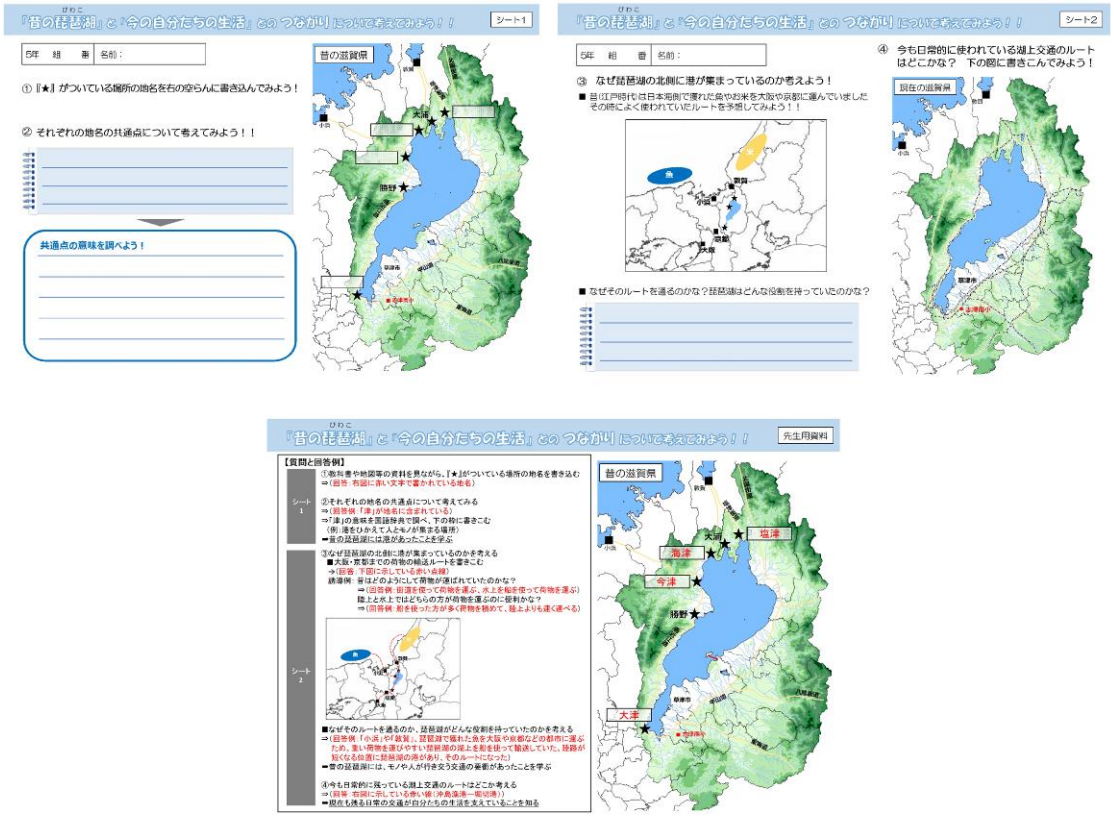


図 2-148 周知パンフレット（24/29）

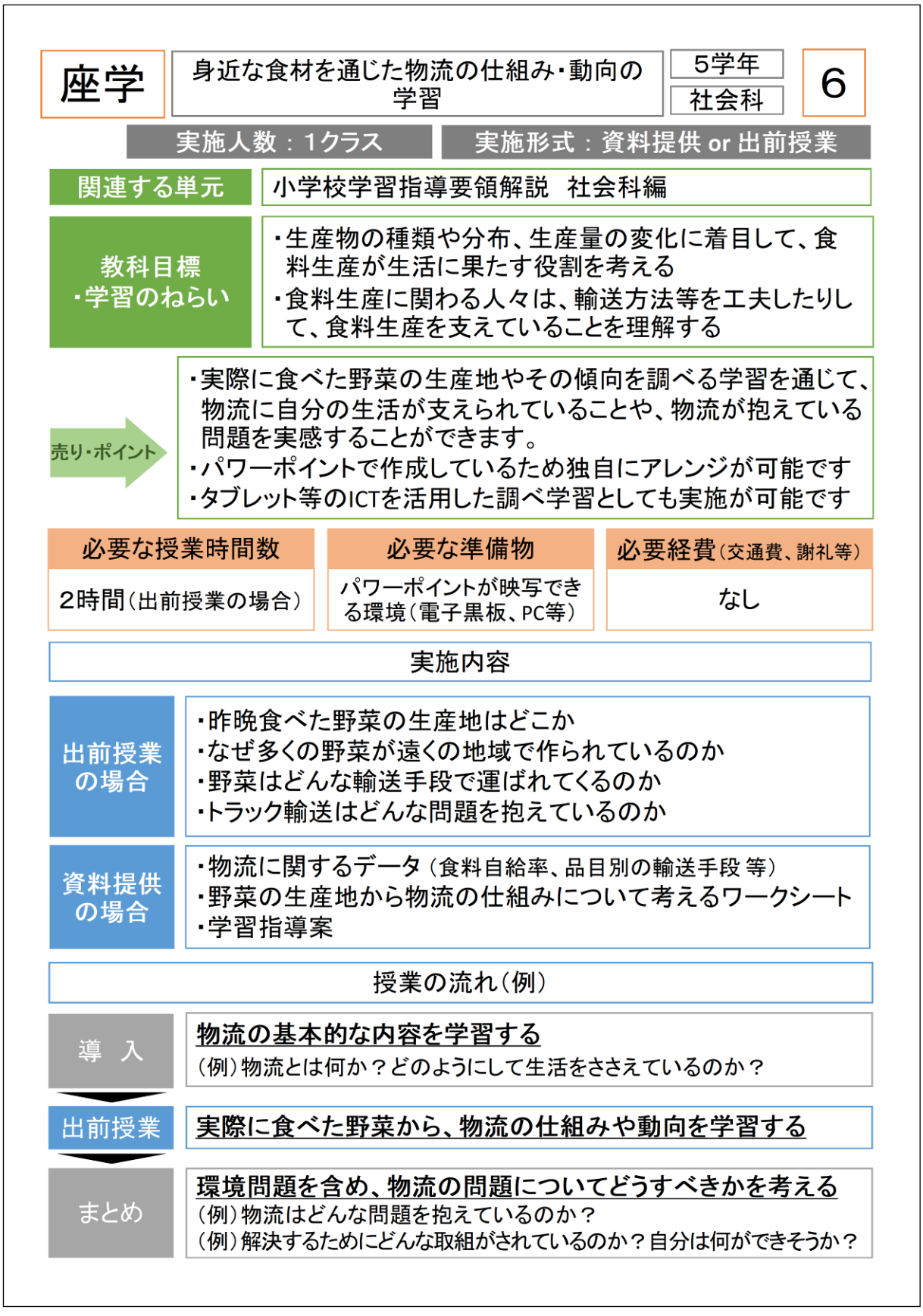


図　2-149　周知パンフレット（25/29）

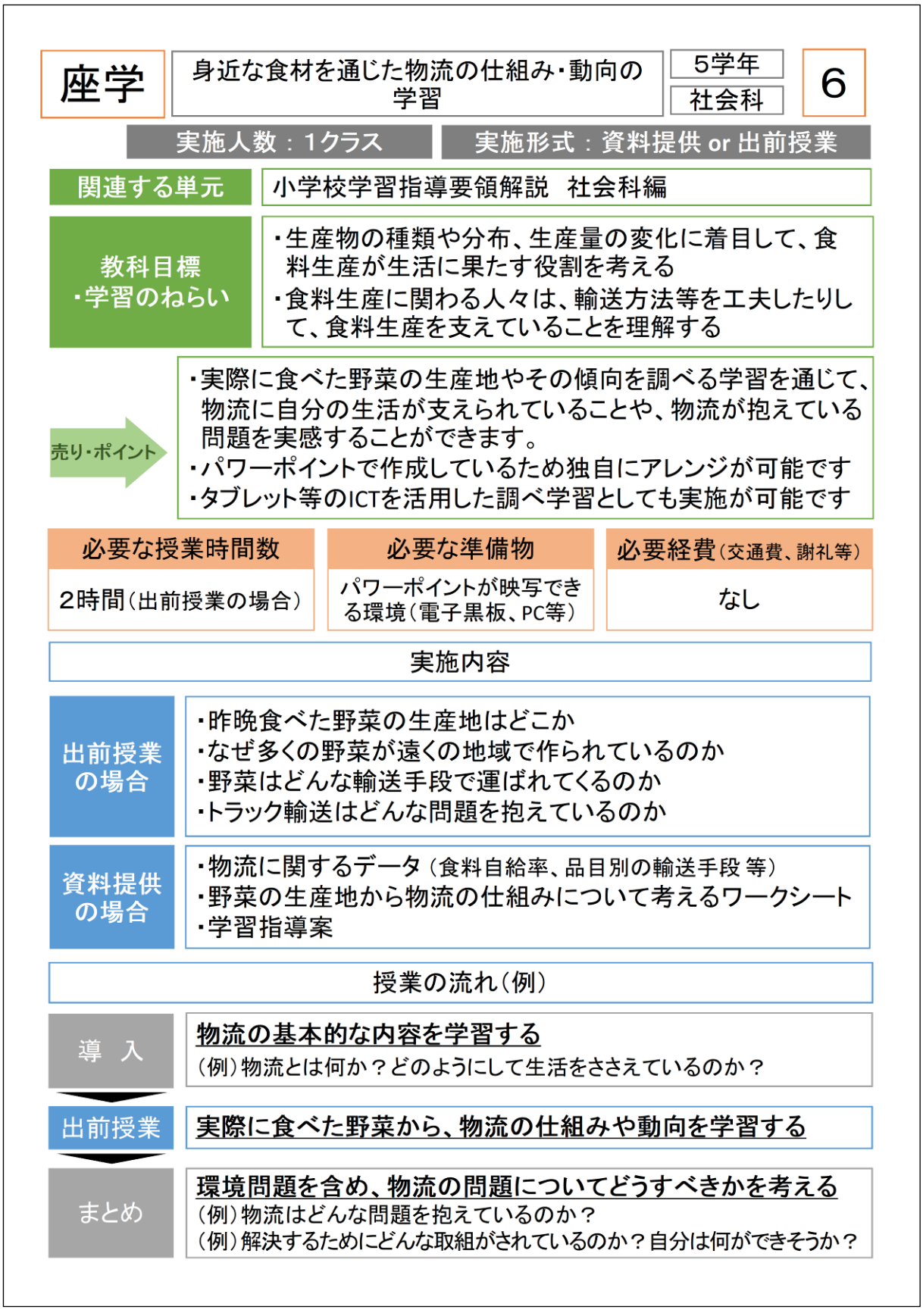


図　2-150　周知パンフレット（26/29）

図　2-151　周知パンフレット（27/29）

座学

暮らしと交通の問題から地域の将来について考える学習

6学年
総合的な学習の時間

7

実施人数：1クラス～

実施形式：資料提供

関連する単元	小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
教科目標 ・学習のねらい	・地域の現状や課題について、自分とのつながりの中で理解を深める ・人々の暮らしや伝統、文化など地域や学校の特色に応じて、今後の地域や自分のあり方について考えを深める
売り・ポイント	・今の地域がなぜそうなっているのかを、暮らしに密接した交通の視点から考えることにより、まちの現状・問題のイメージがしやすくなります ・また、日常生活との関わりが強いので、より実効的な地域活性化の取組について自身の考えを深めることができます ・パワーポイントで作成しているため独自にアレンジが可能です

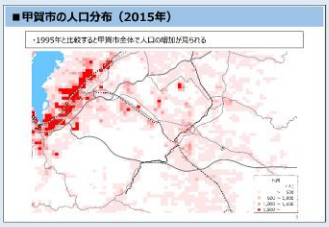
必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
―	なし	なし

資料提供の内容

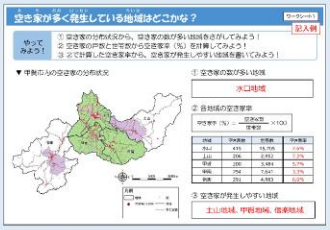
・まちと交通の変化に関するデータ
（例）人口分布と自動車交通量の関係、空き家の分布と人口増減の関係　等
・交通事業者や行政担当者等の地域を担う人の紹介

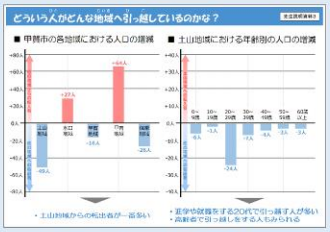
▼提供データの例　（※データ内容については応相談）

人口分布と自動車交通量の関係



空き家の分布と人口増減の関係





▼人の紹介例

交通事業者
➡運行する交通の利用実態、地域の移動を支えるためにしていること・工夫 等

行政担当者
➡税金を使って公共交通を走らせる意味・必要性 等

図　2-152　周知パンフレット（28/29）

交通環境学習　申し込みシート

学校名				
ご担当者名	役職 （担当学年）		お名前	
ご連絡先（TEL）				
ご連絡先（E-MAIL）				

実施希望事項 ＊複数学年可	2年生	座学					
		体験					
	3年生	座学					
		体験					
	4年生	座学					
		体験					
	5年生	座学					
		体験					
	6年生	座学					
		体験					

実施希望期間	第一希望	月	～	月			
			希望日（あれば）→		月　日	または	曜日
	第二希望	月	～	月			
			希望日（あれば）→		月　日	または	曜日
	第三希望	月	～	月			
			希望日（あれば）→		月　日	または	曜日

打ち合わせ希望	あり	→	場所 （ex.学校）		なし	

その他 ご要望・ご不明点	

FAX（送付文不要）：077-528-4837

図　2-153　周知パンフレット（29/29）

第３章　交通環境学習実施校における授業実施

－ 目 次 －

３．　交通環境学習実施校における授業実施 ３-1

３-１ 授業実施 ３-1

３-１-１ H30 年度の交通学習プログラムのブラッシュアップ・定着化..... ３-2

３-１-２ 新たな交通学習プログラムの検討 ３-27

３-２ 今後の課題 ３-40

３-２-１ R1 年度の取り組み結果..... ３-40

３-２-２ 課題の整理 ３-41

３-３ 来年度の実施内容の検討..... ３-42

３-３-１ 検討の考え方 ３-42

３-３-２ Ｒ３年度以降の実施・展開イメージ ３-43

３-３-３ Ｒ２年度の実施内容..... ３-44

３．交通環境学習実施校における授業実施

３-１ 授業実施

３-１-１ R1 年度の交通学習の実施校

学年	科目	学習内容	市町	小学校
2年生	生活科	地域の公共交通 バスの乗り方教室 乗車体験	大津市	上田上小学校
				瀬田北小学校
				瀬田南小学校
			彦根市	佐和山小学校
				城東小学校
				旭森小学校
				高宮小学校
			近江八幡市	岡山小学校
			草津市	笠縫小学校
				老上西小学校
				志津南小学校
			甲賀市	綾野小学校
				大野小学校
				土山小学校
			湖南市	菩提寺小学校
				三雲小学校
			東近江市	五箇荘小学校
				箕作小学校
				市原小学校
				能登川北小学校
				布引小学校
				愛東南小学校
				八日市西小学校
			竜王町	竜王西小学校
				竜王小学校
			甲良町	甲良東小学校

学年	科目	学習内容	市町	小学校
3年生	総合的な学習	視覚障がい者体験	甲賀市	土山小学校
4年生	総合的な学習	車いす体験	甲賀市	土山小学校
5年生	社会科	物流	甲賀市	土山小学校
	総合的な学習	車いす体験	大津市	上田上小学校
6年生	総合的な学習	空き家・コミタク	甲賀市	土山小学校

3-1-2 H30 年度の交通学習プログラムのブラッシュアップ・定着化

（1）2年生・生活科（土山小学校）

1）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

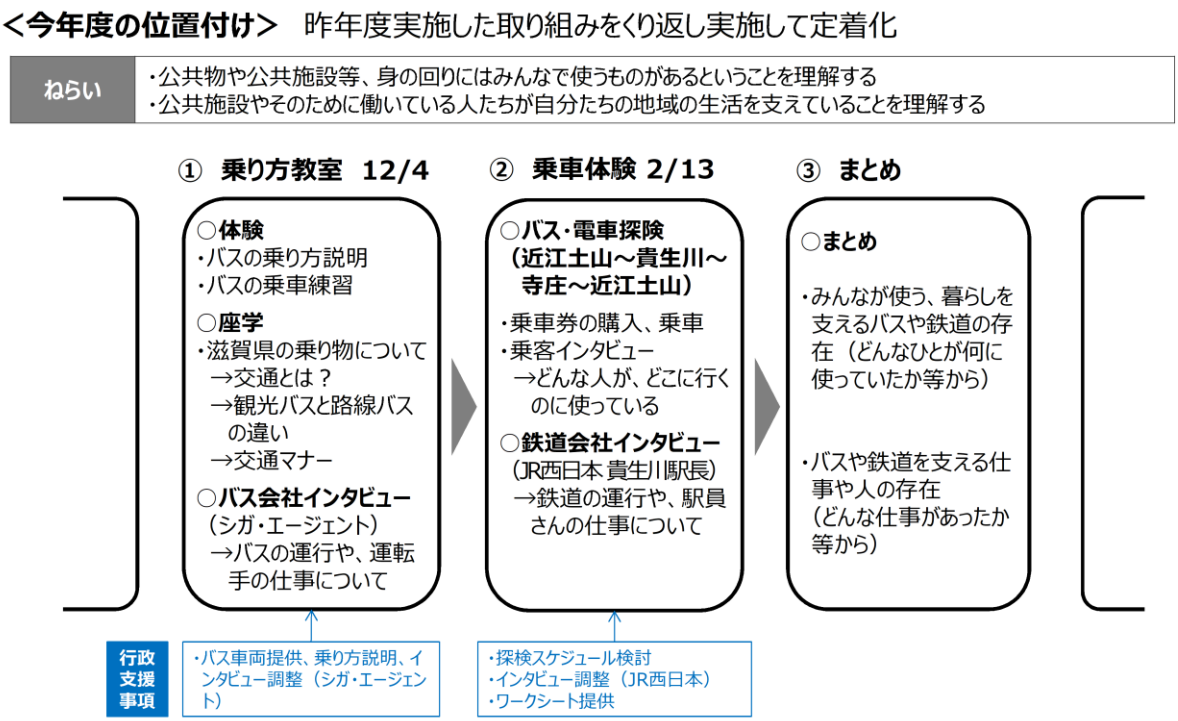


図 3-1 2年生の授業の流れ（再掲）

2）実施結果

（a）乗り方教室

バスの乗り方やバスの仕組み等について、バス事業者が説明を行った後、実際のバス車両を用いた乗車練習を行った。その後、公共交通のマナー等について理解させる授業を行政（滋賀県）が行った。実施の様子を以下に示す。

図　3-2　乗車練習の様子

図　3-3　座学の様子

（b）乗車体験

a）ワークシートの提供

作成した以下の乗車体験で運賃等の情報を書きとめるワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

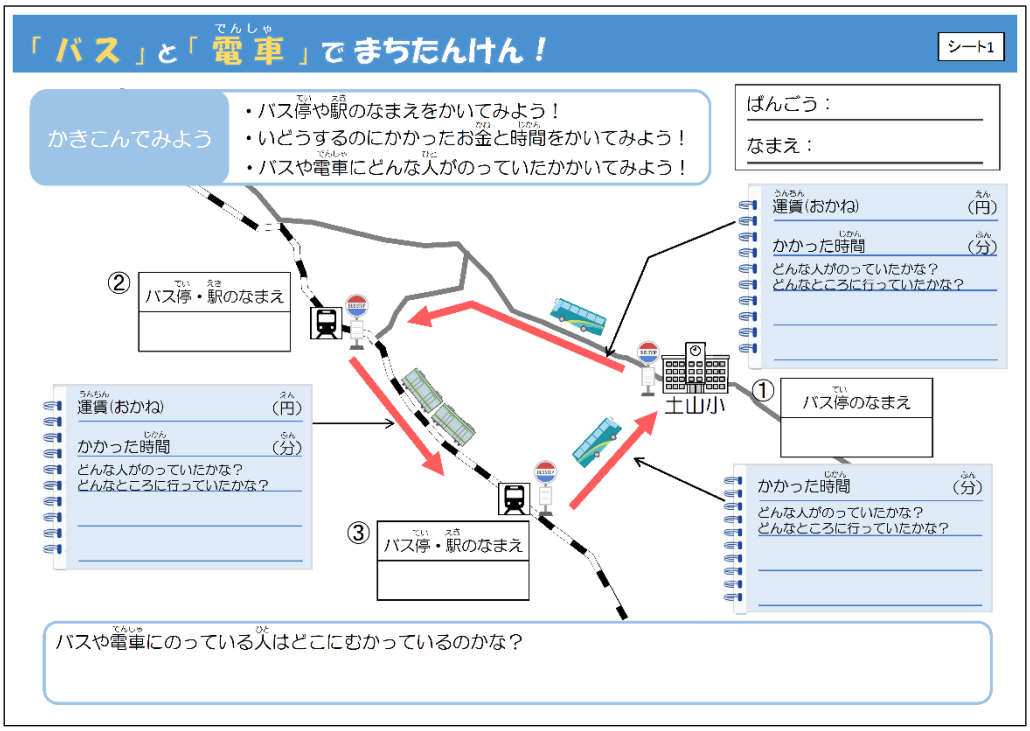


図　3-4　ワークシート（1/2）

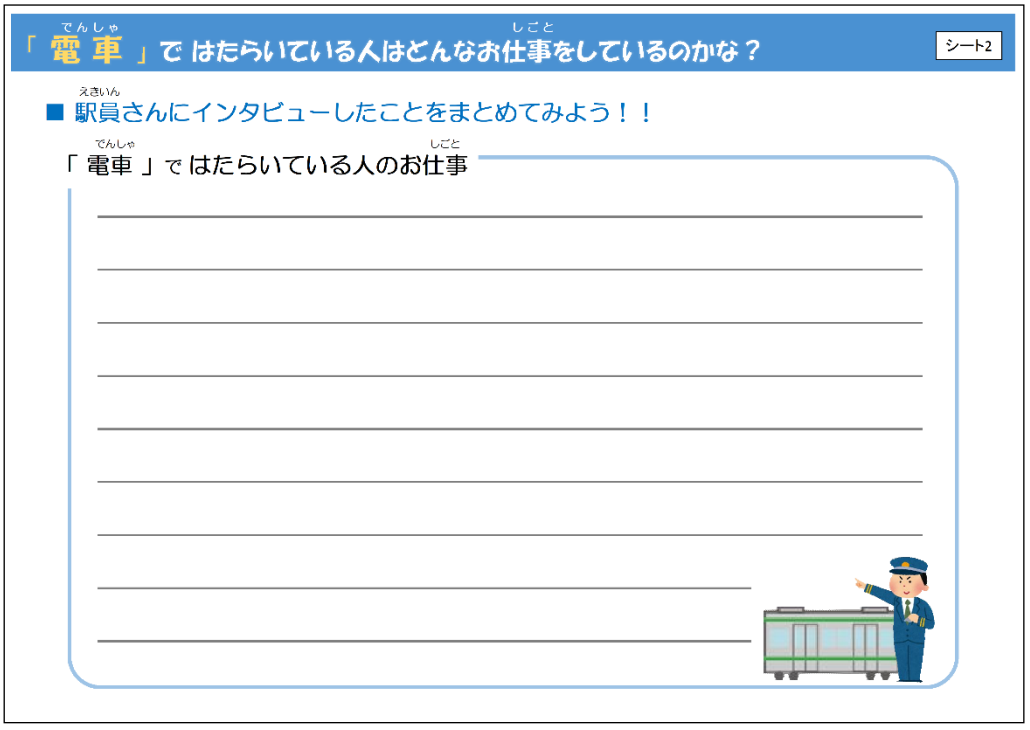


図　3-5　ワークシート（2/2）

b）バス・鉄道乗車体験

乗り方教室を踏まえ、公共交通の役割を知るための体験学習として、バス・鉄道の乗車体験を実施し、窓口での乗車券購入および券売機での切符購入も併せて実施した。また、バス・鉄道乗車中には、乗客インタビューを行った。また、実施にあたり行政（滋賀県・甲賀市）が体験のサポートを行った。

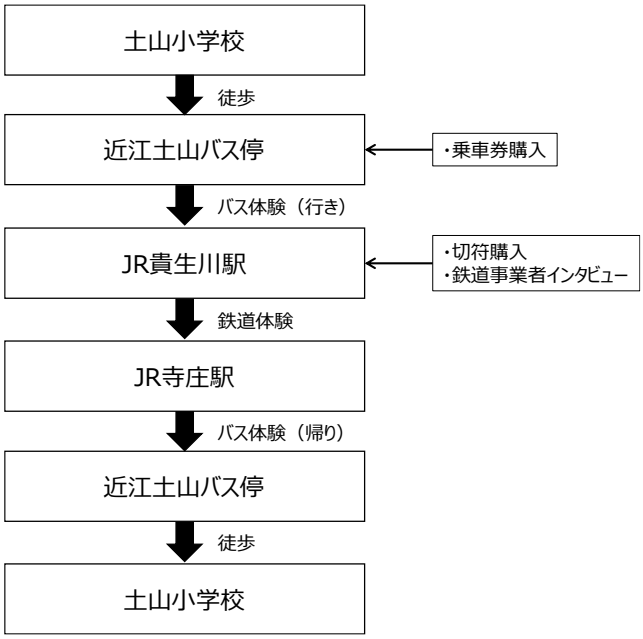


図 3-6 乗車体験の流れ

図　3-7　バス･鉄道体験の様子（1/10）

図　3-8　　バス･鉄道体験の様子（2/10）

図　3-9　バス･鉄道体験の様子（3/10）

図　3-10　バス･鉄道体験の様子（4/10）

図　3-11　バス・鉄道体験の様子（5/10）

図　3-12　バス・鉄道体験の様子（6/10）

図　3-13　バス･鉄道体験の様子（7/10）

図　3-14　バス･鉄道体験の様子（8/10）

図　3-15　バス･鉄道体験の様子（9/10）

図　3-16　バス･鉄道体験の様子（10/10）

c）鉄道事業者インタビュー（JR 西日本）

ＪＲ貴生川駅までの乗車体験の後、鉄道の運行や運転手の仕事等について鉄道事業者に対するインタビューを実施した。インタビュー内容を以下に示す。

また、実施の様子を次頁に示す。

表 3-1 インタビューの内容

質問	回答
貴生川駅では何人の人が働いているのか？	貴生川駅では７人の人が働いている。
休みの日はあるのか？	２人体制で仕事をしており、休みは順番にまわってくるようになっている。
電車は毎日どれくらいの便数走っているのか？	平日であれば、草津行き・柘植行きがそれぞれ約 40 本走っている。
仕事中にジュースなど買い物はできるのか？	出勤してくる前や仕事が終わった後、途中の休憩時間に買い物をする時間がある。
お昼の休憩はどう過ごしているのか？	窓口にはいつ誰かがいないといけないので、例えばＡさんが 11 時にお昼ごはんを食べたら、Ｂさんが 1 時から食べるというように交代で休憩している。
電車の仕事をされているが、普段電車を利用することはあるのか？	普段から利用している。自宅が野洲市なので、毎日電車に乗って貴生川駅まで通勤している。
1 日に利用している人の数は？	貴生川駅であれば、1 日に約 5000 人の方が利用されている。
電車を利用する人が多い時間帯は？	平日仕事に行く人が多い、朝 8 時前後が一番混んでいる。一方で、10 時頃から 12 時頃は利用する人は比較的少ない。
電車を利用する人はどういう時に使うのか？	平日は、仕事や学校に行かれる方が主に利用される。土日などお休みの日は、買物や観光などの目的でおでかけする人もいる。曜日によって使われる人の用途が違う。
切符の機械はどうやって動かしているのか？	昔は駅員が機械を操作して切符を出していたが、今は券売機で直接購入するようになっている。東京や福岡など遠い地域に行く人は、みどりの窓口で購入する人もいる。
電車の運転はどういう風にしているのか？	電車の前部に運転士、後部に車掌が乗車している。車掌が安全を確認し、安全であればブザーで運転士知らせ、信号が青であれば出発するという流れになっている。
どうして窓口にカニの絵があるのか？	カニ、フグ、クエがおいしく食べれる地域をまわるプランがあり、それを利用者の方に知ってもらうために、絵や張り紙を行っている。
電車はどこから運んでくるのか？	柘植駅の車庫や野洲駅の車両基地から毎日電車が出てくる。車庫では電車が途中で止まったりしないように、点検をおこなっている。 このように、運転士だけでなく、駅員や検査人など様々な人が利用者を安全に目的地まで運べるように働いている。

図　3-17　鉄道事業者インタビューの様子

3）**結果についてのヒアリング**

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-2 教師へのヒアリング結果

日 時	令和２年２月 21 日
ヒアリング対象	教頭先生
ご意見	・自宅から学校までは自動車で送迎をしてもらっている子が多く、バス通学をしている子も一定数いるものの、電車を利用する子はほとんどいない。そのため、乗車体験は、普段利用することのない電車のことについて学習する良い機会になったと思う。 ・バス乗車券や切符を購入する際、緊張しながらも自分の前の子が購入している様子をしっかりと観察して、ほとんどの子がひとりで購入できていた。ただ乗車券や切符の買い方を学ぶだけでなく、ワクワクドキドキしながら一人で何かに取り組むという体験は子供たちにとって貴重な体験になったと思う。学校だけではあのような体験は難しい。 ・生活科の地域の人について学ぶ単元では、私たちの暮らしを支えている人たちについて学習をするため、バスや電車で働く人たちにインタビューをするのは単元にあった内容になっていると思う。 ・寺庄から学校へ戻るバスに乗っている時、甲賀市東部学校給食センターの前を通り、「あそこで給食をつくっている」と話す子供もいた。このように、毎日食べている身近な給食と地域とのつながりを学べる機会があることを踏まえると、「地域を知る」や「地域との関わりを学ぶ」といった視点でも、展開していくことが可能かもしれない。

（２）３年生･総合的な学習　福祉学習（土山小学校）

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

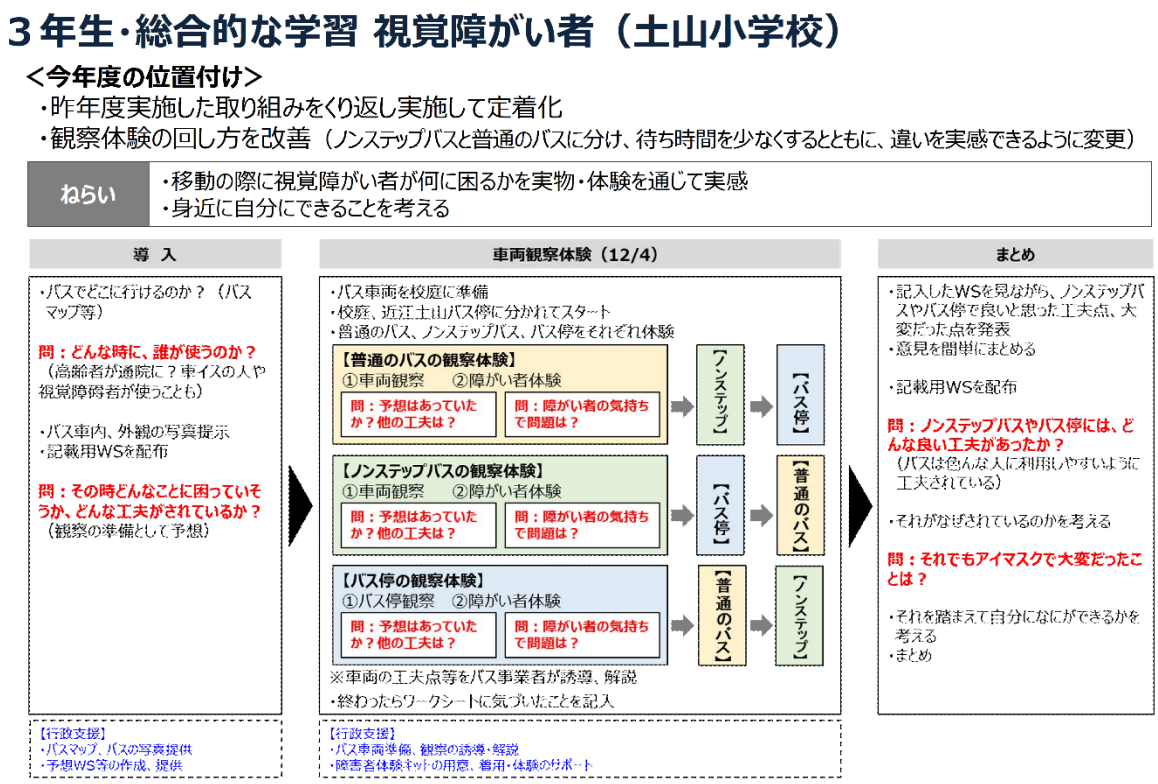


図　3-18　３年生の学習の流れ（再掲）

２）実施結果

（a）導入

作成した以下のような福祉面でのバス車両の工夫点を予想し、車両観察および障がい者体験の際に気づいたこと等を書きとめるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

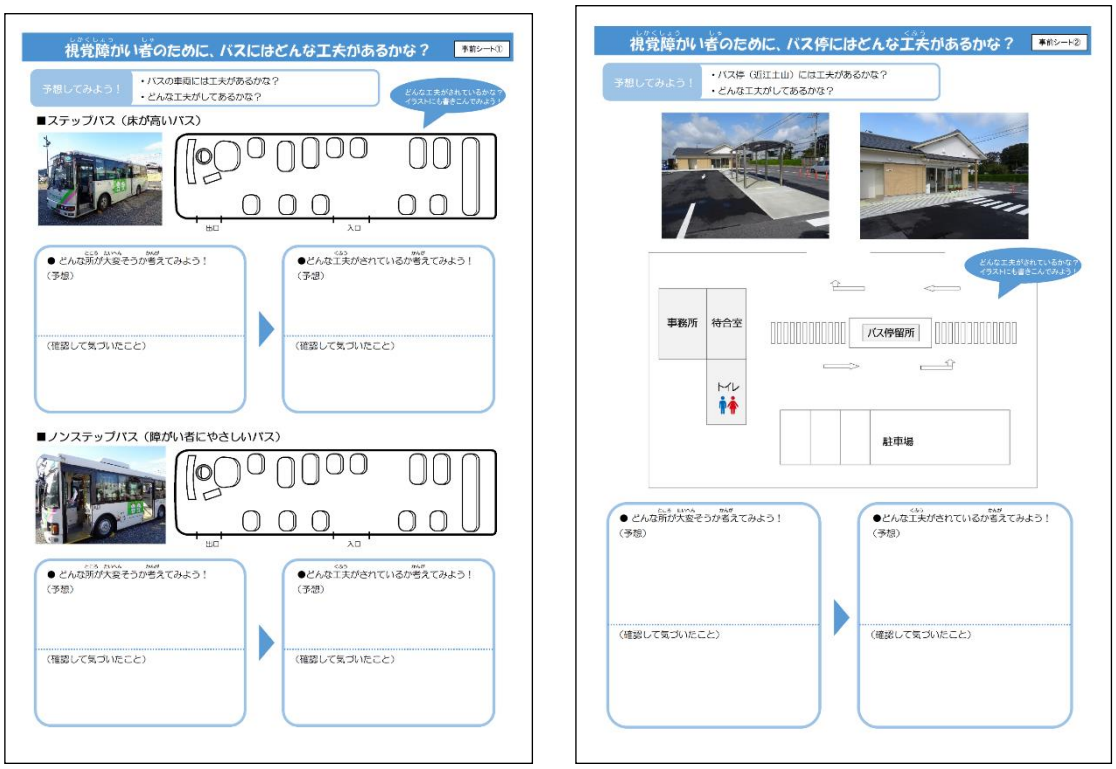


図　3-19　３年生のワークシート（再掲）

（b）車両観察・障がい者体験

導入授業で予想した福祉面での工夫を確認するために車両観察を実施した後、アイマスク等の視覚障がい者体験キットを装着し、乗車から降車までの一連の体験をノンステップバス、ステップバスについて行った。また、近江土山バス停に移動し、バス停観察および障がい者体験について同様の手順で行った。実施にあたり、バス事業者・行政（滋賀県・甲賀市）が体験のサポートを行った。

図　3-20　車両観察・障がい者体験の様子（1/4）

図　3-21　車両観察・障がい者体験の様子（2/4）

図　3-22　車両観察･障がい者体験の様子（3/4）

図　3-23　車両観察･障がい者体験の様子（4/4）

（c）まとめ

作成した以下のような、障がい者のために何ができるのかを考えるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

図　3-24　3年生のワークシート（再掲）

（３）４年生･総合的な学習　福祉学習（土山小学校）

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

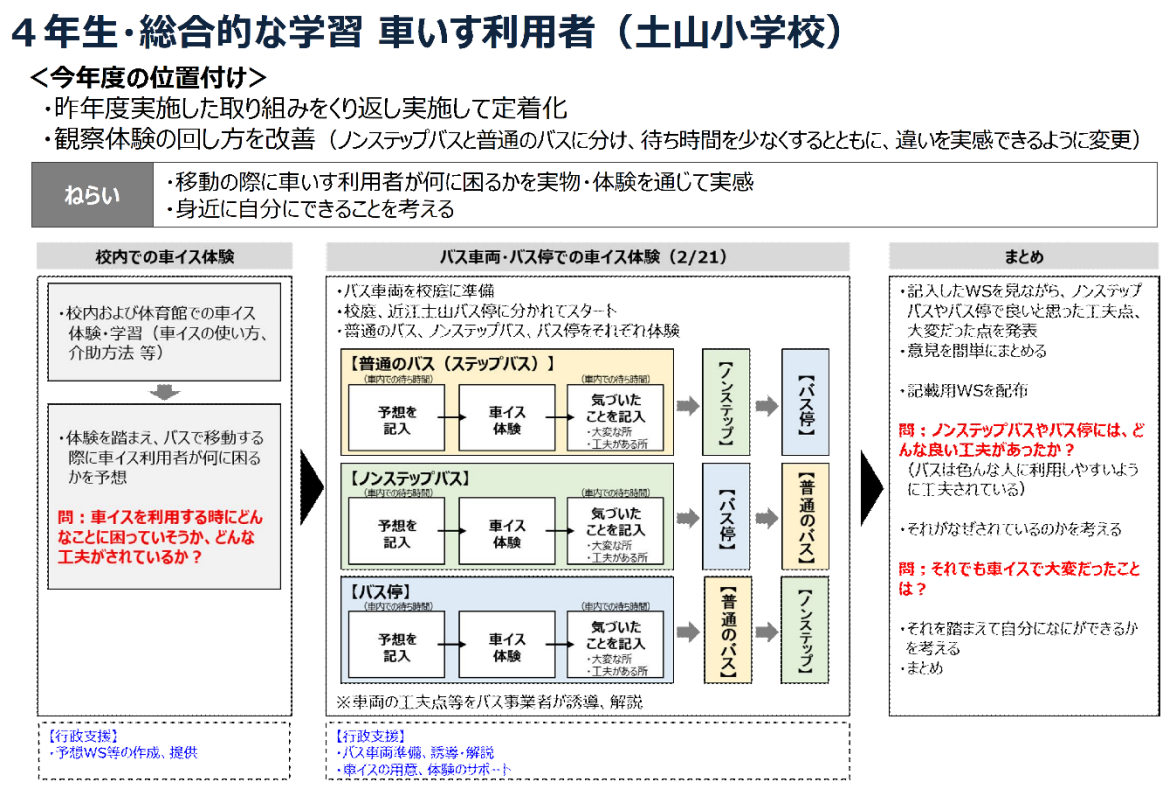


図　3-25　４年生の学習の流れ（再掲）

２）実施結果

（a）導入

作成した以下のような福祉面でのバス車両の工夫点を予想し、車両観察および障がい者体験の際に気づいたこと等を書きとめるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

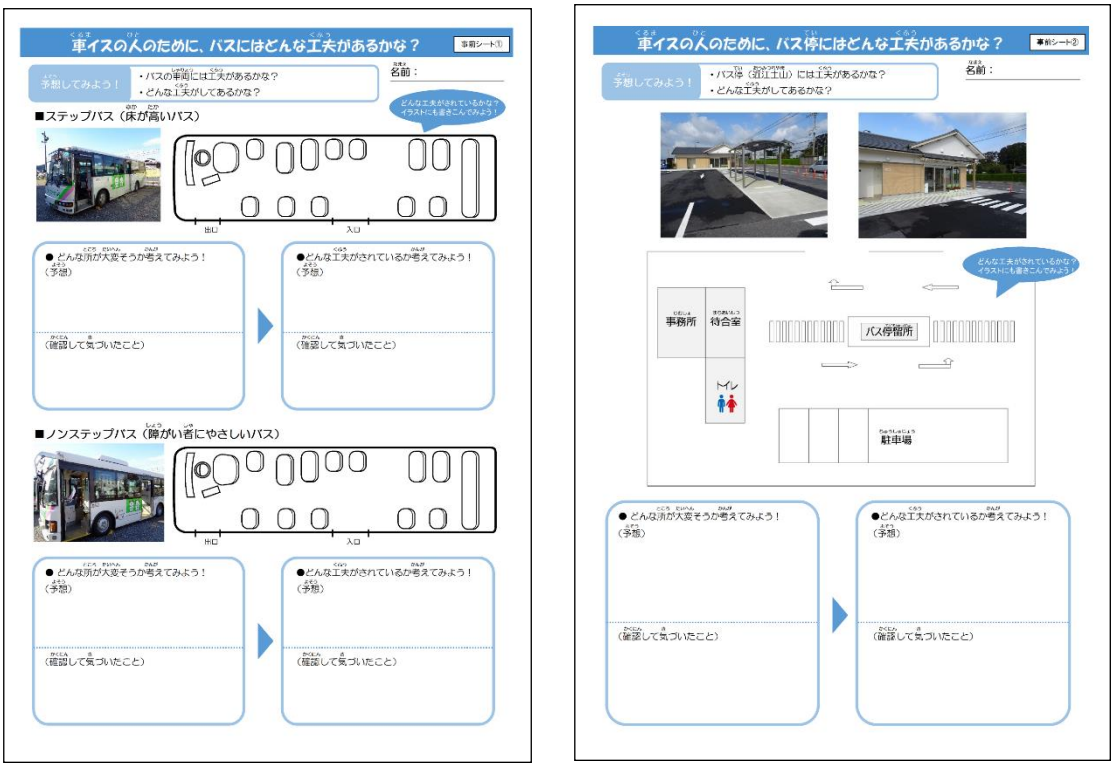


図　3-26　４年生のワークシート（再掲）

（b）車両観察・障がい者体験

導入授業で予想した福祉面での工夫を確認するために車両観察を実施した後、車いすを使用し乗車から降車までの一連の体験をノンステップバス、ステップバスについて行った。また、近江土山バス停に移動し、バス停観察および障がい者体験について同様の手順で行った。実施にあたり、バス事業者・行政（滋賀県・甲賀市）が体験のサポートを行った。

図　3-27　車両観察・障がい者体験の様子（1/3）

図　3-28　車両観察・障がい者体験の様子（2/3）

図　3-29　車両観察・障がい者体験の様子（3/3）

（c）まとめ

作成した以下のような、障がい者のために何ができるのかを考えるためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

図　3-30　4年生のワークシート（再掲）

3）**結果についてのヒアリング**

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-3 教師へのヒアリング結果

日 時	令和２年２月 21 日
ヒアリング対象	教頭先生
ご意見	・今年度は体験までの待ち時間を、バス車両の工夫点等をワークシートに記入してもらう時間にしたが、やはりお喋りをしたり、遊んだりしてしまう子がいた。待ち時間を学習時間としてどう有効的に過ごしてもらうのかは今後の課題である。 ・福祉について学ぶ総合学習として、土山小学校では 3 年生で視覚障がい者、４年生で身体障がい者のことについて学習をしており、その学習の延長として、バス車両での障がい者体験を実施させて頂いている。盲導犬を連れている障がい者の方にインタビューをする授業では、公共交通の利用が特に困っているということを話されていたので、それを自分で実際に体験できる今回のような授業があれば、学習理解はより深まるのではないかと思う。しかし、今回の授業は障がい者インタビューから時間があいてしまったので、今後継続的に実施するのであれば子供たちが学習内容を覚えている間に体験授業を実施する必要がある。 ・土山小学校の福祉学習では、障がい者学習にあわせて、高齢者の移動・生活についての学習もしている。障がい者だけでなく、高齢者の視点からの実施・展開も可能であると考える。

（4）５年生･総合的な学習　福祉学習（上田上小学校）

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

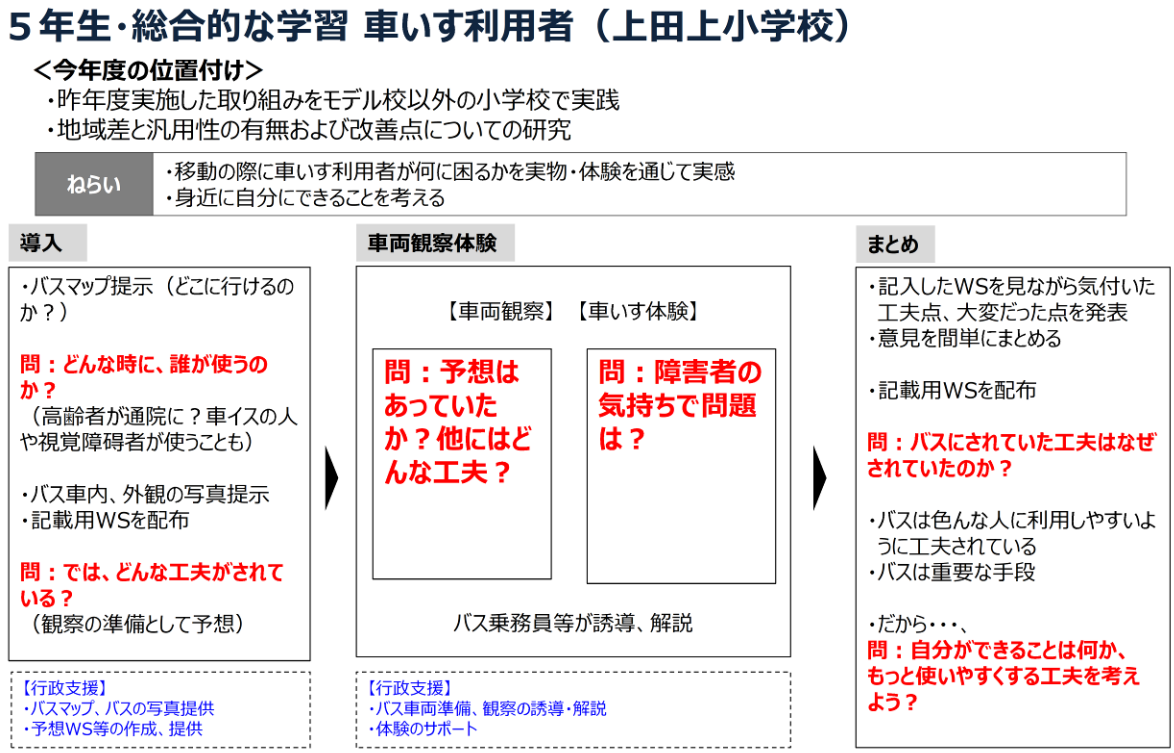


図　3-31　学習の流れ（再掲）

２）実施結果

実際に校庭内をバスが走行することで、車いすの方が走行中の車内で感じることについても体験することができた。

図　3-30　車両観察･障がい者体験の様子

3-1-3 新たな交通学習プログラムの検討

（1）2年生･生活科　鉄道の乗り方教室（笠縫小学校）

1）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

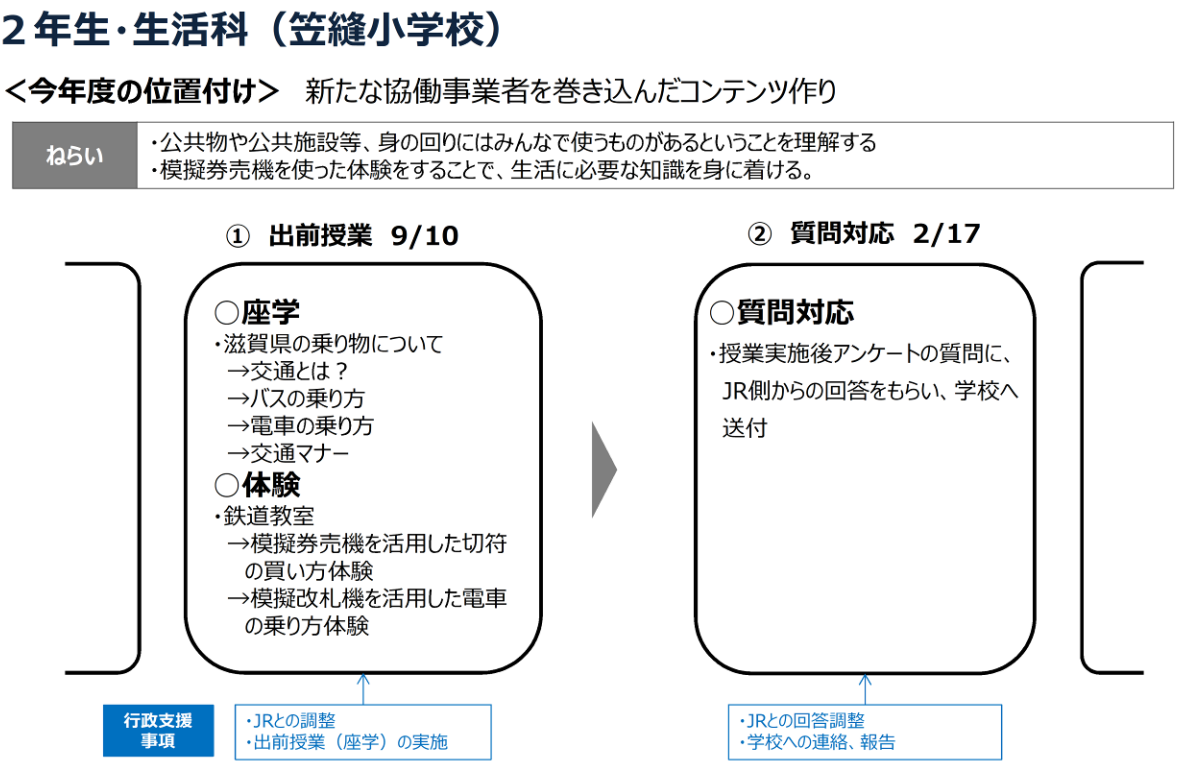


図　3-31　学習の流れ（再掲）

2）実施結果

実際に従事している事業者から説明を受けることで、子どもたちの学習効果が増大した。

図　3-32　鉄道教室の様子

また、実施した授業後アンケートに記載のあった児童からの質問について、西日本旅客鉄道株式会社に回答を作成し送付いただき、後日振り返りのきっかけとするとともに、学習効果を増大した。

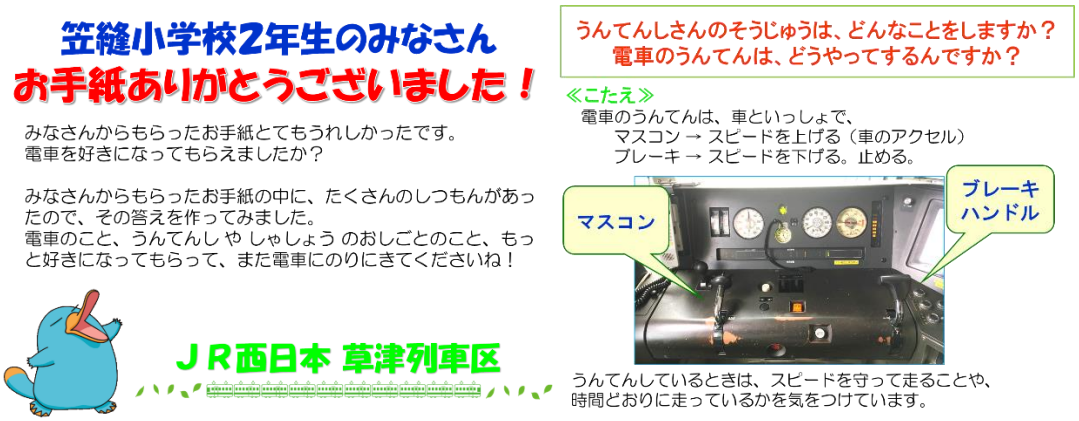


図　3-33　質問回答

（２）５年生･社会科　物流（土山小学校）

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

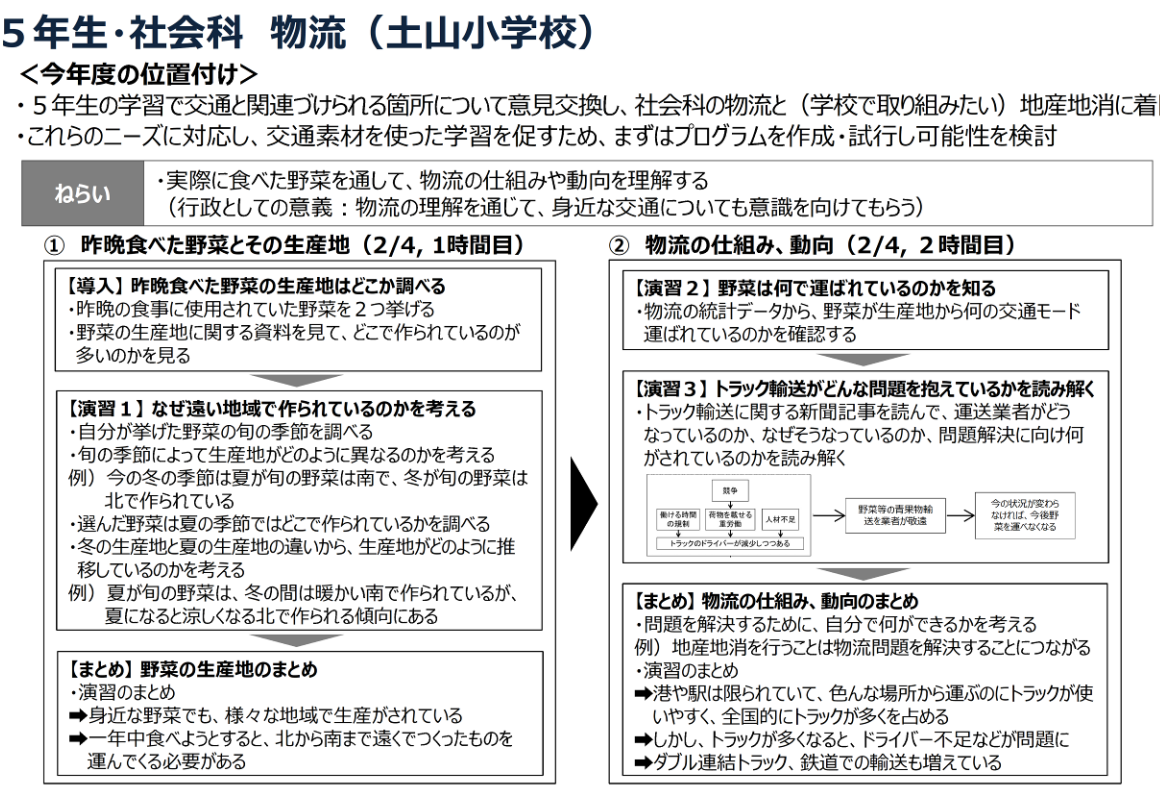
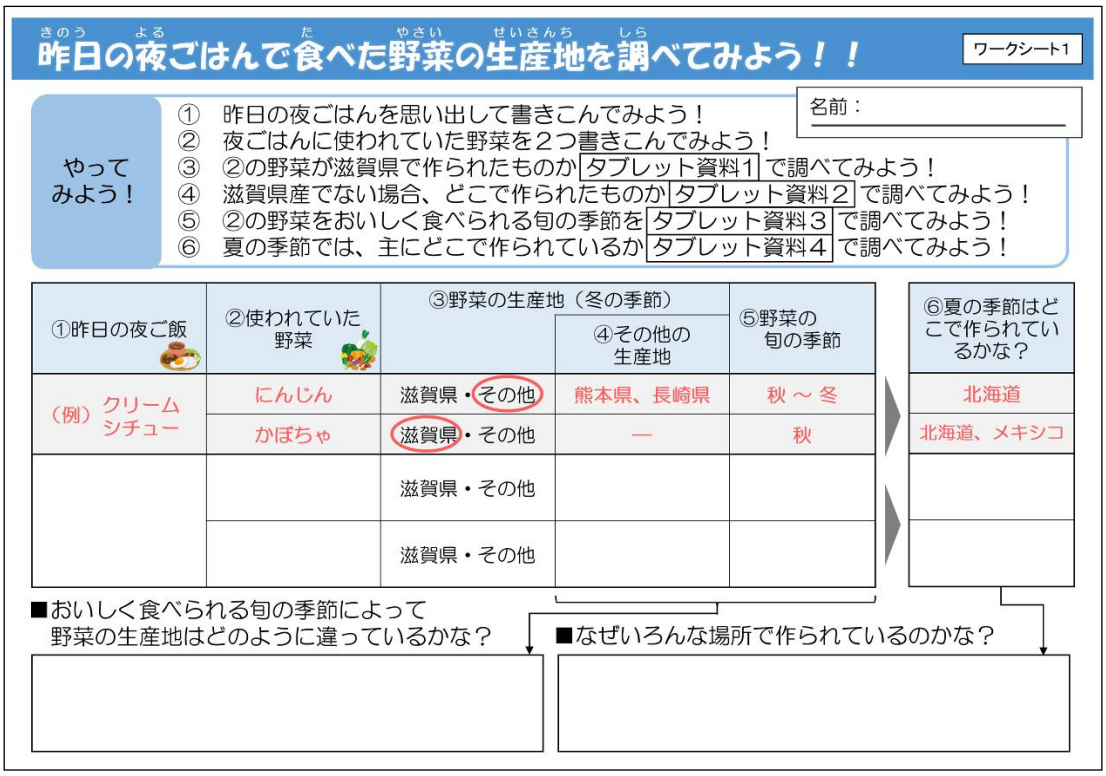


図　3-32　学習の流れ（再掲）

２）実施結果

（a）ワークシートの作成および提供

作成した以下のような、実際に食べた野菜を通して物流の必要性や物流が抱えている問題を理解するとともに、問題を解決するために自分たちは何ができるかを考えてもらうためのワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。



昨日の夜ごはんで食べた野菜の生産地を調べてみよう！！

ワークシート1

名前：

やってみよう！

① 昨日の夜ごはんを思い出して書きこんでみよう！
② 夜ごはんに使われていた野菜を２つ書きこんでみよう！
③ ②の野菜が滋賀県で作られたものか タブレット資料１ で調べてみよう！
④ 滋賀県産でない場合、どこで作られたものか タブレット資料２ で調べてみよう！
⑤ ②の野菜をおいしく食べられる旬の季節を タブレット資料３ で調べてみよう！
⑥ 夏の季節では、主にどこで作られているか タブレット資料４ で調べてみよう！

①昨日の夜ご飯	②使われていた野菜	③野菜の生産地（冬の季節）	④その他の生産地	⑤野菜の旬の季節	⑥夏の季節はどこで作られているかな？
（例）クリームシチュー	にんじん	滋賀県・その他	熊本県、長崎県	秋 ～ 冬	北海道
	かぼちゃ	滋賀県・その他	—	秋	北海道、メキシコ
		滋賀県・その他			
		滋賀県・その他			

■おいしく食べられる旬の季節によって野菜の生産地はどのように違っているかな？

■なぜいろんな場所で作られているのかな？

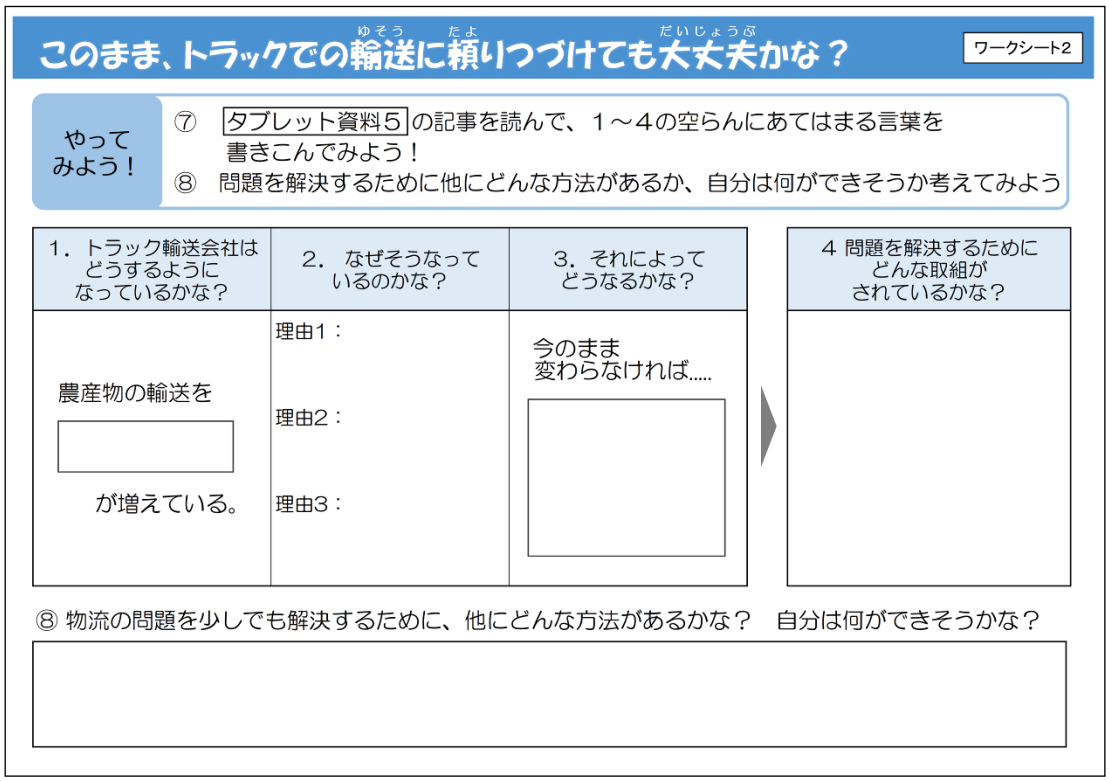


図 3-33 ５年生のワークシート（再掲）

（b）授業の実施

実際に食べた野菜を通して、物流の仕組みや動向を理解させる授業を行政（滋賀県）が実施した。授業の様子を以下に示す。

図　3-34　授業の様子（1/4）

図　3-35　授業の様子（2/4）

図　3-36　授業の様子（3/4）

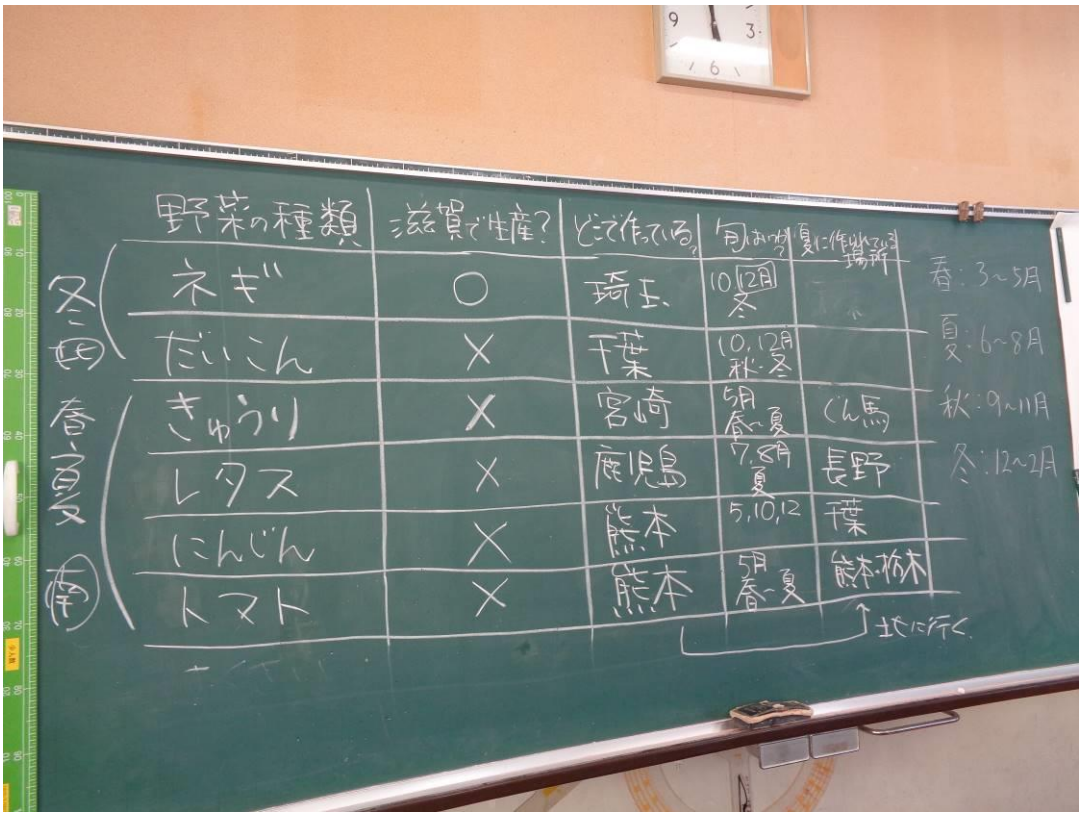


図　3-37　授業の様子（4/4）

3）**結果についてのヒアリング**

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-4 教師へのヒアリング結果

日 時	令和２年２月 21 日
ヒアリング対象	教頭先生
ご意見	・参照する情報が多くあったものの、タブレットを上手く使いながら授業に取り組めていたと思う。 ・しかし、ワークシートで考えなければならない項目が多く、子供たちが本当に理解できているかどうかは疑問である。地産地消について理解してもらうには、遠い地域で野菜が多く作られているということ分かればよいので、そこまでの過程をもう少し簡素化し、理解してほしい内容に焦点をあてて授業をする方がよかったのではないかと考える。 ・今回は地産地消から物流問題について考える授業構成となっていたが、地産地消から「地域の伝統」や「環境問題」という学習につなげる展開も考えられる。 ・環境問題の学習は基本的に教科書を用いた学習となっているが、図書室での調べ学習も行っている。野菜の輸送状況から環境問題について学習することも可能であると思う。

（３）総合学習･空き家での交通素材活用（甲賀市立土山小学校６年生、総合学習）

１）学習の流れ

実施した学習の流れを以下に示す。

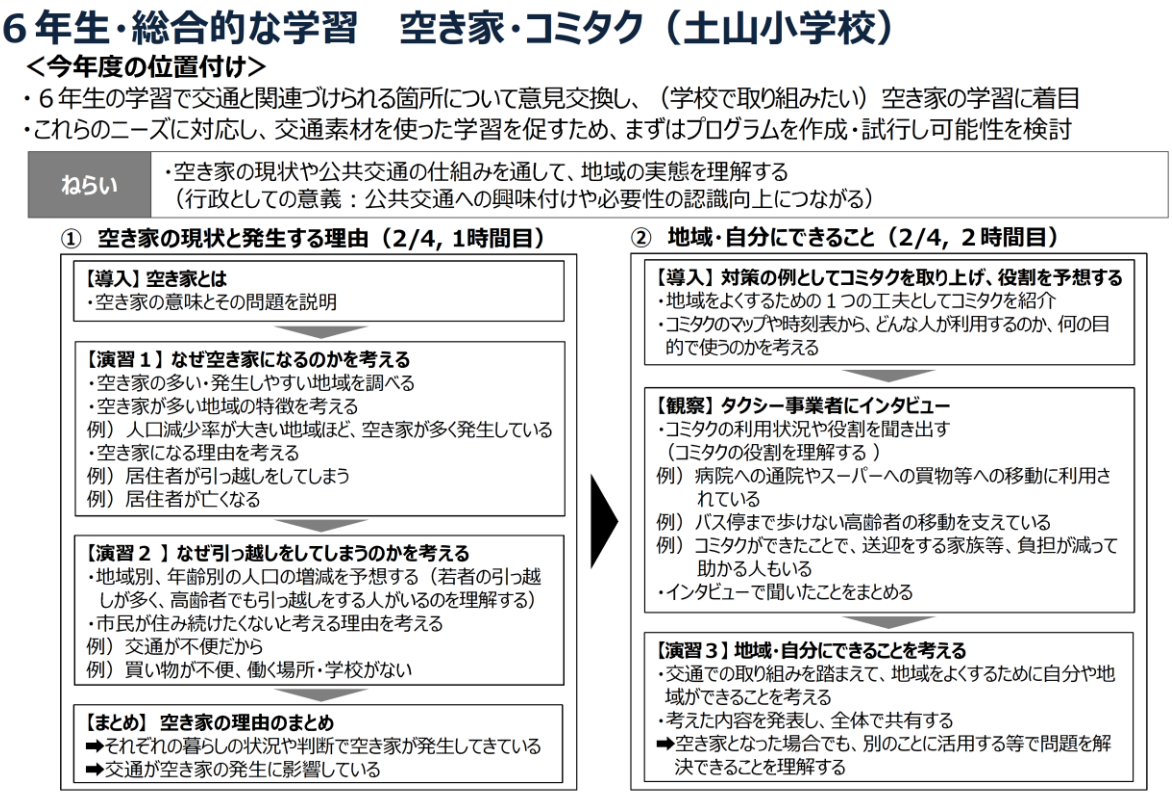


図　3-38　学習の流れ（再掲）

２）実施結果

（a）ワークシートの作成および提供

作成した以下のような、空き家の現状や発生理由等を踏まえて、空き家にならないようにするためにまたは空き家になっても問題とならないようにするために自分や地域ができることについて考えるワークシートを人数分印刷し、学校に提供した。

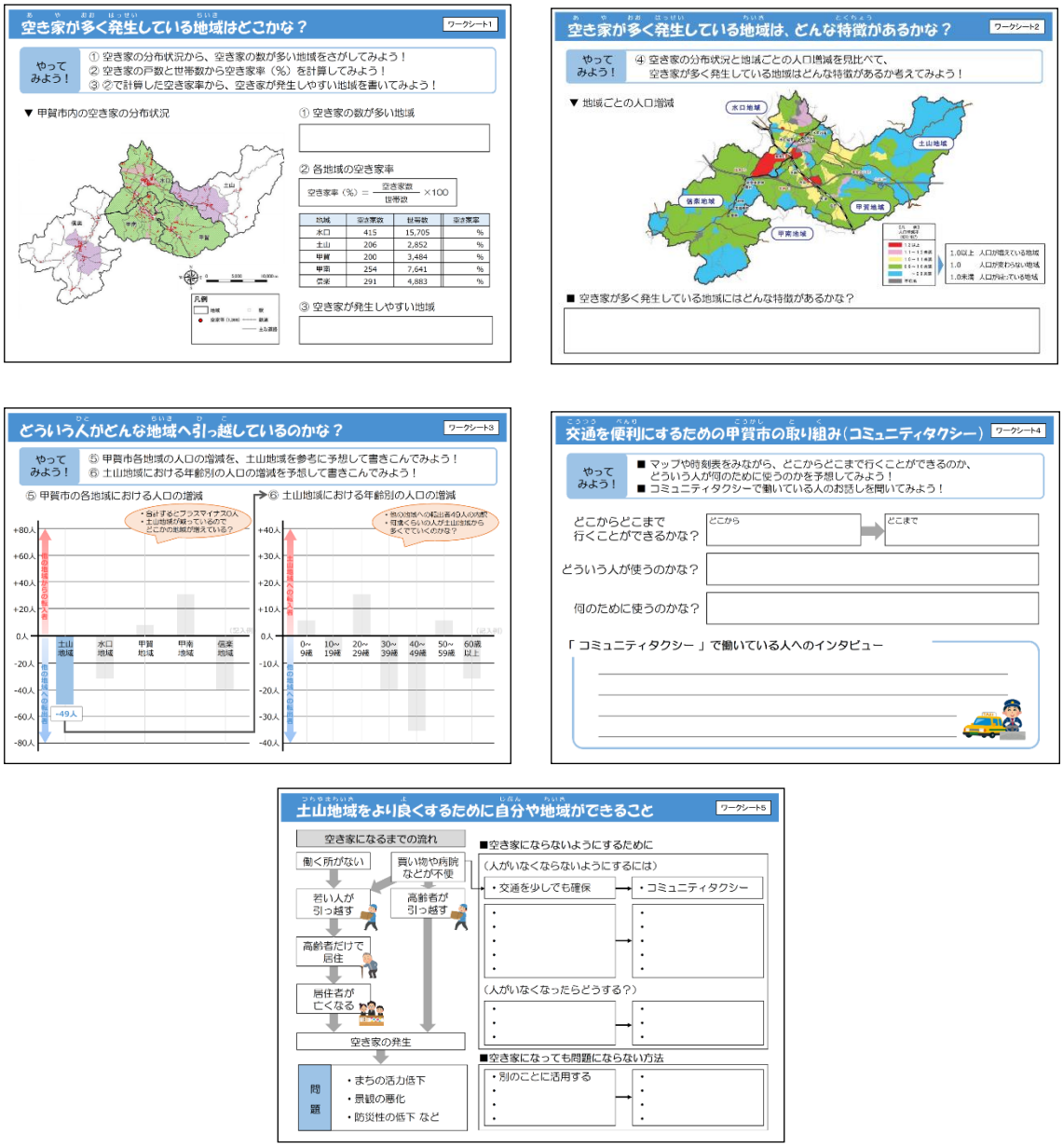


図　3-39　６年生のワークシート（再掲）

（b）授業の実施

空き家の現状や公共交通の仕組みを通して、地域の実態を理解させる授業を行政（滋賀県）が実施した。また、地域をよくする取り組みとして導入しているコミュニティタクシーの導入背景や利用状況についての質問への回答を行政（甲賀市）および滋賀タクシーが実施した。

授業の様子を以下に示す。

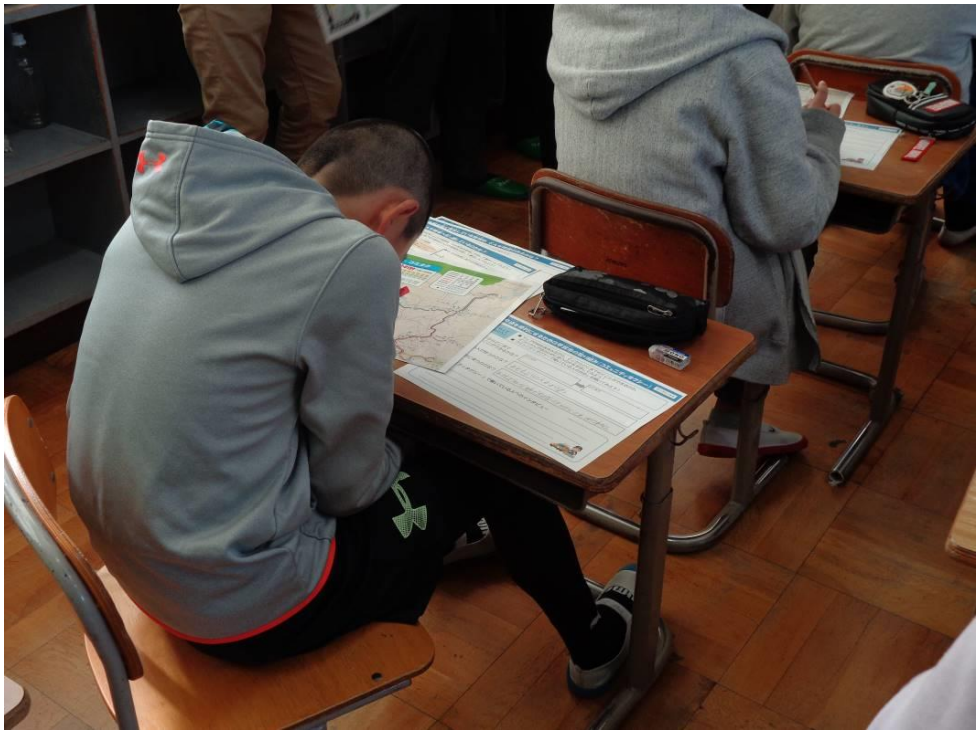


図　3-40　授業の様子（1/4）

図　3-41　授業の様子（2/4）

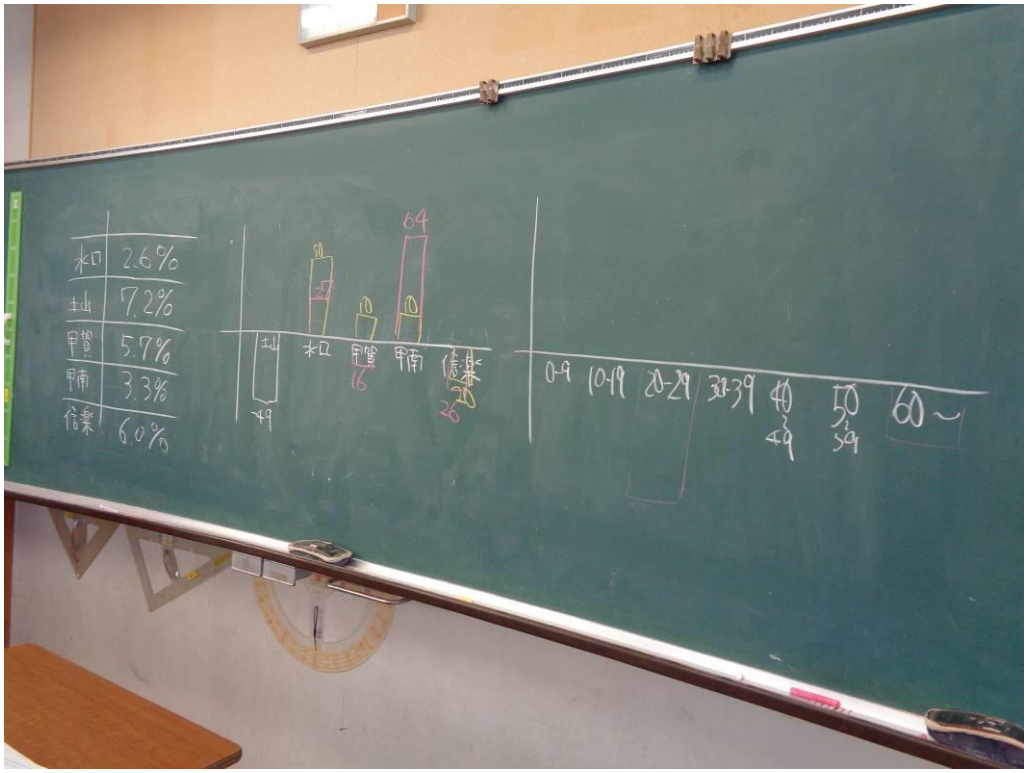


図 3-42 授業の様子（3/4）

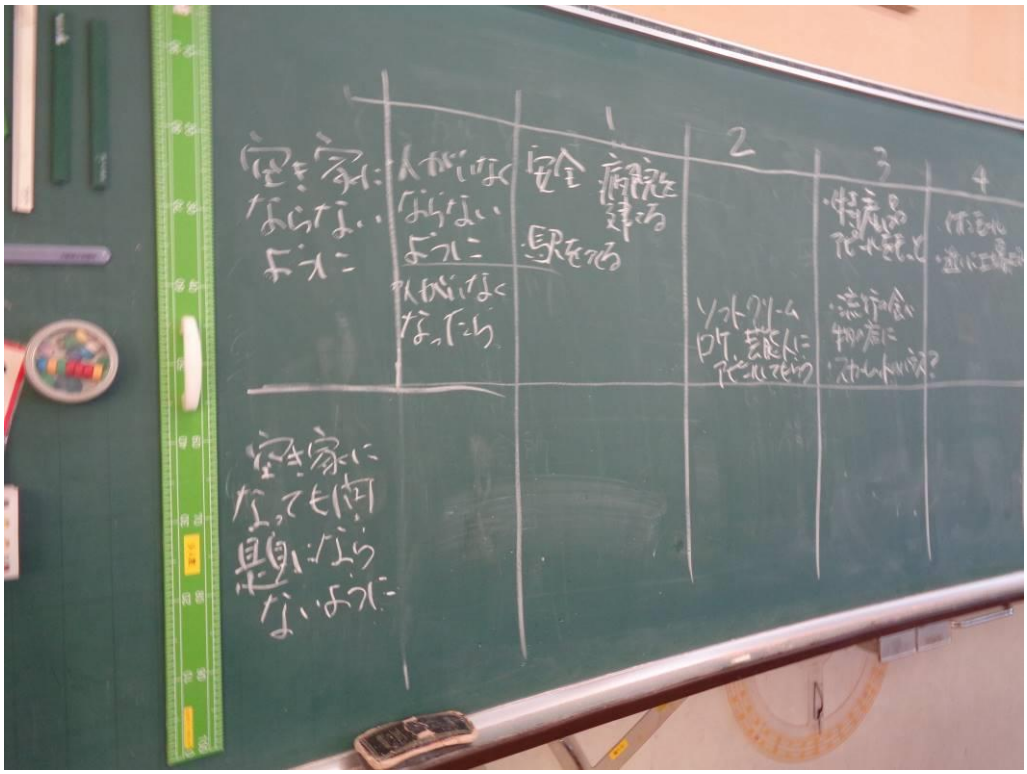


図 3-43 授業の様子（4/4）

3）**結果についてのヒアリング**

授業実施後、取り組みの良かった点や改善点等について、教師へのヒアリングを行った。ヒアリング結果を以下に示す。

表 3-5 教師へのヒアリング結果

日 時	令和２年２月 21 日
ヒアリング対象	教頭先生
ご意見	・暮らしの問題と交通の問題から空き家について学習する内容であったが、卒業する前に空き家をなくすために自分たちに何ができるのか等、自分たちが住む地域の将来について考える時間をとれてよかった。 ・授業で出たアイディアは夢物語的なものもあったが、実践的なものもあった。実際に考えたアイディアを実現するという学習へ展開・発展させていくことも考えられる。 ・江戸時代についての学習と絡めて、石碑や本陣をめぐるウォークラリーやボランティアの人のお話しを聞くというような授業も行っているので、それらを踏まえて今回の学習を行えば、色んな視点のアイディアがでてきたかもしれない。また、子供たちが考えたアイディアを宿場まつり等の地域のイベントで発表することも考えられる。 ・空き家学習は今年度初めての取組であり、例年の６年生の総合学習では、リーダーシップや主体性を身につけてもらうため、運動会等の行事をどう進めていくかや、るりこう園の障がい者支援施設と一緒に障がい者の方との交流イベントについて考え進めてもらう学習を行っている。

3-2 今後の課題

3-2-1 R1 年度の取り組み結果

前節の交通学習プログラムの実施結果および教師の感想を踏まえ、R1 年度の実施結果について以下のように整理した。

表 3-6 R1 年度の取り組み結果

学年	教科	実施結果
2年生	生活科	・乗り方教室は多くの学校で展開し、バリエーションが増加 ・生活科の内容は単元とマッチさせられる
3年生・4年生	総合的な学習（福祉）	・車両を活用した学習パターンをある程度確立 ・観察体験の工夫・改善により、より効果的な学習の実施が望まれる
4年生	社会科（鉄道すごろく）	・試作案としてツールを一通り作成 ・今後、ツールの試行・改善が必要
5年生	社会科（物流）	・単元にあった交通素材の活用の切り口を確認（農業、物流、環境） ・学習の流れで使いやすいツールとなるよう、焦点をしぼり、整理することが必要
	琵琶湖学習	・琵琶湖を幅広く理解するツールとして交通素材の活用可能性あり ・きっかけづくり用素材は築済み（H30)
6年生	総合的な学習	・地域について考える際の地域の実態把握に、交通素材の活用可能性あり ・事業者や行政担当者等、交通を担う人を資源とすることも可能

3-2-2 課題の整理

前項の研究会の意見や今年度の取り組み結果を踏まえ、R2 年度以降の課題について以下ように整理した。

表 3-7 今後の課題

学年	教科	実施結果	今後の課題
２年生	生活科	・乗り方教室は多くの学校で展開し、バリエーションが増加 ・生活科の内容は単元とマッチさせられる	・内容のブラッシュアップ、整理
３年生 ・４年生	総合的な学習 （福祉）	・車両を活用した学習パターンをある程度確立 ・観察体験の工夫・改善により、より効果的な学習の実施が望まれる	・内容のブラッシュアップ、整理
４年生	社会科 （鉄道すごろく）	・試作案としてツールを一通り作成 ・今後、ツールの試行・改善が必要	・ツールの試行、調整
５年生	社会科 （物流）	・単元にあった交通素材の活用の切り口を確認（農業、物流、環境） ・学習の流れで使いやすいツールとなるよう、焦点をしぼり、整理することが必要	・学習の流れにあい活用しやすくなるよう、調整・再整理（学校だけで実施できるようにすることも考慮）
	琵琶湖学習	・琵琶湖を幅広く理解するツールとして交通素材の活用可能性あり ・きっかけづくり用素材は築済み（H30）	・試行を増やして検討 ・内容のブラッシュアップ
６年生	総合的な学習	・地域について考える際の地域の実態把握に、交通素材の活用可能性あり ・事業者や行政担当者等、交通を担う人を資源とすることも可能	・交通を切り口に地域をよりよく理解してもらう観点での素材等の提供方法について再検討、整理

3-3 来年度の実施内容の検討

3-3-1 検討の考え方

R3年度以降の仕組みづくりに向けて、本事業においては県単位での素地づくりが必要であり、「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるようにサポートの確立とともに、将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況としていくことが求められる。

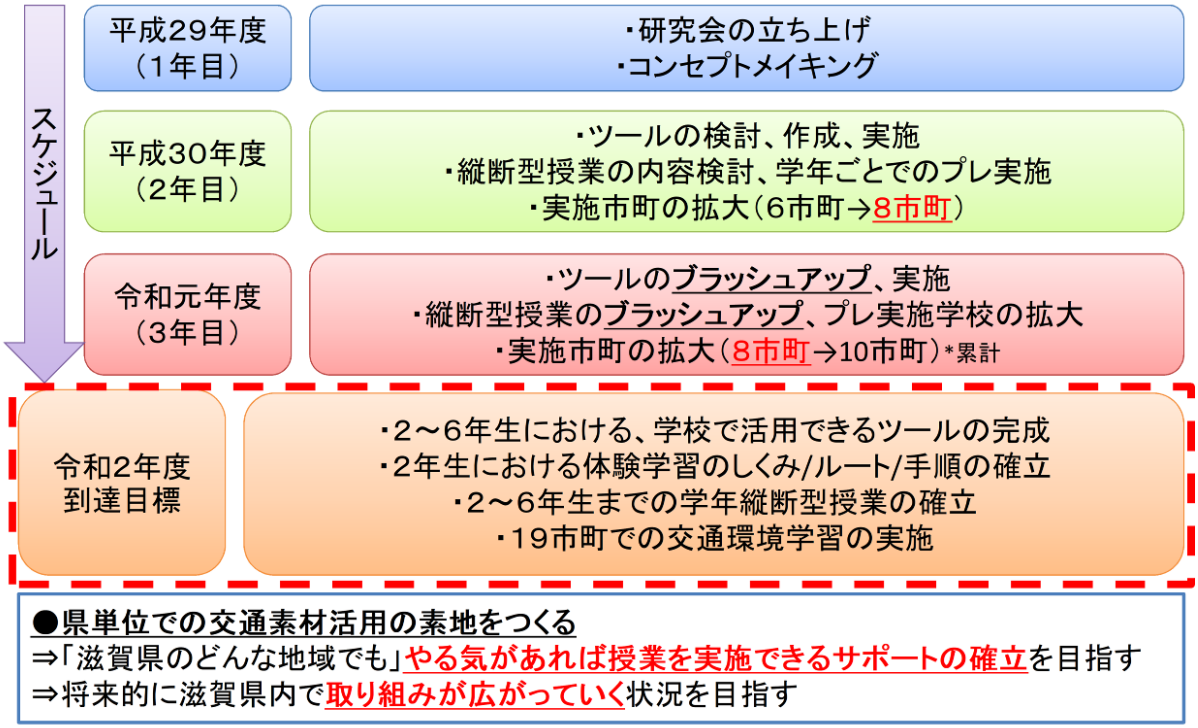


図 3-44 R2年度の検討目標

これらを踏まえると、来年度が本事業の最終年度であるため、事業としての成果・アウトプットを見据えながら来年度の実施内容について検討する必要がある。そこで、R3 年度以降の実施・展開イメージを整理した上で、今年度の課題を踏まえ、R２年度の検討方針・実施内容について抽出・整理を行うこととした。

3-3-2 R3年度以降の実施・展開イメージ

従来の出前授業で終わるのではなく、単元の理解を深める交通素材を活用した学習の支援を市町・事業者が主体となって実施していくことが望まれるが、短期的に市町や事業者だけで進めていくことは難しいと考えられる。そのため、継続的に県からツールや使い方についてサポートを行うとともに、より効果的なものにしていくために学校の意見を踏まえた改善を行っていく必要がある。また、取り組みが事業者の負担となることが想定されるため、事業者へのインセンティブについても検討し、参画しやすい環境づくりを行う必要がある。

これらを踏まえ、R3 年度以降の展開を整理した上で、それを実現するために必要な成果・アウトプットを整理した。

＜展開イメージ＞

①県が研究会で構築したツール・プログラムを学校へ提供
⇒②県がもつノウハウを活かし、市町・事業者のサポートを行う
⇒③市町・事業者が主体となって学習の実施または学校へのサポートを行う
⇒④学習の結果を踏まえ、県が中心となり教師との意見・情報交換を実施する。
⇒⑤情報共有組織・団体をつくり、学校へのフィードバック等を実施する。
⇒⑥交通環境学習を実施した事業者へ補助等のインセンティブを付与
⇒⑦教師との意見・情報交換を踏まえ、ツール・プログラムの改善や事例の蓄積・整理を行う
⇒①・・・

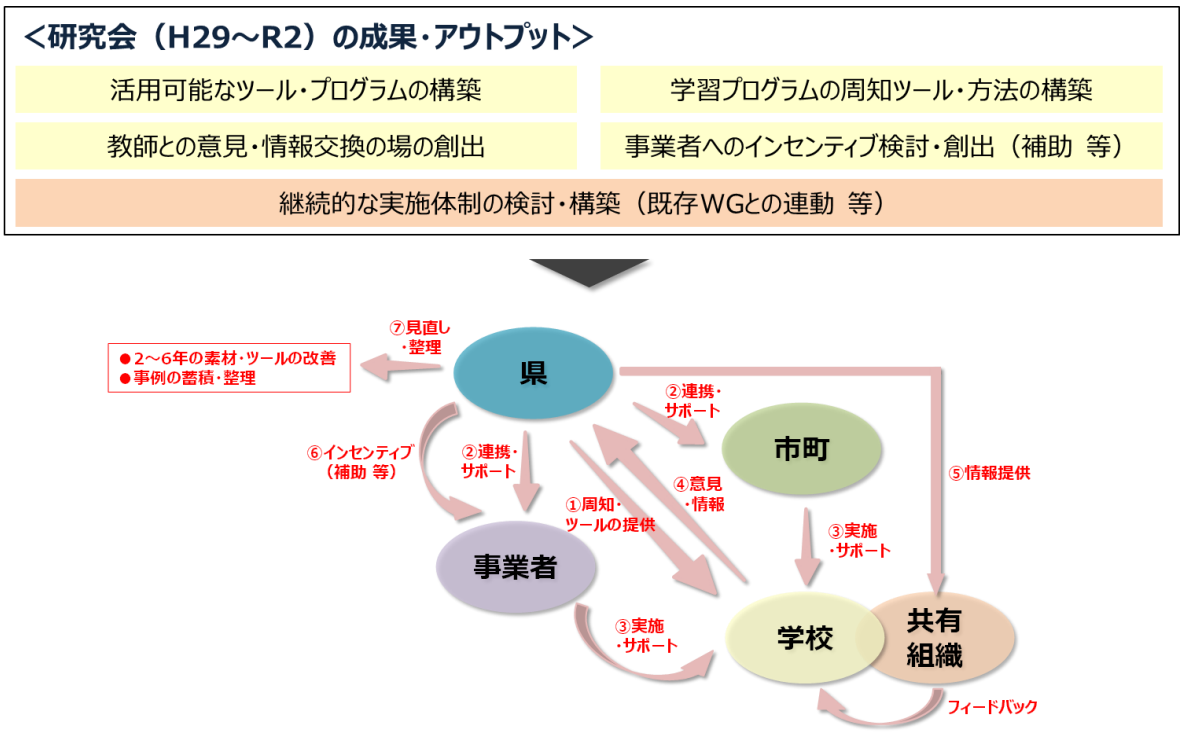


図 3-45 研究会の成果と展開イメージ

3-3-3 R２年度の実施内容

前項で整理したＲ３年度以降の展開が可能となるよう、２～６年生のツール等の見直し・整理を行うとともに、周知情報提供の試行・見直しや事業者へのインセンティブの創出・検討等を実施していくこととする。

学年	教科	結果
２年生	生活科	・乗り方教室は多くの学校で展開し、バリエーションが増加 ・生活科の内容は単元とマッチさせられる
３年生 ・４年生	総合学習 （福祉）	・車両を活用した学習パターンをある程度確立 ・観察体験の工夫・改善により、より効果的な学習の実施が望まれる
４年生	社会科 （鉄道すごろく）	・試作案としてツールを一通り作成 ・今後、ツールの試行・改善が必要
５年生	社会科 （物流）	・単元にあった交通素材の活用の切り口を確認（農業、物流、環境） ・学習の流れで使いやすいツールとなるよう、焦点をしぼり、整理することが必要
	琵琶湖学習	・琵琶湖を幅広く理解するツールとして交通素材の活用可能性あり ・きっかけづくり用素材は築済み（H30）
６年生	総合学習	・地域について考える際の地域の実態把握に、交通素材の活用可能性あり ・事業者や行政担当者等、交通を担う人を資源とすることも可能

＜R２年度の検討方針＞

- ・モデル校で継続的に実施
- ・取り組みを周知、展開（モデル校以外も）
- ・内容のブラッシュアップ、整理
- ・内容のブラッシュアップ、整理
- ・ツールの試行、調整
- ・学習の流れにあい活用しやすくなるよう、調整・再整理（学校だけで実施できるようにすることも考慮）
- ・試行を増やして検討
- ・内容のブラッシュアップ
- ・交通を切り口に地域をよりよく理解してもらう観点での素材等の提供方法について再検討、整理

＜広がる仕組みづくりに関するR２年度の検討内容＞

- 交通環境学習の実施**市町・学校の拡大**
- 取り組みを実施する**交通事業者へのインセンティブ**の創出（補助の検討 等）
- 学校教師の**情報・意見の交換会**の立ち上げ、実施
- R3年度以降の**実施体制**の検討・整理（バスの課題検討ワーキングとの連動 等）

図　3-46　R2 年度の検討方針

図　3-47　実施内容のイメージ

第４章　近江の心を育む交通環境学習の研究会の実施

－ 目 次 －

４．近江の心を育む交通環境学習の研究会.....

４-１ 研究会の概要 ４-1

４-２ 研究会資料 ４-2

４-３ 議事録 ４-73

４．近江の心を育む交通環境学習の研究会

４-１ 研究会の概要

令和元年度に実施した研究会の開催概要を以下に示す。

表 ４-1 令和元年度研究会の概要

項目	内容
開催日時	令和２年３月13日（金） 10:00～12:00
開催場所	滋賀県大津合同庁舎 6-D 会議室
出席者	【会長】 市川 智史（滋賀大学 環境総合研究センター 教授） 【副会長】 水山 光春（青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 特任教授） 野村 義明（滋賀県バス協会 専務理事） 【委員】 中西 敏弘（信楽高原鐵道 企画課 課長） 立川 敬一（滋賀県バス協会（近江鉄道） 乗合委員 委員長 （取締役 自動車部長） 野口 明（代理）（JR 西日本 地域創生室長） 森井 貴士（教育委員会 幼小中教育課 指導主事） 酒井 敏一（国土交通省 滋賀運輸局 主席運輸企画専門官） 芝 久生（滋賀県 交通戦略課 参事） 【事務局】 交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境企画課 滋賀県 土木交通部交通戦略課 【調査担当機関】 （株）オリエンタルコンサルタンツ
議事次第	１．開会 ２．議題 （１）今年度の取り組み状況 （２）来年度の検討方針
資料	・議事次第 ・資料１ 今年度の取り組み状況 ・資料２ 来年度の検討方針 ・参考 取り組み案内冊子 ・参考 鉄道すごろく

4-2 研究会資料

今年度の検討・実施の結果を踏まえて、下記資料にて研究会で意見交換、協議を実施した。

（1）議事次第

第５回　近江の心を育む交通環境学習の
普及・検討研究会

議事次第

日　時　令和２年３月13日（金）10：00～12：00
場　所　滋賀県大津合同庁舎　6-D 会議室

１．開会

２．議題

（１）今年度の取り組み状況　資料１

（２）来年度の検討方針　資料２

【配布資料】
議事次第
資料１　今年度の取り組み状況
資料２　来年度の検討方針
参考　　取り組み案内冊子
参考　　鉄道すごろく

図　4-1　議事次第

（2）委員名簿

研究会委員					
立場	所属	役職	氏名	備考	出欠
教育系学識者	滋賀大学	教授	市川　智史	会長	出席
教育系学識者	青山学院大学	特任教授	水山　光春	副会長	出席
交通系学識者	筑波大学大学院	教授	谷口　綾子		欠席
交通事業者(自動車)	トヨタ自動車	未来創生センターSーフロンティア部　担当部長	畔柳　滋		欠席
交通事業者(鉄道)	近江鉄道	執行役員　鉄道部長	澤本　由紀伸		欠席
交通事業者(鉄道)	信楽高原鐵道	総務課長	中西　敏弘		出席
交通事業者 (バス・タクシー)	滋賀県バス協会 (近江鉄道)	乗合委員長 (取締役　自動車部長)	立川　敬一		出席
交通事業者(バス)	滋賀県バス協会	専務理事	野村　義明	副会長	出席
交通事業者(鉄道)	JR西日本	地域創生室長	野口　明		代理出席
行政(市町)	東近江市	都市基盤整備課長	山本　亨志		欠席
行政(市町)	彦根市	交通対策課長	宮永　幹雄		欠席
行政(市町)	草津市	交通政策課長	高岡　良秀		欠席
行政(市町)	甲賀市	公共交通推進課長	田村　勝也		欠席
行政(教育委員会)	幼小中教育課	指導主事	森井　貴士		出席
行政(国)	滋賀運輸局	首席運輸企画専門官	酒井　敏一		出席
行政(県)	交通戦略課	参事	芝　久生		出席

事務局					
	交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境企画課　担当課長	岡本　英晃		出席
	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	交通政策部	土崎　伸		出席
	株式会社オリエンタルコンサルタンツ	交通政策部	東川　祐樹		出席
	滋賀県土木交通部交通戦略課	主事	森　陽介		出席
	滋賀県土木交通部交通戦略課	主事	角　謙昇		欠席
	滋賀県土木交通部交通戦略課	エコ交通推進員	小林　知子		出席

図　4-2　委員会名簿

（3）配席図

令和元年度　近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会
座席表

	バス協会 野村副会長	滋賀大学 市川会長	青山学院大学 水山副会長	
バス協会 立川様				近畿運輸局 酒井様
ＪＲ西日本 前波様				信楽高原鐵道 中西様
県交通戦略課 芝		≪事務局≫		教育委員会 森井様
エコモ財団 岡本様	オリエンタル コンサルタンツ 東川様	オリエンタル コンサルタンツ 土崎様	交通戦略課 森	交通戦略課 小林

図 4-3 配席図

（４）資料１　今年の取り組み状況

資料１

今年度の取り組み状況

図　4-4　資料１-今年度の取り組み状況（1/60）

１．今年度の取り組み方針

2

（１）検討目標

＜検討スケジュール＞

スケジュール

平成29年度（1年目）	・研究会の立ち上げ ・コンセプトメイキング
平成30年度（2年目）	・ツールの検討、作成、実施 ・縦断型授業の内容検討、学年ごとでのプレ実施 ・実施市町の拡大（6市町→8市町）
令和元年度（3年目）	・ツールのブラッシュアップ、実施 ・縦断型授業のブラッシュアップ、プレ実施学校の拡大 ・実施市町の拡大（8市町→10市町）*累計
令和2年度到達目標	・2～6年生における、学校で活用できるツールの完成 ・2年生における体験学習のしくみ/ルート/手順の確立 ・2～6年生までの学年縦断型授業の確立 ・19市町での交通環境学習の実施

●県単位での交通素材活用の素地をつくる
⇒「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポートの確立を目指す
⇒将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指す

図　4-5　資料１-今年度の取り組み状況（2/60）

１．今年度の取り組み方針

3

（２）令和元年度の検討の視点

＜目標への視点と項目に対する検討内容＞

目 標	視 点	項 目
「滋賀県のどんな地域でも」**やる気があれば授業を実施できるサポート体制の確立**を目指す	知る機会をつくる	全体的な取り組み周知
		教師間の情報伝達・波及
	実施しようと思った時にやれるようにする	交通素材の提供体制の確保
		ベースとなるツールの構築
		成功例の収集、事例の発信
滋賀県内で**取り組みが広がっていく**状況を目指す	実施を促すインセンティブを確保	顕彰、発表機会の創出
		一連の学習に対する資金支援
	地域に取り組みを根付かせる	興味の強い教師との連携強化
		市町で重点事業として実施

滋賀県の役割

市町の取り組み

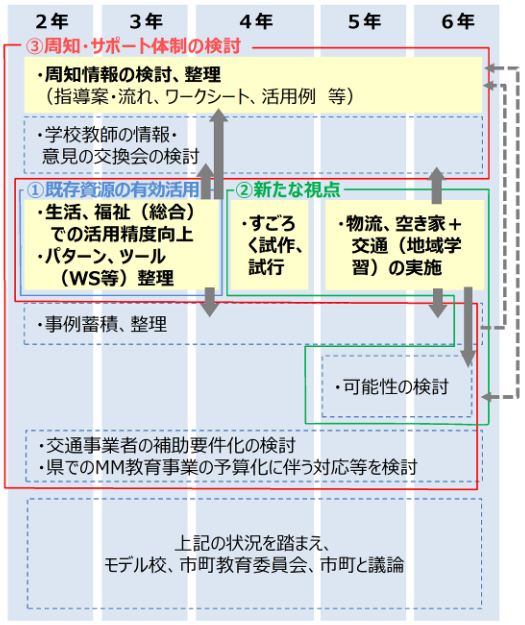


図 ４-6 資料１-今年度の取り組み状況（3/60）

２．今年度の取り組み結果

4

（１）交通環境学習の実施小学校一覧

学年	科目	学習内容	市町	小学校
2年生	生活科	地域の公共交通 バスの乗り方教室 乗車体験	大津市	上田上小学校
				瀬田北小学校
				瀬田南小学校
			彦根市	佐和山小学校
				城東小学校
				旭森小学校
				高宮小学校
			近江八幡市	岡山小学校
			草津市	笠縫小学校
				老上西小学校
				志津南小学校
			甲賀市	綾野小学校
				大野小学校
				土山小学校
			湖南市	菩提寺小学校
				三雲小学校
			東近江市	五箇荘小学校
				箕作小学校
				市原小学校
				能登川北小学校
				布引小学校
				愛東南小学校
				八日市西小学校
			竜王町	竜王西小学校
				竜王小学校
			甲良町	甲良東小学校

図 ４-7 資料１-今年度の取り組み状況（4/60）

2．今年度の取り組み結果

5

（1）交通環境学習の実施小学校一覧

学年	科目	学習内容	市町	小学校
3年生	総合的な学習	視覚障がい者体験	甲賀市	土山小学校
4年生	総合的な学習	車いす体験	甲賀市	土山小学校
5年生	社会科	物流	甲賀市	土山小学校
	総合的な学習	車いす体験	大津市	上田上小学校
6年生	総合的な学習	空き家・コミタク	甲賀市	土山小学校

図　4-8　資料1-今年度の取り組み状況（5/60）

2．今年度の取り組み結果

6

（2）２年生・生活科（土山小学校）

＜今年度の位置付け＞　昨年度実施した取り組みをくり返し実施して定着化

ねらい
・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する
・公共施設やそのために働いている人たちが自分たちの地域の生活を支えていることを理解する

① 乗り方教室　12/4

○体験
・バスの乗り方説明
・バスの乗車練習

○座学
・滋賀県の乗り物について
→交通とは？
→観光バスと路線バスの違い
→交通マナー

○バス会社インタビュー
（シガ・エージェント）
→バスの運行や、運転手の仕事について

② 乗車体験 2/13

○バス・電車探険
（近江土山～貴生川～寺庄～近江土山）
・乗車券の購入、乗車
・乗客インタビュー
→どんな人が、どこに行くのに使っている

○鉄道会社インタビュー
（JR西日本 貴生川駅長）
→鉄道の運行や、駅員さんの仕事について

③ まとめ

○まとめ
・みんなが使う、暮らしを支えるバスや鉄道の存在（どんなひとが何に使っていたか等から）
・バスや鉄道を支える仕事や人の存在（どんな仕事があったか等から）

行政支援事項
・バス車両提供、乗り方説明、インタビュー調整（シガ・エージェント）
・探検スケジュール検討
・インタビュー調整（JR西日本）
・ワークシート提供

図　4-9　資料1-今年度の取り組み状況（6/60）

2．今年度の取り組み結果

7

（2）２年生・生活科（土山小学校）

▼乗車体験（2/13）の実施スケジュール

		バス体験（行き）				電車体験					バス体験（帰り）			
時間		8:40～	8:45～	8:50～	9:03～	9:32～	9:35～	9:45～	10:00～	10:13～	10:19～	10:45～	11:05～	11:10～
		約5分	約5分	約１０分	約３０分	約３分	約１０分	約１５分	約１０分	約5分	約２５分	約２０分	約5分	約5分
場所		学校	移動	近江土山バス停	バス（近江土山バス停→貴生川駅）	移動	貴生川駅		移動・待機	電車（貴生川駅→寺庄駅）	移動・待機	バス（寺庄駅→近江土山バス停）	移動	学校
内容		・主旨、流れの説明 ・乗り方やマナーの振り返り ・WS記入方法の説明	・移動 （土山小→近江土山バス停）	・乗車券の購入方法の説明 ・窓口でフリー乗車券を購入	・バスに乗車 （近江土山→貴生川） ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （バス停→貴生川駅駅舎2階）	・切符の購入方法の説明 ・券売機で切符購入	・JR駅員にインタビュー ・WS記入	・移動 （貴生川駅駅舎2階→ホーム）	・電車に乗車 （貴生川→寺庄） ※３つの車両にわかれて乗車 ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （ホーム→バス停） ・WS記入 ・トイレ休憩	・バスに乗車 （寺庄→近江土山） ・乗客インタビュー ・WS記入	・移動 （近江土山バス停→土山小）	・総括 ・終了のあいさつ
学校	A	・はじめに ・乗り方・マナー、WS記入方法の説明	・移動の誘導	・導入 ・乗車券購入の誘導	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・導入 ・切符購入の誘導	・導入	・移動の誘導 ・生徒の対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導 ・WS記入指示 ・トイレ休憩対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・総括
	B	—	・移動の誘導	・待機生徒の対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	・待機生徒の対応	—	・移動の誘導 ・生徒の対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導 ・WS記入指示 ・トイレ休憩対応	・乗客インタビューの指導 ・生徒の対応 ・WS記入指示	・移動の誘導	—
シガ・エージェント		—	—	・乗車券の購入方法の説明 ・乗車券販売	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
JR駅員		—	—	—	—	—	・切符の購入方法の説明	・「JR駅員にインタビュー」の対応	—	—	—	—	—	—
甲賀市		・あいさつ	・移動サポート	・シガ・エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート	・移動サポート	・JR駅員のサポート ・切符購入のサポート	・JR駅員のサポート	・移動サポート	・インタビューのサポート ・WS記入サポート ※１つ目の車両を担当	・移動サポート	・WS記入サポート	・移動サポート	・あいさつ
滋賀県	A	・あいさつ		・シガ・エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート		・JR駅員のサポート ・切符購入のサポート	・JR駅員のサポート		・インタビューのサポート ・WS記入サポート ※２つ目の車両を担当		・WS記入サポート		・あいさつ
	B	・あいさつ		・シガ・エージェントのサポート ・乗車券購入のサポート	・WS記入サポート		・JR駅員のサポート ・切符購入のサポート	・JR駅員のサポート		・インタビューのサポート ・WS記入サポート ※３つ目の車両を担当		・WS記入サポート		・あいさつ
OC	A	—		—	—		—	—		—		—		—
	B	—		・記録			・記録			・記録		・記録		—

図　4-10　資料１-今年度の取り組み状況（7/60）

2．今年度の取り組み結果

8

（2）２年生・生活科（土山小学校）

▼提供したワークシート

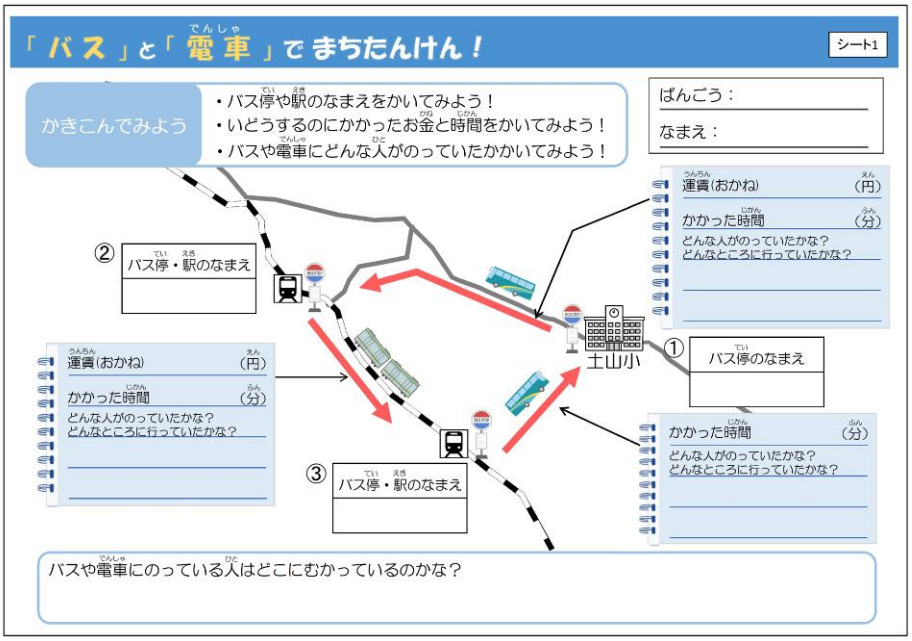


図　4-11　資料１-今年度の取り組み状況（8/60）

2．今年度の取り組み結果

9

（2） 2年生・生活科（土山小学校）

▼提供したワークシート

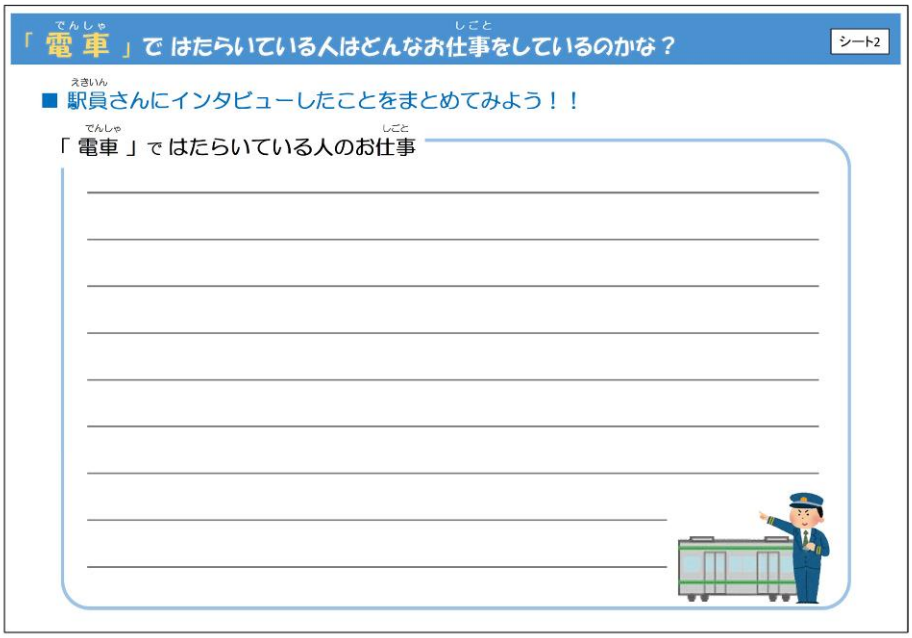


図 4-12 資料１-今年度の取り組み状況（9/60）

2．今年度の取り組み結果

10

（2） 2年生・生活科（土山小学校）

▼授業の様子

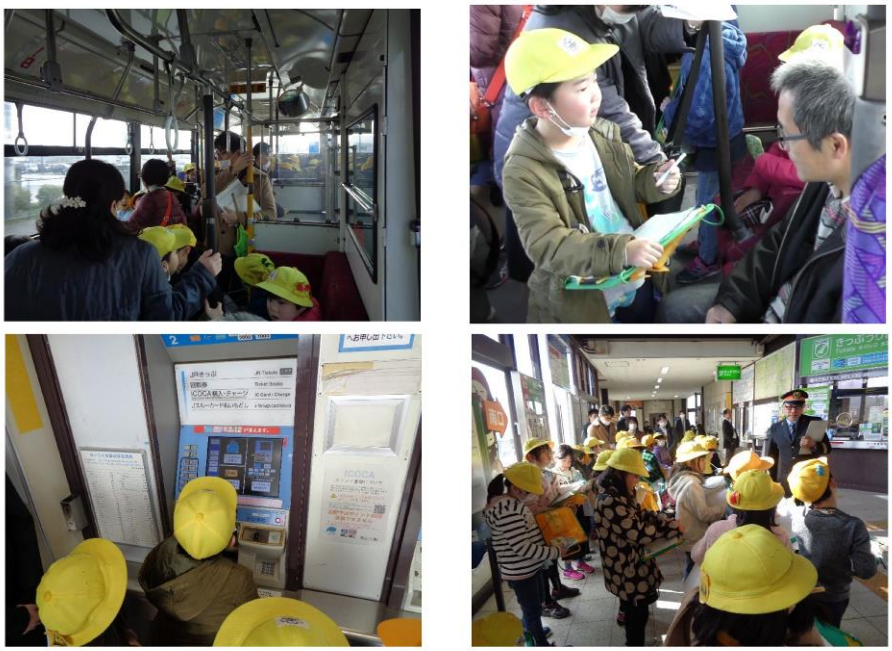


図 4-13 資料１-今年度の取り組み状況（10/60）

2．今年度の取り組み結果

11

（3）２年生･生活科（笠縫小学校）

<今年度の位置付け>　新たな協働事業者を巻き込んだコンテンツ作り

ねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあるということを理解する ・模擬券売機を使った体験をすることで、生活に必要な知識を身に着ける。

①　出前授業　9/10

○座学
・滋賀県の乗り物について
　→交通とは？
　→バスの乗り方
　→電車の乗り方
　→交通マナー

○体験
・鉄道教室
　→模擬券売機を活用した切符の買い方体験
　→模擬改札機を活用した電車の乗り方体験

②　質問対応　2/17

○質問対応
・授業実施後アンケートの質問に、JR側からの回答をもらい、学校へ送付

行政支援事項	・JRとの調整 ・出前授業（座学）の実施	・JRとの回答調整 ・学校への連絡、報告

図　4-14　資料１-今年度の取り組み状況（11/60）

2．今年度の取り組み結果

12

（3）２年生･生活科（笠縫小学校）

▼実施スケジュール

笠縫小学校　交通環境学習

令和元年９月４日
滋賀県交通戦略課

1　日時

2019年９月10日（火）
３，４時間目

2　対象者

草津市立笠縫小学校　２年生１１１名（３クラス）

3　授業実施側メンバー（敬称略）

JR西日本草津列車区　９名
草津市　交通政策課　１名
滋賀県　交通戦略課　２名

4　スケジュール

	3時間目 10:15~11:05	4時間目 11:15~12:05
Aグループ	座学	鉄道教室
Bグループ	鉄道教室	座学

※移動時間（トイレ休憩含む）は10分
※座学は、各クラスの教室で実施（PC,電子黒板使用）
※鉄道教室は、図書室で実施（電子黒板使用・2時間目より準備開始）
※草津市、滋賀県の職員は、10時ごろ小学校に到着予定

5　授業内容への要望

・授業は校外学習の事前学習
・校外学習で電車と路線バスを利用
・児童１人ずつ券売機で切符を買うので、券売機の使い方を体験させたい
・改札口の通り方を体験させたい
・○×クイズは、草津にちなんだクイズを入れて欲しい（草津線・まめバスなど）

6　授業内容

◆座学（パワーポイント使用）
◎しがけんののりもの
・車以外の乗り物の学習
・公共交通ってなに？
・学校の周りや草津市の公共交通
・バスや電車の乗り方を学習しよう

◎公共交通○×クイズ
・電車やバスについてのクイズ
・乗車マナーについて（鉄道教室の予習を兼ねて）

◆鉄道教室
◎別紙参照

図　4-15　資料１-今年度の取り組み状況（12/60）

2．今年度の取り組み結果

13

（3）２年生･生活科（笠縫小学校）

▼授業の様子

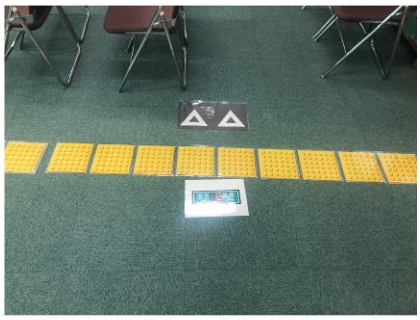


図　4-16　資料１-今年度の取り組み状況（13/60）

2．今年度の取り組み結果

14

（4）３年生･総合的な学習 視覚障がい者（土山小学校）

＜今年度の位置付け＞

・昨年度実施した取り組みをくり返し実施して定着化

・観察体験の回し方を改善（ノンステップバスと普通のバスに分け、待ち時間を少なくするとともに、違いを実感できるように変更）

ねらい	・移動の際に視覚障がい者が何に困るかを実物・体験を通じて実感 ・身近に自分にできることを考える

導　入

・バスでどこに行けるのか？（バスマップ等）

問：どんな時に、誰が使うのか？
（高齢者が通院に？車イスの人や視覚障碍者が使うことも）

・バス車内、外観の写真提示
・記載用WSを配布

問：その時どんなことに困っていそうか、どんな工夫がされているか？
（観察の準備として予想）

【行政支援】
・バスマップ、バスの写真提供
・予想WS等の作成、提供

車両観察体験（12/4）

・バス車両を校庭に準備
・校庭、近江土山バス停に分かれてスタート
・普通のバス、ノンステップバス、バス停をそれぞれ体験

【普通のバスの観察体験】
①車両観察　②障がい者体験
問：予想はあっていたか？他の工夫は？
問：障がい者の気持ちで問題は？
→【ノンステップ】→【バス停】

【ノンステップバスの観察体験】
①車両観察　②障がい者体験
問：予想はあっていたか？他の工夫は？
問：障がい者の気持ちで問題は？
→【バス停】→【普通のバス】

【バス停の観察体験】
①バス停観察　②障がい者体験
問：予想はあっていたか？他の工夫は？
問：障がい者の気持ちで問題は？
→【普通のバス】→【ノンステップ】

※車両の工夫点等をバス事業者が誘導、解説
・終わったらワークシートに気づいたことを記入

【行政支援】
・バス車両準備、観察の誘導・解説
・障害者体験キットの用意、着用・体験のサポート

まとめ

・記入したWSを見ながら、ノンステップバスやバス停で良いと思った工夫点、大変だった点を発表
・意見を簡単にまとめる

・記載用WSを配布

問：ノンステップバスやバス停には、どんな良い工夫があったか？
（バスは色んな人に利用しやすいように工夫されている）

・それがなぜされているのかを考える

問：それでもアイマスクで大変だったことは？

・それを踏まえて自分になにができるかを考える
・まとめ

図　4-17　資料１-今年度の取り組み状況（14/60）

2．今年度の取り組み結果

15

（4）３年生･総合的な学習 視覚障がい者（土山小学校）

▼実施スケジュール

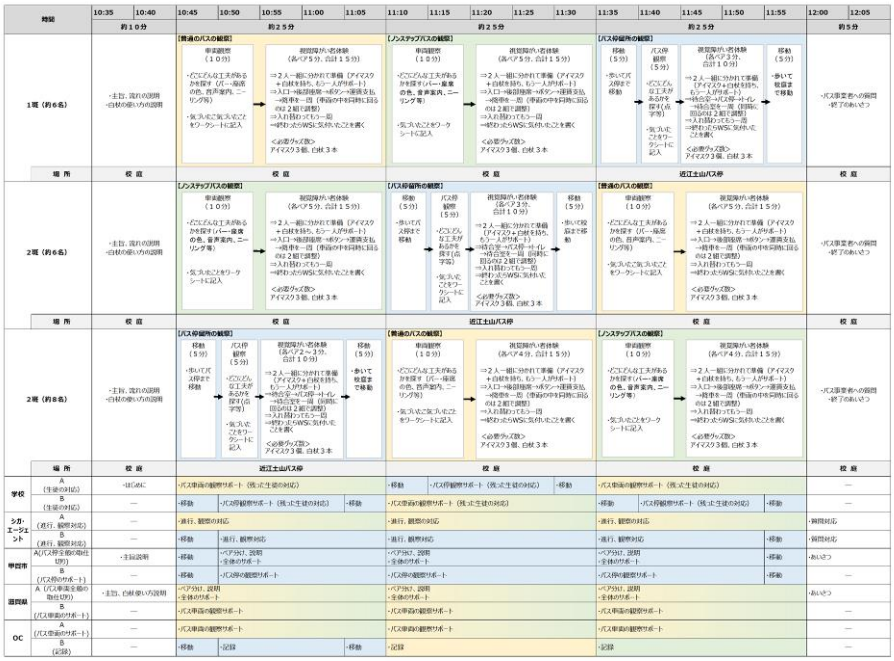


図 4-18 資料１-今年度の取り組み状況（15/60）

2．今年度の取り組み結果

16

（4）３年生･総合的な学習 視覚障がい者（土山小学校）

▼提供したワークシート

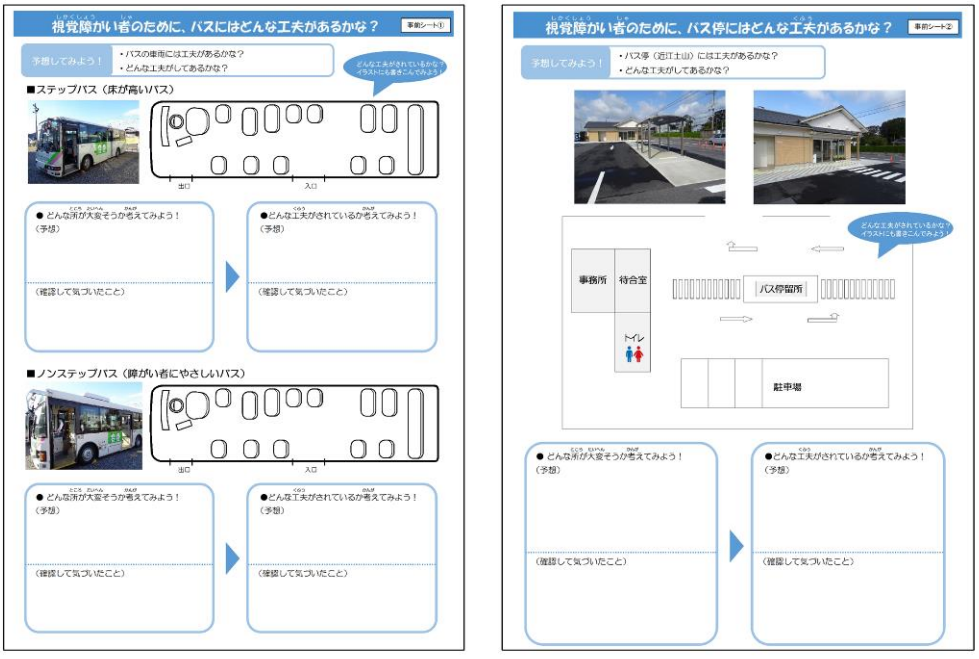


図 4-19 資料１-今年度の取り組み状況（16/60）

２．今年度の取り組み結果

17

（４） ３年生･総合的な学習 視覚障がい者（土山小学校）

▼提供したワークシート

図　４-20　資料１-今年度の取り組み状況（17/60）

２．今年度の取り組み結果

18

（４） ３年生･総合的な学習 視覚障がい者（土山小学校）

▼授業の様子

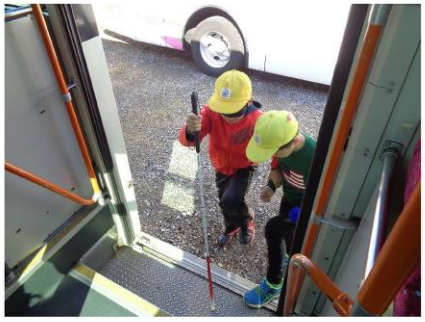


図　４-21　資料１-今年度の取り組み状況（18/60）

2．今年度の取り組み結果

19

（5）４年生・総合的な学習 車いす利用者（土山小学校）

＜今年度の位置付け＞

・昨年度実施した取り組みをくり返し実施して定着化

・観察体験の回し方を改善（ノンステップバスと普通のバスに分け、待ち時間を少なくするとともに、違いを実感できるように変更）

ねらい	・移動の際に車いす利用者が何に困るかを実物・体験を通じて実感 ・身近に自分にできることを考える

校内での車イス体験

・校内および体育館での車イス体験・学習（車イスの使い方、介助方法 等）

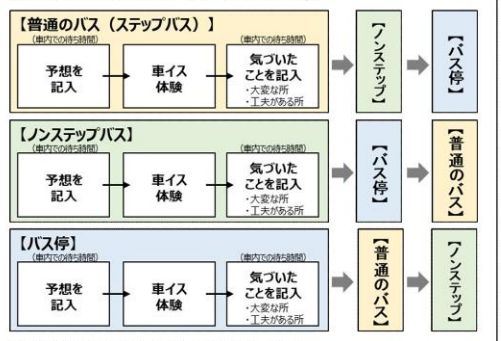
・体験を踏まえ、バスで移動する際に車イス利用者が何に困るかを予想

問：車イスを利用する時にどんなことに困っていそうか、どんな工夫がされているか？

【行政支援】
・予想WS等の作成、提供

バス車両・バス停での車イス体験（2/21）

・バス車両を校庭に準備
・校庭、近江土山バス停に分かれてスタート
・普通のバス、ノンステップバス、バス停をそれぞれ体験



※車両の工夫点等をバス事業者が誘導、解説

【行政支援】
・バス車両準備、誘導・解説
・車イスの用意、体験のサポート

まとめ

・記入したWSを見ながら、ノンステップバスやバス停で良いと思った工夫点、大変だった点を発表
・意見を簡単にまとめる

・記載用WSを配布

問：ノンステップバスやバス停には、どんな良い工夫があったか？
（バスは色んな人に利用しやすいように工夫されている）

・それがなぜされているのかを考える

問：それでも車イスで大変だったことは？

・それを踏まえて自分になにができるかを考える
・まとめ

図 4-22 資料１-今年度の取り組み状況（19/60）

2．今年度の取り組み結果

20

（5）４年生・総合的な学習 車いす利用者（土山小学校）

▼実施スケジュール

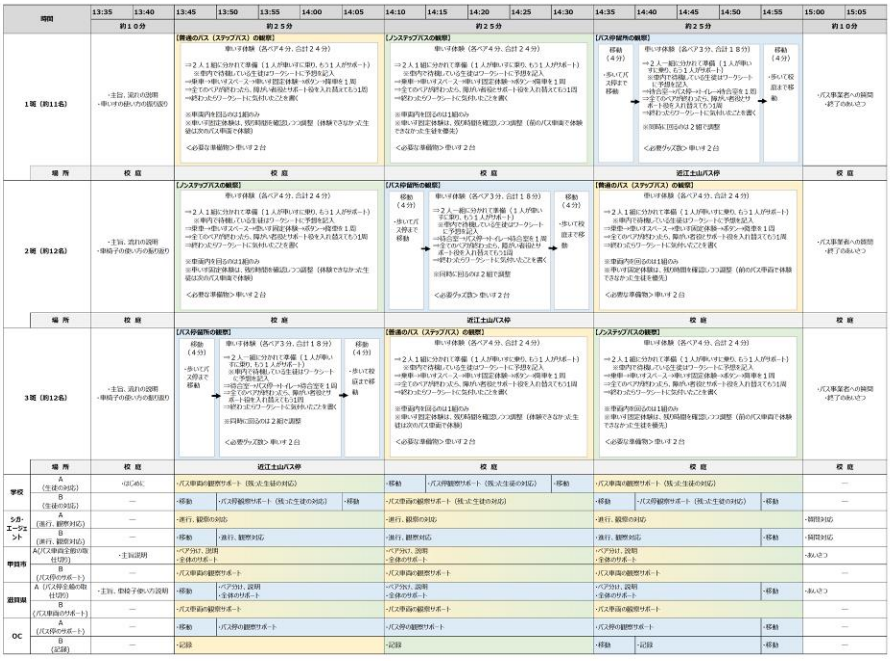


図 4-23 資料１-今年度の取り組み状況（20/60）

2．今年度の取り組み結果

21

（５）４年生･総合的な学習 車いす利用者（土山小学校）

▼提供したワークシート

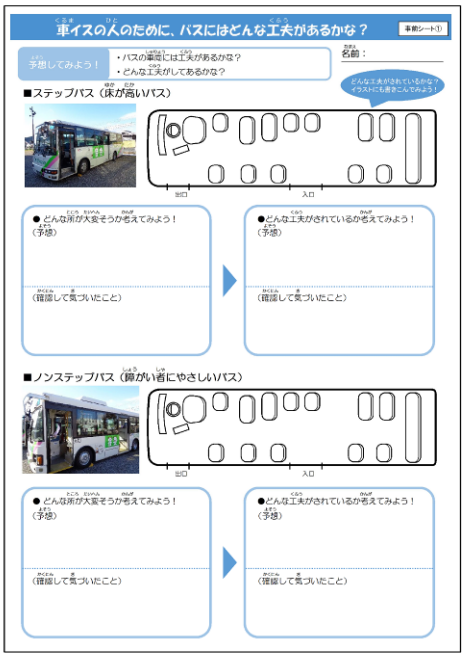


図　4-24　資料１-今年度の取り組み状況（21/60）

2．今年度の取り組み結果

22

（５）４年生･総合的な学習 車いす利用者（土山小学校）

▼提供したワークシート

図　4-25　資料１-今年度の取り組み状況（22/60）

2．今年度の取り組み結果

23

（5）４年生･総合的な学習 車いす利用者（土山小学校）

▼授業の様子

図 4-26 資料１-今年度の取り組み状況（23/60）

2．今年度の取り組み結果

24

（6）４年生･社会科 鉄道すごろく

<今年度の位置付け> 新たなツールの作成（授業時間をとらずに実施できるゲーム形式のツール作成）

ねらい	・自分が住む滋賀県各地の特産品や伝統、文化について地理特性も含めて理解する

【 単元の流れ】

1．県の広がり
- 自分たちが住む県の位置
- 地形や土地利用の様子
- 交通（道路･鉄道）の広がり
- 県内の主な産業とその分布

2．特色ある地域と人々の暮らし
- 伝統産業とその歴史的背景
- 自然環境（県に生息する生き物、栽培されている農産物）
- 歴史的資源（世界遺産など）
- 地域の特色を守る人々の活動やまちづくり

3．世界とつながるわたしたちの県
- 県と他の地域のつながり（交通のつながり、地域との交流活動）
- 県と世界とのつながり（物流、国際交流）

○ 鉄道すごろく

・鉄道を使って各地の特産品･食材を探すゲーム

・ヒントを見てどこにあるかを考えながら鉄道を使って探していくことを通じて、各地域の特徴を理解する

【 ゲームの概要 】

・地産地消カフェの店員となり、ゲーム開始時に指定された料理に用いる材料を仕入れに行く

・カードに書かれているヒントを見て、必要な材料がどこにあるかを考えながら、電車を使って探しに行く

・食材を集めてはやくスタート地点に戻ってきた人が勝利

図 4-27 資料１-今年度の取り組み状況（24/60）

2．今年度の取り組み結果

25

（6）４年生･社会科 鉄道すごろく

▼遊び方の説明

図 4-28 資料１-今年度の取り組み状況（25/60）

2．今年度の取り組み結果

26

（6）４年生･社会科 鉄道すごろく

▼食材がある市町のヒントが書かれたメニューカード

図 4-29 資料１-今年度の取り組み状況（26/60）

2．今年度の取り組み結果

27

（6）４年生･社会科 鉄道すごろく

▼市町の主要駅でゲットできる食材カード

図 ４-30 資料１-今年度の取り組み状況（27/60）

2．今年度の取り組み結果

28

（6）４年生･社会科 鉄道すごろく

▼すごろくボード

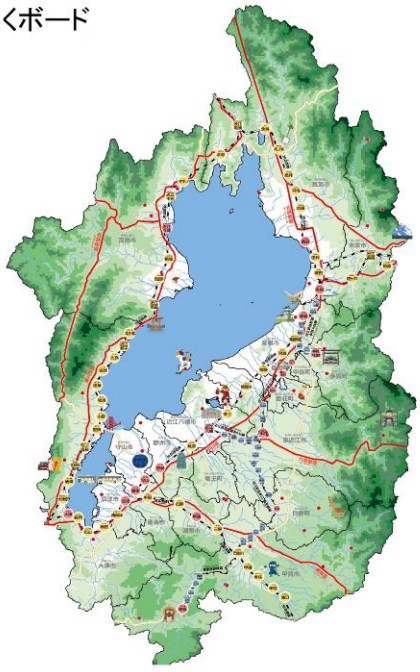


図 ４-31 資料１-今年度の取り組み状況（28/60）

2．今年度の取り組み結果

29

（7）５年生･総合的な学習 車いす利用者（上田上小学校）

＜今年度の位置付け＞

・昨年度実施した取り組みをモデル校以外の小学校で実践
・地域差と汎用性の有無および改善点についての研究

ねらい	・移動の際に車いす利用者が何に困るかを実物・体験を通じて実感 ・身近に自分にできることを考える

導入

・バスマップ提示（どこに行けるのか？）

問：どんな時に、誰が使うのか？
（高齢者が通院に？車イスの人や視覚障碍者が使うことも）

・バス車内、外観の写真提示
・記載用WSを配布

問：では、どんな工夫がされている？
（観察の準備として予想）

【行政支援】
・バスマップ、バスの写真提供
・予想WS等の作成、提供

車両観察体験

【車両観察】【車いす体験】

問：予想はあっていたか？他にはどんな工夫？

問：障害者の気持ちで問題は？

バス乗務員等が誘導、解説

【行政支援】
・バス車両準備、観察の誘導・解説
・体験のサポート

まとめ

・記入したWSを見ながら気付いた工夫点、大変だった点を発表
・意見を簡単にまとめる

・記載用WSを配布

問：バスにされていた工夫はなぜされていたのか？

・バスは色んな人に利用しやすいように工夫されている
・バスは重要な手段

・だから・・・、
問：自分ができることは何か、もっと使いやすくする工夫を考えよう？

図　4-32　資料１-今年度の取り組み状況（29/60）

2．今年度の取り組み結果

30

（7）５年生･総合的な学習 車いす利用者（上田上小学校）

▼スケジュール

上田上小学校　学校MM　スケジュール

11/7　滋賀県交通戦略課

1　日時

2019年11月7日（木）
11:15~12:00（4時間目）

2　対象者

大津市立上田上小学校　5年生（8名）

3　授業実施側メンバー（敬称略）

帝産湖南交通株式会社
滋賀県バス協会
大津市　交通戦略室
滋賀県　交通戦略課

≪上田上小学校レイアウト≫

◆授業内容
①　学習の流れを説明（5分）
②車両観察（バスにどんな工夫がされているか）（5分）
③バスの工夫について説明（5分）
④乗車体験（25分）
・バスの中と外から体験してもらいます。
・2人1組（車いすを押す人、乗る人）×4に分かれた上で、バス停A、Bに2組ずつに分かれて移動。
・一組ずつ車いすでバスに乗車し、反対側のバス停で下車。（車いすに乗っていない組は、車いすの乗車の様子やスロープの設置方法などを観察）
・バスが半周するごとに組を入れ替える
・8名全員が、車いすでの乗車とサポートの体験をし、バス車内と車外から車いすの乗車を見学・観察できるようにする
⑤まとめ、質問コーナー（5分）

※乗車体験イメージ

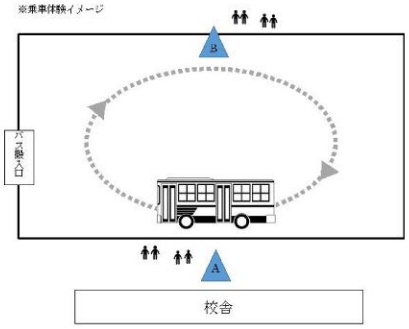


図　4-33　資料１-今年度の取り組み状況（30/60）

2．今年度の取り組み結果

31

（7）５年生･総合的な学習 車いす利用者（上田上小学校）

▼授業の様子

図 4-34 資料１-今年度の取り組み状況（31/60）

2．今年度の取り組み結果

32

（8）５年生･社会科 物流（土山小学校）

＜今年度の位置付け＞

・５年生の学習で交通と関連づけられる箇所について意見交換し、社会科の物流と（学校で取り組みたい）地産地消に着目
・これらのニーズに対応し、交通素材を使った学習を促すため、まずはプログラムを作成・試行し可能性を検討

ねらい	・実際に食べた野菜を通して、物流の仕組みや動向を理解する （行政としての意義：物流の理解を通じて、身近な交通についても意識を向けてもらう）

① 昨晩食べた野菜とその生産地（2/4，1時間目）

【導入】昨晩食べた野菜の生産地はどこか調べる
・昨晩の食事に使用されていた野菜を２つ挙げる
・野菜の生産地に関する資料を見て、どこで作られているのが多いのかを見る

【演習１】なぜ遠い地域で作られているのかを考える
・自分が挙げた野菜の旬の季節を調べる
・旬の季節によって生産地がどのように異なるのかを考える
例）今の冬の季節は夏が旬の野菜は南で、冬が旬の野菜は北で作られている
・選んだ野菜は夏の季節ではどこで作られているかを調べる
・冬の生産地と夏の生産地の違いから、生産地がどのように推移しているのかを考える
例）夏が旬の野菜は、冬の間は暖かい南で作られているが、夏になると涼しくなる北で作られる傾向にある

【まとめ】野菜の生産地のまとめ
・演習のまとめ
➡身近な野菜でも、様々な地域で生産がされている
➡一年中食べようとすると、北から南まで遠くでつくったものを運んでくる必要がある

② 物流の仕組み、動向（2/4，２時間目）

【演習２】野菜は何で運ばれているのかを知る
・物流の統計データから、野菜が生産地から何の交通モード運ばれているのかを確認する

【演習３】トラック輸送がどんな問題を抱えているかを読み解く
・トラック輸送に関する新聞記事を読んで、運送業者がどうなっているのか、なぜそうなっているのか、問題解決に向け何がされているのかを読み解く

【まとめ】物流の仕組み、動向のまとめ
・問題を解決するために、自分で何ができるかを考える
例）地産地消を行うことは物流問題を解決することにつながる
・演習のまとめ
➡港や駅は限られていて、色んな場所から運ぶのにトラックが使いやすく、全国的にトラックが多くを占める
➡しかし、トラックが多くなると、ドライバー不足などが問題に
➡ダブル連結トラック、鉄道での輸送も増えている

図 4-35 資料１-今年度の取り組み状況（32/60）

2．今年度の取り組み結果

33

（8）５年生･社会科　物流（土山小学校）

▼学習指導案の作成

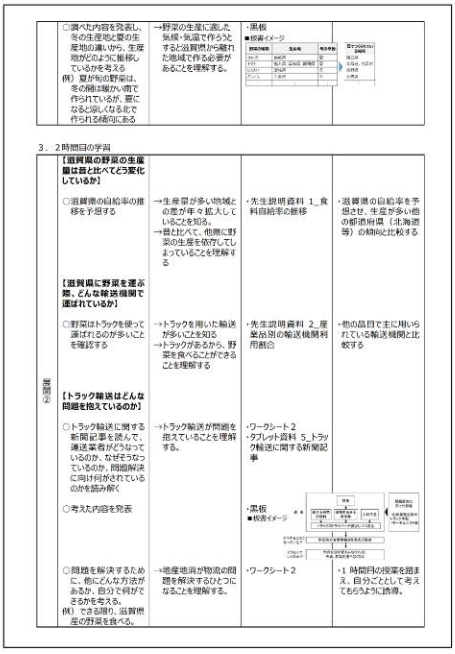
５年生社会科･物流　学習指導案

1．学習のねらい

・実際に食べた野菜を通して、物流の仕組みや動向を理解する。

2．１時間目の学習

課程	学習活動	学習内容	教材	指導上の留意点
導入	【昨晩食べた野菜の生産地はどこか】			
	○昨晩食べた食事のメニューとそれに使われていた野菜を２つ挙げる		・ワークシート１	
	○選んだ野菜が滋賀県産かどうかを調べる	→"××"は滋賀県で作られているが、多くの野菜が滋賀県ではつくられていないことを知る	・ワークシート１ ・タブレット資料１_滋賀県産野菜の出荷量	・２月の例を見て、取扱があるかどうかを確認
	○滋賀県産でない場合、どこの産地で作られているかを調べる	→滋賀県から遠く離れた地域で作られていることを知る	・ワークシート１ ・タブレット資料２_野菜の生産地	・選んだ野菜の生産地を資料で確認。複数ある場合は、全て記入
	○調べた内容を発表		・黒板 ■板書イメージ	・次の展開につながる野菜が出てくるように誘導する（夏野菜：キュウリ、トマト、冬野菜：白菜、大根等）
展開①	【なぜ、遠い地域で作られているのか】			
	○選んだ野菜の旬の季節を調べる		・ワークシート１ ・タブレット資料３_野菜の旬の季節	・生産量が多い（濃い赤色）の地域を確認する
	○調べた内容を発表し、旬の季節によって生産地がどう異なるかを考える 例）今の冬の季節は、夏が旬の野菜は北で作られている		・黒板 ■板書イメージ	
	○選んだ野菜が夏の季節ではどこで作られているかを調べる		・ワークシート１ ・タブレット資料４_月別・地域別の出荷量	・生産地の変化がない、もしくは、わかりにくい食材もあるため、トマトや白菜等の事例をあらかじめ用意する



○調べた内容を発表し、その生産地と夏の生産地の違いから、生産地がどのように推移しているかを考える
例）夏が旬の野菜は、冬の時は暖かい南で作られているが、夏になると涼しくなる北で作られる傾向にある

→野菜の生産に適した気候・気温で作ろうとすると滋賀県から離れた地域で作る必要があることを理解する。

・黒板
■板書イメージ

３．２時間目の学習

【滋賀県の野菜の生産量は昔と比べてどう変化しているか】

○滋賀県の自給率の推移を予想する

→生産量が多い地域との差が年々拡大していることを知る。
→昔と比べて、他県に野菜の生産を依存してしまっていることを理解する

・先生説明資料 1_食料自給率の推移

・滋賀県の自給率を予想させ、生産が多い他の都道府県（北海道等）の傾向と比較する

【滋賀県に野菜を運ぶ際、どんな輸送機関で運ばれているか】

○野菜はトラックを使って運ばれるのが多いことを確認する

→トラックを用いた輸送が多いことを知る
→トラックがあるから、野菜を食べることができることを理解する

・先生説明資料 2_産業別の輸送機関利用割合

・他の品目で主に用いられている輸送機関と比較する

展開②

【トラック輸送はどんな問題を抱えているのか】

○トラック輸送に関する新聞記事を読んで、運送業者がどうなっているのか、なぜそうなっているのか、問題解決に向け何がされているのかを読み解く

→トラック輸送が問題を抱えていることを理解する。

・ワークシート２
・タブレット資料 5_トラック輸送に関する新聞記事

・黒板
■板書イメージ

○考えた内容を発表

○問題を解決するために、他にどんな方法があるか、自分で何ができるかを考える。
例）できる限り、滋賀県産の野菜を食べる。

→地産地消が物流の問題を解決するひとつになることを理解する。

・ワークシート２

・１時間目の授業を踏まえ、自分ごととして考えてもらうように誘導。

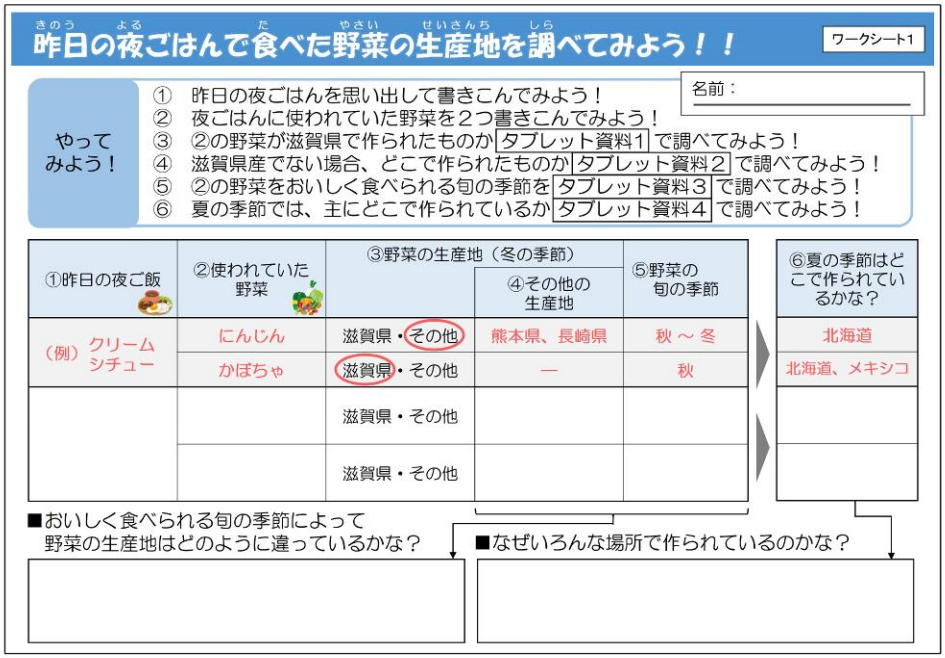
図　4-36　資料１-今年度の取り組み状況（33/60）

2．今年度の取り組み結果

34

（8）５年生･社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート･パワーポイント資料



昨日の夜ごはんで食べた野菜の生産地を調べてみよう！！　ワークシート1

名前：

やってみよう！

① 昨日の夜ごはんを思い出して書きこんでみよう！
② 夜ごはんに使われていた野菜を２つ書きこんでみよう！
③ ②の野菜が滋賀県で作られたものか タブレット資料１ で調べてみよう！
④ 滋賀県産でない場合、どこで作られたものか タブレット資料２ で調べてみよう！
⑤ ②の野菜をおいしく食べられる旬の季節を タブレット資料３ で調べてみよう！
⑥ 夏の季節では、主にどこで作られているか タブレット資料４ で調べてみよう！

①昨日の夜ご飯	②使われていた野菜	③野菜の生産地（冬の季節）	④その他の生産地	⑤野菜の旬の季節	⑥夏の季節はどこで作られているかな？
（例）クリームシチュー	にんじん	滋賀県・その他	熊本県、長崎県	秋 ～ 冬	北海道
	かぼちゃ	滋賀県・その他	―	秋	北海道、メキシコ
		滋賀県・その他			
		滋賀県・その他			

■おいしく食べられる旬の季節によって野菜の生産地はどのように違っているかな？

■なぜいろんな場所で作られているのかな？

図　4-37　資料１-今年度の取り組み状況（34/60）

2．今年度の取り組み結果

35

（8）５年生･社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート･パワーポイント資料

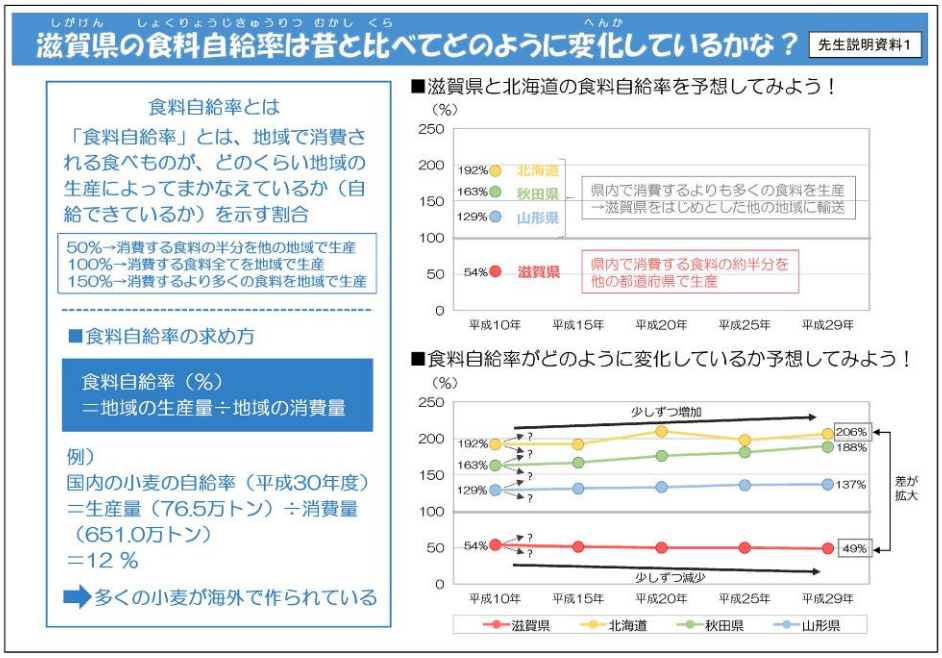


図　4 -38　資料１-今年度の取り組み状況（35/60）

2．今年度の取り組み結果

36

（8）５年生･社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート･パワーポイント資料

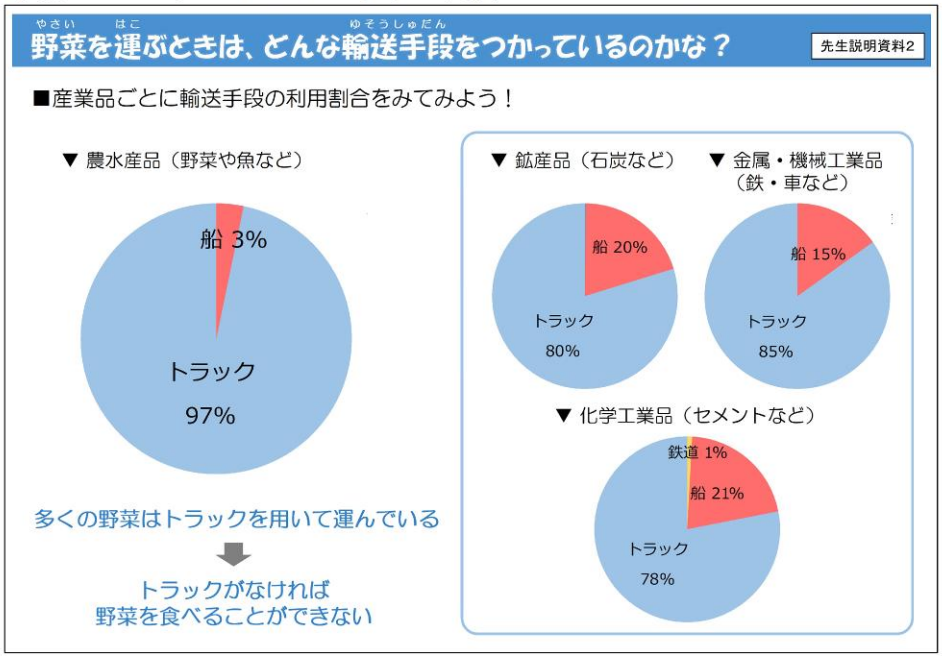


図　4 -39　資料１-今年度の取り組み状況（36/60）

2．今年度の取り組み結果

37

（8）５年生・社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

図　4-40　資料１-今年度の取り組み状況（37/60）

2．今年度の取り組み結果

38

（8）５年生・社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

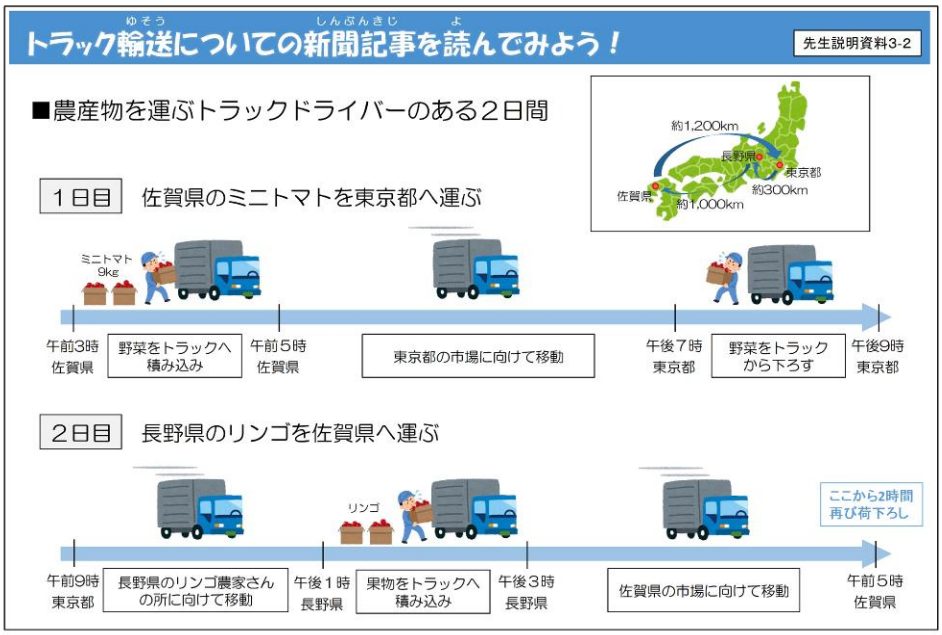


図　4-41　資料１-今年度の取り組み状況（38/60）

2．今年度の取り組み結果

39

（8）５年生･社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート･パワーポイント資料

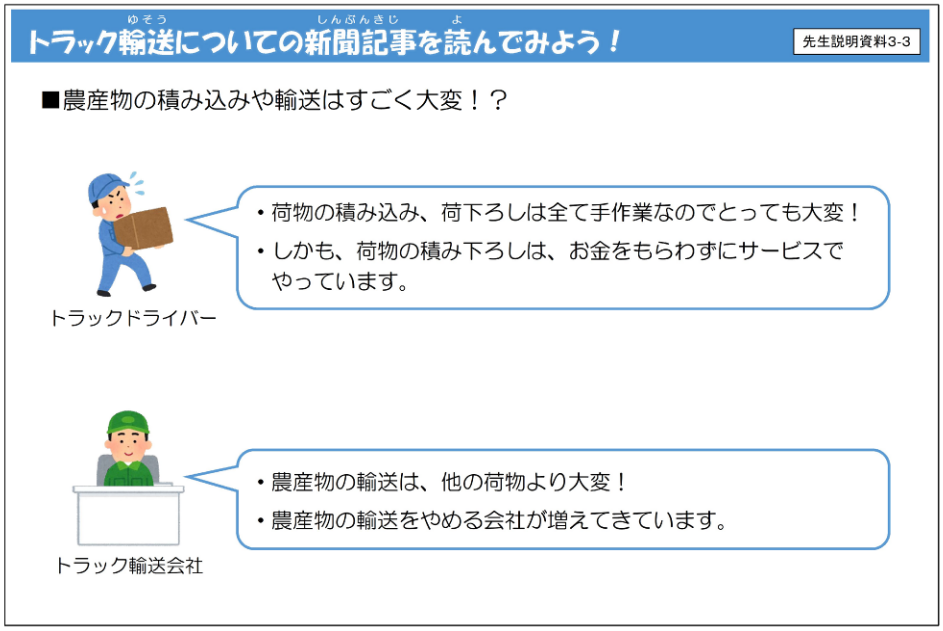


図　4-42　資料１-今年度の取り組み状況（39/60）

2．今年度の取り組み結果

40

（8）５年生･社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート･パワーポイント資料

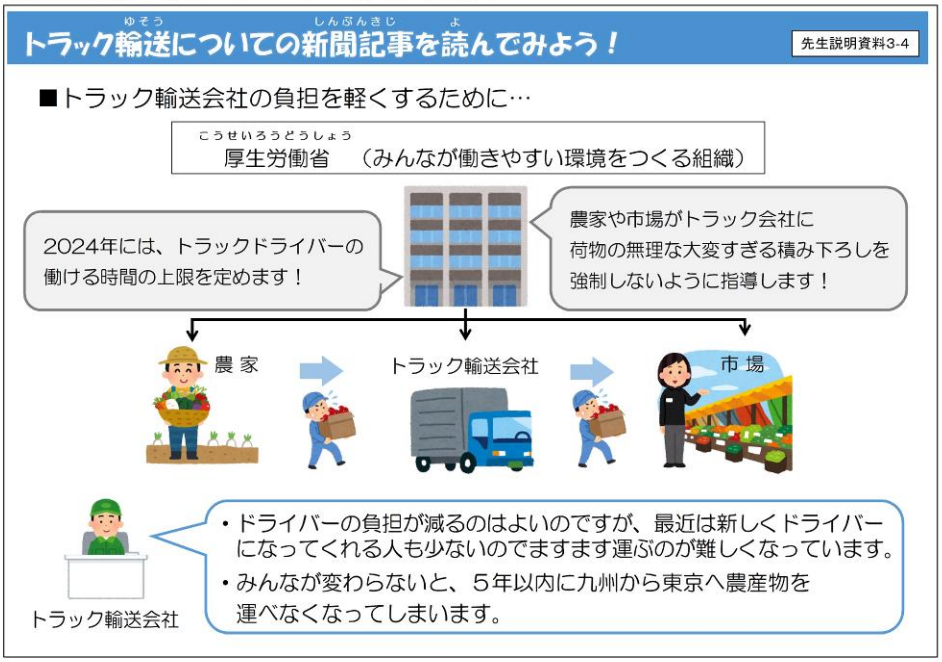


図　4-43　資料１-今年度の取り組み状況（40/60）

2．今年度の取り組み結果

41

（8）５年生・社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

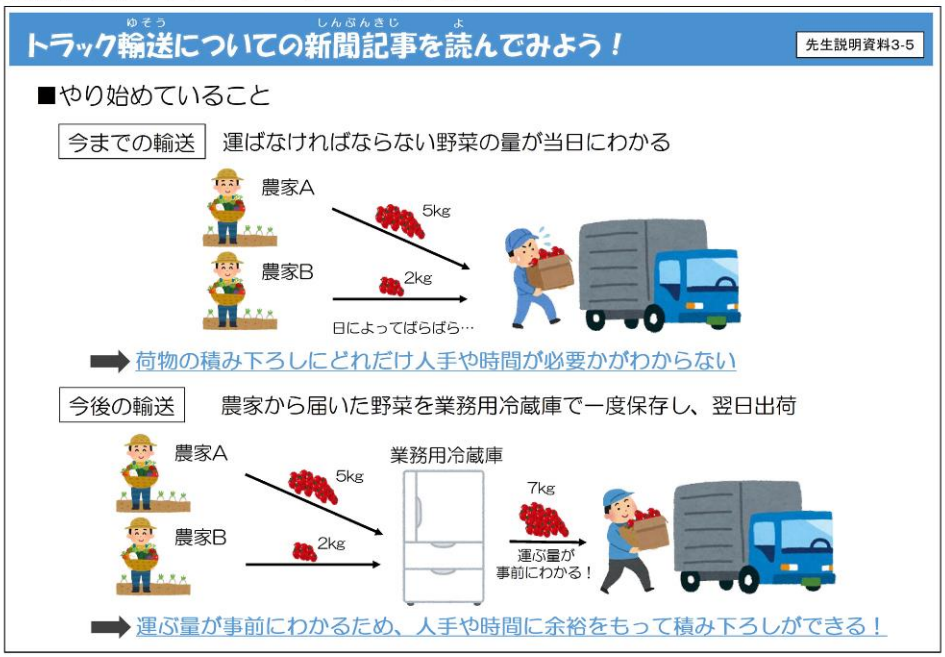


図　4-44　資料１-今年度の取り組み状況（41/60）

2．今年度の取り組み結果

42

（8）５年生・社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

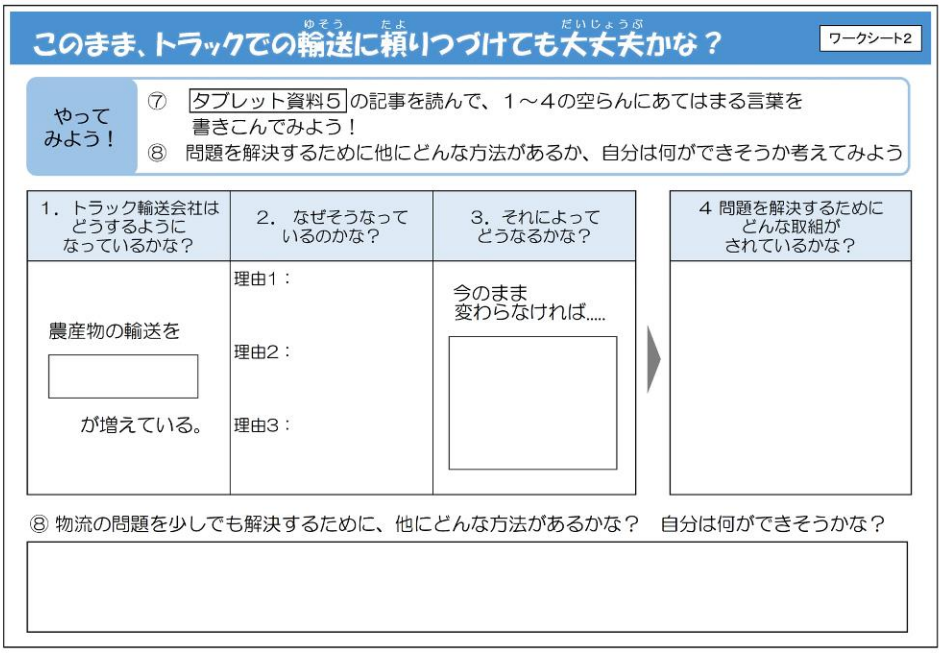


図　4-45　資料１-今年度の取り組み状況（42/60）

２．今年度の取り組み結果

43

（８）５年生・社会科　物流（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

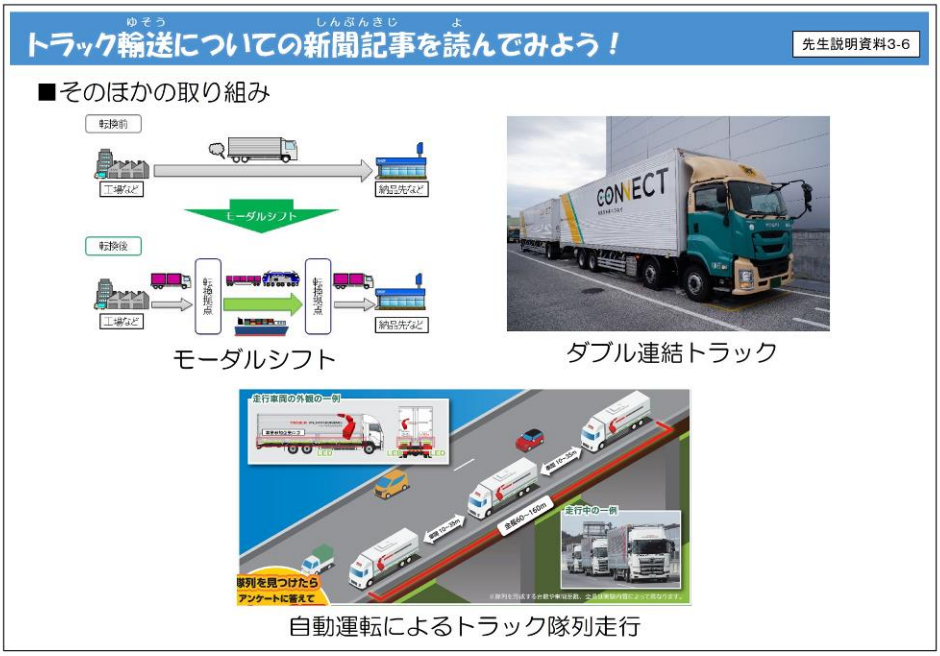


図　4-46　資料１-今年度の取り組み状況（43/60）

２．今年度の取り組み結果

44

（８）５年生・社会科　物流（土山小学校）

▼授業の様子

図　4-47　資料１-今年度の取り組み状況（44/60）

2．今年度の取り組み結果

45

（９）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

＜今年度の位置付け＞

・６年生の学習で交通と関連づけられる箇所について意見交換し、（学校で取り組みたい）空き家の学習に着目
・これらのニーズに対応し、交通素材を使った学習を促すため、まずはプログラムを作成・試行し可能性を検討

ねらい	・空き家の現状や公共交通の仕組みを通して、地域の実態を理解する （行政としての意義：公共交通への興味付けや必要性の認識向上につながる）

① 空き家の現状と発生する理由（2/4, 1時間目）

【導入】空き家とは
・空き家の意味とその問題を説明

【演習１】なぜ空き家になるのかを考える
・空き家の多い・発生しやすい地域を調べる
・空き家が多い地域の特徴を考える
例）人口減少率が大きい地域ほど、空き家が多く発生している
・空き家になる理由を考える
例）居住者が引っ越しをしてしまう
例）居住者が亡くなる

【演習２】なぜ引っ越しをしてしまうのかを考える
・地域別、年齢別の人口の増減を予想する（若者の引っ越しが多く、高齢者でも引っ越しをする人がいるのを理解する）
・市民が住み続けたくないと考える理由を考える
例）交通が不便だから
例）買い物が不便、働く場所・学校がない

【まとめ】空き家の理由のまとめ
➡それぞれの暮らしの状況や判断で空き家が発生してきている
➡交通が空き家の発生に影響している

② 地域・自分にできること（2/4, ２時間目）

【導入】対策の例としてコミタクを取り上げ、役割を予想する
・地域をよくするための１つの工夫としてコミタクを紹介
・コミタクのマップや時刻表から、どんな人が利用するのか、何の目的で使うのかを考える

【観察】タクシー事業者にインタビュー
・コミタクの利用状況や役割を聞き出す
（コミタクの役割を理解する ）
例）病院への通院やスーパーへの買物等への移動に利用されている
例）バス停まで歩けない高齢者の移動を支えている
例）コミタクができたことで、送迎をする家族等、負担が減って助かる人もいる
・インタビューで聞いたことをまとめる

【演習３】地域・自分にできることを考える
・交通での取り組みを踏まえて、地域をよくするために自分や地域ができることを考える
・考えた内容を発表し、全体で共有する
➡空き家となった場合でも、別のことに活用する等で問題を解決できることを理解する

図　4-48　資料１-今年度の取り組み状況（45/60）

2．今年度の取り組み結果

46

（９）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

▼学習指導案の作成

６年生 総合学習・空き家、コミタク 学習指導案

１．学習のねらい
・空き家の現状や公共交通の仕組みを通して、地域の実態を理解する。

２．１時間目の学習

課程	学習活動	学習内容	教材	指導上の留意点
導入	**【空き家とは】** ○空き家の意味とその問題を説明	→空き家とはどういうものかを理解する	・先生説明資料１	
展開①	**【空き家はどういう地域で多く発生しているのか】** ○空き家の多い地域、発生しやすい地域を調べる	→主に土山地域、信楽地域に多くなっていることを知る	・ワークシート１	・まず、空き家（赤点）の数を数える ・その後、世帯数に対する空き家の割合を計算する
	○空き家が多い地域の特徴を考える	→人口減少率が大きい地域ほど空き家が多く発生していることを理解する	・ワークシート２	・空き家の分布図と地域ごとの人口増減図を比較する ・その際、凡例の数値が示す意味を教える
	【なぜ空き家になるのか】 ○空き家になる理由を予想する	→居住者が引っ越しをしてしまうため、空き家が発生してしまうことを理解する	・先生説明資料２	・グラフの空欄にあてはまるものを予想する
	【どういう人がどんな場所へ引っ越しをするのか】 ○地域別、年齢別の人口の増減を予想する	→土山地域からの転出が一番多いことを知る →若者の引っ越しが多く、高齢者でも引っ越しをする人がいることを知る	・ワークシート３ ・先生説明資料３	・各地域における人口増減を予想する。その際、合計が０になること、人口が増える地域があることを伝える。 ・その後、年齢別の人口の増減を予想する。その際、土山地域の-49人の内訳であることを伝える。
	【なぜ引っ越してしまうのか】 ○市民が住み続けたくないと考える理由を紹介	→交通の不便さが要因のひとつになっていることを理解する	・先生説明資料４	・交通の不便さが要因として多いことを挙げ、次の展開につなげる

３．２時間目の学習

展開②	**【土山をよくするための交通の取り組み】** ○１時間目に学んだ空き家になるまでの流れの振り返り		・先生説明資料５	・交通確保の取組であるコミタクを例として挙げ、次の展開につなげる
	○交通を確保するために行われているコミタクの概要説明	→コミタクとはどういうものかを理解する	・先生説明資料５	
	○コミタクは誰が何のために使うのかを予想する		・ワークシート４	・バスマップと時刻表をみながら予想する
	○コミタクの導入背景、どんな人が何のために使うのかを説明	→主に高齢者の買物や通院等の移動を支えていることを理解する	・甲賀市説明資料	
	○コミタクで働いている人へインタビューを行う	→働いていて困ることやどんな想いで働いているか等を理解する	・ワークシート４	
	【土山をよりよくするために】 ○交通での取組を踏まえて、土山をより良くするために自分や地域ができることを考える →まずは一人で考える →次にグループで考える		・ワークシート５	・空き家にならないようにする、空き家になった場合に問題にならないようにする、という観点で考える
	○考えた内容を発表し、全体で共有	→空き家となった場合でも、別のことに活用する等で問題を解決できることを理解する		
	○まとめ			

図　4-49　資料１-今年度の取り組み状況（46/60）

2．今年度の取り組み結果

47

（9）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

図　4-50　資料１-今年度の取り組み状況（47/60）

2．今年度の取り組み結果

48

（9）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

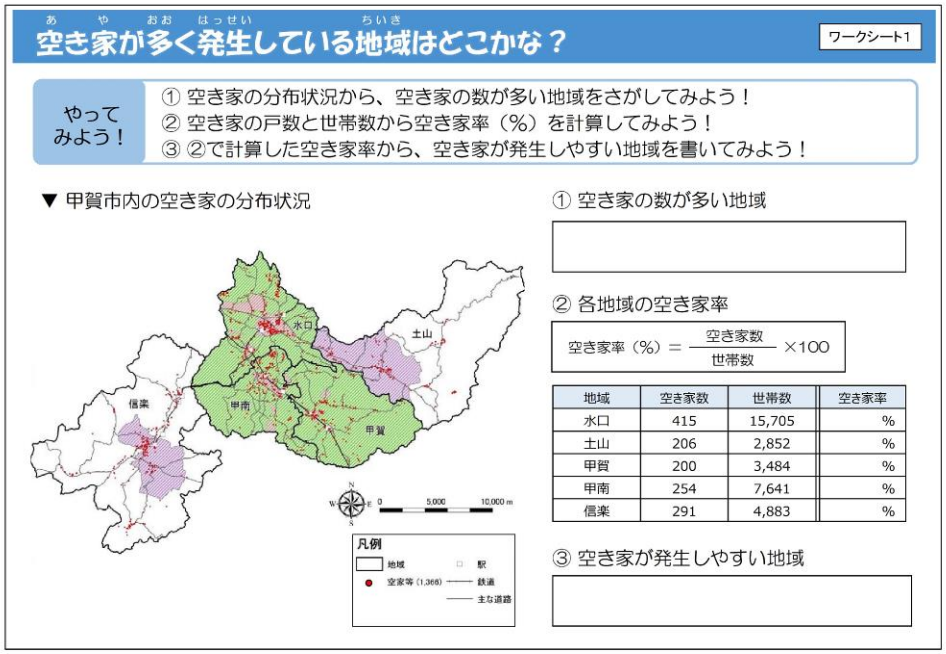


図　4-51　資料１-今年度の取り組み状況（48/60）

2．今年度の取り組み結果

49

（9）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

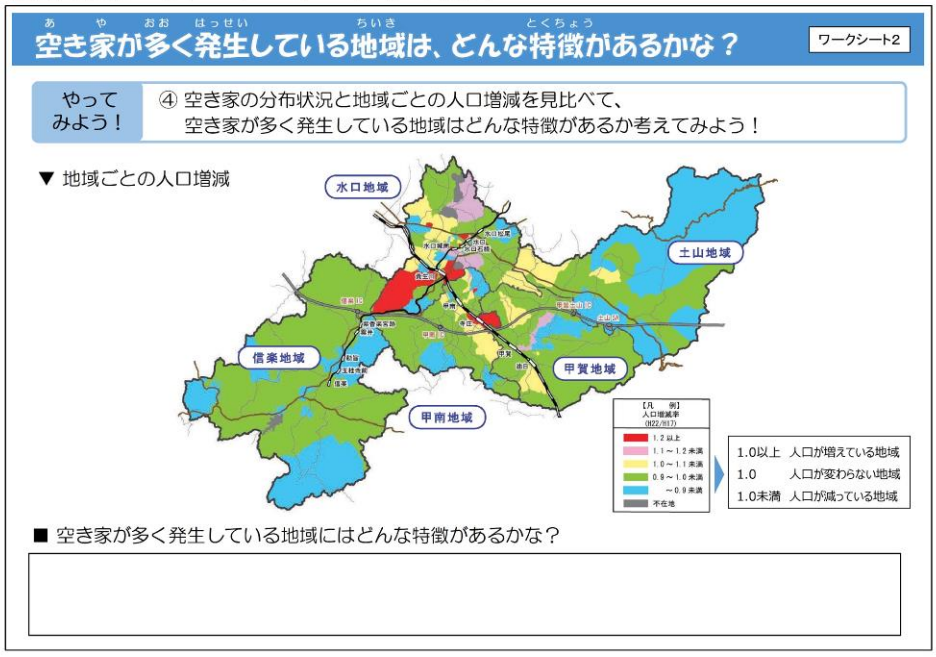


図　4 -52　資料１-今年度の取り組み状況（49/60）

2．今年度の取り組み結果

50

（9）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

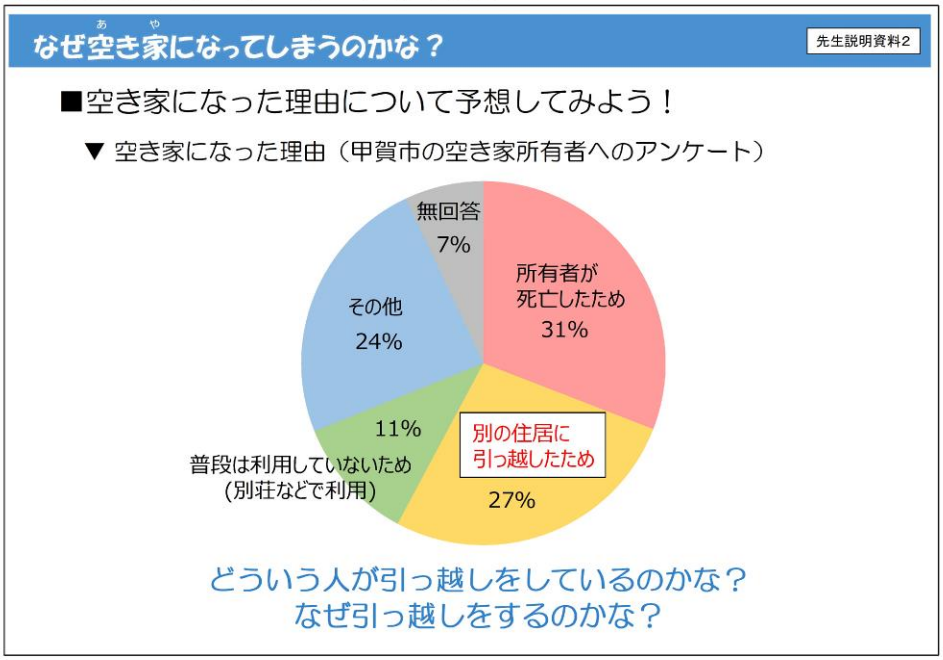


図　4 -53　資料１-今年度の取り組み状況（50/60）

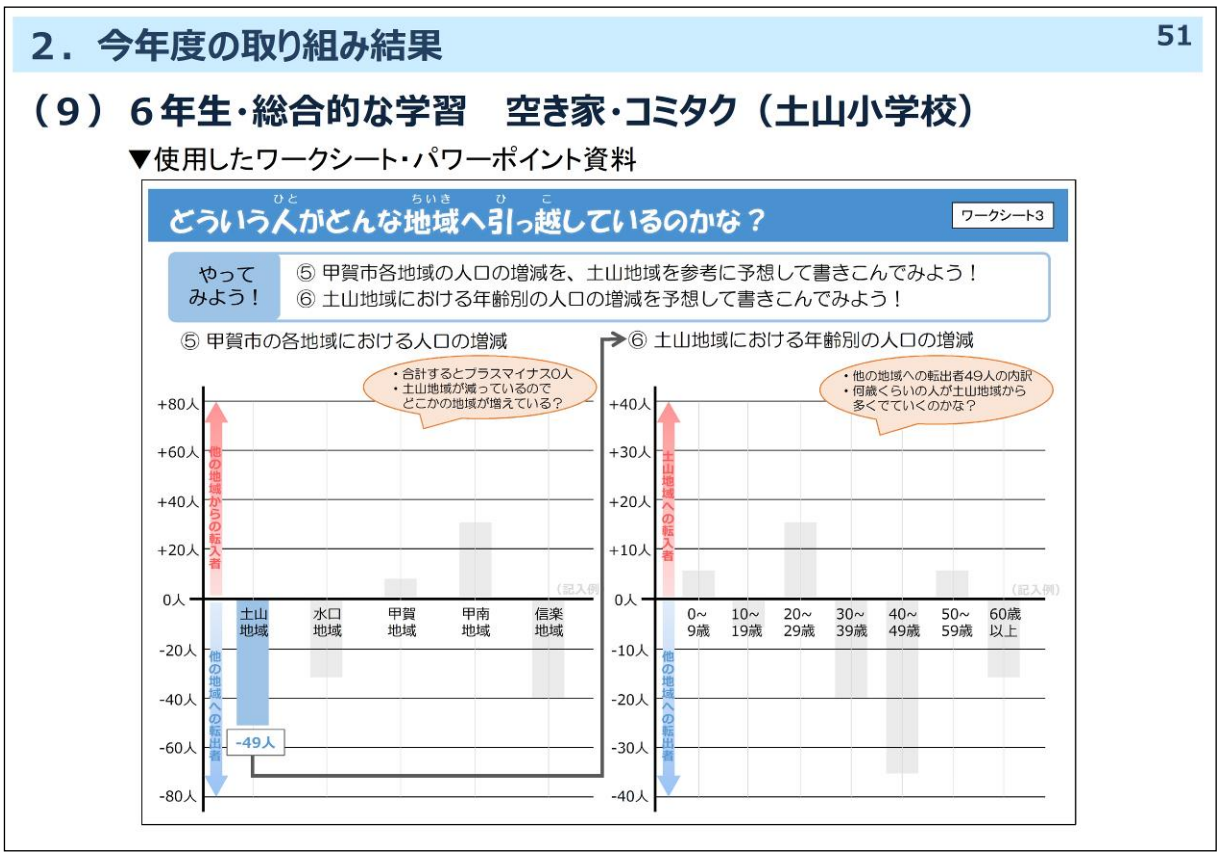


図　4-54　資料１-今年度の取り組み状況（51/60）

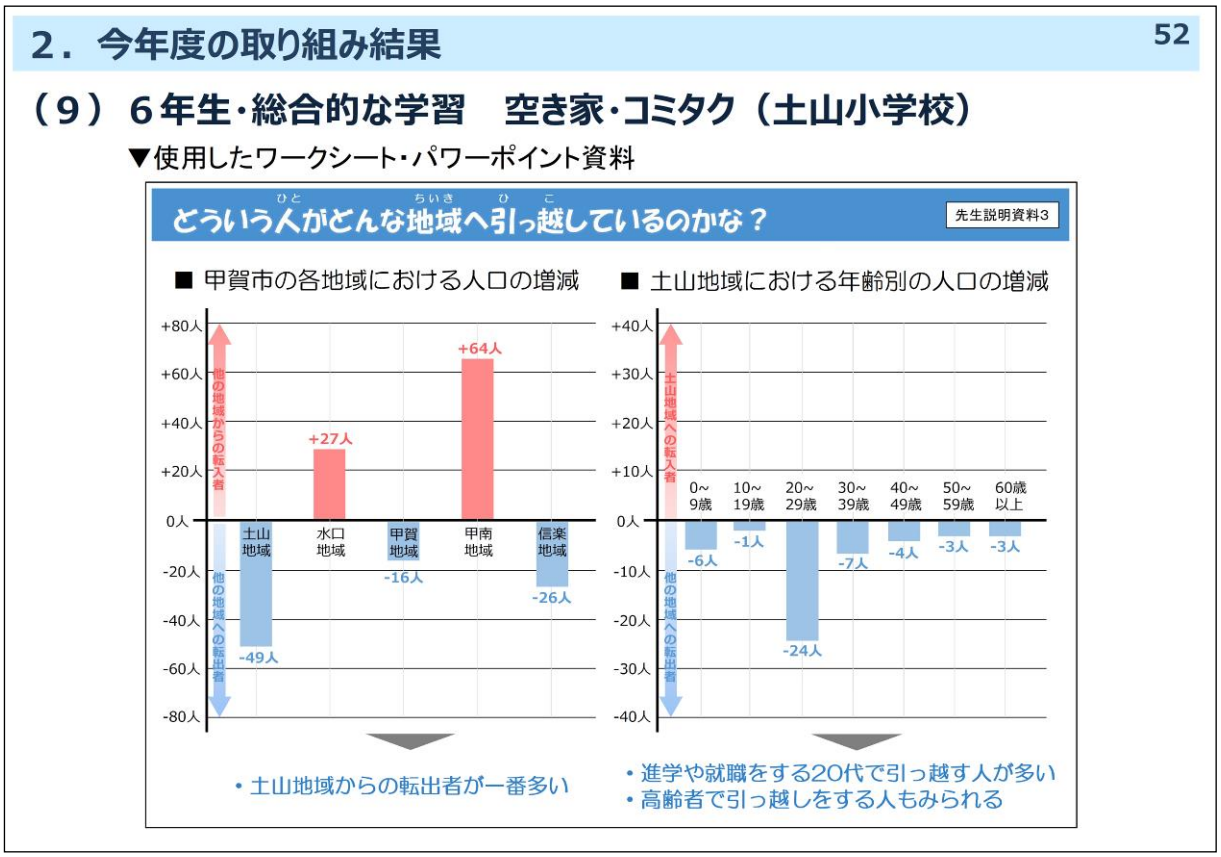


図　4-55　資料１-今年度の取り組み状況（52/60）

2．今年度の取り組み結果

53

（9）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート･パワーポイント資料

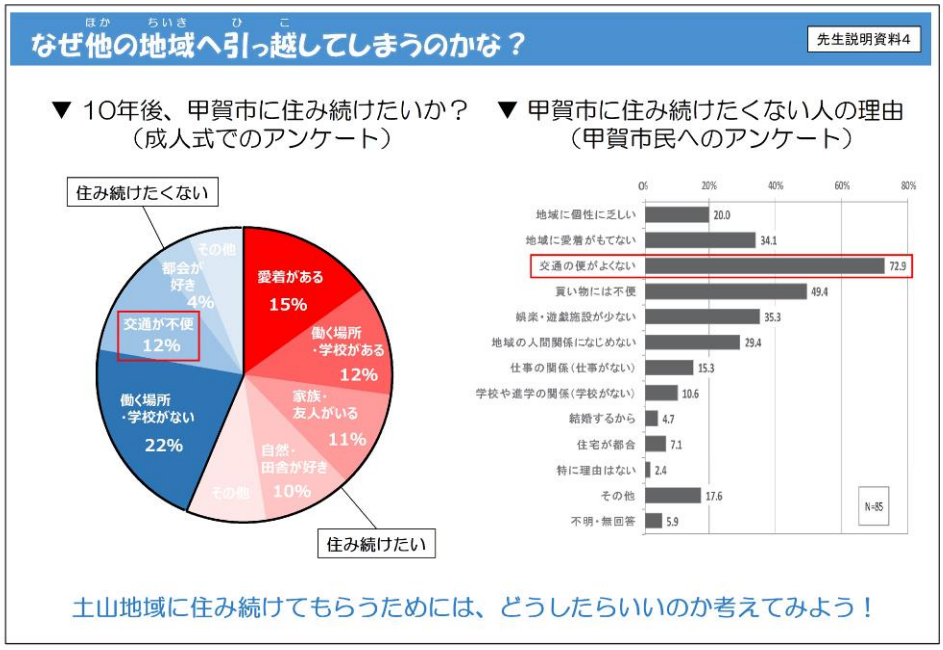


図　4-56　資料１-今年度の取り組み状況（53/60）

2．今年度の取り組み結果

54

（9）６年生･総合的な学習　空き家･コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート･パワーポイント資料

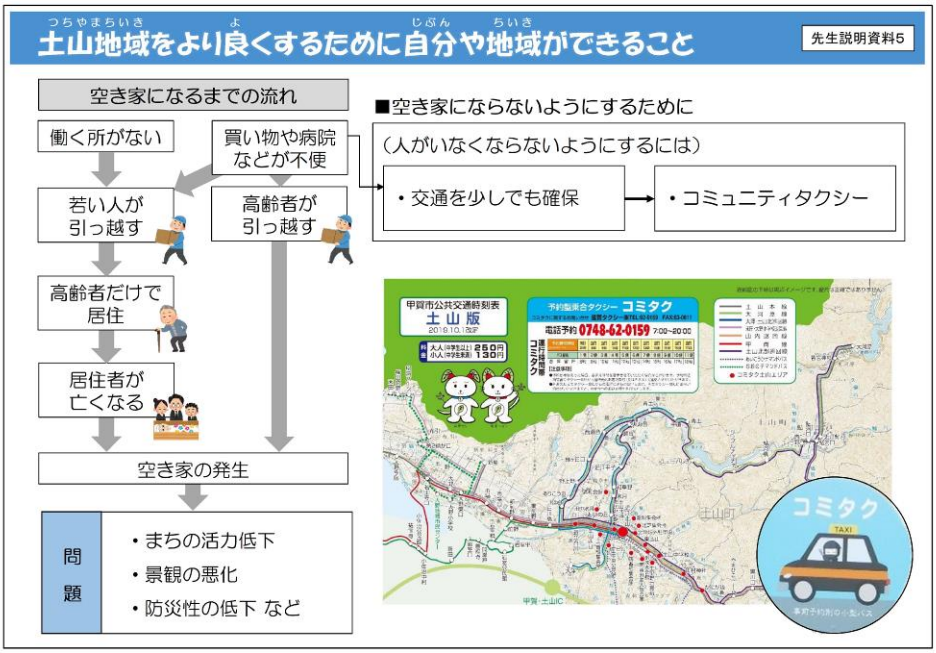


図　4-57　資料１-今年度の取り組み状況（54/60）

2．今年度の取り組み結果

55

（9）６年生・総合的な学習　空き家・コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

交通を便利にするための甲賀市の取り組み（コミュニティタクシー）　ワークシート4

やってみよう！

■ マップや時刻表をみながら、どこからどこまで行くことができるのか、どういう人が何のために使うのかを予想してみよう！
■ コミュニティタクシーで働いている人のお話しを聞いてみよう！

どこからどこまで行くことができるかな？　どこから　→　どこまで

どういう人が使うのかな？

何のために使うのかな？

「コミュニティタクシー」で働いている人へのインタビュー

図　4-58　資料１-今年度の取り組み状況（55/60）

2．今年度の取り組み結果

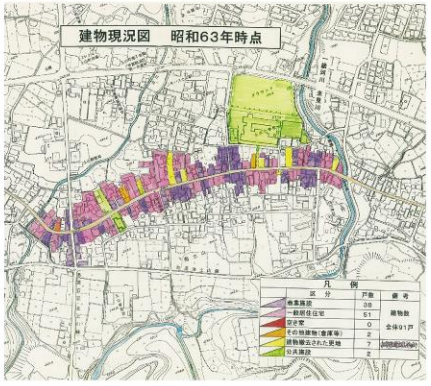
56

（9）６年生・総合的な学習　空き家・コミタク（土山小学校）

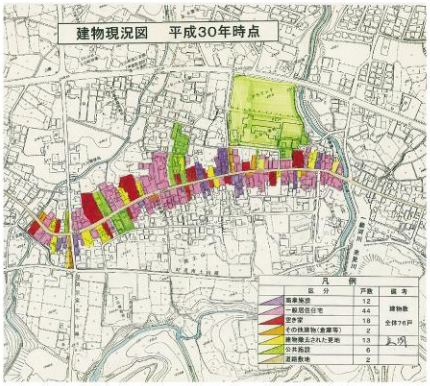
▼使用したワークシート・パワーポイント資料

土山地域をより良くするために自分や地域ができること　先生説明資料6

■ 約３０年前の土山小学校周辺の建物状況



■ 現在の土山小学校周辺の建物状況



土山地域に住み続けてもらうためには、どうしたらいいのか考えてみよう！

図　4-59　資料１-今年度の取り組み状況（56/60）

2．今年度の取り組み結果

57

（9） 6年生・総合的な学習　空き家・コミタク（土山小学校）

▼使用したワークシート・パワーポイント資料

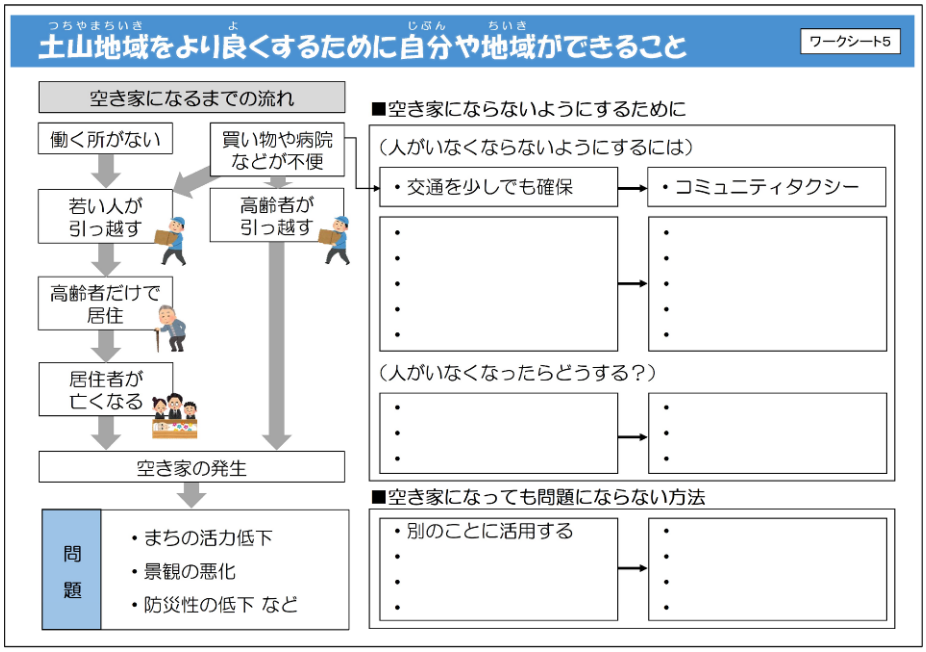


図　4-60　資料１-今年度の取り組み状況（57/60）

2．今年度の取り組み結果

58

（9） 6年生・総合的な学習　空き家・コミタク（土山小学校）

▼授業の様子

図　4-61　資料１-今年度の取り組み状況（58/60）

2．今年度の取り組み結果

（１０）各学年の取組の感想・評価（土山小）

学年	感想・課題
２年生	・バス通学をしている子も一定数いるものの、電車を利用する子はほとんどいない。**普段利用することのない電車について学習する良い機会**になったと思う。 ・乗車券や切符の買い方を学ぶだけでなく、ワクワクドキドキしながら一人で何かに取り組むという体験は子供たちにとって貴重な体験になったと思う。**学校だけではあのような体験**は難しい。 ・生活科の単元では、私たちの暮らしを支えている人たちについて学習をするため、バスや電車で働く人たちにインタビューをするのは**単元ともマッチしており、継続的に実施が可能**である。
３年生 ・４年生	・体験までの待ち時間を、お喋りをしたり、遊んだりしてしまう子がいた。待ち時間を学習時間としてどう有効に過ごしてもらうのかは今後の課題である。 ・福祉学習として、障がい者へのインタビューを行っており、公共交通の利用が特に困っているということを話されていた。それを**自分で実際に体験できる**今回のような授業は、**学習理解を深めるために有効**であると思う。 ・しかし、今回の授業は障がい者インタビューから**時間があいてしまった**ので、今後継続的に実施するのであれば子供たちが学習内容を覚えている間に体験授業を実施する必要がある。 ・土山小学校の福祉学習では、障がい者学習にあわせて、高齢者の移動・生活についての学習もしている。障がい者だけでなく、**高齢者の視点からの実施・展開も可能**であると考える。
５年生	・担任だけでは集められない資料を多く提供してもらい有難い。関連づけて再度資料を使った学習をすることも考えられる。 ・ワークシートで考えなければならない項目が多く、子供たちが本当に理解できていたかはわからない。主題を導くまでの演習をもう少し簡素化し、**理解してほしい内容に焦点をあてて授業をする**方がよかったかもしれない。 ・しかし、授業は物流の単元にあった内容となっていたので、**時期を調整すれば単元での有効活用も可能**であると考える。 ・今回は地産地消から物流問題について考える授業構成となっていたが、**交通に関連する学習として環境問題にフォーカスする展開**も考えられる。
６年生	・卒業する前に**自分たちが住む地域の将来について考える時間**をとれてよかった。授業で出たアイディアは夢物語的なものもあったが、実践的なものもあった。実際に考えた**アイディアを実現するという学習へ展開・発展**させていくことも考えられる。また、子供たちが考えたアイディアを宿場まつり等の地域のイベントで発表することも考えられる。 ・６年の総合では、石碑や本陣をめぐるウォークラリーやボランティアの人のお話しを聞くというような授業も行っているが、**今後の自分たちの地域について考える部分は十分にできていない**。

図　4-62　資料１-今年度の取り組み状況（59/60）

2．今年度の取り組み結果

（１１）周知情報の検討・整理

<目的>　・1年間のスケジュールを組む年度初めのタイミングで、参考にしてもらい気軽に申しこめるようにする
・乗り方教室だけでなく多様な学年・教科で学習に活用できること、ニーズに合わせ素材提供可能なことを理解してもらう

<考え方>　・今年度までに作成した教材等、提供できるものについて一通り紹介する
・学習指導要領にあった内容となっていることや売り・ポイントをアピールする
・実施したい学習をFAXで回答できる形とし、調整等の行政の負担軽減を図る
・学習を実施した際に、交通素材の活用時の使い方や意見などを聞けるようにする

<レイアウト・構成>

①関連する単元、教科目標・学習のねらい
学習指導要領に対応する単元・教科目標等を記載し、交通環境学習が学習指導要領にあった内容となっていることを認識してもらう。

②売り・ポイント、授業に必要な時間・準備物・経費
交通環境学習を実施する売り・ポイントを記載し、交通素材を取り込むことの意義・メリット等を理解してもらう。また、授業に必要な時間・準備物等を明記し、授業を気軽に実施できることを認識してもらう。

③実施内容・授業の流れ
学習の内容や各内容の時間配分、前後の学習の流れ等を記載。

▼パンフレットの作成例

図　4-63　資料１-今年度の取り組み状況（60/60）

（５）資料２　来年度の検討方針

資料２

来年度の検討方針

図　4-64　資料２-来年度の検討方針（1/5）

来年度の検討方針　2

（１）Ｒ２年度の検討目標

＜検討スケジュール＞

スケジュール

平成29年度（1年目）	・研究会の立ち上げ ・コンセプトメイキング
平成30年度（2年目）	・ツールの検討、作成、実施 ・縦断型授業の内容検討、学年ごとでのプレ実施 ・実施市町の拡大（6市町→8市町）
令和元年度（3年目）	・ツールのブラッシュアップ、実施 ・縦断型授業のブラッシュアップ、プレ実施学校の拡大 ・実施市町の拡大（8市町→10市町）*累計
令和2年度到達目標	・2～6年生における、学校で活用できるツールの完成 ・2年生における体験学習のしくみ/ルート/手順の確立 ・2～6年生までの学年縦断型授業の確立 ・19市町での交通環境学習の実施

●県単位での交通素材活用の素地をつくる
⇒「滋賀県のどんな地域でも」やる気があれば授業を実施できるサポートの確立を目指す
⇒将来的に滋賀県内で取り組みが広がっていく状況を目指す

図　4-65　資料２-来年度の検討方針（2/5）

来年度の検討方針 3

（２）R2年度の検討方針・内容

学年	教科	結果	<R２年度の検討方針>
			・モデル校で継続的に実施 ・取り組みを周知、展開（モデル校以外も）
２年生	生活科	・乗り方教室は多くの学校で展開し、バリエーションが増加 ・生活科の内容は単元とマッチさせられる	・内容のブラッシュアップ、整理
３年生 ・４年生	総合学習 （福祉）	・車両を活用した学習パターンをある程度確立 ・観察体験の工夫・改善により、より効果的な学習の実施が望まれる	・内容のブラッシュアップ、整理
４年生	社会科 （鉄道すごろく）	・試作案としてツールを一通り作成 ・今後、ツールの試行・改善が必要	・ツールの試行、調整
５年生	社会科 （物流）	・単元にあった交通素材の活用の切り口を確認（農業、物流、環境） ・学習の流れで使いやすいツールとなるよう、焦点をしぼり、整理することが必要	・学習の流れにあい活用しやすくなるよう、調整・再整理（学校だけで実施できるようにすることも考慮）
	琵琶湖 学習	・琵琶湖を幅広く理解するツールとして交通素材の活用可能性あり ・きっかけづくり用素材は築済み（H30）	・試行を増やして検討 ・内容のブラッシュアップ
６年生	総合学習	・地域について考える際の地域の実態把握に、交通素材の活用可能性あり ・事業者や行政担当者等、交通を担う人を資源とすることも可能	・交通を切り口に地域をよりよく理解してもらう観点での素材等の提供方法について再検討、整理

<広がる仕組みづくりに関するＲ２年度の検討内容>

- 交通環境学習の実施**市町・学校の拡大**
- 取り組みを実施する**交通事業者へのインセンティブ**の創出（補助の検討 等）
- 学校教師の**情報・意見の交換会**の立ち上げ、実施
- R3年度以降の**実施体制**の検討・整理（バスの課題検討ワーキングとの連動 等）

図　4-66　資料２-来年度の検討方針（3/5）

来年度の検討方針 4

（２）R2年度の検討方針・内容

<目標への視点と項目に対する検討内容>

	目 標	視 点	項 目
滋賀県の役割	「滋賀県のどんな地域でも」**やる気があれば授業を実施できるサポート体制の確立**を目指す	知る機会をつくる	全体的な取り組み周知
			教師間の情報伝達・波及
		実施しようと思った時にやれるようにする	交通素材の提供体制の確保
			ベースとなるツールの構築
			成功例の収集、事例の発信
市町の取り組み	滋賀県内で**取り組みが広がっていく**状況を目指す	実施を促すインセンティブを確保	顕彰、発表機会の創出
			一連の学習に対する資金支援
		地域に取り組みを根付かせる	興味の強い教師との連携強化
			市町を含めた継続的な展開

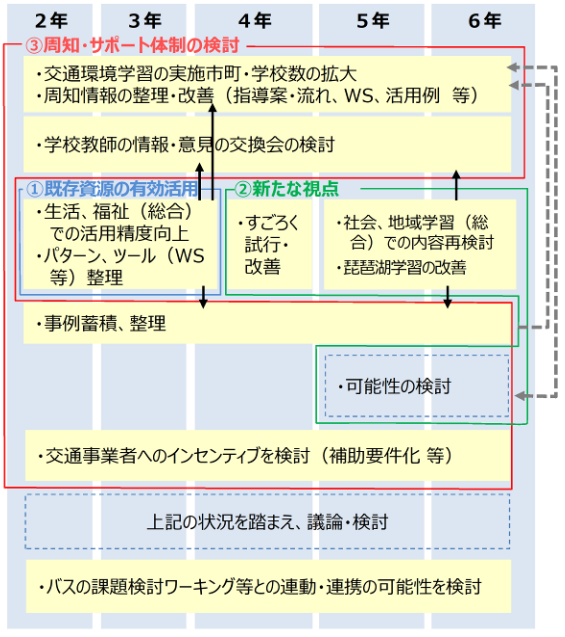


図　4-67　資料２-来年度の検討方針（4/5）

来年度の検討方針 5

（３）Ｒ３年度以降の実施イメージ

＜研究会（H29～R2）の成果・アウトプット＞

活用可能なツール・プログラムの構築	学習プログラムの周知ツール・方法の構築
教師との意見・情報交換の場の創出	事業者へのインセンティブ検討・創出（補助 等）
継続的な実施体制の検討・構築（既存WGとの連動 等）	

＜R3年度以降の実施・展開イメージ＞

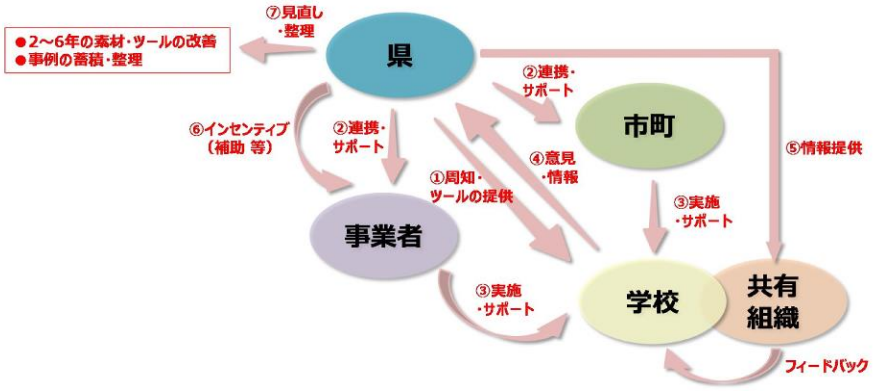


図 4-68 資料２-来年度の検討方針（5/5）

（６）参考　取り組み案内冊子

滋賀県 交通環境学習 のご紹介

子どもたちに身近な“交通”の素材を授業に活用してみませんか？

行政やバス会社が、バス車両や教材、出前授業等の素材をご提供します！

2年生から6年生まで、生活科や社会科や総合的な学習等の授業を深められます！

滋賀県土木交通部交通戦略課

図　4-69　参考-取り組み案内冊子（1/29）

交通環境学習について

次世代を担う子供たちに、公共交通に親しみを持ってもらうことを通して、地域問題や環境問題に関心を持つきっかけを提供します。

また、今後中学生、高校生と成長していく中で、バスや電車を活用する機会が多くなることを踏まえ、その使い方を勉強してもらい、役立ててもらいたいと考えています。

学校教育においては、地域社会の仕組みを学ぶための、身近で親しみやすい実物教材になると考えています。

実施までの流れ

本パンフレットで実施したい授業を選択

▼

「申し込みシート」に必要事項を記入しFAX送信（メールも可）

▼

滋賀県の交通環境学習担当者より連絡（日時、内容の確認）

▼

授業実施

▼

実施後アンケートの送付

備　考

・実施内容について御不明点がございましたら、県担当までご連絡ください。
・必要に応じて、打ち合わせも可能です。（小学校へお伺いします）

連絡先

滋賀県土木交通部交通戦略課　（交通環境学習　担当とお伝えください）
（TEL:077-528-3680　FAX:077-528-4837　　MAIL:hc00@pref.shiga.lg.jp)

図　4-70　参考-取り組み案内冊子（2/29）

申込シートの記載方法について

ステップ1	学校名、学年等の必要事項をご記載ください。
ステップ2	本冊子の「座学メニュー」から、お好きな組み合わせをご選択ください。 ＊「出前授業」か「資料提供」をお選びください。
ステップ3	本冊子の「体験メニュー」から、お好きな組み合わせをご選択ください。
ステップ4	授業実施希望期間をご記載ください。 ＊幅広く設定いただけると幸いです。
ステップ5	授業実施希望日があれば御記載ください。 ＊ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。
ステップ6	打ち合わせの希望有無をご記載ください。 ＊希望有無にかかわらず、担当がお電話での詳細確認は行います。
ステップ7	その他ご不明点、ご不安点があればご記載ください。

お願い事項

・より良い交通素材の提供方法を検討していくとともに、活用事例の収集を行いたいと考えています。
・そのため、本支援を活用いただいた教科・単元における学習の流れや支援内容の位置付け方、使っていただいたご感想・ご要望等について、実施後に所定様式にてご提供いただけますと幸いです。
・また、ヒアリング等をお願いさせていただく場合もございますが、ご協力いただけますと幸甚です。

図　4-71　参考-取り組み案内冊子（3/29）

図　4-72　参考-取り組み案内冊子（4/29）

座学	身の回りの公共交通について	1

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・普段乗っている「のりもの」から、滋賀県内の公共交通を紹介します。
・「誰でも使える大切な乗り物」として公共交通を学びます。
・小学校の周りの公共交通について、地図で紹介しながら学びます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図 4-73 参考-取り組み案内冊子（5/29）

座学	公共交通のマナーについて	2

必要時間	5分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・公共交通でのマナーについて、パワーポイントを活用して学びます。
・説明するだけではなく、子どもたちに考えてもらいながら学習を進めます。
・問題数によって、必要時間の調整が可能です。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図 4-74 参考-取り組み案内冊子（6/29）

座学	バスの乗り方	3

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・バスの乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・本学習と実車バスの体験授業を組み合わせると、効果的です。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図 4-75 参考-取り組み案内冊子（7/29）

座学	電車（JR線）の乗り方～切符の買い方～	4

必要時間	10分～15分	必要経費（交通費、謝礼等）	なし	素材	パワーポイント

実施内容

・電車（JR線）の乗り方について、パワーポイントを活用して学びます。
・切符の買い方（体験）と組み合わせて学習すると効果的です。
・安全な乗車方法についても、写真を見ながら学べます。
・学校の最寄り駅での乗り方を学習できます。
※資料提供または出前授業が可能です。

提供素材例

図 4-76 参考-取り組み案内冊子（8/29）

体験	バスの乗車体験～乗り方学習～	1

必要時間 ＊20人程度を想定	15～ 20分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、乗降体験を行います。
・バス事業者よりバスの乗り方について説明します。
・実際の路線バスを活用した学習なので、実践的です。

実施例

・バスの乗り方の説明（バス会社）
・バスの乗車体験
　整理券を取る→座席に座る→料金の計算方法の説明
　→バスの車内マナーの説明→降車ボタンを押す→降車
・まとめ

図　4-77　参考-取り組み案内冊子（9/29）

体験	バスの乗車体験～バスの車両観察～	2

必要時間 ＊20人程度を想定	10～ 15分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、バス車両の観察を行います。
・バス事業者よりバスの工夫について説明します。
・普段は見られないところも見学できます。
・子供たちの質問については、運転手さんやバス事業者が対応します。
・観察するためのワークシートを提供します。

実施例

・バスの説明
・バスの観察（車内外）
・運転手（バス会社）への質問タイム

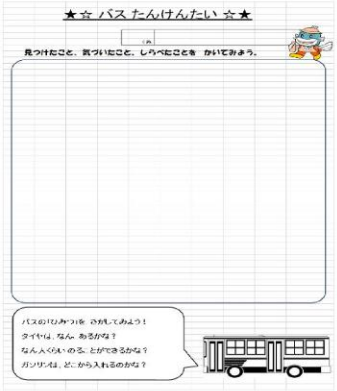


図 4-78 参考-取り組み案内冊子（10/29）

体験	バスの乗車体験～車いす体験～	3

必要時間 ＊1人あたり	5分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、車いすの乗降体験を行います。
・車いすでの乗り方について、バス事業者より説明します。
・全員でも、代表者だけでも対応できます。
・子供たちの質問については、運転手さんやバス事業者が対応します。

実施例

・車いすでの乗り方の説明
・車いすでの乗車体験
・運転手（バス会社）への質問タイム

図　4-79　参考-取り組み案内冊子（11/29）

体験	バスの乗車体験～運転手インタビュー～	4

必要時間 ＊1人あたり	5～ 10分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・バスの運転手さんが、直接子どもたちの疑問に答えます。
・「働くひとたち」の学習もできます。
・事前に質問票をいただければ、細かい質問にも対応可能です。

実施例

・運転手さんへのインタビュー
・職業に対するおはなし
・運転手（バス会社）への質問タイム

図　4-80　参考-取り組み案内冊子（12/29）

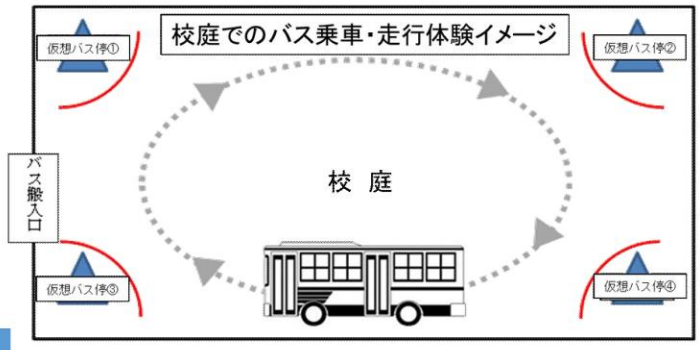
体験	バスの乗車体験～実践編～	5

必要時間 ＊20人あたり	45分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	実車 バス

実施内容

・実車のバスを小学校へお持ちし、バスの乗降体験を行います。
・校庭内にバス停をつくり、模擬のお金チケットを渡し、乗降してもらいます。

実施例



実施手順

① バスの乗り方や乗車マナーについて説明
② 路線バスが校庭内を周回
・3つの班に分かれる
・お金の代わりに4種の金額が書かれた紙を児童に配布
・3班それぞれ別のバス停から乗車し、降車するバス停で正しい運賃を払って降車

補足

・コーンを5つ準備し、バス停の名前を貼る
・児童の安全に配慮し、バス停（コーン）の前に白線を引く
・それぞれのバス停にスタッフを1人配置

図　4-81　参考-取り組み案内冊子（13/29）

体験	電車の乗り方教室～切符の買い方～	6

必要時間 ＊20人あたり	15～ 20分	必要経費 （交通費、謝礼等）	なし	素材	模擬 券売機 （ポスター）

実施内容

・模擬の券売機（ポスター）を作成し、学校へ提供します。
・１人１人切符の買い方を練習します。
・練習時には、職員がポスターの横で買い方の説明をします。

実施例

・模擬券売機の使い方説明
・切符の買い方体験
・質問タイム

図　4-82　参考-取り組み案内冊子（14/29）

事例 1	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学）	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する ・公共施設やそのために働いている人たちが自分たちの地域の生活を支えていることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両や運転手の話から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・準備、経費が必要ないため、手軽に実施が可能です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1＋4

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について ・公共機関でのマナーについて
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習 ・バス運転手へのインタビュー

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・公共機関でのマナーについて（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（乗降のみ）（20分） ・バス運転手へのインタビュー（10分） ・まとめ（5分）	

図　4-83　参考-取り組み案内冊子（15/29）

事例 2	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～校庭でのバス乗車・走行体験 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・特に走行体験により、印象、理解を深められます

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	5

実施内容

座　学	・学校の周りの公共交通について ・公共機関でのマナーについて
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習 ・校庭でのバス乗車・走行体験 ※校庭でバスが走行できるかどうかの確認が必要です

授業の流れ

1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・公共機関でのマナーについて（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（10分） ・校庭でのバス乗車・走行体験（25分） ・まとめ（5分）	

図　4-84　参考-取り組み案内冊子（16/29）

事例 3	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～マナー学習 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・校外学習前のマナー学習として効果的です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1

実施内容	
座　学	・学校の周りの公共交通について
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習
マナー	・マナークイズ

授業の流れ		
1コマ目 座学 （30分）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（20分） ・まとめ（5分）	
2コマ目 体験 （30分）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（乗降のみ）（20分） ・まとめ（5分）	
3コマ目 マナー （30分）	・マナーについての説明（10分） ・マナークイズ（20分）	

図　4-85　参考-取り組み案内冊子（17/29）

事例 4	実車のバスを活用した公共交通の学習（体験＋座学） ～切符の買い方学習 ver. ～	2学年 生活科
	実施人数：1クラス～	実施形式：出前授業

関連する単元	小学校学習指導要領解説　生活編
教科目標 ・学習のねらい	・公共物や公共施設等、身の回りにはみんなで使うものがあることを理解する
売り・ポイント	・実際のバス車両から地域に存在する公共物やその大切さを実感を持って理解できます ・校外学習前の切符の買い方学習として効果的です

必要な授業時間数	必要な準備物	組み合わせ			
2時間	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	座学	1＋2	体験	1+4

実施内容	
座　学	・学校の周りの公共交通について ・切符の買い方について
体　験	・実車のバスを用いたバスの乗り方の学習

授業の流れ		
1時間目 （座学）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・学校の周りの公共交通について（15分） ・切符の買い方（15分） ・まとめ（5分）	
2時間目 （体験）	・自己紹介、趣旨説明（5分） ・バスの乗り方について（5分） ・バスの乗車体験（20分）	

図　4-86　参考-取り組み案内冊子（18/29）

図　4-87　参考-取り組み案内冊子（19/29）

体験

実車のバスを活用した障がい者体験・学習

3学年～

総合的な学習の時間（1コマ）

7

実施人数：1クラス～

実施形式：体験サポート

関連する単元	小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
教科目標 ・学習のねらい	・移動や生活で、障がい者（視覚障がい者や車いす利用者等）が何に困るかを実物・体験を通じて実感する ・自分にできることを考える
売り・ポイント	・実際のバス車両での体験から、普段の生活や移動で障がい者が困ることを実感を持って理解できます ・実際のバス車両で、すでに取り組まれている障がい者に対する配慮・工夫等から、社会の仕組みを実感することができます

必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
2時間	なし	なし

実施内容

体　験

・実車のバスを用いた障がい者体験
・バス車両の工夫点を観察（ノンステップ、ニーリング機能等）
・障がい者が困る点や車両の工夫点への気づき・考察のサポート

授業の流れ（例）

導　入

障がい者が普段の生活の中で何に困るかを知る・予想する
・（例）障がい者へのインタビュー
・（例）バス車両等の生活施設写真を提示し、何に困りそうかを予想する

体験学習（2時間）

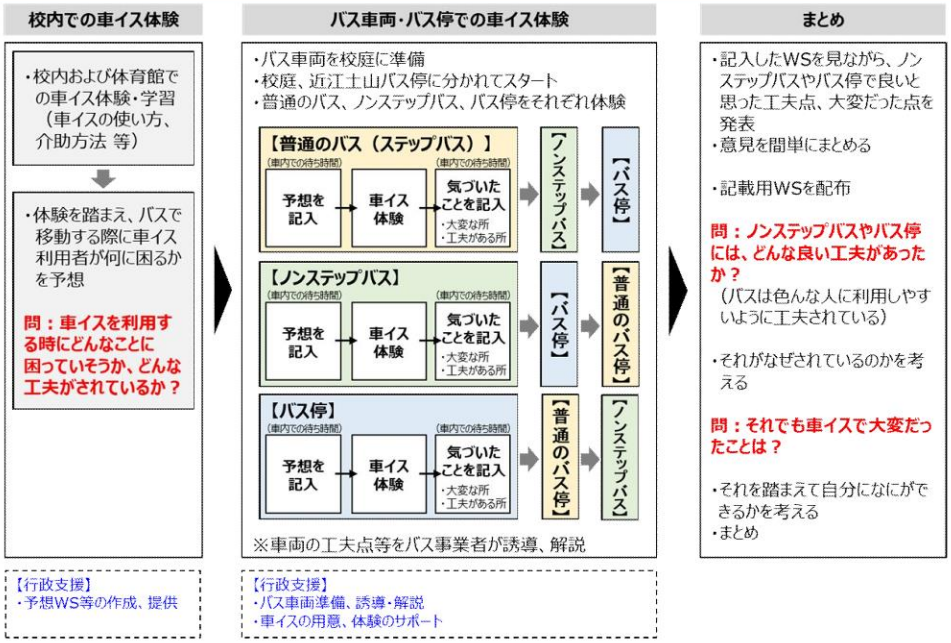
導入授業を踏まえ、障がい者が何に困るかを実感する

まとめ

体験学習を通じて、大変だった点や自分にできることを考える
・（例）バスで良いと思った工夫点や体験で大変だった点を発表
・（例）障がい者と遭遇した時に自分は何ができるのかを考える

図　4-88　参考-取り組み案内冊子（20/29）

授業の実施イメージ（車いす体験）



※視覚障がい者体験も同様の内容で実施が可能です

ワークシートのイメージ

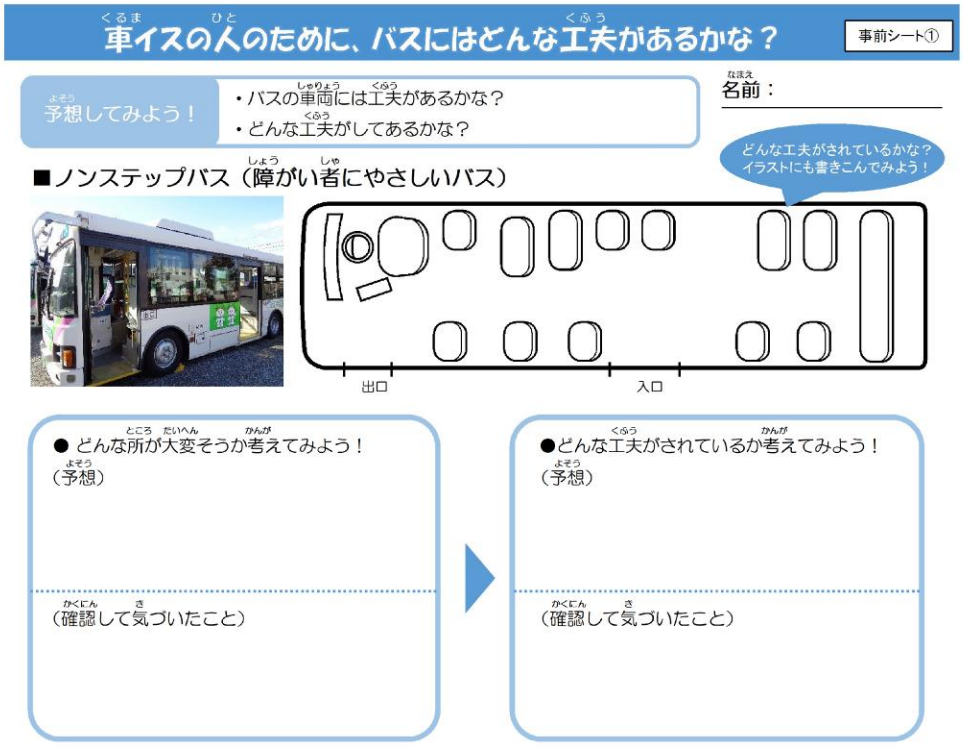


図 4-89 参考-取り組み案内冊子（21/29）

図　4-90　参考-取り組み案内冊子（22/29）

座学

琵琶湖と交通の関わりについての学習

5学年
社会科

5

実施人数：1クラス

実施形式：資料提供 or 出前授業

関連する単元	琵琶湖学習（フローティングスクール）
教科目標 ・学習のねらい	・多様な視点から、ふるさと滋賀や琵琶湖のすばらしさに気づく ・郷土を大切にする気持ちを育み、愛着を醸成する
売り・ポイント	・昔の琵琶湖は湖上交通が発達しており、それに伴って周りのまちが発展してきた経緯があります。交通を視点とした琵琶湖学習を行うことにより、琵琶湖とまちの関わりをより幅広く学ぶことができます ・パワーポイントで作成しているため独自にアレンジが可能です

必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
1時間（出前授業の場合）	パワーポイントが映写できる環境（電子黒板、PC等）	なし

実施内容

出前授業の場合

・琵琶湖周辺における地名の共通点
・湖上交通を使った昔の貨物輸送のルート
・湖上交通の役割

資料提供の場合

・湖上交通の歴史に関する資料（奈良時代～昭和）
・湖上交通の役割について考えるワークシート

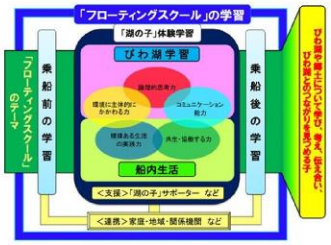
授業の流れ（例）

【 琵琶湖学習（フローティングスクール）の流れ】

調べ学習
・ 琵琶湖について学びたいテーマを設定し、琵琶湖と自分たちの生活の関わりについての学習を行う

宿泊体験学習
・ 学習船「うみのこ」での宿泊体験を通し、琵琶湖の現状や環境等について学ぶ

まとめ
・ 宿泊体験での学びを通して、乗船前に設定したテーマについて理解を深める



※滋賀県立琵琶湖フローティングスクールHPより引用

琵琶湖と交通の関わりについての学習

図 4-91 参考-取り組み案内冊子（23/29）

授業の実施イメージ

琵琶湖に港があった（ある）ことを知る

- 琵琶湖周辺の地名を調べてWSに記入する
- 記入した地名についてその共通点を考える
- 地名に共通する漢字の意味について調べる

琵琶湖は交通の要衝であった（ある）ことを理解する

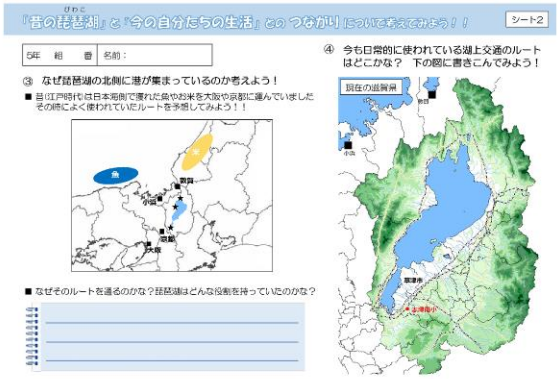
- 日本海側からの荷物の輸送ルートを予想する
- 港は「小浜」や「敦賀」に運ばれた荷物を京都や大阪、大津まで輸送するための中継点であったことを知る
- 陸路を短縮するために琵琶湖に交通が集まっていたことを理解する

現在も県民の日常生活に使われる交通が琵琶湖にあり、生活を支えていることを知る

- 今も日常的に残っている湖上交通のルートを予想する
- 日常的な生活に使われている交通が琵琶湖にあることを理解する

ワークシート1　　ワークシート2

ワークシートのイメージ



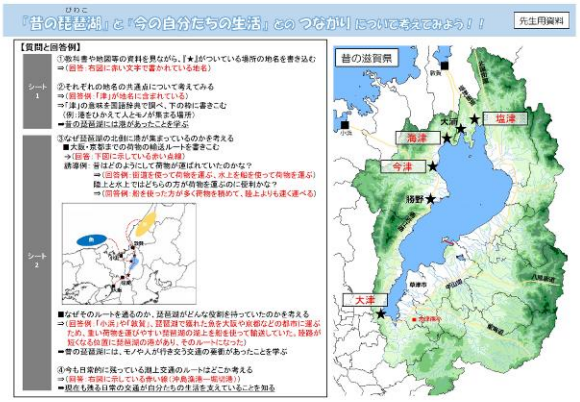


図　4-92　参考-取り組み案内冊子（24/29）

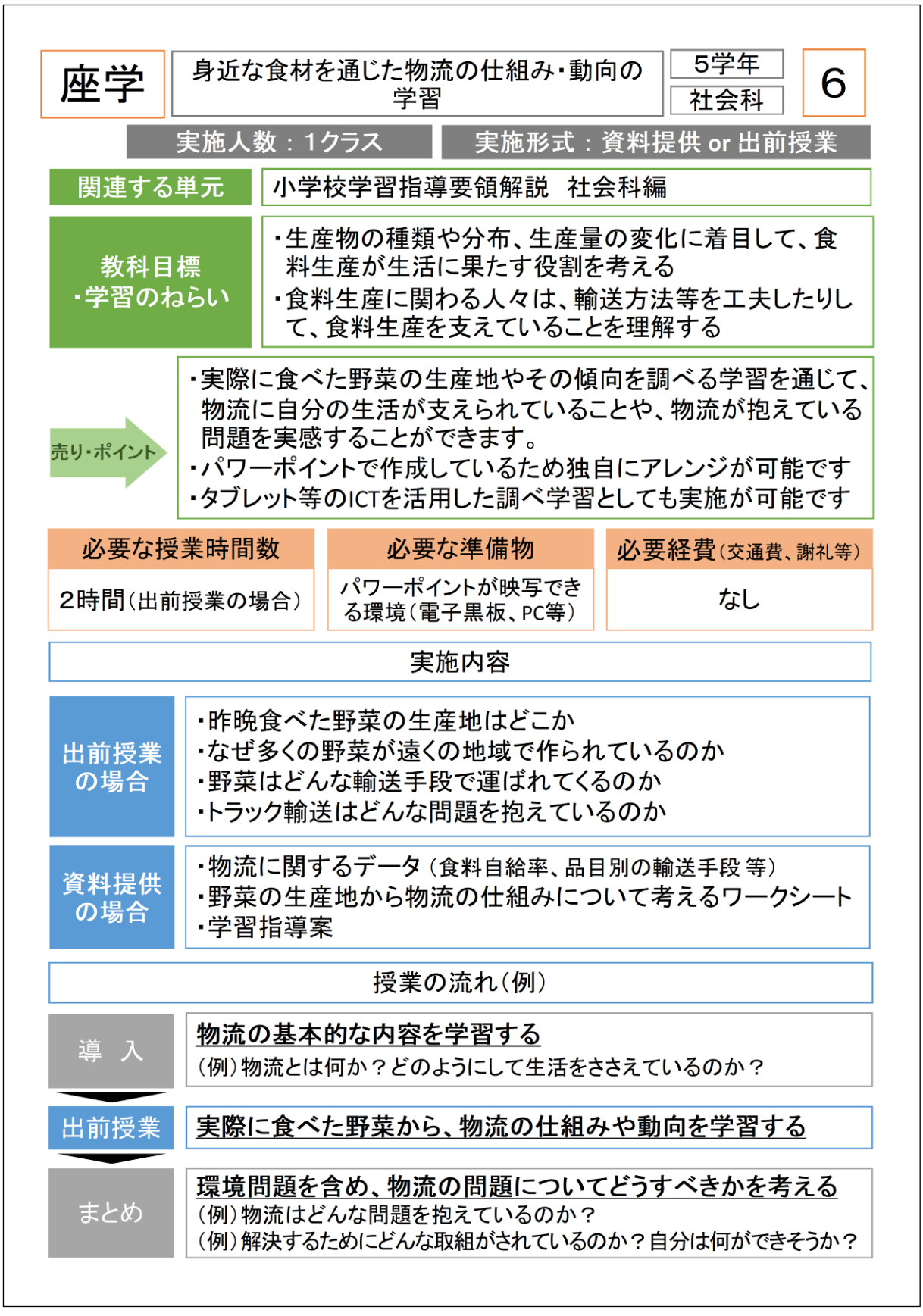


図　4-93　参考-取り組み案内冊子（25/29）

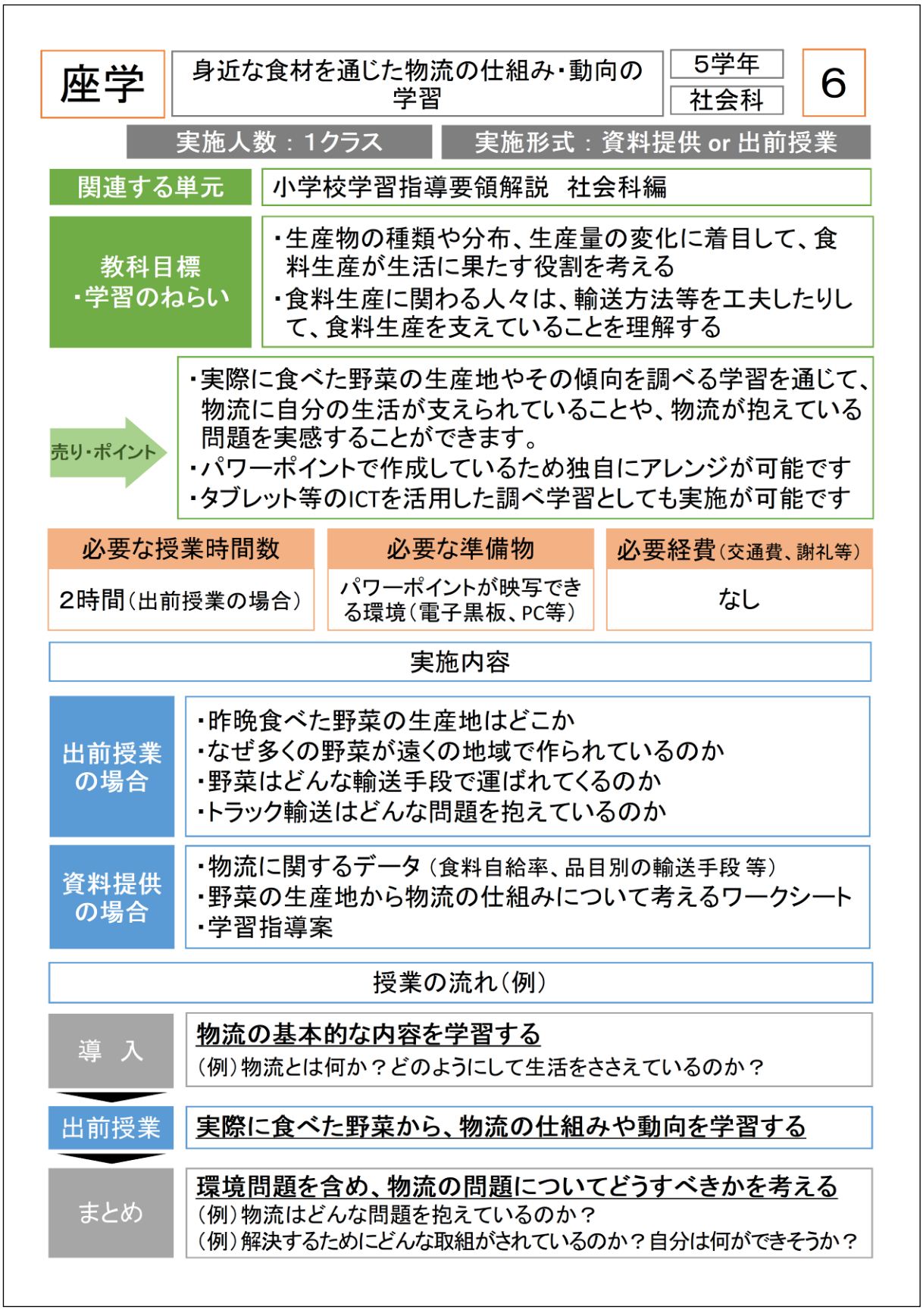


図　4-94　参考-取り組み案内冊子（26/29）

図　4-95　参考-取り組み案内冊子（27/29）

座学

暮らしと交通の問題から地域の将来について考える学習

6学年
総合的な学習の時間

7

実施人数：1クラス～

実施形式：資料提供

関連する単元	小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
教科目標 ・学習のねらい	・地域の現状や課題について、自分とのつながりの中で理解を深める ・人々の暮らしや伝統、文化など地域や学校の特色に応じて、今後の地域や自分のあり方について考えを深める
売り・ポイント	・今の地域がなぜそうなっているのかを、暮らしに密接した交通の視点から考えることにより、まちの現状・問題のイメージがしやすくなります ・また、日常生活との関わりが強いので、より実効的な地域活性化の取組について自身の考えを深めることができます ・パワーポイントで作成しているため独自にアレンジが可能です

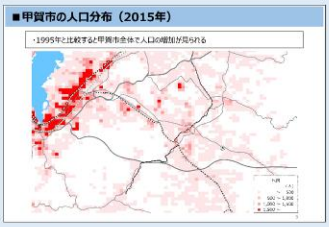
必要な授業時間数	必要な準備物	必要経費（交通費、謝礼等）
―	なし	なし

資料提供の内容

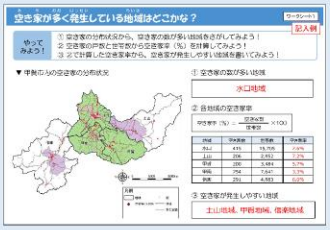
・まちと交通の変化に関するデータ
（例）人口分布と自動車交通量の関係、空き家の分布と人口増減の関係　等
・交通事業者や行政担当者等の地域を担う人の紹介

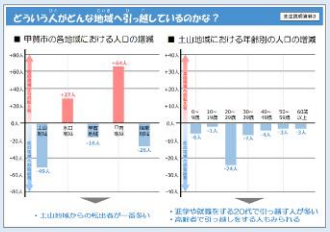
▼提供データの例　（※データ内容については応相談）

人口分布と自動車交通量の関係



空き家の分布と人口増減の関係





▼人の紹介例

交通事業者
➡運行する交通の利用実態、地域の移動を支えるためにしていること・工夫 等

行政担当者
➡税金を使って公共交通を走らせる意味・必要性 等

図　4-96　参考-取り組み案内冊子（28/29）

交通環境学習　申し込みシート

学校名							
ご担当者名	役職 （担当学年）		お名前				
ご連絡先（TEL）							
ご連絡先（E-MAIL）							

実施 希望 事項 ＊複数学年可	2年生	座学					
		体験					
	3年生	座学					
		体験					
	4年生	座学					
		体験					
	5年生	座学					
		体験					
	6年生	座学					
		体験					

実施 希望 期間	第一希望	月	～	月			
			希望日（あれば）→		月　日	または	曜日
	第二希望	月	～	月			
			希望日（あれば）→		月　日	または	曜日
	第三希望	月	～	月			
			希望日（あれば）→		月　日	または	曜日

打ち合わせ希望	あり	→	場所 （ex.学校）		なし	

その他 ご要望・ご不明点	

FAX（送付文不要）：077-528-4837

図　4-97　参考-取り組み案内冊子（29/29）

（7）参考　鉄道すごろく

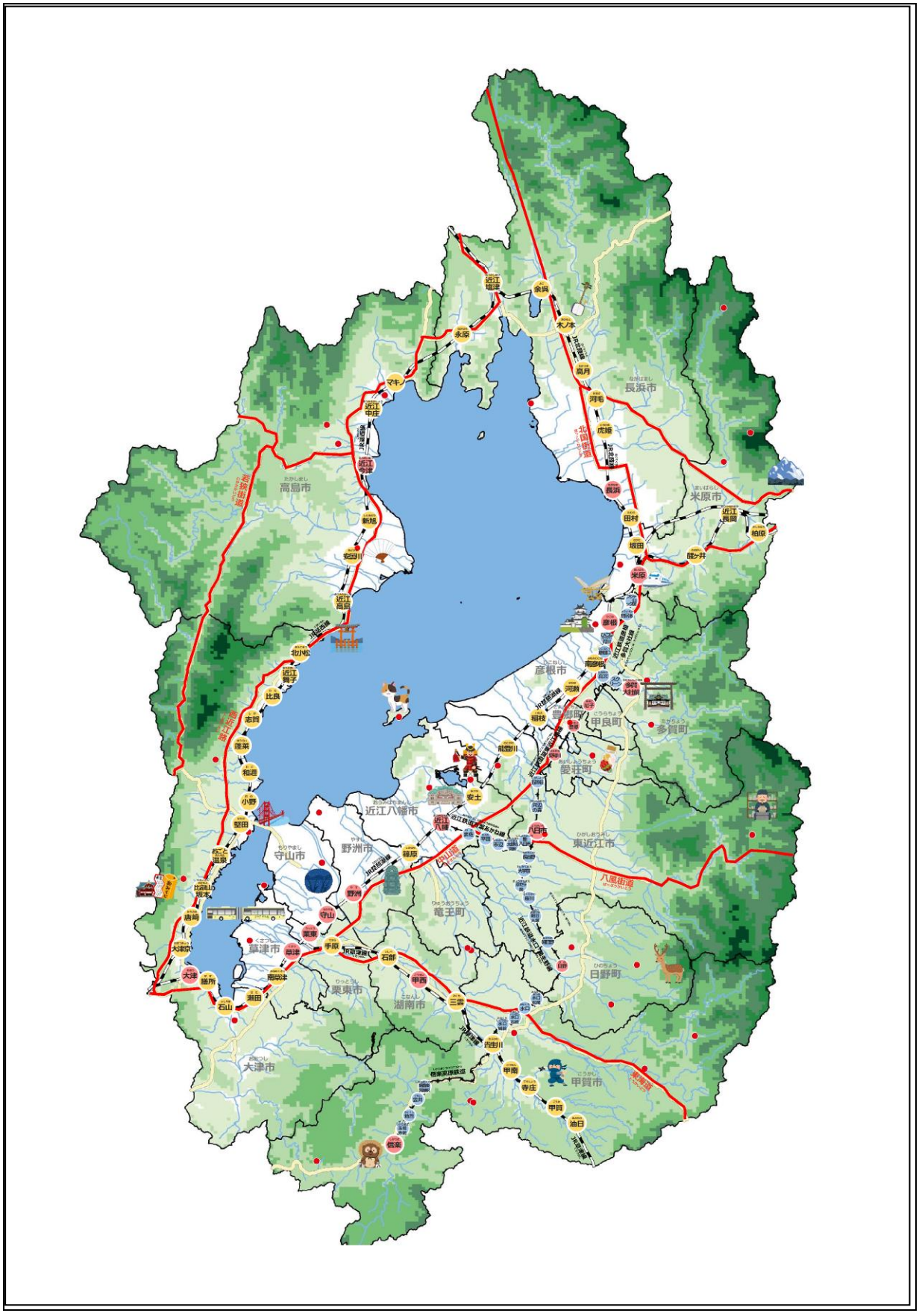

長浜市
高島市
米原市
彦根市
甲良町
多賀町
愛荘町
近江八幡市
東近江市
守山市
野洲市
竜王町
日野町
草津市
栗東市
湖南市
甲賀市
大津市

図 4-98 すごろくボード

図 4-99 メニューカード案

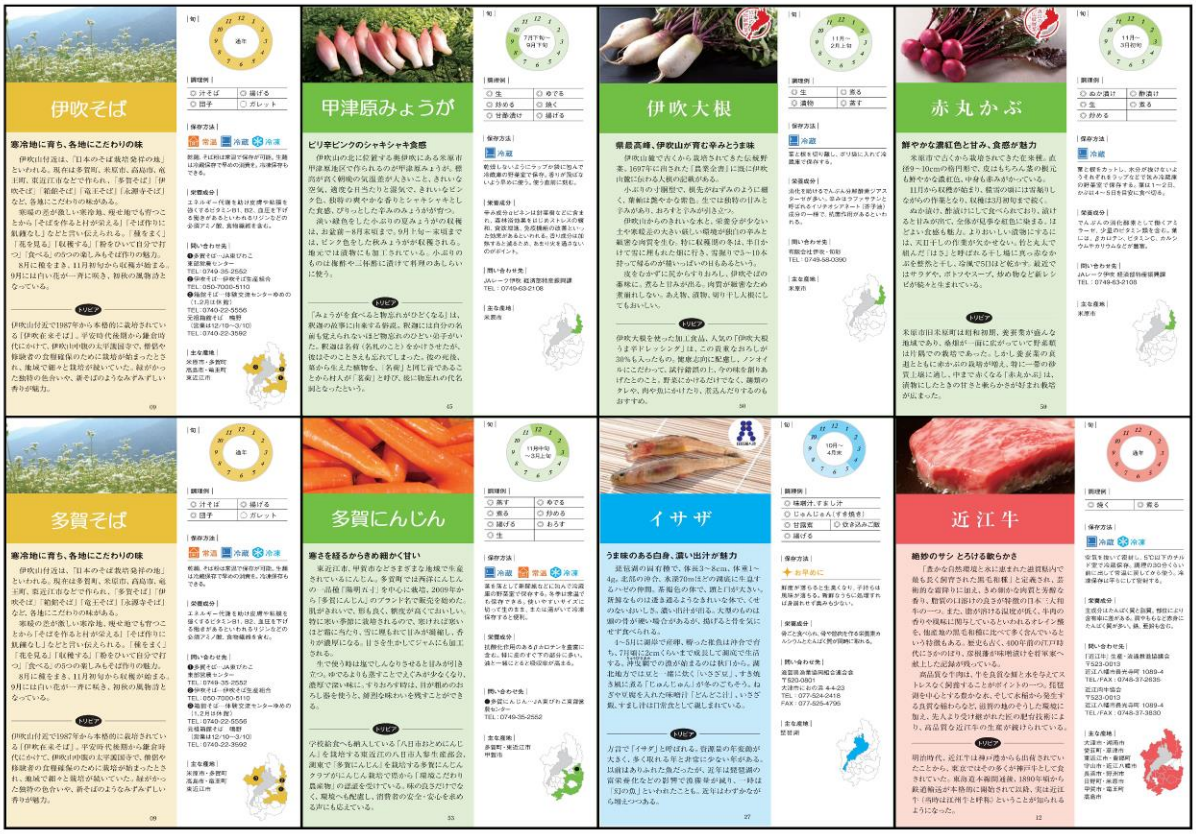


図 4-100 食材カード案（1/3）

図 4-101 食材カード案（2/3）

図 4-102 食材カード案（3/3）

4-3 議事録

研究会の議事録を以下に示す。

1．開会	
事　務　局　：	本日は、公私何かとお忙しい中、本研究会に出席を賜り、厚くお礼申し上げる。只今から、令和元年度近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を開催させて頂く。まず、配布資料について確認させて頂く。過不足があればお申し出頂きたい。また、本日の出席者については、配布資料の通りになる。ご確認のほど、よろしくお願い申し上げる。それでは、開会にあたり、滋賀県土木交通部交通戦略課参事の芝よりご挨拶申し上げる。
芝　委　員　：	本日は年度末でご多忙の中ご参加いただき感謝申し上げる。本研究会は４年事業の３年目で来年が最後の実施年度となる。今年度は、昨年度に議論したことをもとに、２年生から６年生まで縦断的に授業を実施し、また実施校も２６校と昨年度までと比べ着実に増えてきている。本日は、今年度の成果の報告と来年度の実施内容についてご議論頂きたいと考えている。皆様には活発な意見交換をよろしくお願い申し上げる。
事　務　局　：	それでは、早速ではあるが、ここからの進行について、滋賀大学教授市川会長にお任せさせて頂く。市川会長よろしくお願い申し上げる。
市　川　会　長　：	本日はお忙しい中、研究会に参加頂き有難く存じ上げる。前回の研究会から１年ほど期間が空いてしまっているが、今年度の最初の研究会ということで今年度の取り組み状況と来年度の検討方針についてご議論頂くこととなっている。皆様には忌憚のないご意見を頂きたい。
2．議題１　今年度の取り組み状況	
市　川　会　長　：	それでは、議事次第に沿って進めさせて頂く。まず、本年度の取組状況の報告について、事務局より説明をお願い申し上げる。
事　務　局　：	【資料１　今年度の取り組み状況】について説明
市　川　会　長　：	皆様からご質問やご意見はあるか。では、私の方から質問をさせて頂く。 バス・電車体験を実施した土山小学校の２年生は何人で授業を行ったのか。
事　務　局　：	土山小学校の２年生は２８名のクラスで授業を行った。バスに乗れるギリギリの人数のため、付き添いとして大人が何人乗るかその他の人はどうするか等、調整に苦慮した部分はあるが、小学校からはやってよかったという意見を頂いている。 また、笠縫小学校の２年生は全体で３クラス１１１人となっており、２つのグループに分けて授業を実施した。学校の先生からは好評で来年度もお願いしたいというお話しを頂いている。
前波委員（代理）　：	電車はバスのように現物を学校に持って行くことができないため、点字ブロックや改札の模型を持参して授業を実施させて頂いた。駅に来てもらい要望に応じた紹介・説明を子供たちすることはあったが、今回のように学校に訪問して授業を行う取り組みは初めての試みであった。参加した社員からはより身近に子供たちとコミュニケーションがとれてよかったと好評であったが、準備物等を用意するのに時間がかかるため、学校数や授業頻度が増えると対応が難しいのではないかという意見もあった。

野村副会長：	各授業でワークシートを作成し提供を行っているが、ワークシートの改善点等は学校の先生に意見を頂いているのか。 同じ学年でも自分で考えてワークシートに書きこめる子もいれば、そうでない子もいるので、なるべく全員が同程度の学習ができるようにワークシートを工夫する必要があると思う。
事務局：	今回作成した３年生・４年生のワークシートは、昨年度の取り組み中で先生から指摘頂いた箇所を修正したものを提供している。しかし、今年度使用したワークシートに対する意見については、まだご意見を頂けていないので改めて確認をさせて頂く。 ワークシートは子供たちが取り組みやすいように今後も改善していく必要があると思うので、そのあたりについても先生にご意見を頂きたいと考えている。
市川会長：	３年生・４年生の福祉学習は基本的に同じ授業内容となっているが、本当に同じワークシートで授業を行うのがよいかは疑問である。４年生についてはもう少し突っ込んだ内容を問いかけ、自身の考えを深めてもらうことも考えられる。今後、内容のブラッシュアップを行っていくということなので、先生には確認をお願いしたい。
酒井委員：	学習の実施・サポートは滋賀県が主体で行っていると思うが、市町とは連携して実施はできているのか。 国の方では、心のバリアフリーの一環として、バリアフリー教室等の体験学習を実施している。現在は、国が主導となって実施しているが、今後は市町村が主体となって進めてもらおうとしている。市町村単位の方が柔軟に取り組みを実施しやすいと思うので、上手く連携しながら巻き込んでいく方がよいと考える。
事務局：	基本的に市町と連携して取り組みを進めている。特に土山小学校での授業については甲賀市の担当者と一緒に調整・検討を行っており、すべての授業に参加して頂いている。また、６年生の空き家・コミタクの授業では、実際に子供たちの前に立ってコミタクの導入背景等について説明をして頂いた。しかし、最終的には市町が主体となって取り組みを進めて頂きたいと考えている。公共交通の維持・確保も含めて県としてのサポートは継続的にしていくが、このような取り組みを市町が主体となって行って頂けるよう働きかけていきたい。 また、平成 30 年 11 月より施行されたバリアフリー法の改正を契機として、各市町村でバリアフリーマスタープランが策定されており、今後バリアフリー教室のような心のバリアフリーの取り組みを実施する市町村も増えてくると思われる。その取り組みと上手く連携して、交通環境学習を展開していくことも考えられる。
酒井委員：	空き家やコミタクといった切り口で公共交通の問題を考えてもらうのも良いと思うが、もう少し公共交通に直接ふれる内容があってもよいのではないか。最終的には自分の家から目的地に直通で行けるバスがほしいという意見が出てくるかもしれないが、バスをどういう風に乗り継いでいけば最短距離もしくは最短時間で行けるのかを調べてもらって公共交通のあり方について思考を深めてもらうことも考えられる。また、実際にバスや電車を乗り継げば目的地まで簡単に行けるということも知ってもらう良い機会になると思う。
事務局：	来年度、土山小学校３年生の生活科・まちたんけんの単元の中で何か交通素材を活用した取り組みができないかというお話しを頂いている。まちたんけんの単元の中であれば、子供たち自身でルートを調べてどこに行けるのかということを学習してもらうことも可能だと思うので、一度検討させていただく。
酒井委員：	５年生の物流の学習でタブレットを使っている様子の写真があるが、一人一人に用意

	されているものなのか。
事　務　局　：	小学校によって異なるが、土山小学校の場合は１クラス分のタブレット端末が用意されている。利用する授業でのみ端末を配布し、１人１台のタブレットが行きわたるようになっている。
森　井　委　員　：	どんな学校でも授業が実施できるという視点で考えると、２年生の生活科は全ての小学校で公共物や公共施設について学習するため、この取り組みはこれからも広がっていくと思われる。しかし、総合的な学習の時間の内容は各学校で決めているため、３年生や４年生で実施した福祉学習を実施していない小学校については、異なる教科でアプローチをする必要がある。 また、社会科については物流だけでなく他の単元でも交通素材を活用した学習ができるのではないかと考える。６年生は歴史が主な学習内容となるが、その後の公民の授業ではユニバーサルデザインや福祉について学習する単元もあるので、バス車両を使った障がい者体験をこの部分で展開していくことも考えられる。
市　川　会　長　：	取り組みの周知パンフレットを見ると、各プログラムに必要経費なしという項目が記載されているが、前段部分で「すべて経費がかかりません」と記載すれば、それぞれのページに記載する必要はないのではないか。 また、取り組みの事例が記載されているページで、売り・ポイントの項目が記載されているが、売りという言葉は使わない方がよいのではないかと思う。売りは実施側としてのアピールであり、先生の視点で考えると生徒に対する売りという意味にはならない。 体験前後の学習を含めた授業計画等については、冊子としてまとめるのではなく Web サイト上にアップロードして、誰でも見れるようにする形も考えられる。
事　務　局　：	教員免許を取得している職員に相談したところ、小学校の先生としては必要経費の有無が実施の判断材料になるため、必要経費については明記した方が良いとアドバイスを頂いた。そのため、前段にまとめて記載するかそれとも各ページに記載するか記載方法はもう少し考える必要があると思うが、必要経費の項目については学校の先生から見た時に目にとまる適切な場所に記載したいと考えている。 売りという文言については、ご指摘のとおり間違った解釈をされる可能性があるため、文言を訂正させて頂く。 また、冊子以外の周知方法については今後検討させて頂く。
森　井　委　員　：	今後取り組みが増えていけば、必要経費が出てくる場合があるのか。 また、取り組みを紹介するページに実際に学習を行った教師の感想があれば、内容がイメージしやすいため、取り組んでもらえる学校も出てくるかもしれない。
事　務　局　：	バスや鉄道に乗ってどこかに行く場合は、交通費を準備してもらうこともあると思われる。今回配布している周知冊子には掲載してはいないが、土山小学校の２年生で実施したバス・鉄道乗車体験では実際に学校側で子どもたちの交通費を用意して頂いている。 ご指摘のとおり、実際に授業を行った教師の感想があれば学習のイメージがしやすいと思うので、一度検討させて頂く。
芝　委　員　：	取り組みがどうだったかというのを先生同士で直接連絡とってもらえるように、感想にあわせて教師の名前をいれることは難しいか。
森　井　委　員　：	個人情報の観点から氏名を記載するのは難しいと思うが、学校名を記入するのは可能であると考える。

芝　委　員　：	琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業では鉄道運賃の助成を行っているため、取り組み案内冊子の中に補助金があることを記載してもよいかもしれない。
事　務　局　；	鉄道運賃の補助については記載するかどうか検討させて頂く。

３．議題２　来年度の検討方針

市　川　会　長　：	それでは、続いて、来年度の検討方針について、事務局より説明をお願い申し上げる。
事　務　局　：	【資料２　来年度の検討方針】について説明
市　川　会　長　：	説明していただいた資料について、何かご質問やご意見はあるか。では、私の方から質問をさせて頂く。 取組みの周知冊子は県内の全小学校に配布する予定なのか。また、どのような方法で配布を行うのか。
事　務　局　：	今年度、県内の全小学校に配布を予定している。先生から内容についてご意見等を頂き、修正・改善したものを来年度の成果物にしたいと考えている。 また、配布については教育委員会へ冊子の送付をお願いしている。
前波委員（代理）：	R3 年度以降も学校からの交通環境学習の実施・調整は県が引き続き実施するのか。
事　務　局　：	これまでは県が主体となって学校・事業者と調整してきたが、今後は市町に調整の窓口を移行していきたいと考えている。 一方で、事業者が直接学校と調整を行うことも考えられるが、実施することは可能か。
前波委員（代理）：	毎年継続的に取り組みを実施し、学校との信頼関係ができていれば可能かもしれないが、学校の担当の先生が変わってしまうと一から調整をしなければいけないので、事業者が学校と調整するのは難しいのではないかと思う。
事　務　局　：	それを考えると、やはり県よりも学校との距離が近く関わる機会の多い市町の方が調整や実施のサポートを手厚く行えると思うので、今後は市町が主体となって実施していけるように展開していきたい。
立　川　委　員　：	近江鉄道管内の学校・警察から交通安全や交通マナーに関する講習を行ってほしいという依頼を受け実施をしている。交通環境学習でも似たような内容の学習を行う部分もあると思うので、警察と連携しながら進めていくこともできるのではないか。 また、このような学習は秋ごろに実施されることが多く、事業者としても観光シーズンであるため対応できないこともある。今後取り組みを展開していくということなので、実施時期を調整する等して事業者としての負担を軽減して頂ければと思う。
事　務　局　：	公共交通に対して理解深める交通環境学習と警察が実施する交通安全に関する学習は、内容が混同すると子供たちの理解があやふやになってしまうため一緒に実施しないでほしいと学校側からご意見を頂いている。しかし、交通マナーであれば、一緒に実施することは可能であると思うので、警察との連携については一度検討させて頂く。 実施時期については、なるべく繁忙期と重ならないように調整・検討させて頂く。
前波委員（代理）：	学校側から鉄道の乗り方等に関する説明を行ってほしいという要望が多く、直接駅の方に連絡される学校もみられる。今後、実施校を拡大していくということであれば、既に実施している学校を取り込んでいくのが良いと思う。
事　務　局　：	既にそのような取り組みを実施している学校にはアプローチしていきたい。 要望がある学校に対して事業者から交通環境学習を紹介して頂くことは可能か。

前波委員（代理）：	紹介することは可能であると思うが、事業者から紹介するとなると、今まで行っていた鉄道紹介と交通環境学習との違いを説明する必要があるため、その違いを現場の担当者に理解してもらうのが難しいのではないかと感じる。 また、どんな学校が学習しているのかは現段階で把握できていない。
中　西　委　員　：	交通環境学習を実施している小学校は毎年継続的に実施しているのか。
事　務　局　：	ほとんどの小学校で毎年継続的に実施して頂いている。また、先生の異動があった場合でも異動先の学校で実施して頂いているパターンもある。
中　西　委　員　：	昔、小学校の社会科の学習をお手伝いしたことがあり、その経験を踏まえると、学年ごとにパターン化された学習プログラムができれば、ひとつの学校からどんどん広がっていくと思われる。学校も使いやすいものであれば積極的に活用してもらえると思うので、使いやすいツールについては今後も検討していく必要がある。一方で、取り組みが広がりすぎると、事業者を含め対応できないのではないかという懸念もある。実施校が増えていった場合に、どう対応していくのかということについても今後検討する必要があると考える。
事　務　局　：	現在は毎年１０校ほど実施学校が増えている状況である。ご指摘のとおり、実施校が多くなると対応できなくことも考えられるので、そのあたりも今後検討していく。
４．その他	
市　川　会　長　：	それでは、次回の研究会について、事務局より説明をお願い申し上げる。
事　務　局　：	来年度は２回、研究会を実施したいと考えている。第一回目では最終成果に向けた進捗を、第二回目では最終成果の修正を実施したい。本年度は市長の研修日程と重なり、実施まで至らなかったが、交通環境学習の実施校の先生方との意見交換会の実施を図りたい。 次回の研究会は、資料３のＰ５に記載しているように、具体的な進め方を検討する分科会を６月頃に、それを基に議論を行う研究会を７月頃に実施する予定である。詳細な日時および場所については、改めてお伝えさせて頂く。
市　川　会　長　：	教師との意見交換会も実施するということなので、皆様もご都合があれば参加頂きたい。では、議事の進行は以上とさせて頂き、閉会の挨拶を事務局にお願いしたい。
事　務　局　：	委員の皆様、長時間にわたり活発なご議論・ご提案を頂き有難く思う。学習プログラムの内容や周知方法については引き続き検討を進めていきたいと思う。来年度も皆様のご協力をお願い申し上げる。以上をもって、令和元年度第５回近江の心を育む交通環境学習の普及・検討研究会を閉会とする。